



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。取扱説明書は車の中に保管しましょう。

イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

プラグインハイブリッドシステム

プラグインハイブリッドシステムの特徴や、充電に関する情報など

(主な項目：運転のアドバイス、充電のしかた)

2

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

3

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

4

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)

5

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

6

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

7

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

8

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

9

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	54
オートアラーム	55

2 プラグインハイブリッドシステム

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて

プラグインハイブリッドシステムの特徴	62
プラグインハイブリッドシステムの注意	72
プラグインハイブリッド車運転のアドバイス	76
EV 走行可能距離について	78

2-2. 充電について

充電に関する装備について	81
普通充電ケーブルについて	84
充電リッド・普通充電コネクタのロック・アンロック	90
接続可能な外部電源について	94
充電方法について	99
充電に関するアドバイス	102
充電の前に知っておいていただきたいこと	103

普通充電のしかた	106
タイマー充電機能を使う	112
マイルームモードを使う	122
正常に充電できないときは	125

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて ..	134
AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと	136
AC 外部給電のしかた	137
正常に AC 外部給電できないときは	149

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	154
計器類	159
マルチインフォメーションディスプレイ	165
ヘッドアップディスプレイ	173
エネルギーモニター／燃費画面	178

4 運転する前に

4-1. キー

キー	182
デジタルキー	185

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	188
電動ステップ	194
パワーバックドア	196
スマートエントリー&スタートシステム	205

4-3. シートの調整

フロントシート	211
パワーリヤシート	214
ヘッドレスト	217

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	220
デジタルインナーミラー	221

ドアミラー	229
4-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	232
4-6. お好み設定	
パワーイーザーアクセスシステム／ポ ジションメモリー／メモリーコール 機能	235
リヤシートポジションメモリー	239
マイセッティング	240

5 運転

5-1. 運転にあたって	
運転にあたって	245
荷物を積むときの注意	251
5-2. 運転のしかた	
パワー（イグニッション）スイッチ	253
トランスミッション	257
方向指示レバー	263
パーキングブレーキ	264
ブレーキホールド	268
5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使 い方	
ランプスイッチ	271
AHS（アダプティブハイビームシス テム）	275
AHB（オートマチックハイビーム）	278
リヤフォグランプスイッチ	280
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	281
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	284
5-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	287
5-5. 運転支援装置について	
ソフトウェアアップデートを確認する （Toyota Safety Sense／アドバ ンスド ドライブ【渋滞時支援】）	290

Toyota Safety Sense	292
ドライバーモニター	300
PCS（プリクラッシュセーフティ）	302
LTA（レーントレーシングアシスト）	311
LCA（レーンチェンジアシスト）	316
LDA（レーンディパーチャーアラ ート）	320
PDA（プロアクティブドライビング アシスト）	325
FCTA（フロントクロストラフィック アラート）	330
発進遅れ告知機能	332
RSA（ロードサインアシスト）	334
レーダークルーズコントロール	337
クルーズコントロール	347
ドライバー異常時対応システム	350
アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）	353
ITS Connect	358
BSM（ブラインドスポットモニター）	364
後方車両接近告知	369
周辺車両接近時サポート（録画機能、 通報提案機能）	372
後方車両への接近警報	375
セカンダリーコリジョンブレーキ（停 車中後突対応）	377
安心降車アシスト	380
クリアランスソナー	384
RCTA（リヤクロストラフィックア ラート）	392
RCD（リヤカメラディテクション）	397
PKSB（パーキングサポートブレ ーキ）	400
パーキングサポートブレーキ（前後方 静止物／周囲静止物）	404
パーキングサポートブレーキ（後方接 近車両）	407

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....	409
トヨタチームメイト アドバンストパーク.....	411
ドライブモードセレクトスイッチ.....	443
Trail Mode	444
ダウンヒルアシストコントロールシステム.....	446
運転を補助する装置	447
プラスサポート.....	455

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....	461

6 室内装備・機能

6-1. ディスプレイ

リヤマルチオペレーションパネル.....	466

6-2. エアコン・デフォグガーの使い方

ALL AUTO 制御.....	475
フロントオートエアコン.....	476
リヤオートエアコン	485
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	488

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	495

6-4. 収納装備

収納装備一覧.....	499
ラゲージルーム内装備	503

6-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	508
アクセサリコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム	523
正常にアクセサリコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは	532

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	536
内装の手入れ.....	540

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	543
ガレージジャッキ	544
エンジンルームカバー	545
ウォッシャー液の補充	547
タイヤについて	548
タイヤの交換.....	559
タイヤ空気圧について	563
エアコンフィルターの交換	564
電子キーの電池交換	566
ヒューズの点検・交換	568
電球（バルブ）の交換	570

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	572
非常点滅灯（ハザードランプ）... ..	573
発炎筒	573
車両を緊急停止するには	574
水没・冠水したときは	575
車中泊が必要なときは	576

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	577
警告灯がついたときは	581
警告メッセージが表示されたときは	589
パンクしたときは	603
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....	612
キーをなくしたときは	614
電子キーが正常に働かないときは	614
補機バッテリーがあがったときは	617

オーバーヒートしたときは..... 622

スタックしたときは 625

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 628

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... 632

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 654

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 656

車から音が鳴ったときは（音さくいん） 658

アルファベット順さくいん..... 661

五十音順さくいん 663

1

2

3

4

5

6

7

8

9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- I トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- I 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- I ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているた

め、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機取り付けについては、P.9 も参照してください。

- I フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

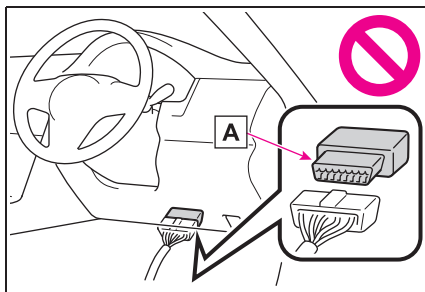
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

n コンピュータに記録されるデータ^{※1}

^{※1}グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- l 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- l 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- l 運転支援システムのセンサーのデータ

- l 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバモニターのカメラ画像）^{※2}

^{※2}車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

l 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

n Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- l 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- l 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- l 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- l ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

n データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- ┃ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ┃ 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ┃ トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- ┃ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- ┃ 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフト

ウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- ┃ 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ┃ 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ┃ 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- ┃ トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

□ 知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。

す。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。

EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができません。

I EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- I ハイブリッドシステム
- I EFI コンピュータ
- I Toyota Safety Sense
- I ABS（アンチロックブレーキシステム）
- I VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネジメント）
- I SRS エアバッグ

I シートベルトプリテンショナー
悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店に

てご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.455）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載し

ております。なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなうCO₂排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にてQRコードを読み取りいただくか、URLより閲覧してください。

URL：

<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

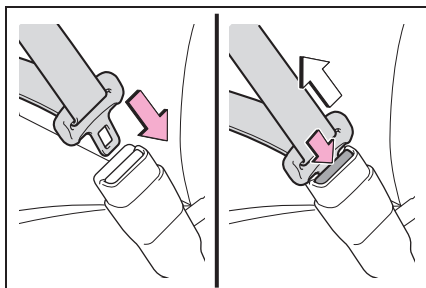
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

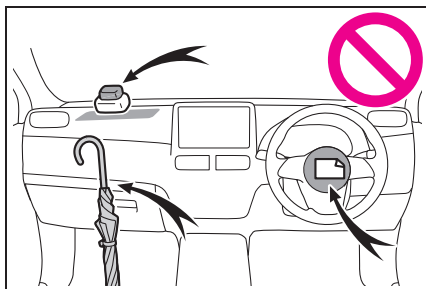
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



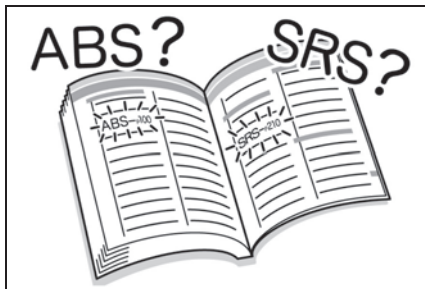
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

n 名称から探す

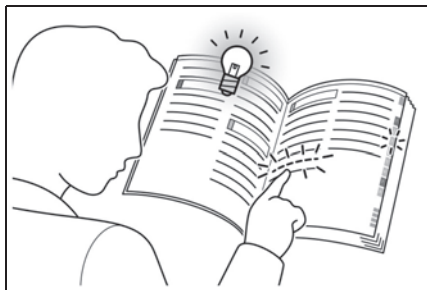
l 五十音順さくいん：P.663

l アルファベット順さくいん：P.661



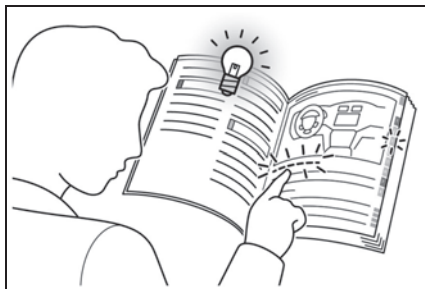
n タイトルから探す

l 目次：P.2



n 取り付け位置から探す

l イラスト目次：P.14



n 症状や音から探す

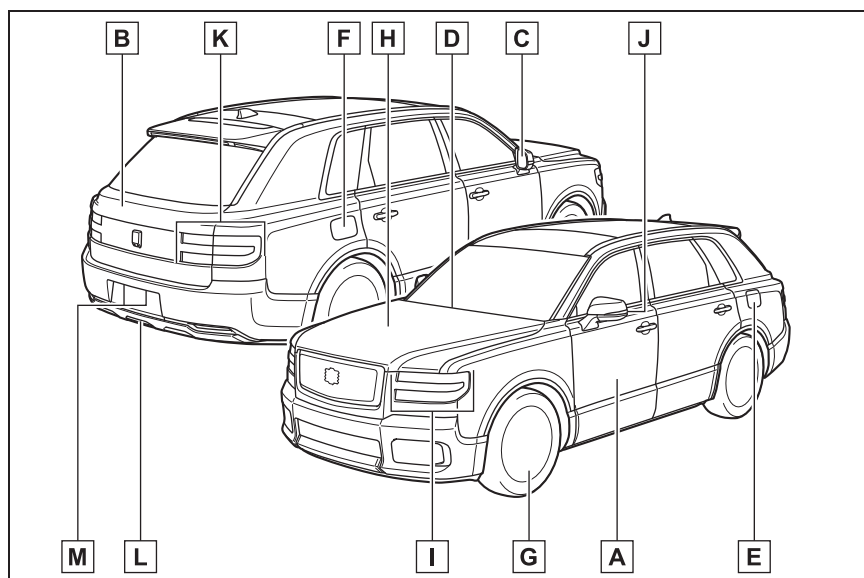
l こんなときは（症状別さくいん）：
P.656

l 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.658



イラスト目次

n 外観



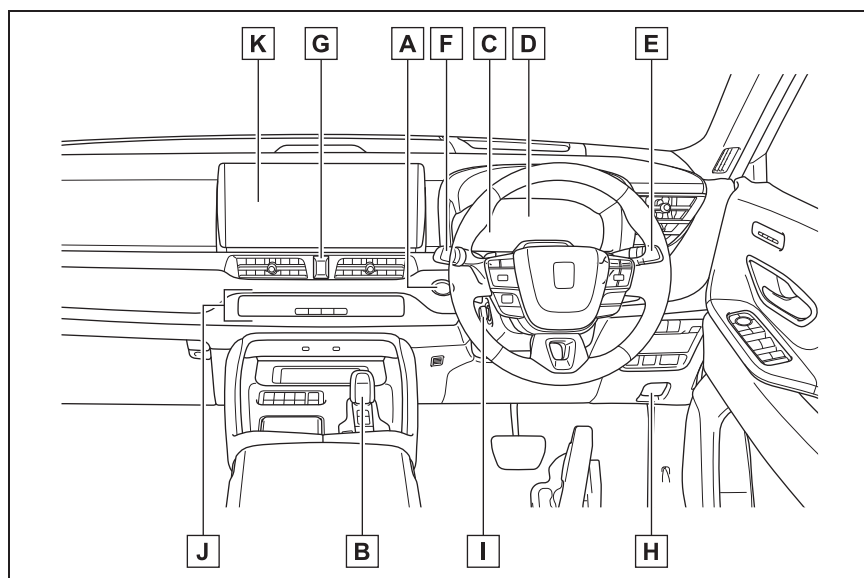
A	ドア	P.188
	施錠／解錠	P.188
	ドアガラスの開閉	P.232
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.614
	警告メッセージ	P.589
B	バックドア	P.196
	車内から開ける	P.198
	車外から開ける	P.198
	警告メッセージ	P.589
C	ドアミラー	P.229
	鏡面の角度調整	P.229
	ミラーの格納	P.230
	調整位置の登録	P.235
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.477
D	ワイパー	P.281

冬季の注意.....	P.461
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）.....	P.478
洗車時の注意.....	P.538
E 給油口	P.287
給油方法.....	P.287
燃料の種類・燃料タンク容量.....	P.628
F 充電ポート.....	P.81
充電方法.....	P.99
AC 外部給電システム	P.134
G タイヤ	P.548
サイズ・空気圧	P.548, 631
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.461
点検・ローテーション・空気圧警報システム.....	P.548
パンク時の対処	P.603
H ボンネット.....	P.543
開け方	P.543
エンジンオイル	P.628
オーバーヒート時の対処.....	P.622
警告メッセージ	P.589

走行に関わる外装のランプバルブ

I ヘッドランプ・車幅灯・LED デイタイムランニングランプ・方向指示灯・ コーナリングランプ.....	P.263, 271
J 方向指示灯.....	P.263
K 尾灯・制動灯・方向指示灯.....	P.263, 271
緊急ブレーキシグナル	P.448
L リヤフォグランプ	P.280
後退灯	
シフトポジションを R にする	P.258
M 番号灯	P.271

n インstrumentパネル

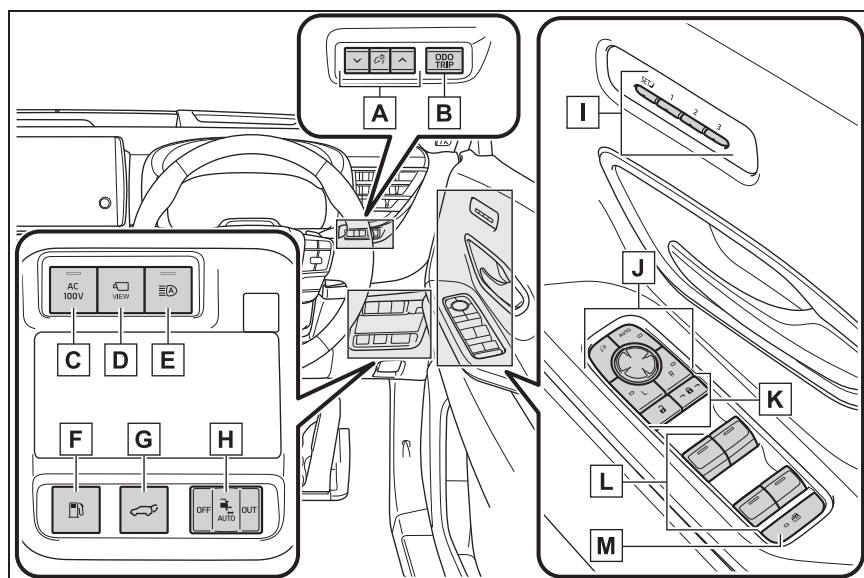


A	パワースイッチ	P.253
	ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ	P.253
	ハイブリッドシステムの緊急停止	P.574
	ハイブリッドシステムが始動できないときの対処	P.612
	警告メッセージ	P.589
B	シフトレバー	P.257
	シフトポジションの切りかえ	P.258
	けん引時の注意	P.577
C	メーター	P.159
	見方・明るさの調整	P.159, 164
	警告灯／表示灯	P.154
	警告灯点灯時の対処	P.581
D	マルチインフォメーションディスプレイ	P.165
	表示内容	P.165
	エネルギーモニター	P.178

	警告メッセージ表示時の対処.....	P.589
E	方向指示レバー	P.263
	ランプスイッチ	P.271
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイタイムランニングランプ	P.271
	リヤフォグランプ	P.280
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.281, 284
	使い方	P.281, 284
	ウォッシャー液の補充	P.547
	警告メッセージ	P.589
G	非常点滅灯スイッチ	P.573
H	ボンネット解除レバー	P.543
I	ハンドル位置調整スイッチ	P.220
	調整方法	P.220
	調整位置の登録	P.235
J	オートエアコン	P.476
	操作方法	P.476
	リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	P.477
K	オーディオ ※	

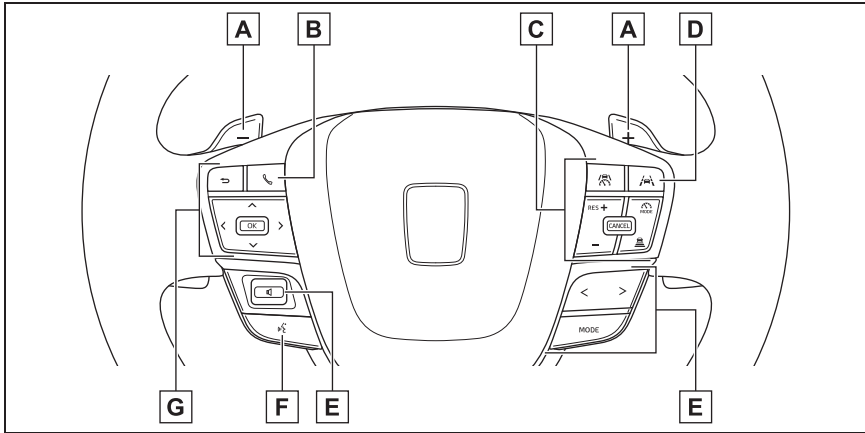
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n スイッチ類



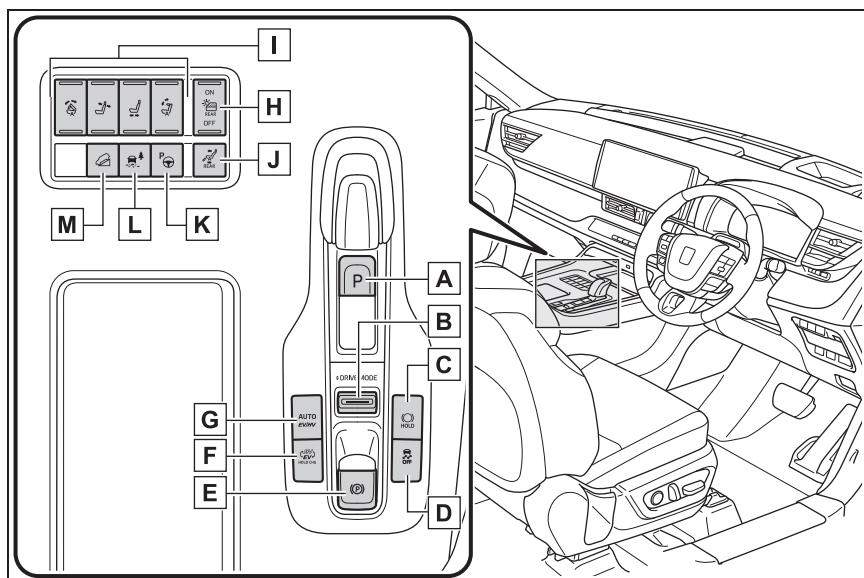
A	インストルメントパネル照度調整スイッチ	P.164
B	“ODO TRIP” スイッチ	P.164
C	AC100V スイッチ	P.523
D	カメラスイッチ ※	
E	アダプティブハイビームシステムスイッチ	P.275
	オートマチックハイビームスイッチ	P.278
F	給油扉オープナースイッチ	P.288
G	パワーバックドアスイッチ	P.198
H	電動ステップスイッチ	P.195
I	ポジションメモリースイッチ	P.235
J	ドアミラースイッチ	P.229
K	ドアロックスイッチ	P.191
L	パワーウィンドウスイッチ	P.232
M	ウィンドウロックスイッチ	P.234

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** パドルシフトスイッチ P.261
- B** 電話スイッチ ※
- C** クルーズコントロールスイッチ
 レーダークルーズコントロール P.339
 クルーズコントロール P.347
- D** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.313
- E** オーディオ操作スイッチ ※
- F** トークスイッチ ※
- G** メーター操作スイッチ P.166

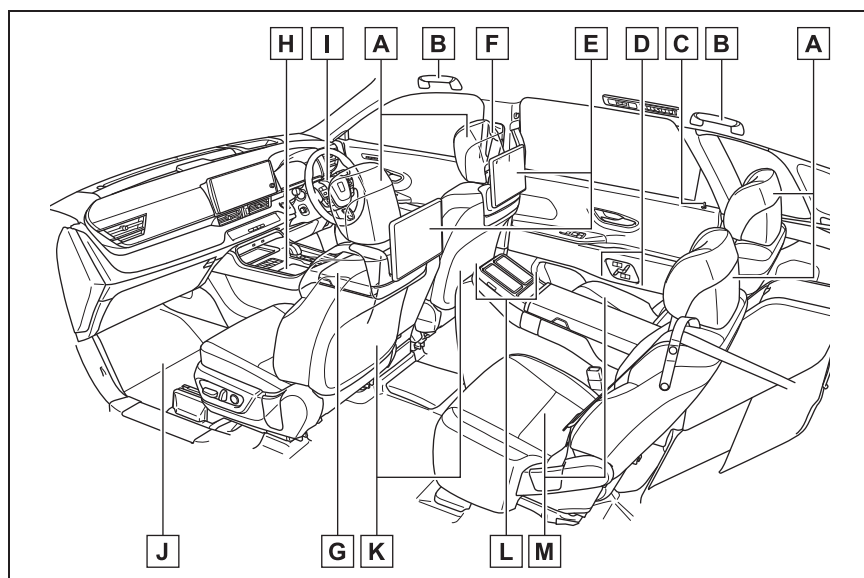
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A	P ポジションスイッチ	P.258
B	ドライブモードセレクトスイッチ	P.443
C	ブレーキホールドスイッチ	P.268
D	VSC OFF スイッチ	P.449
E	パーキングブレーキスイッチ	P.264
	かける・解除する	P.264
	冬季の注意	P.462
	警告ブザー・警告メッセージ	P.266, 581
F	EV / HV モード切りかえスイッチ	P.64
G	AUTO EV / HV スイッチ	P.64
H	調光ガラススイッチ	P.522
I	助手席パワーシートスイッチ	P.212
J	リヤシート位置もどしスイッチ	P.215
K	アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ	P.418
L	Trail Mode スイッチ	P.444

M	DAC（ダウンヒルアシストコントロールシステム）スイッチ	P.446

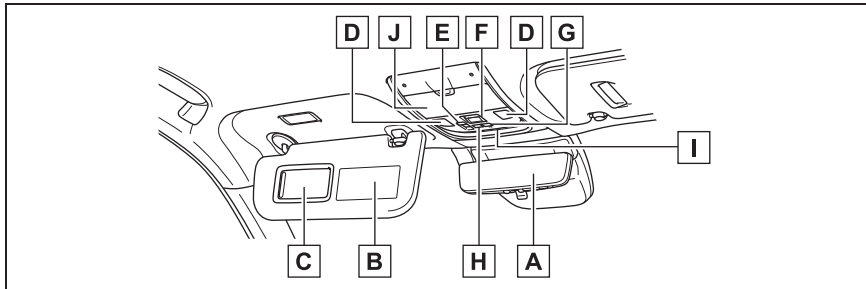
n 室内



A	ヘッドレスト.....	P.217
B	アシストグリップ	P.516
C	ドアロックボタン	P.191
D	パワーリヤシートスイッチ.....	P.215
E	リヤシートエンターテインメントシステム ※	
F	シートベルト.....	P.29
G	コンソールボックス	P.500
H	カップホルダー	P.501
I	SRS エアバッグ	P.32
J	フロアマット.....	P.26
K	フロントシート	P.211
L	リヤマルチオペレーションパネル.....	P.466
M	パワーリヤシート.....	P.214

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 天井



- A** デジタルインナーミラー P.221
- B** サンバイザー ※¹ P.518
- C** バニティミラー P.518
- D** パーソナルランプ P.496
- E** 電動サンシェードスイッチ P.518
- F** ヘルプネットスイッチパネル ※²
- G** インテリアランプドア連動スイッチ P.495
- H** 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.57
- I** インテリアランプ P.495
- J** 小物入れ P.502

※¹ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.42)



※² 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 32

排気ガスに対する注意 38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 39

チャイルドシート 40

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 54

オートアラーム 55

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

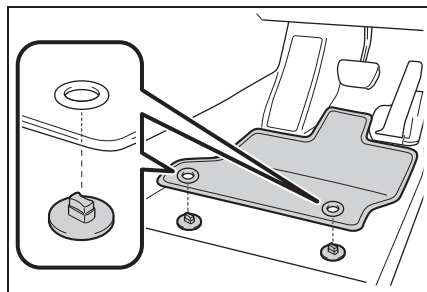
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店ですべて点検整備を受けてください。

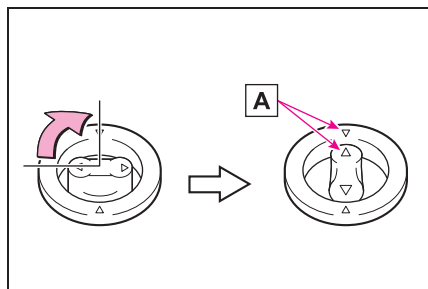
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

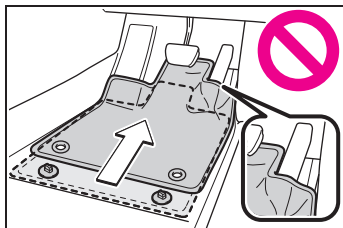
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 運転席にフロアマットを敷くときは

- 1 トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 2 運転席専用のフロアマットを使用する
- 3 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 4 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- 5 フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告**■ 運転する前に**

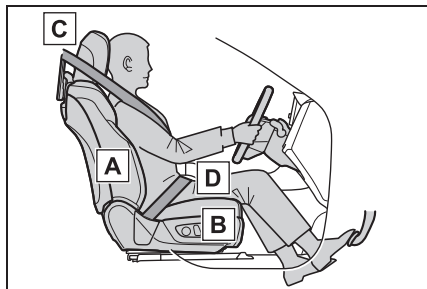
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.211）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.211）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.217）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.29）

⚠ 警告**■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- | 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- | 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- | フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- | 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- | 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- | 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- | 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- | 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.29)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.40)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.221, 229)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

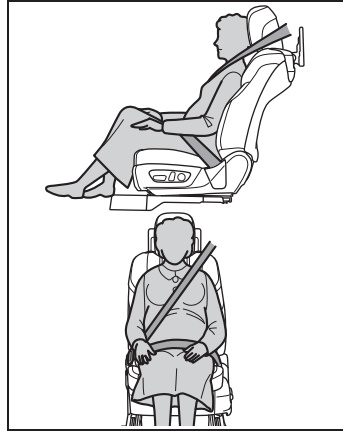
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n シートベルトの着用について

- | 全員がシートベルトを着用する
- | シートベルトを正しく着用する
- | シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- | お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- | 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- | 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- | 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

n 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

n お子さまを乗せるとき

→P.51

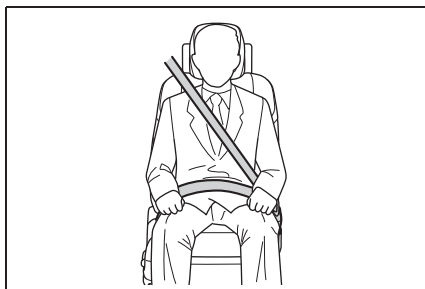
n シートベルトの損傷・故障について

- | ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- | シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- Ⅰ プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- Ⅰ もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- Ⅰ プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- Ⅰ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- Ⅰ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- Ⅰ 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- Ⅰ ねじれないようにする

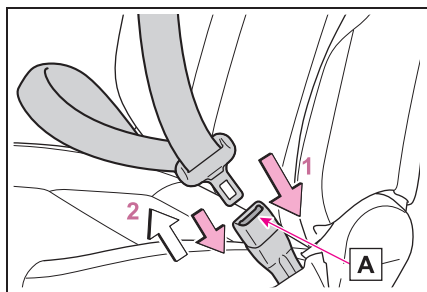
□ 知識

n お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- Ⅰ シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.40)
- Ⅰ シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



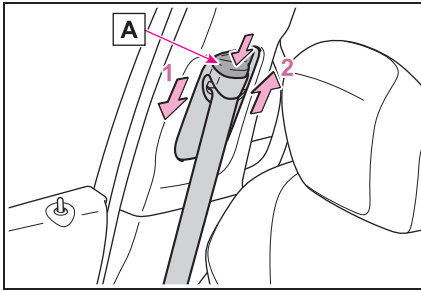
- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

□ 知識

n シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

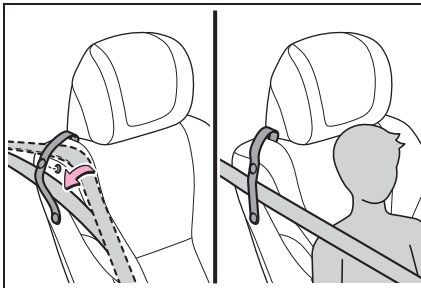
シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
 - 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
- “カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトコンフォートガイド（リヤ席）

お子さまや体の小さい方は、ガイドの下段部分にベルトを通して肩部ベルトが首にかからないように調整してください。



警告

- n シートベルトの位置を調整したときは
確実にボタンを留めてください。

シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

n シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

n 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

n プリテンショナー付きシートベルトについて

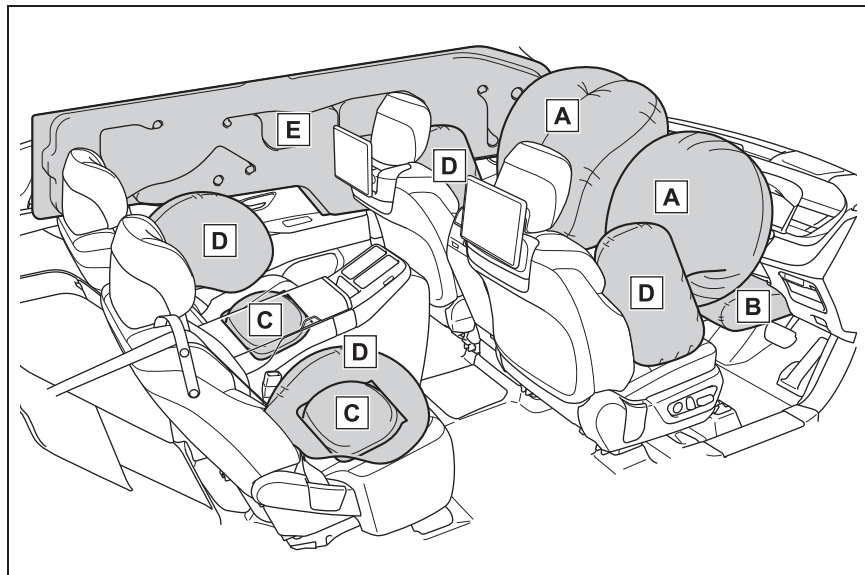
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助

C SRS シートクッションエアバッグ

リヤ席乗員の拘束に寄与

D SRS サイドエアバッグ

- ・ フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
- ・ リヤ席乗員の胸などへの衝撃を緩和

E SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

n SRS エアバッグが作動すると

- l SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- l 作動音と共に白いガスが発生します。
- l エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- l フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- l ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.75）
- l すべてのドアが解錠されます。（→P.189）
- l 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.448）
- l 室内灯が自動で点灯します。（→P.498）
- l 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.573）
- l T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに回答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた
- n 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき
 - l 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定

値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS シートクッションエアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- l 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- l 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー
- l 後席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。
- l 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

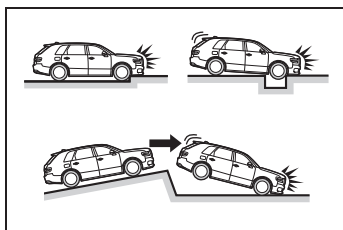
n 側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- l 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ SRS サイドエアバッグ
 - ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

n 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- l 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
 - ・ SRS ニーエアバッグ
 - ・ SRS シートクッションエアバッグ

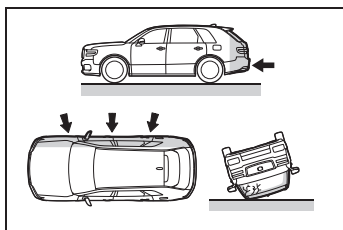
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



n SRS エアバッグが作動しないとき

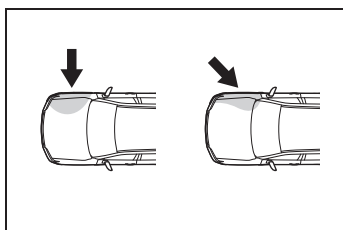
↓ 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS シートクッションエアバッグ



↓ 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

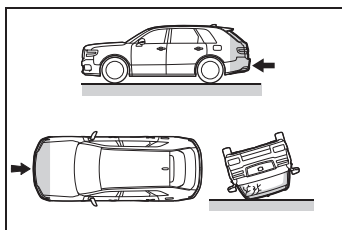
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



↓ 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面から

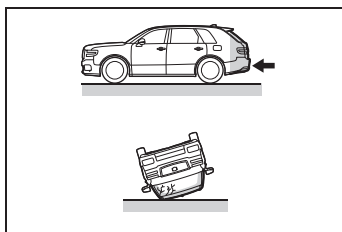
の衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



↓ 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



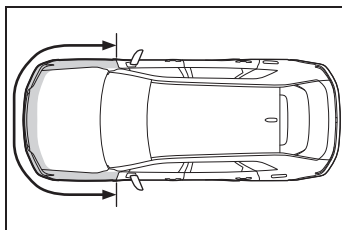
n トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

↓ いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

↓ 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

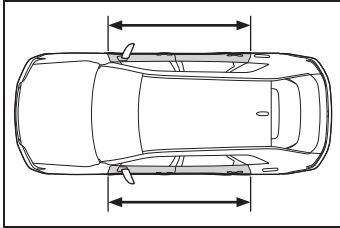
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS シートクッションエアバッグ



↓ 次のエアバッグはふくらまなかったが、

事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- Ⅰ ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- Ⅰ シートクッションの表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- Ⅰ SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- Ⅰ SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

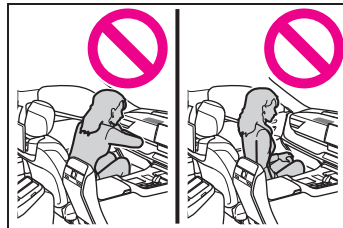
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

Ⅰ 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

Ⅰ お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.40)

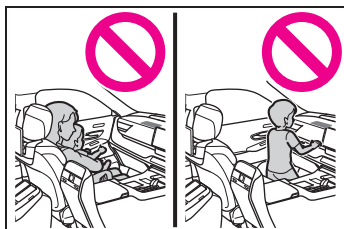
Ⅰ シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



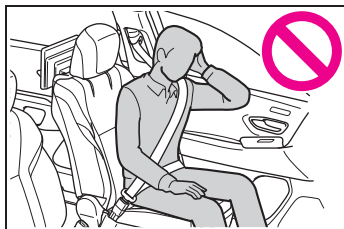
Ⅰ お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

警告

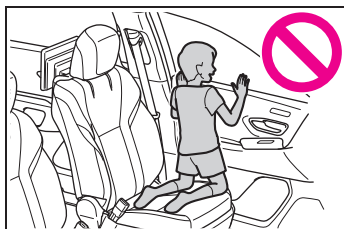
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



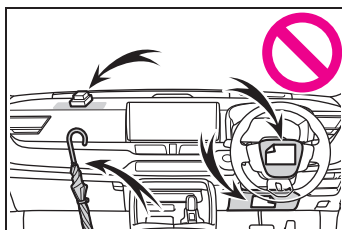
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リアピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



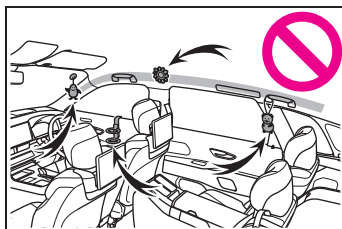
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリアピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P.606）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

⚠ 警告

- I エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- I SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- I SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- I SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- I SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

n 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- I 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー
- I フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- I 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- I 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- I サスペンションの改造
- I CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

n 駐車するとき

Ⅰ 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。

Ⅰ 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。

Ⅰ 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

n 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- I シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.40）
- I 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- I 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.193）・ウィンドウロックスイッチ（→P.234）をご使用ください。
- I 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

n お子さまを乗せるときは

- I お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

I 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.40 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- Ⅰ シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- Ⅰ トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.40

チャイルドシートを使用するとき：P.41

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.44

チャイルドシートの取り付け方法：P.48

・ シートベルトで固定する：P.49

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.51
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.52

知っておいていただきたいこと

- Ⅰ チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- Ⅰ お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- Ⅰ お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- Ⅰ すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

n お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

！ 警告

トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

n チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。

チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→P.44）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは**n 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

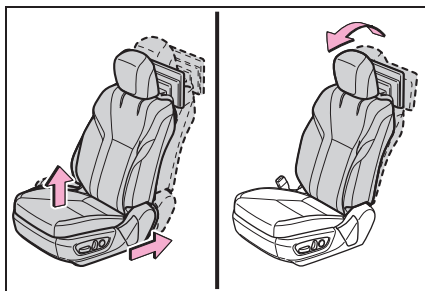
1 シートをいちばんうしろに下げる

1 シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

1 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

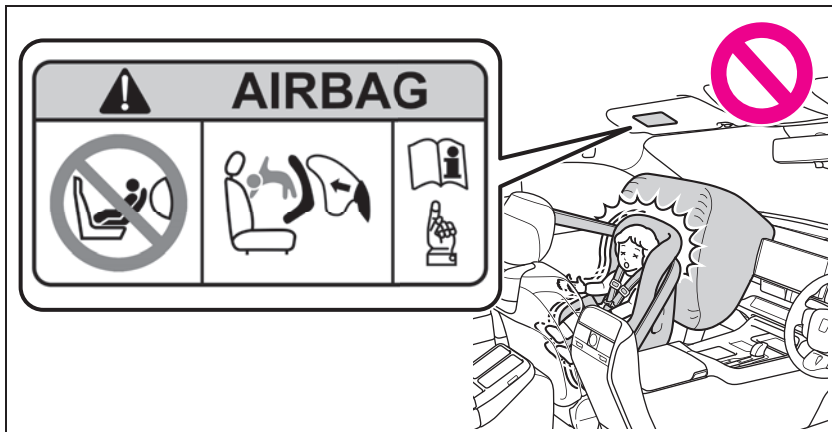
**⚠ 警告****n チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

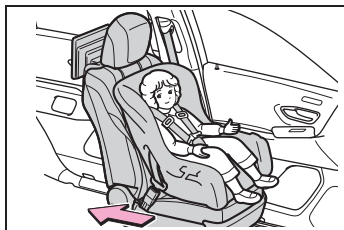
■ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

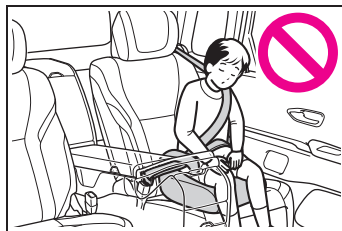
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告**⚠ 警告**

やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げ取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

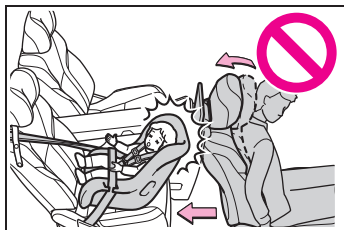


ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- Ⅰ 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。



- Ⅰ 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

n シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

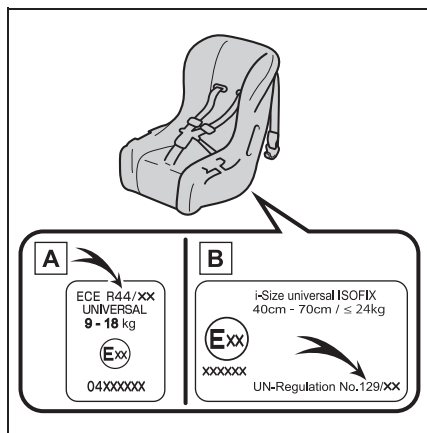
（→P.47）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

n シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ または、UN(ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

- A** UN(ECE) R44 認可マーク ※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

- B** UN(ECE) R129 認可マーク ※²

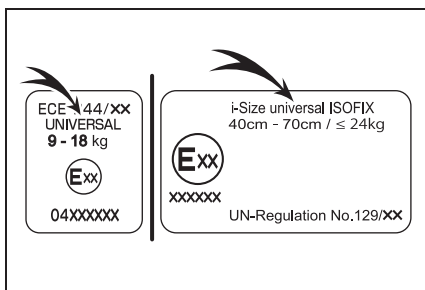
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

- 2** チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリー

が次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

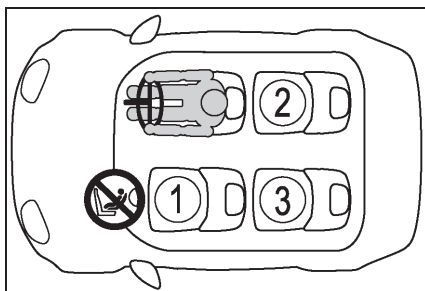
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※¹ UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。

n シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	L
③ ※2, 3	L

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.47）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

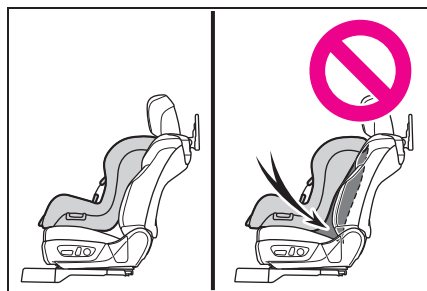
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシー

トの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

n チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	無	無
アイサイズ着座位置（有／無）	×	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3）	×	R1、R2X、 R2、R3	R1、R2X、 R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、 F3	F2X、F2、 F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	×	B2、B3	B2、B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

n 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	うしろ向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child JUNIOR	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	○

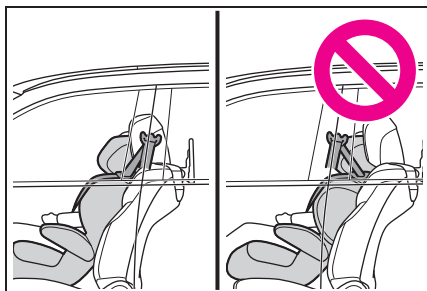
チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場

合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

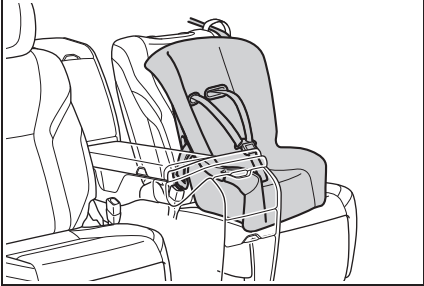
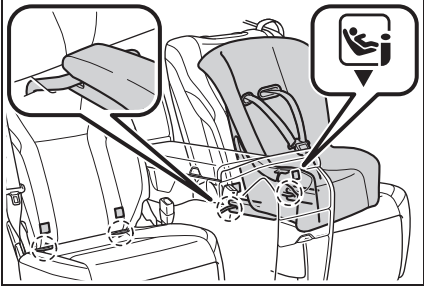
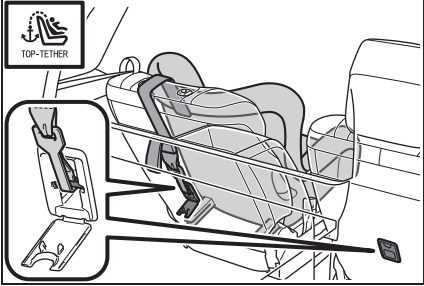
- I サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- I シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- I ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.49
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.51
テザーベルトを固定する		P.52

チャイルドシートをシートベルトで固定する

n シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシート

メーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.41）

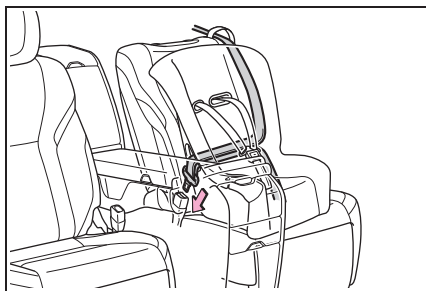
2 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：

背もたれとチャイルドシートとの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートとのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.217)

4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

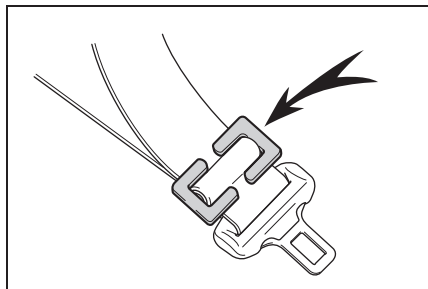
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキ

ングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.51)

n チャイルドシートの取りはずし
バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

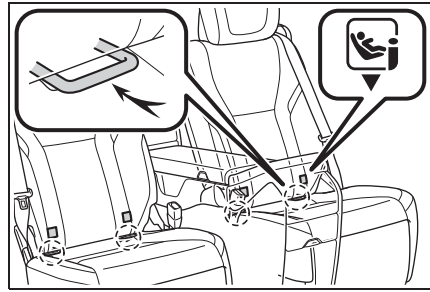
⚠ 警告

- ❶ お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- ❷ シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ❸ チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ❹ チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ❺ ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- ❻ 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

n ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



n ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.44、45)

1 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：

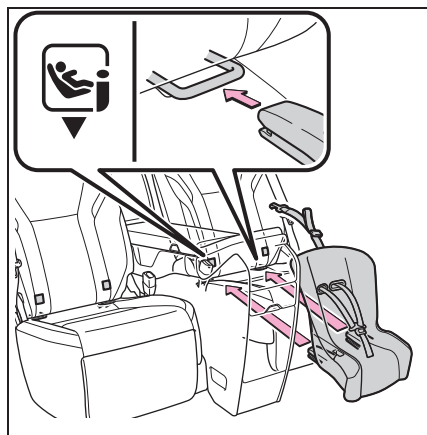
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.217)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け

金具) をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.51)

警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

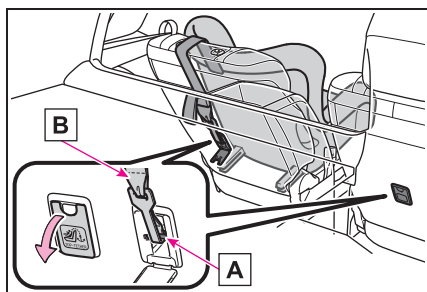
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 1 ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 1 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

n トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカレッジが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



- A トップテザーアンカレッジ
B テザーベルト

n テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 チャイルドシートとヘッドレストがあたる時は、ヘッドレストをはずす (→P.217)

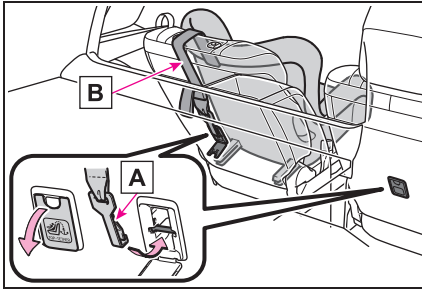
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

- 2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.51)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベル

トは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 注意

n トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

⚠ 警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- | テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- | チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- | 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- | ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

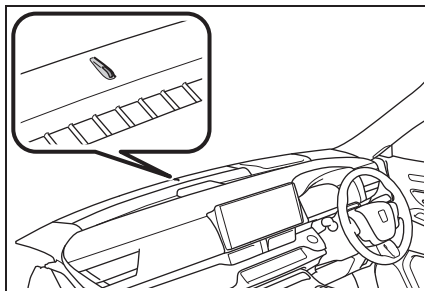
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



n メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

n システムが正常に作動しないとき

- l キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- l キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

n イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- ┃ 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ┃ ボンネットが開けられたとき
- ┃ 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- ┃ 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

※ T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。T-Connect サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

n ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

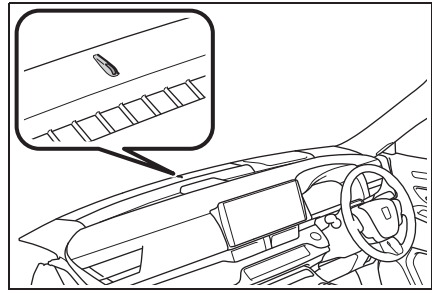
- ┃ 車内に人が乗っていないか
- ┃ ドアガラスが閉じているか
- ┃ 車内に貴重品などを放置してい

ないか

n オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



n オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ┃ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- ┃ パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

n オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

n メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンス

は不要です。

n T-Connect（ご契約のお客様のみ）

↑ うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、ご登録のメールアドレスや専用のスマートフォンアプリ「My TOYOTA+」へお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

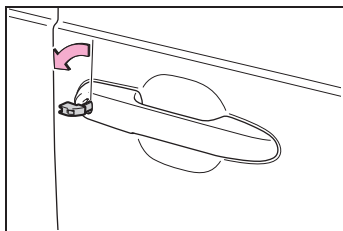
↑ リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

T-Connect サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

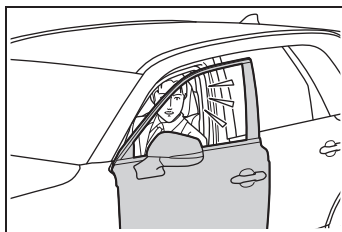
n オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

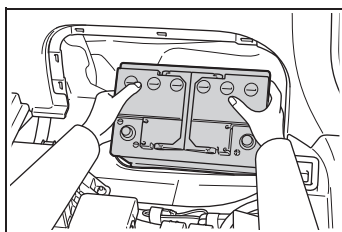
↑ メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



↑ 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき



↑ 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.617）



n オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

↑ 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

↑ オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

↑ 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.632）



注意

n オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

n 侵入・傾斜センサーの検知について

- 1 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。
- 1 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

n **侵入・傾斜センサーを設定する**
オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.55)

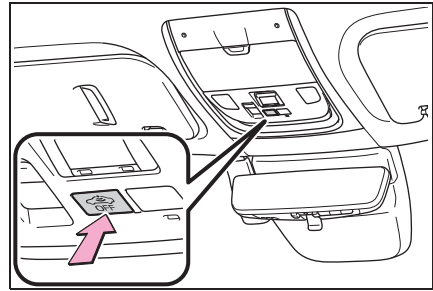
n **侵入・傾斜センサーを停止する**
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されま

す。



知識

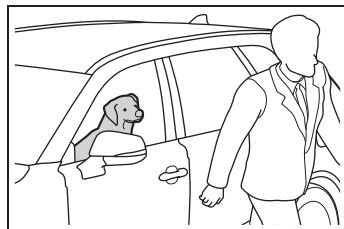
n 侵入・傾斜センサーの作動・停止について

- 1 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 1 侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。
- 1 オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

n 侵入センサーについての留意事項

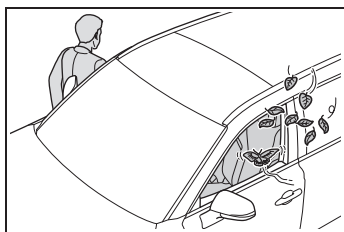
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 1 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



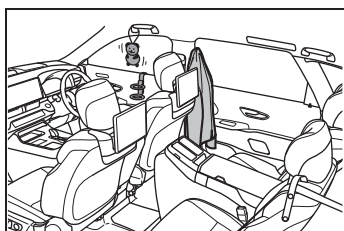
- 1 ドアガラスが開いている場合、次のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など

- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き

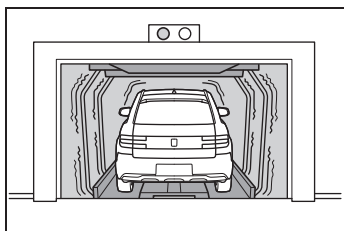


｜ 蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合

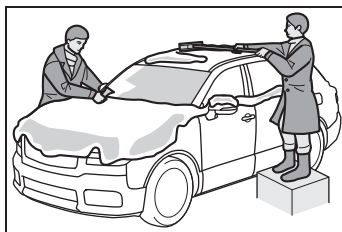
｜ マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



｜ 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



｜ 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



｜ 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

｜ ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

▮ 傾斜センサーについての留意事項

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

｜ フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

｜ 立体駐車場に駐車したとき

｜ 車両移動をとまなう洗車機を使用するとき

｜ タイヤ空気圧が少ないとき

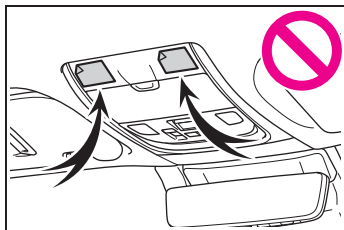
｜ ジャッキアップするとき

｜ 地震や路面陥没が起きたとき

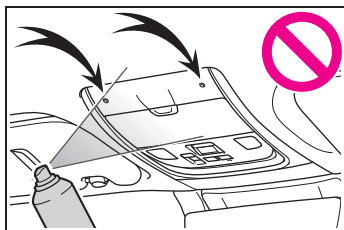
｜ ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

 注意**n 侵入センサーを正しく作動させるために**

- センサの穴はふさがないようにしてください。



- センサの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

プラグインハイブリッドシステム

2

2-1. プラグインハイブリッドシステムについて

プラグインハイブリッドシステムの 特徴	62
プラグインハイブリッドシステムの 注意	72
プラグインハイブリッド車運転の アドバイス	76
EV 走行可能距離について	78

2-2. 充電について

充電に関する装備について	81
普通充電ケーブルについて	84
充電リッド・普通充電コネクタの ロック・アンロック	90
接続可能な外部電源について	94
充電方法について	99
充電に関するアドバイス	102
充電の前に知っておいていただき たいこと	103
普通充電のしかた	106
タイマー充電機能を使う	112
マイルームモードを使う	122
正常に充電できないときは	125

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて	134
AC 外部給電の前に知っておいて いただきたいこと	136
AC 外部給電のしかた	137
正常に AC 外部給電できないときは	149

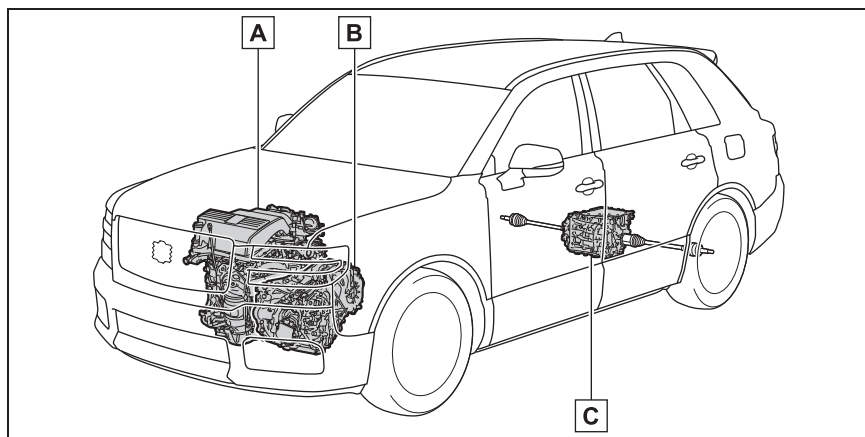
プラグインハイブリッドシステムの特徴

プラグインハイブリッドシステムは、電気自動車の経済性とハイブリッド車の実用性とを併せ持ったシステムです。

- I 外部電源から駆動用電池に充電した電気を使用して、EV 走行を楽しむことができます。＊
- I 駆動用電池の残量が減少した場合は、ガソリンエンジンを併用するハイブリッド車として走行するように自動制御され、長距離のドライブも可能としています。

＊ EV 走行距離は、駆動用電池の残量や車速、エアコンの使用状況などにより変化します。また、走行状況により、ガソリンエンジンを併用することがあります。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ガソリンエンジン
- B** フロント電気モーター
- C** リヤ電気モーター

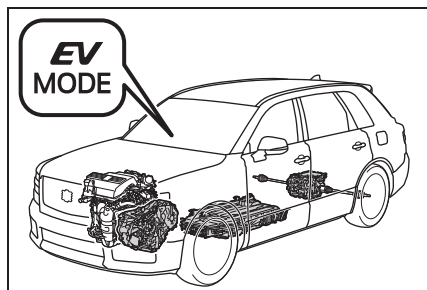
プラグインハイブリッドシステムの作動モードについて

この車のプラグインハイブリッドシステムは、次の各モードで作動します。

マルチインフォメーションディスプレイでプラグインハイブリッドシステムの作動状況を確認することができます。

(→P.154)

n EV モード



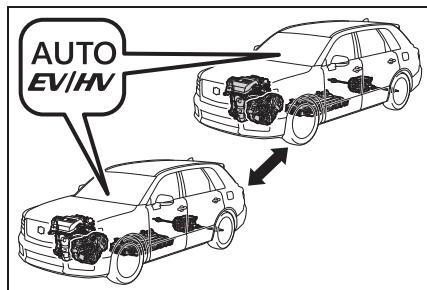
充電を実施して駆動用電池に十分な残量がある状態のとき※¹は、駆動用電池に蓄えられた電気を使用して、EV 走行します。※²

車両が EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

※¹ 駆動用電池残量計の表示で、駆動用電池の残量を確認できます。
(→P.159)

※² 一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。
(→P.68)

n AUTO EV / HV モード

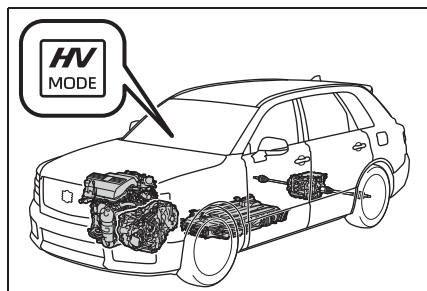


通常は駆動用電池に蓄えられた電気を使用して EV 走行しますが、登坂路や急加速時など、大きな力が必要なときは、アクセルペダルを大きく踏み込むことで、ガソリンエンジンが始動して力強く加速します。

車両が EV 走行可能な状態のとき、スイッチを操作することで EV モードと AUTO EV / HV モードを切りかえることができます。
(→P.64)

車両が AUTO EV / HV モードのときは、AUTO EV / HV モード表示灯が点灯します。

n HV モード



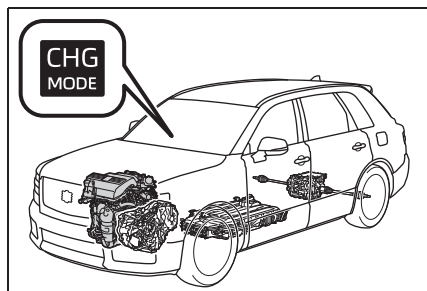
HV モード時は、ガソリンエンジンと電気モーターを併用して走行します。(→P.66)

- ・ EV モードまたは AUTO EV / HV モードでの EV 走行に必要な電池残量がなくなると、自動で HV モードに移行します。
- ・ EV 走行するための駆動用電池残量を温存したいときなどには、スイッチ操作により、任意のタイミングで HV モードに切りかえることもできます。※
(→P.64) 高速道路や登坂路を走行するときは、電気消費量を抑えるために、HV モードで走行することをおすすめします。

車両が HV モードのときは、HV モード表示灯が点灯します。

※ HV モードに切りかえた場合でも、EV 走行可能距離が低下する場合があります。

n バッテリーチャージモード (→P.65)



EV 走行に必要な駆動用電池の残量がなくなったとき、スイッチ操作でバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンで発電した電気を駆動用電池に充電することができます。※

- ・ プラグインハイブリッドシステムの状況により、バッテリーチャージモードに切りかえることができない場合があります。(→P.66)
- ・ バッテリーチャージモードでの走行時は、車両の走行状況によって充電にかかる時間がかわります。

車両がバッテリーチャージモードのときは、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

※ バッテリーチャージモードに切りかえると、走行しながら駆動用電池に充電することができますが、発電のためにガソリンエンジンが作動するため、HV モードでの走行時にくらべて、燃料の消費量が増えます。

プラグインハイブリッドシステムの作動モードを切りかえるには

スイッチ操作により、任意のタイ

ミングでプラグインハイブリッドシステムの作動モードを切りかえることができます。

n EV モード・AUTO EV / HV モード・HV モードを切りかえるには

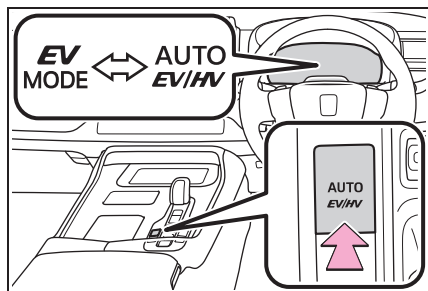
AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切り換えスイッチを押すと、次のように作動モードが切りかわります。

EV モードのときは、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

AUTO EV / HV モードのときは、AUTO EV / HV モード表示灯が点灯します。

HV モードのときは、HV モード表示灯が点灯します。

▶ AUTO EV / HV スイッチ

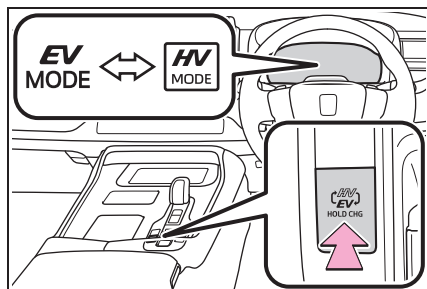


現在のモード	切り換え後のモード
EV モード	AUTO EV / HV モード
AUTO EV / HV モード	EV モード
HV モード	AUTO EV / HV モード※

※ EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、AUTO EV / HV モードを選択することはできません

ん。

▶ EV / HV モード切りかえスイッチ



現在のモード	切りかえ後のモード
EV モード	HV モード
AUTO EV / HV モード	HV モード
HV モード	EV モード※

※ EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、EV モードを選択することはできません。

n バッテリーチャージモードに切りかえるには

EV / HV モード切りかえスイッチを押し続ける

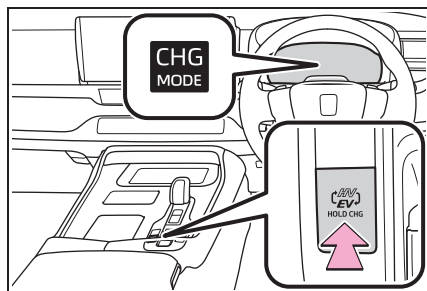
バッテリーチャージモード表示灯が点滅したら、スイッチから手を離します。

バッテリーチャージモードへの切りかえが完了すると、バッテリーチャージモード表示灯が点灯します。

駆動用電池が規定充電量※になると、バッテリーチャージモードは自動で解除され、HV モードに遷移します。

バッテリーチャージモード中に AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切りかえスイッチを押すと、バッテリーチャージモードが解除されます。

※ バッテリーチャージモードでの規定充電量は、普通充電での満充電量の約 80% になります。



□ 知識

n プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できないとき

次の状況のときは、AUTO EV / HV スイッチまたは EV / HV モード切りかえスイッチを操作しても、プラグインハイブリッドシステムの作動モードを変更できません。（その場合は、スイッチを操作するとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます）

l EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないとき（EV モードまたは AUTO EV / HV モード）

l 駆動用電池が満充電に近いとき（バッテリーチャージモード）

n スイッチ操作で EV モードからほかのモードに切りかえたとき

パワースイッチを OFF にすると作動モードの切りかえが解除され、次の始動時には EV モードの状態にもどります。※

AUTO EV / HV モードに切りかえた状態でパワースイッチを OFF にすると、次の始動時も AUTO EV / HV モードのまま始動します。※

※ EV 走行するために必要な駆動用電池の残量がないときは、HV モードになります。

n バッテリーチャージモードについて

- l システム保護などの理由により、次のようなことが起こる場合があります。
 - ・ バッテリーチャージモードに移行できなかったり、解除されたりする
 - ・ バッテリーチャージモードに切りかえてもガソリンエンジンが始動しない、または停止する
- l エアコンの消費電力が大きいときや冷却水温度が高いときなど、システムの負荷が大きい状況では、バッテリーチャージモードによる充電にかかる時間が通常より長くなったり、駆動用電池への充電が実施されなくなったりする場合があります。

⚠ 警告

n バッテリーチャージモードを使用するとき

バッテリーチャージモードを駐車中に使用するとき、次のことをお守りください。

バッテリーチャージモードの使用中はガソリンエンジンが作動するため、お守りいただかないと思われ事故の原因となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l 燃えやすいものや可燃物の付近などに車を停めない
- l 車庫内や雪が積もった場所など、換気が悪く囲まれた場所では、バッテリーチャージモードを使用しない

各モードでの走行時・減速時の制御について

n EV モード時

EV モード時は EV 走行（電気モーターのみでの走行）※ ですが、一部の状況では EV 走行が解除さ

れ、ガソリンエンジンを併用した走行となります（→P.68）。また、駆動用電池の残量が少なくなると、自動的に HV モードに切りかわります。EV モードでの走行状態を長く続けるために、次のような点にご留意ください。

- l 急加速や急減速を避け、スムーズな運転を心がけてください。急加速をくり返すと、駆動用電池の残量が早く減少します。また、急加速や速度により EV 走行が解除されます。
- l なるべく控えめな速度で走行してください。車速が高くなると EV 走行できる距離は大幅に低下します。

※ メーターで EV 走行可能距離を確認できます。（→P.159）

n AUTO EV / HV モード時

通常走行では電気モーターのみで EV 走行 ※ しますが、アクセルペダルを大きく踏み込むと、ガソリンエンジンが始動します（→P.68）。また、駆動用電池の残量が少なくなると、EV モード時と同様に自動で HV モードに切りかわります。AUTO EV / HV モードは、登坂路や急加速が必要なときなど、大きな力が必要な走行状況に適していますが、ガソリンエンジンが始動しやすくなるため、通常は EV モードでの走行をおすすめします。

※ メーターで EV 走行可能距離を確認できます。（→P.159）

n HV モード時

一般的なハイブリッド車と同じよ

うに使用することができます。

HV モード時は、走行状況に応じて、主に次のように制御されます。

Ⅰ 停車中はガソリンエンジンを停止※します。

Ⅰ 発進時は電気モーターを使って発進します。

Ⅰ 通常走行時は、ガソリンエンジンと電気モーターを効率よく制御し、燃費効率が最適になるように走行します。また、必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

Ⅰ アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンと電気モーターの両方の動力により力強く加速します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
(→P.68)

n 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を積極的に活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、EV 走行できる距離をのばすことができます。

また、HV モード時も燃料消費を抑えるために、回生ブレーキ機能の活用が有効です。



知識

n 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気工

ネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

Ⅰ シフトポジションがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

Ⅰ シフトポジションがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

n EV 走行できる距離

カタログに記載の充電電力使用時走行距離（プラグインレンジ、国土交通省審査値）は、一定の条件における国土交通省指定のパターン走行モードで測定されたものです。

走行条件が異なれば実際の EV 走行距離はカタログ値と異なりますが、これは一般のガソリンエンジン車でも同様です。

Ⅰ メーターに表示される、EV 走行可能距離の表示を目安にしてください。
(→P.159)

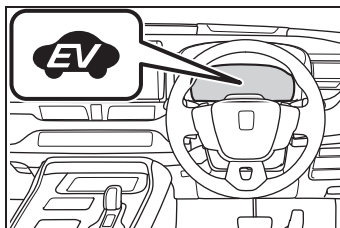
Ⅰ EV 走行距離は、駆動用電池の充電状態や、車速などの状況により変化します。

Ⅰ 駆動用電池の残量が十分にあっても、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。
(→P.68)

n EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。(→P.632)



n 駆動用電池の残量が減少し、EV モードから HV モードに切りかわったあとは

長い下り坂を連続して走行するなどして駆動用電池の充電量が回復すると、EV 走行可能距離がメーターに表示され、自動で EV モードに復帰します。

EV 走行可能距離が表示されているのに EV モードに切りかわらないときは、EV / HV モード切りかえスイッチを押して EV モードに切りかえることができます。

n EV モード・AUTO EV / HV モード時のガソリンエンジンの作動について

駆動用電池の残量が十分にあり、EV 走行可能距離がメーターなどに表示されていても、一部の状況では自動で EV 走行（電気モーターのみでの走行）が解除され、ガソリンエンジンを併用した走行に切りかわります（再度 EV 走行が可能な状態になった場合は、自動的に EV 走行に復帰します）。

EV 走行が自動的に解除される状況には、主に次のようなものがあります^{※1}。

- ┆ 車速が約 135km/h 以上のとき
- ┆ アクセルペダルを大きく踏み込んだときや急加速時など、一時的にパワーが必要なとき^{※2}
- ┆ ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや、登降坂・高速走行後など
- ┆ ハイブリッドシステムが低温のとき
- ┆ 外気温が約 -10℃を下まわる状態で暖房を使用したとき
- ┆ フロントウインドウガラスの曇り取りスイッチ（→P.477）を押したとき
- ┆ ガソリンエンジンの始動が必要であるとシステムが判断したとき

^{※1} 状況により、上記のほかにも EV 走行が解除される場合があります。

^{※2} AUTO EV / HV モードのとき。EV

モード時も、駆動用電池の状況によってガソリンエンジンが始動します。

n マルチインフォメーションディスプレイに“システム保護のためエンジン始動 EV 走行不可”が表示されたとき

ハイブリッドシステム保護などの理由により、EV 走行が自動的に解除されます。その場合は、自動的に EV 走行に復帰するまで、ガソリンエンジンを併用した走行を続けてください。

n ガソリンエンジンの自動停止について

車両の状態に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。[※]

- ┆ ガソリンエンジン暖機中
- ┆ 駆動用電池充電時
- ┆ 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- ┆ 暖房をかけているとき

[※] 状況により、上記のほかにもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

n プラグインハイブリッド車特有の音と振動について

プラグインハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- ┆ エンジンルームからのモーター音
- ┆ ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる、車両後方および駆動用電

池からの音

- | ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両床下もしくは後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- | バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- | ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- | 急加速時のエンジン音
- | ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- | ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- | 空調システムおよび駆動用電池冷却（→P.100）の作動にともなう駆動用電池付近からの音

n メンテナンスや修理・廃車について

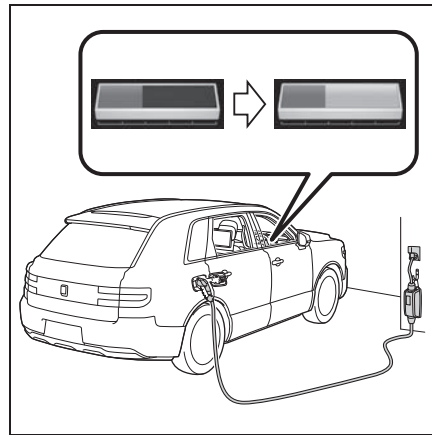
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

充電について（→P.81）

EV モードまたは AUTO EV / HV モードを利用可能にするために、車両のご使用前には、あらかじめ外部電源から駆動用電池を充電してください。

駆動用電池の充電が完了していなくても車両は使用可能ですが、残量が十分にならないと、EV モードまたは AUTO EV / HV モードを利用できなかったり、EV 走行できる距離が短くなったりします。

**知識**

n 燃料補給について

プラグインハイブリッド車は、外部からの充電により蓄えた電気を使用して走行することができますが、EV モードまたは AUTO EV / HV モード中でも一部の状況（→P.68）ではガソリンエンジンを使用するほか、HV モード中は走行の動力源としてガソリンエンジンを併用するため、燃料の補給は不可欠です。燃料計を確認し、残量が少なくなったときはすみやかに燃料を補給してください。（→P.287）

n 車を長期間使用しなかったとき

- | 車を長期間使用しなかった場合は、補機バッテリーや駆動用電池が充電不足になっている可能性があります。駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、外部電源から充電するか、少なくとも2～3ヶ月に一度はハイブリッドシステムを始動し、ガソリンエンジンの作動が自動的に停止したあと、パワースイッチを OFF にしてください。（READY インジケーターが点灯後、約 10 秒経過してもガソリンエンジンが作動しない場合は、そのままパワースイッチを OFF にしても問題ありません）

・ マルチインフォメーションディスプレイ

イに“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください”が表示された場合は、→P.594 の記載に従って対処してください。

- ・補機バッテリーがあがってしまっている場合は、「補機バッテリーがあがったときは」（→P.617）の記載に従って、対処してください。
- l 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

n 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- l 周囲の騒音が大きい場合
- l 雨または強風の場合
- n マルチインフォメーションディスプレイに“車両接近通報装置 故障 販売店で点検を 受けてください”が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

先読みエコドライブ

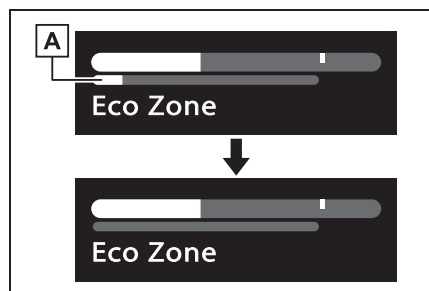
本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 先読み減速支援

過去のドライバーの行動をデータベースに蓄積し、どこで減速・停止をするかを予測します。減速・停止行動を蓄積した地点に対して減速支援を行うことで、駆動用電池の充電量を増やすことができます。

- l アイコンの強調表示後、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.169）の「アクセル操作の目安」(A) の表示が消えることで、余分な加速をし続けるないように支援します。（アクセル OFF 案内）



- l アクセル OFF 案内に従ってアクセルペダルを離した際に、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高めます。

n 先読みEV／HVモード切りかえ制御

駆動用電池の残量や交通情報、高速道路などルート状況に即してEV走行とHV走行を自動で切りかえ、エネルギー効率のよい走りを実現しています。また、本機能が実施された場合、目的地到着時に作動結果をナビ画面でお知らせします。



知識

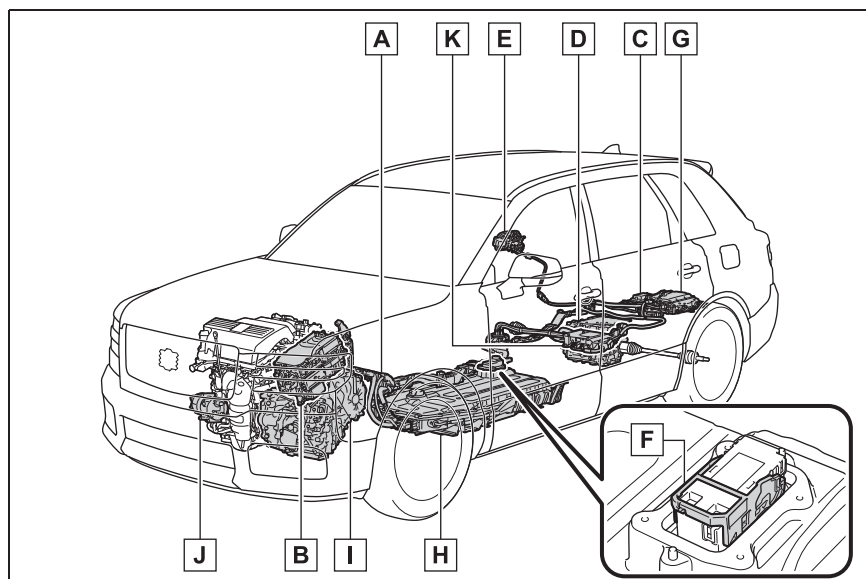
n 先読みEV／HVモード切りかえ制御について

- | 本機能はAUTO EV／HVモード選択中のみ、実施されます。
- | 本機能はナビの案内稼働中、かつそのルート上に車両がいる場合に実施されます。（駐車場などでは実施されません）

プラグインハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため  表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- B** パワーコントロールユニット
- C** DC / DC コンバータ
- D** リヤ電気モーター
- E** 普通充電インレット
- F** サービスプラグ
- G** 車載充電器
- H** 駆動用電池

- I フロント電気モーター
- J エアコンコンプレッサー
- K 分岐ボックス

知識

n ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.583）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 7L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

n 電磁波について

I 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

I アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

n 磁力による影響について

大型スピーカーなど、強い磁力を発生するものをラゲージルーム付近に取り付けたり、ラゲージルームに置いたりすると、ハイブリッドシステムに悪影響をおよぼす場合があります。

n 駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池などと同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お客様の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると EV 走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.105 の「駆動用電池の容量低下について」に記載されていることを心がけてください。

n 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

n 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

n 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

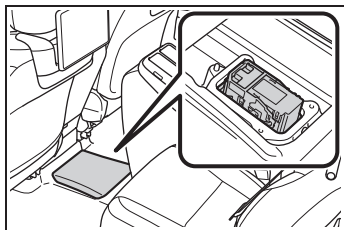
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

I 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

I 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

⚠ 警告

- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



n 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、プラグインハイブリッドシステムを停止する。
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

- タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.577）

車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

n 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。

⚠ 警告

絶対に転売・譲渡・改造などをしてください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

- ・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の留意事項

車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

n 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

⚠ 注意

n 燃料について

プラグインハイブリッド車では、車の使用状況によっては燃料がタンク内に長期間滞留し、燃料の品質が変化することがあります。燃料系の部品やエンジンに影響をおよぼす可能性があるため、12ヶ月ごとに20L以上（12ヶ月間の給油量が合計20L以上になるように）燃料補給を行ってください。

一定のあいだ燃料が補給されておらず、燃料タンクにある燃料の品質の変化が予想されるときは、パワースイッチをONにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイに“長期間燃料が補給されていません 燃料を補給してください”というメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合は、すみやかに燃料を補給してください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

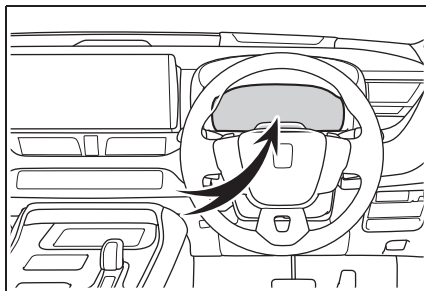
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくな

るためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。



知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

プラグインハイブリッド車 運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

EV モード・AUTO EV / HV モードと HV モードの効果的な 使い方

主に EV モード・AUTO EV / HV モードは市街地走行時に使用し、HV モードは高速走行時に使用することで、電気や燃料の節約につながります。(→P.66)

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→P.443)

ハイブリッドシステムインジ ケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。(→P.162)

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフ

トポジションをPにしましょう。シフトポジションをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 1 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 1 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微

前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンのON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチをOFFにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けてください。また、ステアリングヒーター(→P.489) シートヒーター(→P.490)の活用も効果的です。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいので、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

EV 走行可能距離について

メーターに表示される EV 走行可能距離は、現在どのくらい EV 走行（電気モーターのみでの走行）が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

EV 走行可能距離が表示されているときでも、一部の状況では EV 走行が解除され、エンジンを併用した走行となります。（→P.68）

表示値について

メーターに表示する値（→P.159）は、主に次のような情報から推定しています。

- Ⅰ 現在の駆動用電池残量
- Ⅰ 電力消費率（単位電力量で EV 走行できる距離）の学習値
- Ⅰ 過去のアエアコンシステムの電力消費量

電力消費率は走行のしかたによって変化します。電力消費率の学習は車両の充電を行うたびに車両が自動的に行っており、EV 走行可能距離の推定に反映されます。このため、前回までの走行のしかたにより、満充電状態で表示される EV 走行可能距離が前回と異なる場合があります。

学習値が安定するまでのあいだ（新車時から約 1 ～ 2 ヶ月ほど）は充電するごとに EV 走行可能距離が大きく変化する場合がありますが、異常ではありません。

エアコンを ON にしているときは電力消費量が多くなることを考慮して、過去のエアコン電力消費量のデータを基に、EV 走行可能距離（エアコン使用時）を推定しています。

EV 走行できる距離を伸ばすためのヒント

EV 走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より EV 走行できる距離を伸ばすことが可能です。

n 発進するときは、ゆるやかにアクセルペダルを踏んで加速する

目安として、最初の 5 秒で時速 20km/h 程度になるように加速してください。

マルチインフォメーションディスプレイに表示されるエコアクセルガイドを活用して、やさしい発進を心がけるだけで電費／燃費の向上につながります。（→P.169）

走行モードをエコドライブモードにすると、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、やさしいアクセル操作がしやすくなります。

同時にエアコンの制御はエコ空調モード（→P.478）に切りかわり、エアコンの作動が控えめになります。

n 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない

走行中は、一定の速度で走行することを心がけましょう。車間距離が短いと、むだな加減速をくり返

すことになり、電費／燃費が悪化する原因となります。

n 信号などで停車する前は、早めにアクセルペダルから足を離す

回生ブレーキの作動により、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池に充電することができます。

ハイブリッドシステムインジケータで回生の状況を確認することができます。（→P.162）

減速時にブレーキペダルを軽く踏むことで回生量が増加し、より多くの電気エネルギーを回収できます。

ブレーキペダルを強く踏みすぎると、回収量の表示がいっぱいになってしまい、回収できる上限をこえてしまうため、早めのブレーキ操作を心がけてください。

n エアコンを適切に使用し、ステアリングヒーター・シートヒーターも活用する

EV モードでは電気エネルギーによって冷房・暖房されます。（約 -10℃以下の極低温時を除く）

冷やしすぎたり、暖めすぎたりしないようにすると、電力消費を抑え、電費の向上につながります。

エコ空調モードを使用すると、自動的に控えめなエアコン制御になります。（→P.478）

ステアリングヒーター・シートヒーターは、少ない電力で直接体を暖められる、効率のよい暖房装置です。

エアコンと併せて使用することで、設定温度を控えめにでき、電費／燃費の向上につながります。

n タイヤの空気圧を点検する

空気圧が規定値より不足すると、電費／燃費が悪化する原因となります。

規定値より 50kPa (0.5kg/cm²) 不足した状態で数%程度悪化します。

n 高速道路を走行するときは、EV／HV モード切りかえスイッチを活用し、HV モードで走行する

EV モードで高速道路を走行すると、電力消費量が著しく増加します。

n 不要な荷物を積まないように心がける

100kg の荷物を載せて走行すると、約 3%程度電費／燃費が悪化します。

空気抵抗も電費／燃費に大きく影響するため、ルーフキャリアなどの外装品は、使用しないときは取りはずしましょう。

また、冬用タイヤは走行抵抗が大きく、電費／燃費の悪化する原因ですので、必要がなくなったらすみやかに標準タイヤにもどしてください。

n ご自身の電費／燃費を把握しておきましょう

日々の電費／燃費を把握すると、エコドライブ効果が実感できます。

マルチインフォメーションディスプレイに表示される電費／燃費グラフ、エコアクセルガイド／エコジャッジなどを活用してください。

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

- l 充電ポートの充電インジケータが消灯する
- l パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果のお知らせ 充電完了しました”と表示される(→P.103)

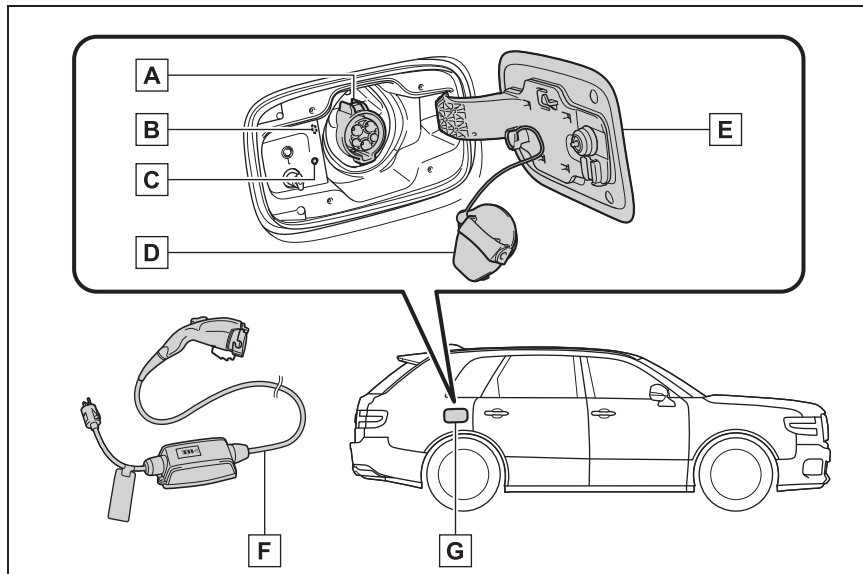
接続する電源 (100V・200V) やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.129

充電に関する装備について

この車両には外部電源と接続するための普通充電インレットや、外部電源と車両とを接続するための普通充電ケーブルなどが装備されています。

充電装備と名称



2

プラグインハイブリッドシステム

- A** 普通充電インレット
- B** 普通充電インレット照明
- C** 充電インジケーター (→P.82)
- D** 普通充電インレットキャップ
- E** 充電リッド (→P.81)
- F** 普通充電ケーブル (→P.84)
- G** 充電ポート

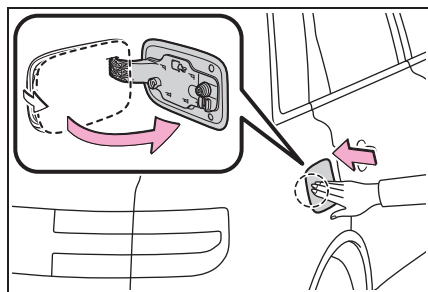
充電リッドの開閉

n 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッドをアンロックします。

充電リッドの後辺中央部(図に示す位置)を押し、充電リッドを開ける。

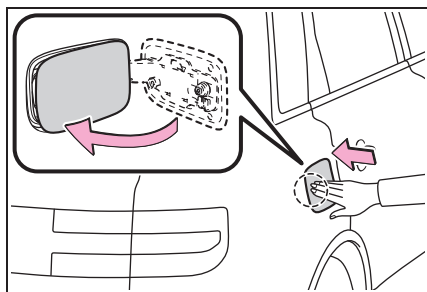
押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



n 充電リッドの閉め方

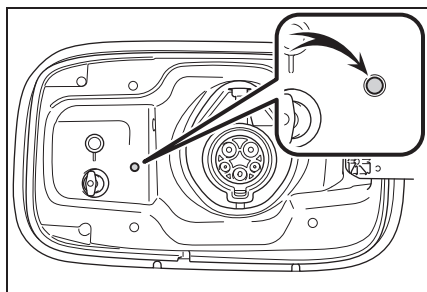
充電リッドを閉め、充電リッドの後辺中央部（図に示す位置）を押す

ドアを施錠すると、充電リッドもロックされます。
(→P.90)



充電インジケータ

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	・ 充電中・外部給電中^{※1} ・ 充電・外部給電が可能な状況のとき^{※1} ・ 駆動用電池ヒーター（→P.100）の作動中 ・ 駆動用電池冷却（→P.100）の作動中
点滅（通常） ^{※2}	充電スケジュール（→P.112）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
速い点滅 ^{※2}	電源または車両の異常などにより充電ができない状況（→P.127）のとき
遅い点滅 ^{※3}	AC 外部給電 ^{※1} の開始操作待機中

※¹ ヴィークルパワーコネクタ・AC 外部給電システムについては、P.134 を参照してください。

※² 一定時間点滅したあと、消灯します。

※3—一定時間点滅したあと、点灯します。

知識

n 充電ポートの充電インジケータについて

充電中にシステム異常などが発生した場合は、一定時間、速い点滅をしたあとで消灯します。

その場合、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従って、それぞれ対処してください。

普通充電ケーブルについて

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

n 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない

普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きするなどの負担をかけない

普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない

電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない

普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない

普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない

普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）

コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意

n 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む

普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する

普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する

普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する（→P.90）

普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける

普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

n 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P.106

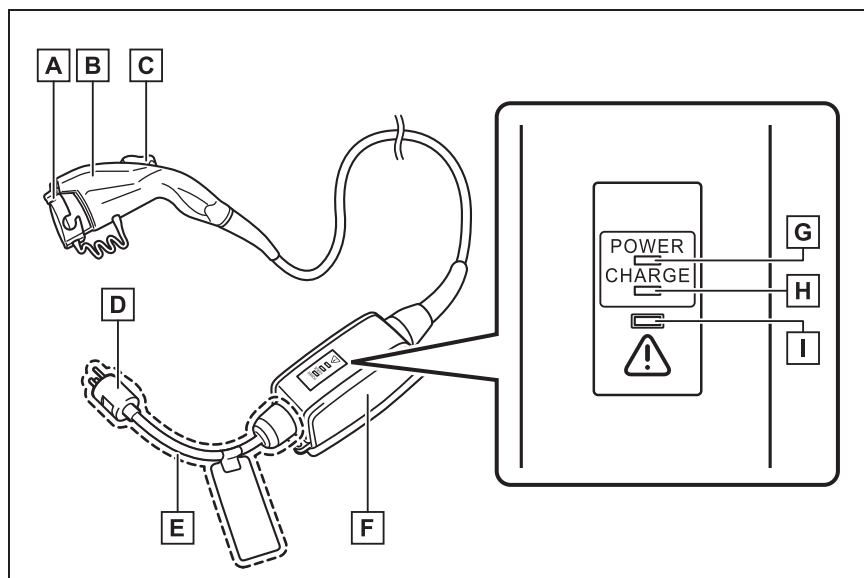


注意

n 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



- A** 普通充電コネクタキャップ
- B** 普通充電コネクタ
- C** ロック解除ボタン
- D** 電源プラグ
- E** 電源プラグコード※
- F** コントロールユニット
- G** 電源インジケータ (→P.86)
- H** 充電インジケータ (→P.86)
- I** エラーインジケータ (→P.86)

※ 接続する電源電圧（200V または 100V）に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。（→P.87）

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

n 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケータが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P.86 を参照してください）

n 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケータの点滅でお知らせします。

（→P.86）

n 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

n 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケータの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケータが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケータが消灯するか確認してくだ

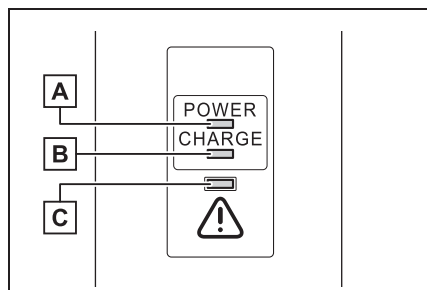
n 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通充電コネクタに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケータについて

n 各インジケータの働き

3つのインジケータで、それぞれ次の状態を示します。



A 電源インジケータ

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケータ

充電中に点灯します。

C エラーインジケータ

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

さい。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

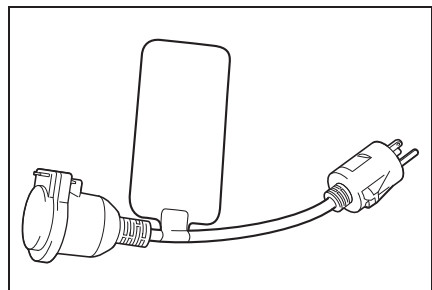
消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。
	点灯	点滅	→ トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → トヨタ販売店にご相談ください。

電源プラグコードの交換

電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

- 1 普通充電ケーブル (→P.85) と交換用電源プラグコードを用意する



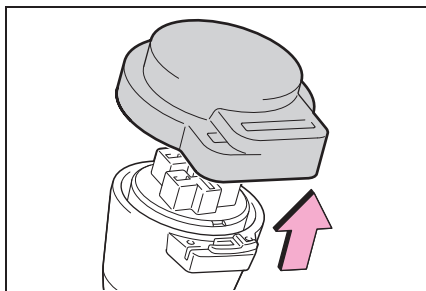
- 2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないように

ご注意ください。

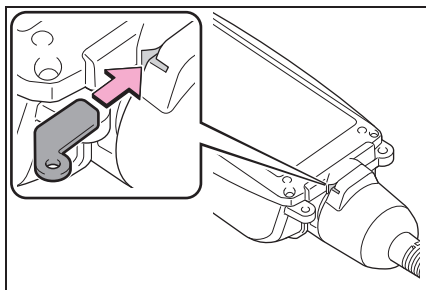


3 保護キャップを取りはずす



4 コントロールユニットの解除穴に解除キーを挿し込む

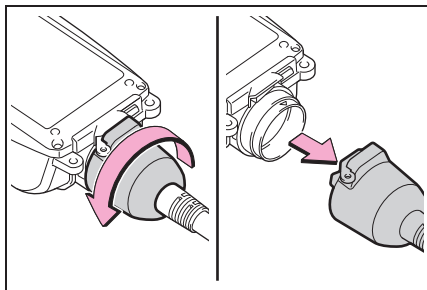
解除キーは図の向きで挿し込んでください。



5 コントロールユニットの解除穴に解除キーを奥まで挿し込んだまま、電源プラグコードのナット部をまわして、電源プラグコードを取りはずす

電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

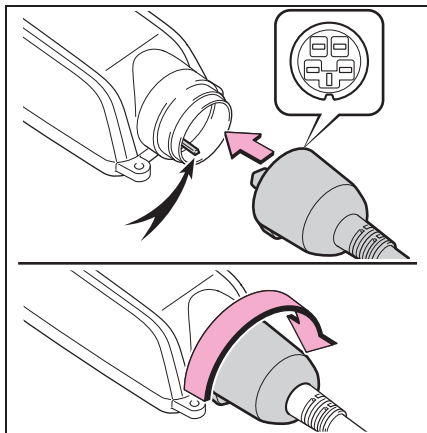
電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。



6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクタの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ” という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

⚠ 警告

n 電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。
- | 電源プラグ・普通充電コネクタを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- | コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- | 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- | 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりとまわす
- | 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

⚠ 注意

n 電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

⚠ 警告

n 日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに破損などがいないこと
- | コンセントに破損がないこと
- | コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- | 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- | 電源プラグの刃が変形していないこと
- | 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

n 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

充電リッド・普通充電コネクタのロック・アンロック

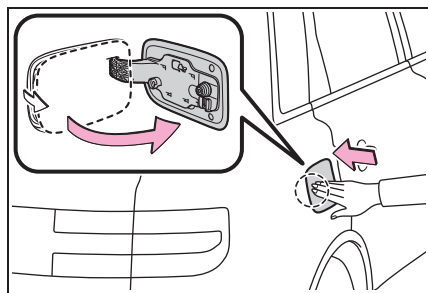
スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで充電リッドのロック・アンロック、普通充電コネクタのアンロックをすることができます。(→P.188)

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.614)

充電リッドをロック・アンロックするには

n ロックするときは

- 1 スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを解錠する
- 2 充電リッドの後辺中央部（図に示す位置）を押して充電リッドを開く



n ロックするときは

充電リッドを閉めてからスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを

施錠すると、充電リッドがロックされます。

□ 知識

n 解錠操作のセキュリティ機能

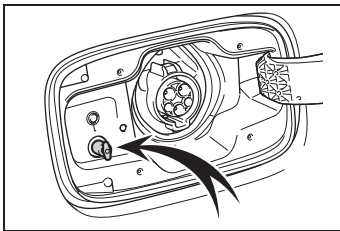
ドアのセキュリティ機能で施錠された場合、充電リッドが閉まっていれば、連動して充電リッドもロックされます。(→P.190)

n 充電リッドのロックについて

車両のドアを施錠したあとに充電リッドを閉めても、充電リッドはロックされません。その場合は、充電リッドを閉めてから再度、ドアを施錠する必要があります。

n リッドリフターについて

充電リッドを閉める前に、リッドリフターが押し込まれている状態だと、充電リッドが閉まりません。その場合は、ドア解錠状態でリッドリフターを押して飛び出ている状態にしてから、充電リッドを閉めてください。

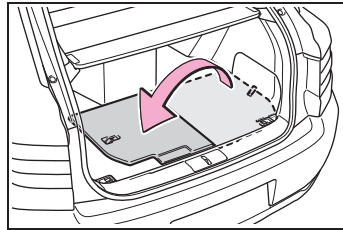


n 充電リッドが開かないとき

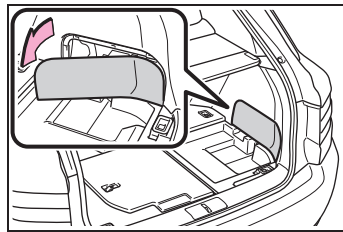
通常の手順で充電リッドが開かない緊急時は、次の方法で充電リッドを開けることができます。

1 バックドアを開ける (→P.198)

2 ストラップを持ち上げてデッキボードを開く



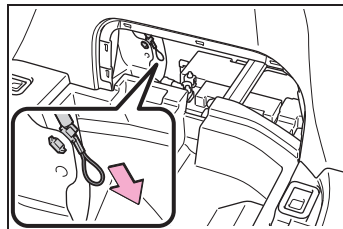
3 ラゲージルーム内のカバーを取りはずす



4 緊急解除ケーブルを矢印の方向に引く ※

充電リッドがアンロックされます。

※ 必ず矢印の方向に操作してください。矢印の向き以外に力かけると、緊急解除ケーブルが損傷するおそれがあります。



5 充電リッドの後辺中央部を押して、充電リッドを開く (→P.81)

このアンロック方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

普通充電コネクタをロック・アンロックするには

普通充電コネクタは、普通充電インレットに挿し込んだ状態において、ドアの施錠状態・解錠状態に連動してロック・アンロックされます。

n ロックするときは

普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込んだ状態で、ドアを施錠すると、普通充電コネクタがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクタを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

n アンロックするときは

ドアを解錠すると、普通充電コネクタがアンロックされます。



知識

n 普通充電コネクタのロック機能について

普通充電コネクタのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

n AC 外部給電システム (→P.134) を使用するとき

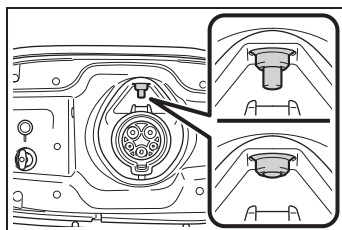
普通充電コネクタと同様に、ヴィークルパワーコネクタをロック・アンロックすることもできます。

n 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

コネクタロックピンが下がっていないか確認してください。

コネクタロックピンが下がっている場合は、コネクタロックが作動していま

す。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンなどでドアを解錠してコネクタロックをアンロックし、コネクタロックピンが上がっている状態にしてください。

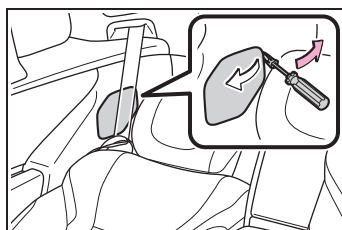


n 普通充電コネクタをアンロックできないとき

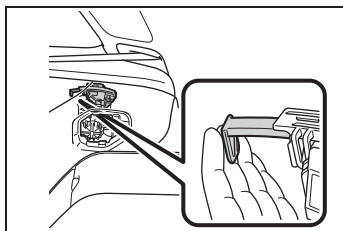
通常の操作で普通充電コネクタをアンロックできないときは、コネクタロック緊急解除レバーを操作して、普通充電コネクタをアンロックすることができます。

- 1 運転席側リヤ席の背もたれをいちばんうしろまで倒す (→P.215)
- 2 図に示すカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



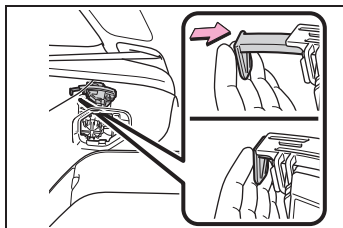
- 3 コネクターロック緊急解除レバーに指をかける



- 4 コネクターロック緊急解除レバーを矢印の方向に動かす※

普通充電コネクターがアンロックされ、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。

※ 必ず矢印の方向に操作してください。矢印の向き以外に力かけると、コネクターロック緊急解除レバーが損傷するおそれがあります。



- 5 カバーをもとどおりに取り付ける

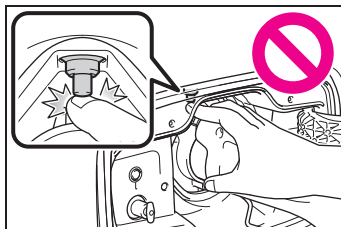
この方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

通常の操作で普通充電コネクターをアンロックできるときは、緊急解除レバーを操作しないでください。

⚠ 警告

n 普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき

コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



⚠ 注意

n 普通充電コネクターをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

■ 普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、ロックできない可能性があります。

■ 普通充電コネクターをロックしたあとは、普通充電コネクターに無理な力かけない
普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターロックをアンロックしてください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

n 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりするとおそれぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

📖 知識

n 契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力※をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

n 充電環境について

l 必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載され

ている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。

- ・ 200V 電源で 30A に対応した普通充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- ・ 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- ・ 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。

l 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

n 200V 電源を使用する場合

l 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。

l AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※

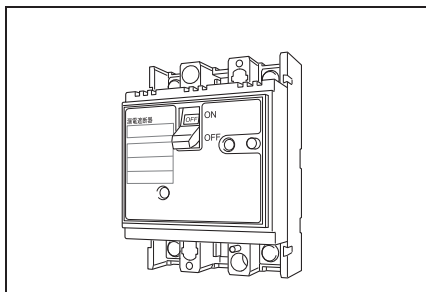
※ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

l 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

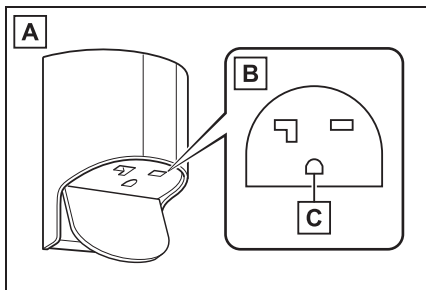
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご

相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



I BEV / PHEV 専用コンセントに接続してください。



A BEV / PHEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322 (200V)

B 200V コンセント極配置 ※

JIS C 8303

2 極 接地極 (アース) 付コンセント

20A 250V

C 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

n 100V 電源を使用する場合 ※

※ 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用のものに交換してください。(→P.87)

I ブレーカーの容量を確認してください。この車の充電時には、100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。※

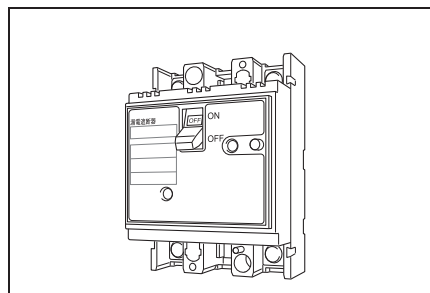
ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

I 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。(主幹含む)

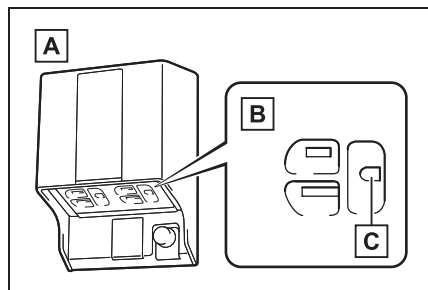
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



I 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。※

※ 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4632 (100V)

B 100V コンセント極配置 ※

JIS C 8303

2 極 接地極 (アース) 付コンセント

15A 125V

C 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

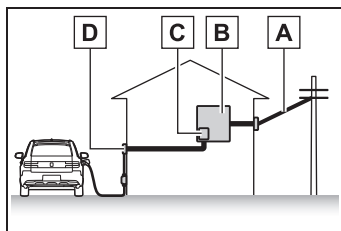
I 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



知識

n 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (200V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

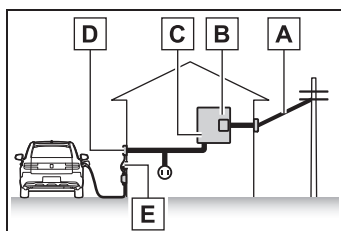
D BEV / PHEV 専用コンセント (→P.94)

BEV / PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

n 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (100V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線**B** 分電盤**C** 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント
(→P.95)

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き差し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。

充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

E フック

普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

n 200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイで、充電電流の上限値を変更することができます。※1,2,3

▶ マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して "車両設定" を選択し、OK を押し続ける

- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して "充電設定" を選択し、OK を押す

"充電設定" 画面が表示されます

- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して "充電設定" を選択し、OK を押す

"充電電流" 画面が表示されます

- 5 メーター操作スイッチの  または  を押して "16A" または "8A" を選択し、OK を押す

▶ マルチメディアディスプレイでの設定操作

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択する
- 2 "車両カスタマイズ" を選択する
- 3 "充電" を選択する
- 4 "充電電流" を選択する
- 5 "16A" または "8A" を選択し、"OK" を押す

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。※4

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.94)

※1 カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※2 普通充電器 (スタンド) で供給電力を調整しているときや使用する普通充電ケーブルによっては、設定した電流より小さくなる場合もあります。

※3 パワースイッチが ON のときに、充電

電流の上限値を変更できます。

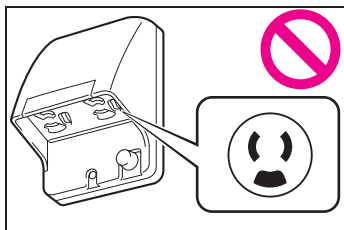
- ※4 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

⚠ 警告

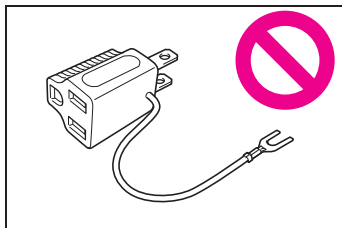
n 電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

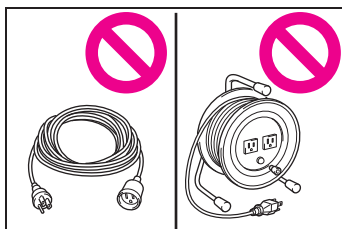
- ❶ 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- ❷ 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。
- ❸ 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



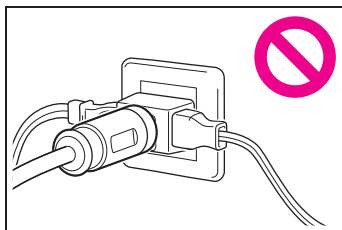
- ❶ コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



- ❷ 必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.86）が働かなくなるなどの原因になります。



- ❸ 分岐用コンセントには接続しないでください。



⚠ 警告

- Ⅰ 普通充電コネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
- 普通充電コネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類**n 普通充電 (→P.106)**

AC コンセント (200V または 100V) と車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器 (スタンド) などで行う充電方法です。

充電開始時刻 (または出発時刻)・曜日を設定しておくことで、ご希望の日時にタイマー充電を行うことも可能です。
(→P.112)

n バッテリーチャージモード (→P.65)

プラグインハイブリッドシステムをバッテリーチャージモードに切りかえることにより、ガソリンエンジンの作動によって発電した電気で、駆動用電池を充電することができます。

バッテリーチャージモードでの最大充電量は、普通充電での満充電量の約 80% になります。

□ 知識**n 充電時間が長くなるとき**

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- Ⅰ 低温または高温の環境下にあるとき
- Ⅰ 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- Ⅰ 車両の電力消費量が多いとき (ヘッドランプが点灯しているときなど)

- l マイルームモード (→P.122) を使用しているとき
- l 充電中に停電したとき
- l 普通充電器 (スタンド) で供給電力を調整しているとき
- l 外部電源の供給電圧が低下したとき
- l 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- l 車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき (→P.97) ※
- l 駆動用電池ヒーター (→P.100) が作動したとき
- l 充電前に駆動用電池冷却 (→P.100) が作動したとき
- l 接続先のコンセントなどに問題があるとき

※ 200V での普通充電時のみ

n 急速充電について

この車両は、急速充電器での急速充電には対応していません。

n 充電電力について

この車両は最大約 6kW の充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器 (スタンド)、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

n マイルームモード (→P.122)

車両に普通充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※で、車両のエアコンやオー

ディオなどの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

n 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

マルチインフォメーションディスプレイの“充電設定”で“電池昇温”が ON に設定されているときに作動します。

n 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、充電前に駆動用電池を冷却し、保護します。

l マルチインフォメーションディスプレイの“充電設定”で“電池冷却”が ON に設定されているときに作動します。

l 100V での充電時には作動しません。



n 駆動用電池の温度調整システム (駆動用電池ヒーター・駆動用電池冷却) について

l 充電開始の時点で駆動用電池の温度が低いまたは高い場合にのみ、作動します。

l 充電中以外でも作動する場合があります。

l タイマー充電時 (→P.112) は、タイマー設定内容に応じて作動します。

n 駆動用電池ヒーターについて

- | 駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。
- | 車両から普通充電ケーブルをはずす、または普通充電ケーブルを接続したまま、およそ3日が経過すると、システムが自動で停止します。
- | 充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。
- | 駆動用電池ヒーターの作動中に外気温が高くなったときは、充電モード(→P.112)で“出発設定”に設定した時刻よりも、充電が早く完了する場合があります。
- | 駆動用電池ヒーターの作動中に次の操作を行うと、駆動用電池ヒーターの作動が停止します。
 - ・シフトポジションをP以外にしたとき
- | 駆動用電池が満充電の状態であっても、駆動用電池の温度によっては駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。
 - ・駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。
 - ・再充電中に普通充電コネクタを取りはずすと、“充電コネクタ操作により充電停止しました”と表示されることがあります。(→P.129)

n 駆動用電池冷却について

- | 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。
- | 駆動用電池冷却は、最大で約30分作動します。ただし、充電モード(→P.112)を“出発設定”に設定したときは、現在時刻から充電完了までの所要時間に十分な余裕がない場合、駆動用電池冷却の作動時間が短くなります。

- | 駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- | 駆動用電池が満充電に近い場合、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- | 駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。
 - ・ボンネットを開けたとき
 - ・パワースイッチをOFF以外にしたとき
 - ・“今すぐ充電”(→P.113, 115)を実施したとき
- | 駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。
 - ・駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常の充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
 - ・駆動用電池冷却の作動中も、普通充電器(スタンド)からは充電中と認識されます。

よって、充電時間に応じて課金される普通充電器(スタンド)では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生しません。

充電に関するアドバイス

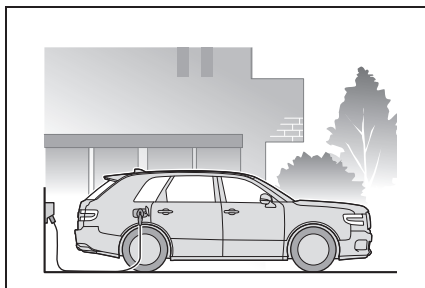
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

n お出かけの前に

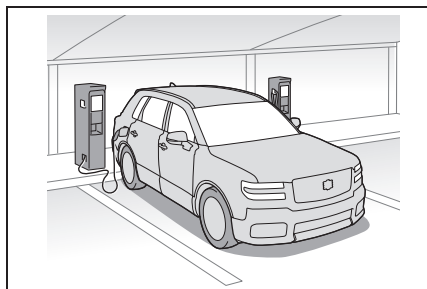
EV 走行するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。(→P.106)



n ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。近くに充電設備がない場合は、必要に応じてバッテリーチャージモードで駆動用電池を充電することができます。(→P.65) ※

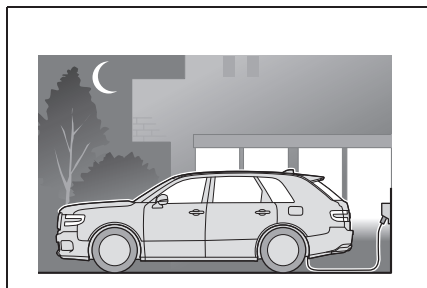
※ 駐車中にバッテリーチャージモードを使用するときは、車両の近くに可燃物がなく、換気のよい場所であることを確認してください。(→P.66)



n 帰宅したら

次のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。(→P.112)



充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。※

※ スマートフォン専用アプリでも、充電に関する各種の情報を確認することができます。

n 充電中は

充電中に、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開ける

と、現在の充電状態が一定時間表示されます。



n 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。(→P.129)



知識

n 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモード (→P.122) を選択しない状態で約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

充電の前に知っておいていただきたいこと

車両に普通充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。



知識

n 安全機能について

- l 車両に普通充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもハイブリッドシステムを始動することはできません。
- l READYインジケーターが点灯しているときに普通充電ケーブルを接続すると、ハイブリッドシステムは自動的に停止し、走行できなくなります。



警告

n 充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- l 充電時は、普通充電器（スタンド）、普通充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- l 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- l ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告**n 車両に充電ケーブルが接続されているとき**

シフトレバーを操作しないでください。万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる (→P.94)
- Ⅰ お客さまの充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる

取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生するおそれがあります。充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- Ⅰ お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- Ⅰ 普通充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

- Ⅰ 公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充電の設定状態を確認してください。

- ・ 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電” を ON にしてください。(→P.113, 115)
- ・ 充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

普通充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- Ⅰ パーキングブレーキが確実にかかっていること (→P.264)
- Ⅰ ヘッドランプ・非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

- Ⅰ パワースイッチが OFF になっていること (→P.253)
- Ⅰ AC 外部給電システムを使用していないこと (→P.134)
- Ⅰ 非常時給電システムを使用していないこと (→P.523)

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。(→P.89)

□ 知識

n 充電中は

- ┃ 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- ┃ 充電中は、ラゲージ周辺から冷却用ファンの音が聞こえることがあります。
- ┃ 充電中は、空調システムおよび駆動用電池冷却（→P.100）の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえることがあります。
- ┃ 充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているラゲージ周辺が温かくなることがあります。
- ┃ 普通充電ケーブルのコントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- ┃ 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。
- ┃ マルチインフォメーションディスプレイの画面で、現在の充電状態や、充電完了までの時間の目安を確認することができます。

n 駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- ┃ 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- ┃ EV 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- ┃ EV 走行の最高車速付近（→P.68）での走行を控える
- ┃ 長期間、運転をしないときは駆動用電池の残量を少なくしておく
自動的に EV モードまたは AUTO EV

／HV モードから HV モードに切りかわるのを確認してから、パワースイッチを OFF にしてください。

- ┃ 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電（→P.112）を活用する

なお、電池の容量が低下すると EV 走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

n 充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の EV 走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- ┃ 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- ┃ 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

n 駆動用電池への充電量が減少するとき

駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

普通充電のしかた

ここでは、車両に付属の普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”をONにしてから充電を実施してください。（→P.113, 115）

注意

n 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- ❶ 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクタを抜く
- ❷ 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクタがアンロックされていることを確認する
- ❸ 普通充電コネクタの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- ❹ 充電中に普通充電コネクタを揺するなど振動を与えない
充電を停止することがあります。
- ❺ 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない
- ❻ 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する

❶ 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない

❷ ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。

❸ 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.104

充電するときは

- ❶ 普通充電ケーブルを用意する
- ❷ 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

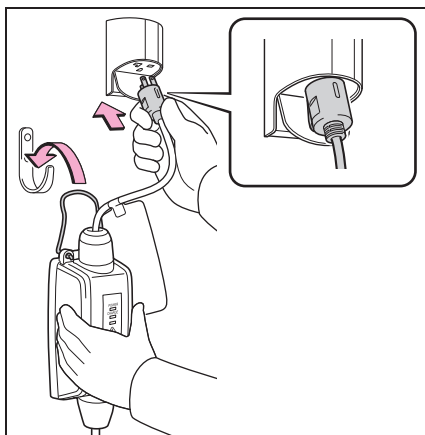
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.125を参照してください）

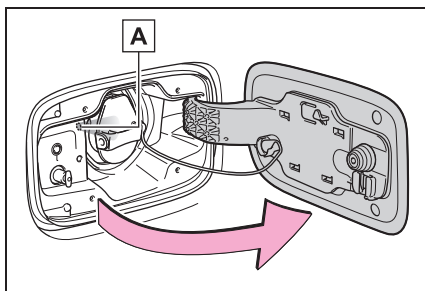
コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用し

てください。

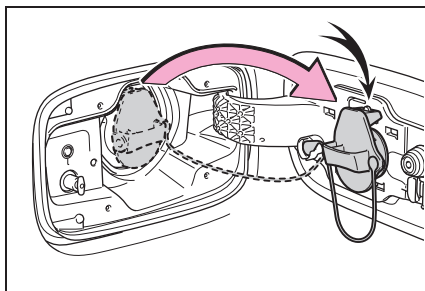


3 車両のドアを解錠して、充電リッドを開ける (→P.90)

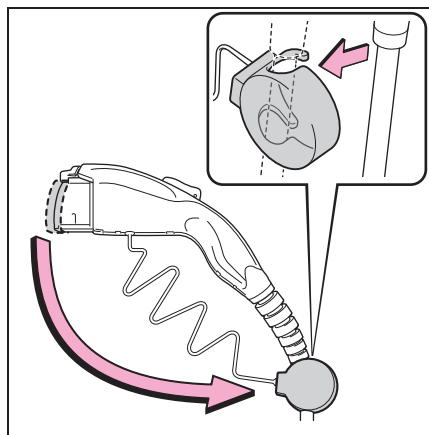
充電リッドを開けると、普通充電インレット照明 (A) が点灯します。



4 普通充電インレットキャップをはずし、充電リッド裏側のホルダーに固定する



5 普通充電コネクタの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する

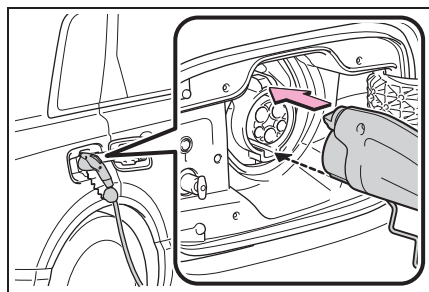


6 普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで押し込みます。

“カチッ” という音が生、普通充電コネクタが確実にロックされたことを確認してください。

ドアが施錠されている状態で、普通充電コネクタを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。(→P.92)



7 充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認する

充電インジケータが点灯していないと

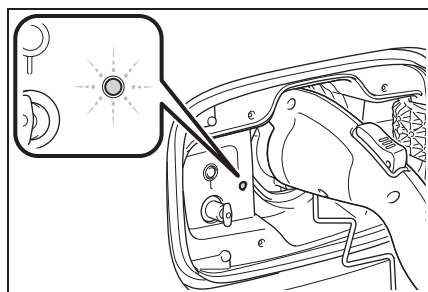
きは、充電が開始されていません。
(→P.82)

充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→P.112)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P.86 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケーターが消灯します。その場合は、P.125 の記載をご確認ください。



□ 知識

n 普通充電ケーブルの接続後に充電ポートの充電インジケーターが点滅したとき

充電スケジュール (→P.112) が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

① “今すぐ充電” を ON にする
(→P.113, 115)

② 充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクタを取りはずして、すぐに接続し直す

n 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

→P.92

n 安全機能について

普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクタを抜いてから再度、普通充電コネクタを挿し直して、充電ポートの充電インジケーターが点灯することを確認してください。

n 充電時間が長くなるときの

→P.99

n 充電しているとき

パワースイッチを ON にしてマルチメディアディスプレイ上にエネルギーモニターを表示すると、エネルギーモニター上に普通充電コネクタが表示され、充電中の電気の流れが表示されます (→P.178)。

n インレット過熱保護

普通充電コネクタの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまう事例に対応するために、インレット部に温度センサを搭載しています。一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。

温度が下がってももう一度充電開始操作をすることで充電を再開します。

⚠ 警告

ⓘ 充電するときの警告

充電するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❶ 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→P.94）
- ❷ 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- ❸ 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ❹ 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- ❺ 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- ❻ 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- ❼ 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- ❽ 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- ❾ 充電を中断するときには、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う

❶ 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する

❷ コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない

❸ 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き差しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない

❹ 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない

❺ 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない

❻ 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットを車両で踏まない

❼ 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む

❽ 延長コード・変換アダプターを使用しない

❾ 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

❿ 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

⓫ 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

⚠ 警告

n 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.86 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケータが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

n 車載充電器について

ラゲージの下部に車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 1 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

n 充電時の注意

普通充電インレットに電源プラグを押し込まないでください。
普通充電インレットが故障するおそれがあります。

n 自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

n 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したりするおそれがあります。

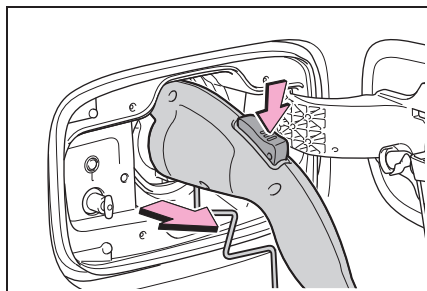
充電したあとは

1 車両のドアを解錠して、普通充電コネクタをアンロックする (→P.90)

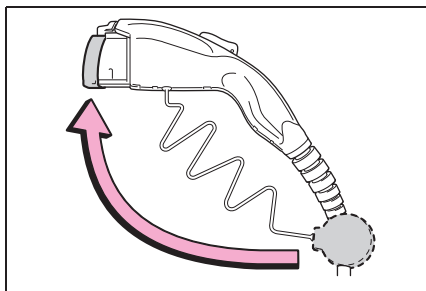
ドアを解錠すると、普通充電コネクタもアンロックされ、普通充電インレット照明が点灯します。

2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクタを取りはずす

充電中（充電インジケータの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止します。

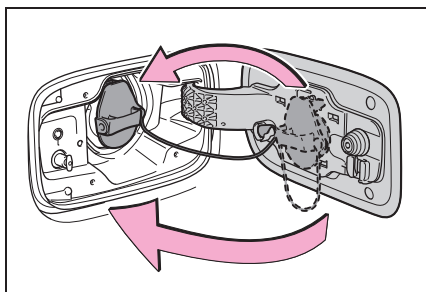


3 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける



4 普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める

充電リッドをロックするときは、車両のドアを施錠します。(→P.90)



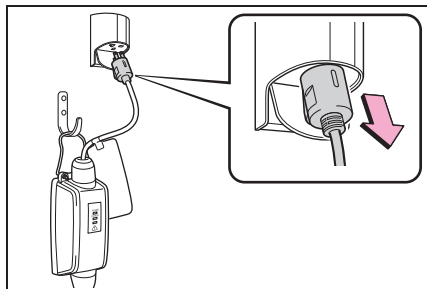
5 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。(→P.112)

電源プラグを挿したままにすると、1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこ

りがないか点検してください。



知識

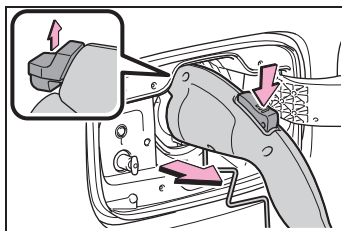
n 周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計(→P.159)が満充電の状態になっていても、パワースイッチをONにすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

n 普通充電コネクターをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターがロックされています。その場合は、スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンなどでドアの解錠操作をし、普通充電コネクターをアンロックしてください。(→P.90)



n 普通充電コネクターをアンロックできないとき

→P.92

n 普通充電ケーブルの収納について

デッキアンダートレイに収納することもできます。(→P.506)

警告

n 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n 充電後の注意

- Ⅰ 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- Ⅰ 普通充電インレットから普通充電コネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- Ⅰ コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがつかからない安全な場所に保管してください。普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。また、出発する時刻に合わせて充電が完了するようにしたり、特定の曜日の同じ時刻に充電を実施したりするなど、お好みに合わせたタイマー設定が可能です。

知識

n カレンダー設定について

現在の日時の情報は、GPS を利用して自動で設定されますが、マルチメディアディスプレイの設定で、時計の自動設定を OFF にした場合は、手動で日付の設定を行う必要があります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しくなくなります。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

n 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

▶ 開始設定

設定した時刻^{※1, 2}に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

夜間電力^{※3}を利用して普通充電する場合などに便利です。

▶ 出発設定

設定した時刻までに普通充電が完了するように、充電が実施されます。※4, 5

※¹ 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

※² タイマー充電は、マルチメディアディスプレイに表示される時刻に従って実行されます。

充電スケジュールを登録する前は、マルチメディアディスプレイの“GPS時刻設定”がONになっていることを必ず確認してください。

※³ 夜間電力の料金設定は、電力会社との契約内容により異なります。詳しくは、各電力会社にご確認ください。

※⁴ 車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、すぐに充電が開始されます。その際は、タイマー充電の設定時刻を確認してください。

※⁵ 普通充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

n 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。(曜日を選択しない場合は、1回のみ充電が実施されます)

n “今すぐ充電”のON / OFF

充電スケジュールがひとつでも登録されていると、車両に普通充電ケーブルを接続しても、タイマー充電の設定時刻まで普通充電が開始されません。充電スケジュールの登録内容を変更することなく充

電を行いたいときは、“今すぐ充電”をONにすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電ケーブル接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電がONの時に普通充電コネクターを取り外した場合、“今すぐ充電”がOFFになります。

n 次回充電予定

登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを“次回充電予定”と呼びます。

タイマー充電は、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

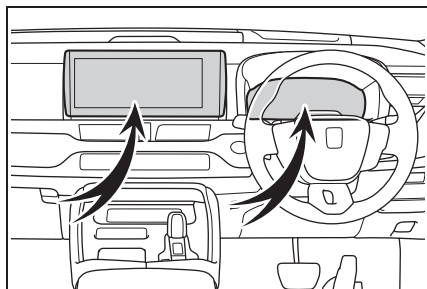
充電スケジュールを登録するには

マルチメディアディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイで、充電スケジュールを登録できます。

1 マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：

→P.115

1 マルチメディアディスプレイでの設定操作：→P.118



□ 知識

n タイマー設定について

- l 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- l 充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。

n タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

- l 時計が正しい時刻に調整されていること※
- l カレンダーが正しい年月日に設定されていること※
- l パワースイッチが OFF になっていること
- l 充電スケジュールの登録後に普通充電ケーブルを接続すること
普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- l 普通充電ケーブルの接続後、充電ポートの充電インジケータが点滅することを確認する (→P.82)
- l 電力遮断機能 (タイマー機能を含む) を持つコンセントで使用しない
常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

※ 時計やカレンダーの設定のしかたについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 普通充電ケーブルが車両に接続されたままの状態のとき

連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電

ケーブルを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

n スマートフォンとの連携について

T-Connect にお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、充電スケジュールの変更を行うことができます。T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- l マイルームモード (→P.122) を開始したとき
- l “今すぐ充電” を ON にしたとき (→P.113, 115)
- l 接続した普通充電コネクタを取りはずして、約 5 秒以内に接続し直したとき (→P.108)

n 外気温の影響について

充電モードを“出発設定”に設定したときは、外気温の影響によりタイマー設定が無効になり、充電が開始される場合があります。

n 駆動用電池ヒーター (→P.100) / 駆動用電池冷却 (→P.100) について

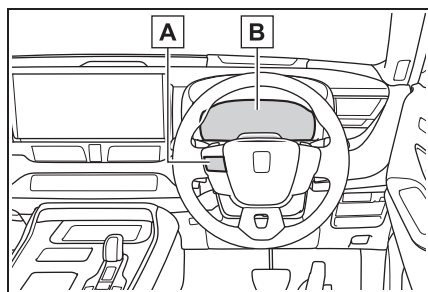
タイマー充電時、駆動用電池の温度によっては駆動用電池ヒーターまたは駆動用電池冷却機能が作動する場合があります。

- l 充電モードを“開始設定”に設定したときは、充電開始時刻に作動します。
- l 駆動用電池ヒーター：充電モードを“出発設定”に設定したときは、設定した出発時刻までに駆動用電池が暖まるよう、システムが自動で作動します。

- 1 駆動用電池冷却：充電モードを“出発設定”に設定したときは、システムが算出した充電開始時刻の約 30 分前に作動します。ただし、現在時刻から充電完了時刻までに十分な余裕がないタイマー設定のときは、駆動用電池冷却時間が短くなったり、駆動用電池冷却が作動しなかったりする場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

タイマー設定操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。



- A** メーター操作スイッチ
(→P.166)
- B** マルチインフォメーションディスプレイ
- n 充電スケジュールを登録するには
- 1 〽または▼を押して⚙️を選択し、OK スイッチを押す
 - 2 〽または▼を押して、“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする

- 3 〽または▼を押して、“充電設定”を選択し、OK スイッチを押す

“充電設定”画面が表示されます。

- 4 〽または▼を押して、“タイマー充電”を選択し、OK スイッチを押す

“タイマー充電”画面が表示されます。

- 5 〽または▼を押して、“充電スケジュール”を選択し、OK スイッチを押す

“充電スケジュール”画面が表示されます。

- 6 〽または▼を押して、“+ 追加”を選択し、OK スイッチを押す

“充電モード”画面が表示されます。

- 7 〽または▼を押して、変更する項目を選択し、〽または▼を押して設定を変更する

希望の充電モード、および充電開始（または出発）時刻を設定します。

充電モードが“開始”のときは普通充電を開始する時刻を、“出発”のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

希望の設定に変更したら、OK スイッチを押します。

“繰り返し”画面（手順 8）が表示されます。

- 8 繰り返し設定を有効にしたいときは、〽または▼を押して、

繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、OK スイッチを押す

OK スイッチを押すたびに、繰り返し設定の ON / OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれの曜日も ON に設定していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

希望の設定に変更したら、“完了” を選択し、OK スイッチを押します。

設定の保存を確認する画面が表示されます。

9 設定を保存するには、“保存” を選択し、OK スイッチを押す

設定内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は  スイッチを押して設定作業をやり直します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

n 充電スケジュールの ON / OFF を切りかえるには

登録済みの充電スケジュールを無効 (OFF) にしたり、再度有効 (ON) にしたりできます。

1 “充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **1** から手順 **5** の操作を行い、“充電スケジュール” 画面を表示する

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

2  または  を押して、ON / OFF を切りかえたい設定の行を選択し、OK スイッチを押す

OK スイッチを押すたびに、ON / OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が実施されなくなります。

n 充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

1 “充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **1** から手順 **5** の操作を行い、“充電スケジュール” 画面を表示する

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

2  または  を押して、変更したい項目を選択し、OK スイッチを長押しする

“スケジュール変更” 画面が表示されます。

3  または  を押して、操作したい項目を選択し、OK スイッチを押してそれぞれ必要な操作を行う

4 変更

“充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **7** 以降の操作要領で、希望の設定内容に変更します。

➡スイッチを押すと、前の画面に戻ります。

1 削除

削除を確認する画面が表示されます。

⤴または⤵を押して、“はい”を選択しOKスイッチを押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。登録内容の削除を中止するときは、“いいえ”を選択してOKスイッチを押します。

➡スイッチを押すと、前の画面に戻ります。

n “今すぐ充電” をONにするには

次の2つのうち、いずれかの方法で“今すぐ充電”の設定を変更できます。

▶ “タイマー充電” 画面での操作

1 “充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **1** から手順 **4** の操作を行い、“タイマー充電” 画面を表示する

2 ⤴または⤵を押して、“今すぐ充電” を選択し、OKスイッチを押す

OKスイッチを押すたびに、“今すぐ充電” のON / OFF が切りかわります。

▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチをOFFにするマルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。

2 OKスイッチを押して、“今すぐ充電” をONにする

OKスイッチを押すたびに、“今すぐ充電” のON / OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.106)

n “次回充電予定” を変更するには※

※ “今すぐ充電” をONにしたときや、マイルームモード (→P.122) の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。

1 “充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **1** から手順 **4** の操作を行い、“タイマー充電” 画面を表示する

2 ⤴または⤵を押して、“次回充電予定” を選択し、OKスイッチを押す

“次回充電予定” 画面が表示されます。

3 ⤴または⤵を押して、“はい” を選択し、OKスイッチを押す

変更の確認画面が表示されます。

OKスイッチを押すと、充電モード画面が表示されます。

➡スイッチを押すと、前の画面に戻ります。

4 “充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 **7** 以降の操作要領で、希望の設定内容に変更する

➡ スイッチを押すと、前の画面に戻ります。

知識

n タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- l 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- l 車両が走行し始めたとき
- l タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

n “次回充電予定” について

“次回充電予定” の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、マルチインフォメーションディスプレイに表示される“次回充電予定” の設定内容は変化しません。

n “次回充電予定” の変更後にもとの設定にもどしたいとき

“今すぐ充電” をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、“次回充電予定” を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

n 充電中に“次回充電予定” を変更したとき

- l 充電モードが“出発” のときは、充電完了までに必要な時間に応じて、現在の充電が中断、または継続されます。
- l 充電モードが“開始” のときは、設定した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

n パワースイッチを OFF にしたとき

パワースイッチを OFF にすると、エンディング画面に次回のタイマー充電予定（次回充電予定）が表示され、登録内容を確認できます。※

※ 充電中など、エンディング画面が表示されない場合があります。

警告

n 設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充填し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n 設定操作を行うとき

ハイブリッドシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マルチメディアディスプレイでの設定操作

タイマー充電に関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n “充電スケジュール” 画面を表示するには

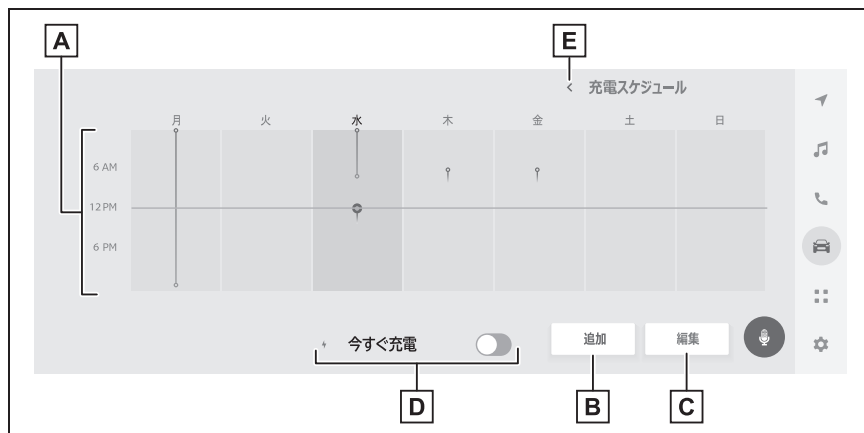
1 パワースイッチを ON にする

パワースイッチが ON のときに、充電スケジュールの設定操作を行うことができます。

2 メインメニューの にタッチし、“充電スケジュール” にタッチする

“充電スケジュール” 画面が表示されます。

n “充電スケジュール” 画面の見方

**A** 充電スケジュール（カレンダー表示）

1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールが連続する線の形で一覧表示されます。

B “追加” ボタン

充電スケジュールを新規登録するときにタッチします。（→P.119）

C “編集” ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときにタッチします。
（→P.120）

D “今すぐ充電” ボタン

タッチすると“今すぐ充電”がONになります。（→P.113）

E もどるボタン

タッチすると“充電スケジュール”画面が終了します。

n 充電スケジュールを登録するには

望の時刻を設定し、“OK”にタッチする

1 “充電スケジュール”画面を表示する（→P.118）

2 “追加”にタッチする

“タイマー設定を追加”画面が表示されます。

3 充電モードを選択する

“開始設定”または“出発設定”を選択します。

4 表示された画面上のボタンにタッチし、画面を操作してご希

望の時刻を設定し、“OK”にタッチする
充電モードが“開始設定”のときは普通充電を開始する時刻を、“出発設定”のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

5 “繰り返し”にタッチし、繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、“OK”にタッチする

選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。

複数の曜日に対して、繰り返し設定を

ON にすることも可能です。

いずれの曜日も選択していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

- 6** すべての設定が終了したら、“保存” にタッチする

充電スケジュールが登録され、“充電スケジュール”画面にアイコンが追加されます。

n 充電スケジュールの ON / OFF を切りかえるには

- 1** “充電スケジュール”画面を表示する (→P.118)

- 2** “編集” にタッチする

“タイマー設定リスト”画面が表示されます。

- 3** 画面に表示されているリストの中から、ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールの行の  または  にタッチする

ON / OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンにタッチするたびに充電スケ

ジュールの  (ON) /

 (OFF) が切りかわります。

n 充電スケジュールの登録内容を変更するには

- 1** “充電スケジュール”画面を表示する (→P.118)

- 2** “編集” にタッチする

“タイマー設定リスト”画面が表示されます。

- 3** “タイマー設定リスト”画面の“編集”にタッチする

- 4** 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールにタッチする

1 登録内容を変更するときは：

「充電スケジュールを登録するには」(→P.119)の手順 **3**以降の操作要領で、希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、“充電スケジュール”画面のアイコンの表示もかわります。

1 登録内容を削除するときは：

“削除”にタッチする

削除を確認するメッセージが表示されます。

“削除”にタッチすると、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、“キャンセル”またはもどるボタンにタッチします。

充電スケジュールを削除すると、“充電スケジュール”画面のアイコンも削除されます。

n “今すぐ充電”を ON にするには

- 1** “充電スケジュール”画面を表示する (→P.118)

- 2** “今すぐ充電”の  にタッチする

ボタンにタッチするたびに充電スケ

ジュールの  (ON) /

 (OFF) が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、普通充電が開始されます。→P.106)

n 次回充電予定を表示するには ※

※ ACC カスタマイズを ON にしているときは、エンディング画面が表示されません。カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.633)

パワースイッチを OFF にする

設定された充電スケジュールに従って、次回充電予定が表示されます。

“OK” にタッチすると、次回充電予定画面が閉じます。

“今すぐ充電” にタッチすると、今すぐ充電が ON になります。



知識

n 充電スケジュールをすべて OFF にしたとき

“充電スケジュール” 画面上にアイコンは表示されません。

“タイマー設定内容” 画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

n 充電スケジュールの設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュールの設定操作が中断されます。

- l 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- l 車両が走行し始めたとき
- l 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

n 充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、次回充電予定をご確認ください。充電を継続したい場合は、“今すぐ充電” を ON にしてください。

警告

n 設定操作を行うときの警告

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n 設定操作を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

マイルームモードを使う

車両に普通充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

- 1 車両に普通充電ケーブルを接続して、充電を開始する
(→P.106)
- 2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの起動を確認する画面が表示されます。

- 3 メーター操作スイッチの▲または▼を押して、“YES”を選択し、OK スイッチを押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

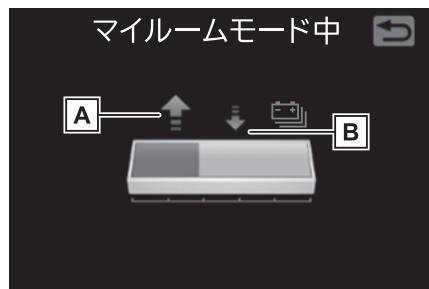
マイルームモードを使用しないときは、“NO”を選択して OK スイッチを押します。

マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディス

プレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の色と大きさで、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。



A 放電状況

B 充電状況

普通充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときは**B**が大きくなり、電気供給量より消費電力が大きいときは**A**が大きくなります。電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているときは（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、**A**と**B**の矢印が同じ大きさで表示されます。

知識

n 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

n マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

- 1 駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する
その場合は、駆動用電池の残量が増え

るまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。

l 外気温が低いときには、エアコンの作動が制限され、暖房が効きにくくなることもある。

l パワーステアリング警告灯（黄色）・エンジン警告灯などの警告灯および表示灯が点灯することがありますが、異常ではありません。

また、周囲が暗いときはヘッドランプが点灯します。（→P.271）

n 充電スケジュール（→P.112）が登録されているとき

タイマー充電の待機中にマイルームモードを開始すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

n 駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクタが接続された状態で、パワースイッチを ON にすると、“充電リッドが開いています”というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの  を押すことで、マイルームモードの起動を確認する画面が表示され、マイルームモードを選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

n マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイ

にメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

l “駆動用電池残量不足 マイルームモード起動不可”

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

l “駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します”

駆動用電池の残量が不足しています。マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

l “駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい”

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。＊

- ・ 車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
- ・ マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用電池の残量を増やしてください。

＊ マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。（→P.122）

警告

n マイルームモードの使用上の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

- | お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- | 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.129 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

n 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設置されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
コントロールユニットから電源プラグまでのあいだに断線が発生している	ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

n コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケータが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。(→P.86) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。

n 普通充電コネクタを接続しても充電ポートの充電インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに確実に接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
普通充電コネクタが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 ・ 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・ 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクタが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケータが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

n 充電ポートの充電インジケータが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
充電ポートの充電インジケータが通常の速さで点滅しているとき ※：充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“今すぐ充電”を ON にしてください。(→P.113, 115)
充電ポートの充電インジケータが速い点滅をしているとき ※：外部電源、または車両に異常が発生している	マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。(→P.129)

※ 充電ポートの充電インジケータの点灯・点滅については、P.129 を参照してください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

n 希望の時刻に充電できない

考えられる原因	対処方法
車両の時計が正しく調整されていない	時計の設定を確認し、正しい時刻に調整してください。※ ¹
車両のカレンダーが正しく設定されていない	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日に設定してください。※ ²
車両に普通充電ケーブルが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電ケーブルを接続しておいてください。
誤った充電モードを選択している	充電モードの設定をご確認ください。(→P.112) 充電モードが“開始”のときは設定した時刻に充電が開始されますが、“出発”に設定したときは、設定した時刻に充電が完了するように充電が実施されます。(充電開始時刻は、システムにより自動制御されます)

※¹ GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※² マルチメディアディスプレイの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にの

み、設定が可能になります

n スマートフォンのアプリケーション※ から次回充電予定の変更ができない

考えられる原因	対処方法
スマートフォンが通信圏外にある	電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

※ ご利用には T-Connect へのお申し込みが必要です。T-Connect サービスの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“今すぐ充電” が ON になっている	タイマー充電する際は、“今すぐ充電” を OFF に設定してください。(→P.113, 115)
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。(→P.120)
充電モードが“出発” に設定されており、かつ出発予定時刻が現在時刻に近い時刻に設定されている	車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、充電が開始されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しした	充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます(→P.108)。いったん普通充電ケーブルを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモードを作動させた	マイルームモードを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。
駆動用電池ヒーター(→P.100) が作動した	充電モードが“出発” のときは、充電前に駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。充電ポートの充電インジケータの状態を確認してください。(→P.82)

n “出発” に設定した時刻よりも早く充電が終了する

考えられる原因	対処方法
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測よりも早く充電が終了する場合があります。

n “出発” に設定した時刻になっても充電が完了しない

考えられる原因	対処方法
電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた	充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

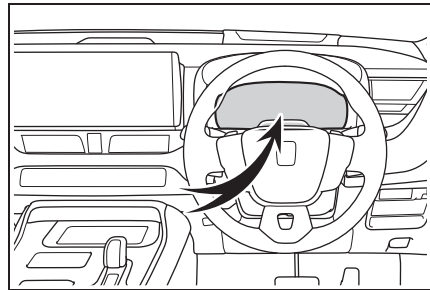
n “開始” に設定した時刻になっても充電が開始されない

考えられる原因	対処方法
設定した時刻が過ぎてから普通充電ケーブルを接続した	普通充電ケーブルは、“開始” に設定した時刻になる前に接続してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



n “充電コネクター操作により 充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電中に普通充電コネクターを取りはずした	充電中に普通充電コネクターを取りはずすと、充電は中断されます。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能 [*] が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした	満充電にしたい場合は再度、充電を行ってください。

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクタが確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 ・ 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・ 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
充電中に普通充電コネクタのロック解除ボタンを押した	充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクタを接続し直してください。

※ 駆動用電池ヒーター（→P.100）が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→P.122）の使用も、電力を消費します。

n “充電完了しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

n “停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました”と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・ 電源プラグが抜けていないか ・ 手元スイッチが OFF になっていないか ・ コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか ・ ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。(充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください) 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・ 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・ 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ・ 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

n “充電設備の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

n “AC 供給電源の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・ 電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ・ 延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ・ 専用回線に接続されているか ・ 停電が発生していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

n “電装品の電力消費大のため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ・ ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ・ パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。ハイブリッドシステムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

n “システムの要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。

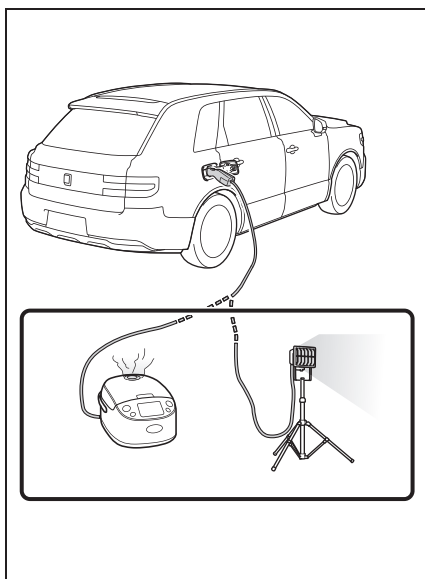
AC 外部給電システムについて

この車の AC 外部給電システムは、車両から屋外での外部給電が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

AC 外部給電システムについて

普通充電インレットに専用変換アダプタ（ヴィークルパワーコネクタ）を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下※の電気製品を使用することができるシステムです。



※ ヴィークルパワーコネクタの車外コンセント、および車内のアクセサリコンセント（→P.523）に接続する電気製品の、消費電力の合計が 1500W 以下であることが必要です。

AC 外部給電モードについて

次の 2 種類からご希望のモードを選択して、AC 外部給電を行うことができます。

n EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用して AC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

n HV 給電モード

AC 外部給電中に外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、エンジンが作動して外部給電を継続します。燃料残量警告灯が点灯すると、外部給電を終了します。

□ 知識

n アイドリングストップ条例について

HV 給電モードでの使用時は、外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。

一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、アイドリングストップに関する条例にふれるおそれがあります。関係する自治体に確認した上で、適切にご使用ください。

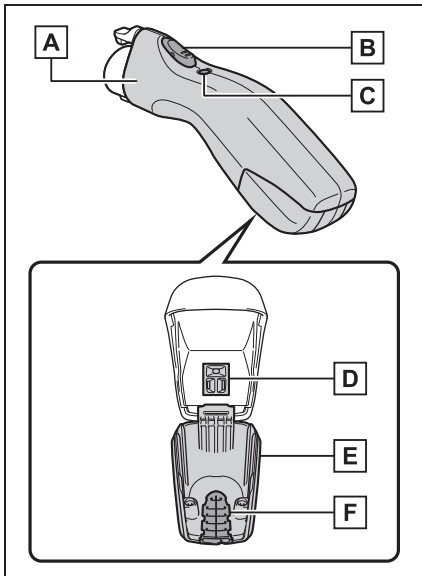
n スマートフォンとの連携について

T-Connect サービスにお申込みいただいた方は、T-Connect 対応アプリで、AC 外部給電システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることが

できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



A ヴィークルパワーコネクタ

B ロック解除ボタン

C 電源スイッチ

D 車外コンセント

E 防水カバー

F 防水ゴム

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

❶ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- ❶ 分解・修理・改造・塗装をしない
異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- ❶ 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- ❶ 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- ❶ 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない
水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- ❶ シールなどを貼り付けない
- ❶ 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- ❶ お子さまにはさわらせない
- ❶ 車外コンセントに液体やほこりなどの汚れが付着しないようにする
- ❶ 対応していない、ほかの車両には接続しない

AC 外部給電の前に知っておいていただきたいこと

AC 外部給電システムを安全にお使いいただくため、ご使用前には次の事項をご確認ください。

警告

n ご使用前の点検について

次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅰ ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

Ⅰ 電源プラグに破損・変形などがないこと
異常がある場合はただちに使用を中止してください。

Ⅰ 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

n ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

Ⅰ 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅰ ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

Ⅰ ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

n 車外コンセントの交換について

電源プラグを車外コンセントに挿し込んでもゆるいときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

n ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほこりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光が当たらない場所に保管してください。

AC 外部給電のしかた

AC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

AC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていること (→P.264)
- 1 ヘッドランプなどが OFF になっていること
- 1 パワースイッチが OFF になっていること (→P.255)
- 1 HV 給電モードのときは、AC 外部給電中にエンジンが作動する場合があるため、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 1 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 1 ボンネットが閉まっていること
- 1 シフトポジションが P の位置にあること
- 1 普通充電を行っていないこと
- 1 非常時給電システムを使用していないこと

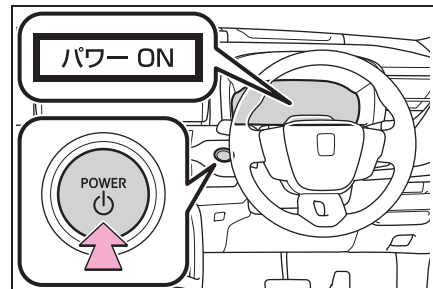
AC 外部給電を開始するときは

- n マルチインフォメーションディスプレイでの操作
- 1 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、ONにする

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC 外部給電システムが使用できません。

ON にしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトポジションの位置が P でないと、AC 外部給電システムを使用できません。



- 2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、メーター操作スイッチの  を押して前の画面にもどす

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。

その場合は、そのつど  を押して前の画面にもどしてください。

- 3 メーター操作スイッチの OK スイッチを押し続けて、マルチインフォメーションディスプレイ

のコンテンツ表示エリア（中央）にカーソルを表示させる

- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して⚙️を選択し、OK スイッチを押す

- 5 メーター操作スイッチの▲または▼を押して、“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする

- 6 メーター操作スイッチの▲または▼を押して、“外部給電”を選択し、OK スイッチを押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。

- 7 メーター操作スイッチの▲または▼を押して希望の外部給電モードを選択し、OK スイッチを押す ※1, 2

外部給電モードの選択画面上に、各モードでの外部給電可能時間の目安が表示されます。※3

※1 外部給電に必要な燃料が不足しているときは、HV 給電モードを選択できません。

※2 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

※3 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

▶ EV 給電モードを選択した場合

8 操作ガイド画面の表示に従う

燃料残量警告灯が点灯していると、操作ガイド画面の前に、警告画面が表示されます。そのまま AC 外部給電を行うと、駆動用電池の残量不足、かつ燃料不足により、走行できなくなるおそれがあります。AC 外部給電を行う前に給油することをおすすめします。

▶ HV 給電モードを選択した場合

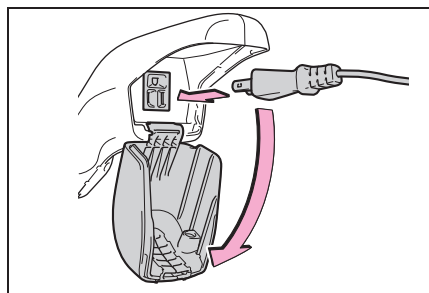
8 使用上の注意に関する画面を確認して OK スイッチを押し、操作ガイド画面の表示に従う

9 ヴィークルパワーコネクタを用意する

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。（→P.136）

10 ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

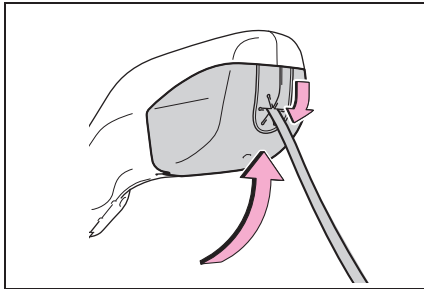
電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。（→P.146）



11 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認し

てください。(→P.146)

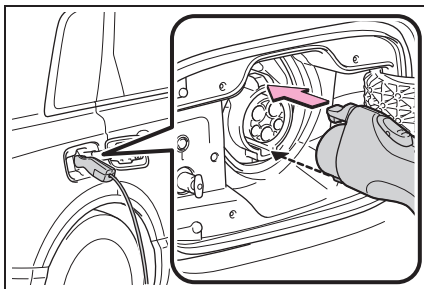


12 充電リッドを開け (→P.81)、 ヴィークルパワーコネクタを普 通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実にロックされたことを確認してください。

ドアを施錠するとヴィークルパワーコネクタがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだ場合は、自動的にロックされます。

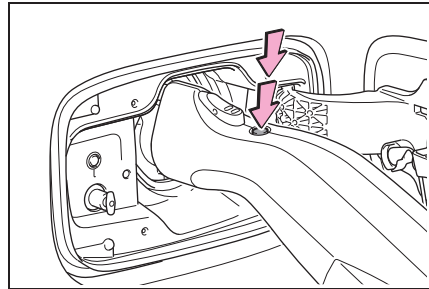


13 ヴィークルパワーコネクタの電 源スイッチを 2 回連続で押す

充電ポートの充電インジケータがゆっくり点滅します。(→P.82)

電源スイッチを 2 回連続で押す間隔が 3 秒以上空いたり、2 回よりも多く押し続けた場合は、充電インジケータは点

滅しません。



14 充電インジケータが点滅から 点灯にかわったら、接続した電 気製品の電源を ON にする

充電インジケータは一定時間点滅します。点滅中は AC 外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。(AC 外部給電が開始されないときは：→P.151)

AC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

n マルチメディアディスプレイで の操作

1 ブレーキペダルを踏まずにパ ワースイッチを押して、ON に する

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動してしまい、AC 外部給電システムが使用できません。

ON にしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、AC 外部給電システムを使用できません。

- 2** メインメニューの  にタッチし、“外部給電”にタッチする

外部給電モードの選択画面が表示されます。

- 3** 希望の外部給電モードを選択する ※1.2

外部給電モードの選択画面上に、各モードでの外部給電可能時間の目安が表示されます。 ※3

※1 外部給電に必要な燃料が不足しているときは、HV 給電モードを選択できません。

※2 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

※3 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

- ▶ EV 給電モードを選択した場合

- 4** 操作ガイド画面の表示に従う ※

※ 燃料残量警告灯が点灯していると、操作ガイド画面の前に、警告画面が表示されます。そのまま AC 外部給電を行うと、駆動用電池の残量不足、かつ燃料不足により、走行できなくなるおそれがあります。AC 外部給電を行う前に給油することをおすすめします。

- ▶ HV 給電モードを選択した場合

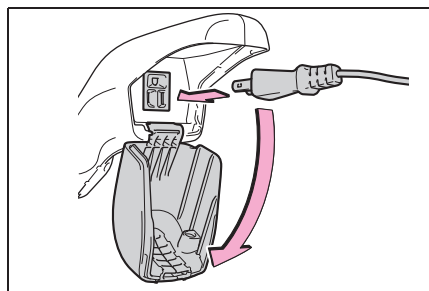
- 4** 使用上の注意に関する画面を確認して“OK”を押し、操作ガイド画面の表示に従う

- 5** ユーザーパワーコネクタを用意する

ユーザーパワーコネクタに異常がないことを確認してください。(→P.136)

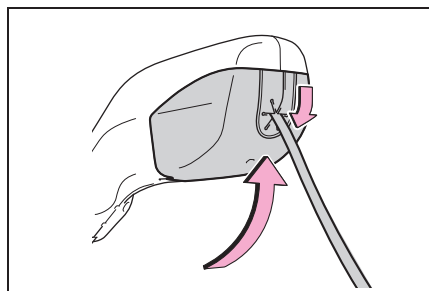
- 6** ユーザーパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。(→P.146)



- 7** 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認してください。(→P.146)



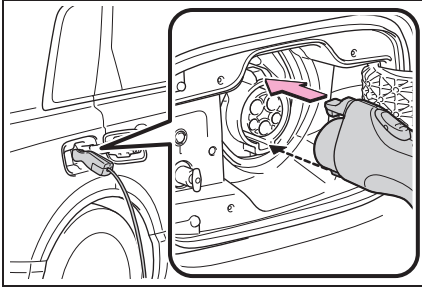
- 8** 充電リッドを開け (→P.81)、ユーザーパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ユーザーパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実にロックされたことを確認してください。

ドアを施錠するとユーザーパワーコネクタがロックされます。

ドアが施錠されている状態で、ユーザーパワーコネクタを挿し込んだ場合は、

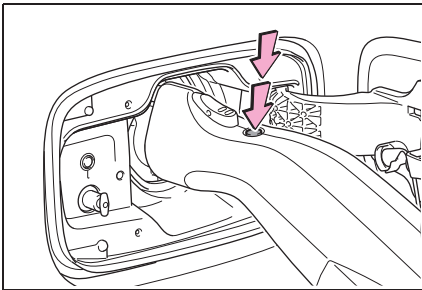
自動的にロックされます。



9 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを2回連続で押す

充電ポートの充電インジケーターがゆっくり点滅します。(→P.82)

電源スイッチを2回連続で押す間隔が3秒以上空いたり、2回よりも多く押し続けた場合は、充電インジケーターは点滅しません。



10 充電インジケーターが点滅から点灯にかわったら、接続した電気製品の電源を ON にする

充電インジケーターは一定時間点滅します。点滅中は AC 外部給電が開始されていないため、点灯にかわるまでお待ちください。(AC 外部給電が開始されないときは: →P.151)

AC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

知識

n 外部給電モードの選択画面の表示方法

次の手順でも外部給電モードの選択画面を表示することができます。

- 1 充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する
- 2 ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、ON にする

AC 外部給電を停止するときは

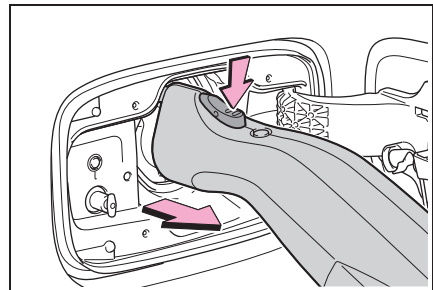
- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 車両のドアを解錠して、ヴィークルパワーコネクタをアンロックする (→P.92)

ドアを解錠すると、普通充電インレット照明が点灯します。

- 3 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす

パワースイッチが自動で OFF になります。

ロック解除ボタンを押すだけでも、AC 外部給電は停止します。また、パワースイッチを押して、AC 外部給電を停止することもできます。



4 車外コンセントから電源プラグを取りはずす

ヴィークルパワーコネクタと電気製品を片付けてください。

電気製品の電源プラグを接続するとき

n 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

1 防水カバーを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

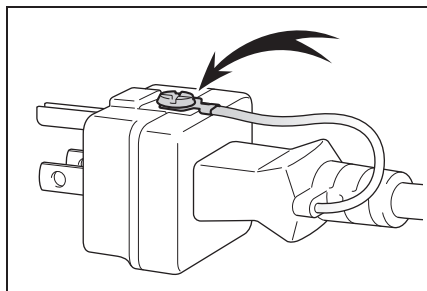
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

1 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり差し込めない

1 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する



AC 外部給電に関する情報の表示

AC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイやマルチメディアディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間^{※1}などの情報を確認することができます。

マルチメディアディスプレイに表示されるエネルギーモニターからも、AC 外部給電システムの作動状況^{※2}を確認することができます。(→P.178)

※1 表示される時間は 400W 消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

※2 エネルギーモニターの見方については、P.178 を参照してください。

車内のアクセサリーコンセントについて

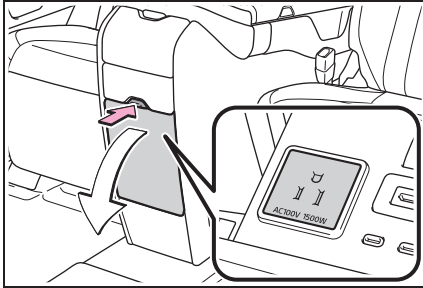
AC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。

AC 外部給電システムの使用中は、“AC 100V” スイッチ (→P.524) を押さなくてもアクセサリーコンセントを使用できます。また、“AC 100V” スイッチを押して OFF にすることはできません。

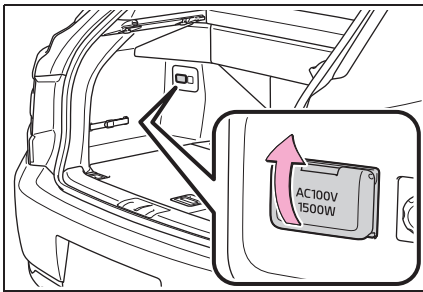
ん。

アクセサリコンセントの使用方法については、(→P.524)を参照してください。

▶ リヤコンソールボックス



▶ ラゲージルーム



□ 知識

n ヴィークルパワーコネクタを解錠できないとき

「普通充電コネクタを解錠できないとき」(→P.92)をご確認ください。

n AC 外部給電システムの使用中は

- | スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- | ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。
使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。

- | ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません”“キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。

n AC 外部給電システムについて

- | AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC電源装置の保護機能が作動し、車外コンセント、および車内のアクセサリコンセントが使用できなくなりますが、故障ではありません。なお、保護機能が作動したときに音がすることがありますが、異常ではありません。
- | AC 外部給電システムの起動中に、電気製品によっては大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合、AC電源装置の保護機能が作動し、AC外部給電システムが停止することがありますが、故障ではありません。
その場合は、いったん電気製品の電源をOFFにし、電源プラグを挿し直してから、再度、AC外部給電を開始してください。
- | 定格消費電力が1500W以下であっても、定格消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品があり、その場合は正常に作動しないおそれがあります。
- | 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
- | 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- | 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

n 車外コンセントに接続する電気機器について

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- l 起動時の電力が高い電気製品
- l 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- l 精密なデータ処理をする計測機器
- l 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- l タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

n AC 外部給電中のいたずらなどを防ぐために

普通充電コネクタと同様に、ヴィークルパワーコネクタを接続した状態でドアを施錠すると、ヴィークルパワーコネクタをロックできます。(→P.92)

n 電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ (50 / 60Hz) 機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

n AC 外部給電システムを使用しているとき

- l AC 外部給電システムの作動中は、リヤシートの下側から冷却用ファンの音がすることがあります。
- l AC 外部給電システムを開始した時点

で、いったんエアコンが OFF になります。AC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。*

* AC 外部給電システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイやマルチメディアディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の外部給電時間が異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n AC 外部給電システムを使用するときの警告

- l 使用中は車両から離れない
- l 換気の悪い場所に停車しない
HV 給電モードでの使用時は、駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。排気ガスによる人体への影響を避けるため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
 - ・ 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。(→P.38)

⚠ 警告

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認する
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停車しない
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車内のアクセサリーコンセントに、使用する意図のない電気製品が接続されていないことを確認する
AC 外部給電を開始したときに、車内のアクセサリーコンセントにも電源供給されることにより、それらの電気製品が作動するおそれがあります。
- 給油をしない
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまにはヴィークルパワーコネクタを使用させない
- 電気製品の転倒・落下による事故を防ぐために、水平で安定した場所で使用する
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない

使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。

ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続するヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

本来の用途以外には使用しない
コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の外部給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

落雷の可能性がある天候のときは AC 外部給電システムを使用しない
使用中、雷に気付いたときには AC 外部給電システムを停止してください。

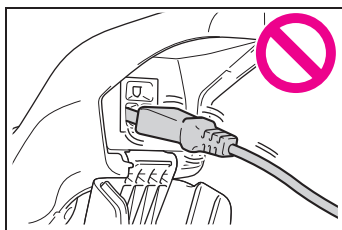
普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない

ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する

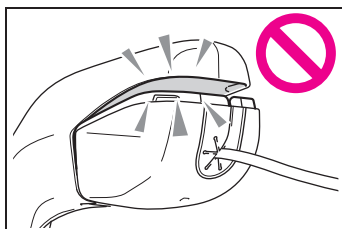
⚠ 警告

- Ⅰ ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- Ⅰ ヴィークルパワーコネクタの端子部および、普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- Ⅰ ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセントに金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- Ⅰ ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする
- Ⅰ 車外コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをする
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- Ⅰ 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さない
すでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。
- Ⅰ ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、電源プラグやコンセントをぬらさない
- Ⅰ アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する

- Ⅰ 電源プラグはコンセントにしっかりと確実に差し込む
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



- Ⅰ 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる
確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



- Ⅰ ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っ掛けたりしない



- Ⅰ 異常な発熱を感じたらただちに使用を中止する

⚠ 警告

n 接続する電気製品について

- | 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- | 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- | 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。
- | 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- | 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- | 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- | 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

n エアコンの使用に関する警告

AC 外部給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。

AC 外部給電中にエアコンを使用しても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 車両にヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

シフトレバーを操作しないでください。万一、ヴィークルパワーコネクタが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

n AC外部給電システムを使用するときの注意

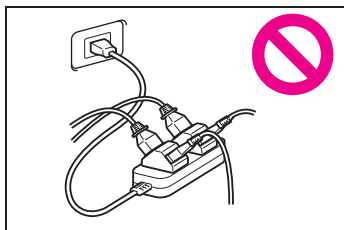
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- | AC100V 以外の電気製品を接続しない
- | 消費電力の合計が 1500W をこえないようにする
また、振動や熱などに弱い電気製品を使用しないでください。
- | コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しない
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- | 車外コンセントにほこりやごみが付着していないことを確認する
車外コンセントは定期的に清掃してください。
- | 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えない
外部給電を停止することがあります。

⚠ 注意

- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
- コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。

n 電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続するとき

- 電源プラグを車外コンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。
- 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。

n 車両を長時間駐車して外部給電を行うとき

次のことにご注意ください。

- ガソリンエンジンの作動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

- HV 給電モードでの使用時、特に外気温が低いときには、排気管の中にある水が凍り、ガソリンエンジンが起動しにくくなったり、ガソリンエンジン作動中に排気管から臭いが発生したりすることがあります。その場合は、いったん外部給電作業を中断して、15 ～ 30 分ほど走行してください。

n AC外部給電システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。

電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。

- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。

普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。

正常に AC 外部給電できないときは

正しい手順に従って作業しても外部給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

n 外部給電モードの選択画面 (→P.137) が表示されない

考えられる原因	対処方法
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	ヴィークルパワーコネクタを接続してからパワースイッチを ON にする際、しっかりと接続されていないと外部給電モードの選択画面が表示されません。 いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、「カチッ」と音がするまで確実に挿し込んでください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに “イグニッション ON” と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジションが P の位置にあることを確認してください。

n HV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
燃料が不足している	燃料残量警告灯（→P.583）を確認し、点灯している場合はすみやかに燃料を補給してください。

n EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→P.159）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→P.106）

n ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを押しても AC 外部給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
電源スイッチを 2 回押す間隔が長すぎる、または電源スイッチを 2 回よりも多く押している	電源スイッチは、約 3 秒以内に 2 回連続で押してください。(→P.137)
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースwitchを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障している	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてから車両を日陰に移動したり、エアコンを使用するなどして車内の温度を下げ、再度、AC 外部給電を開始してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずしてからしばらく走行したり、エアコンを使用するなどして駆動用電池をあたためてから使用してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、はじめから操作をやり直してください。 ピンなどの異物が挿さっていないか 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ほこりやごみが付着していないか
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認してください。(→P.159) 残量が少なくなっているときは、ヴィークルパワーコネクタを取りはずし、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースwitchを押して、駆動用電池の残量を回復させてください。または、普通充電を実施し、駆動用電池の残量を回復させてください。(→P.106)

走行に関する情報表示

3

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	154
計器類	159
マルチインフォメーションディスプレイ	165
ヘッドアップディスプレイ	173
エネルギーモニター／燃費画面	178

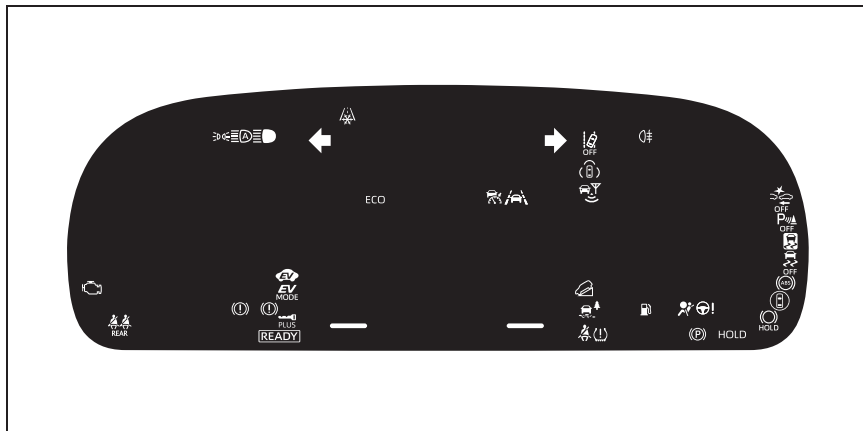
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯や表示灯で車の状況をお知らせします。

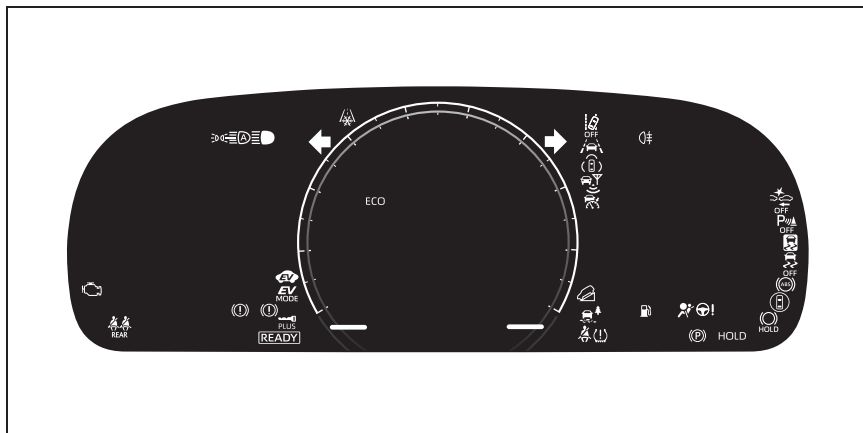
メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

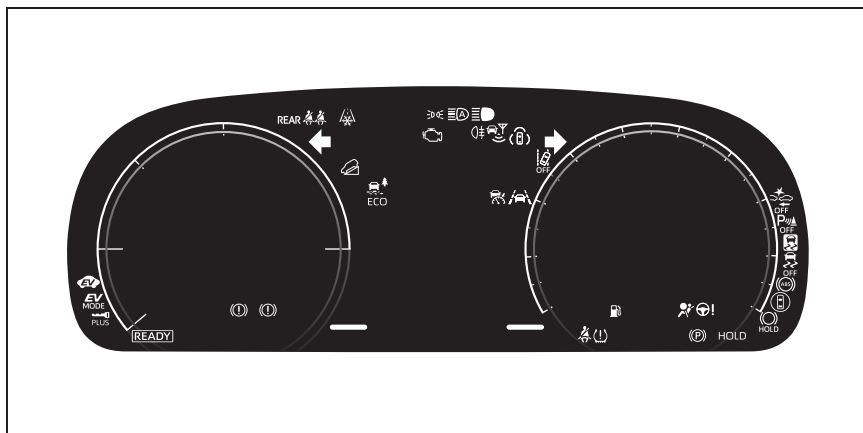
▶ 表示タイプ 1



▶ 表示タイプ 2



▶ 表示タイプ 3



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.581)

(赤色)



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.581)

(黄色)



高水温警告灯 ※² (→P.581)



ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※² (→P.581)



充電警告灯 ※² (→P.582)



油圧警告灯 ※² (→P.582)



エンジン警告灯 ※¹
(→P.582)

SRSエアバッグ／プリテン



ショナー警告灯 ※¹
(→P.582)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.582)



ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.583)



(赤色)

パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.583)



(黄色)

パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.583)



燃料残量警告灯 (→P.583)



運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.583)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.584)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.584)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※¹ (→P.584)



PCS 警告灯 ※¹ (→P.585)



(黄色)

LTA 表示灯 (→P.585)



LDA 表示灯 (→P.585)

(黄色)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.585)

(黄色)



クルーズコントロール表示灯 (→P.585)

(黄色)



PDA 表示灯 (→P.586)

(黄色)

運転支援情報表示灯 ※¹
(→P.586)スリップ表示灯 ※¹
(→P.586)パーキングブレーキ表示灯
(→P.587)

(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.587)

(点滅)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠ 警告

n 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.263)



尾灯表示灯 (→P.271)



ハイビーム表示灯 (→P.274)



AHS 表示灯 (→P.275)



AHB 表示灯 (→P.278)

リヤフォグランプ表示灯
(→P.280)PCS 警告灯 ※^{1, 2}
(→P.310)クルーズコントロール表示灯
(→P.339)クルーズコントロール表示灯
(→P.339)

レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.339)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.339)



LTA 表示灯 (→P.315)



LTA 表示灯 (→P.315)



LTA 表示灯 (→P.315)



LDA 表示灯 (→P.323)

LDA OFF 表示灯 ※²
(→P.323)ドミアライジングケータ ※³
(→P.364, 380, 392)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2, 4 (→P.384)



クリアランスソナー検知表示灯 ※5 (→P.384)



運転支援情報表示灯 ※1, 2 (→P.364, 380, 392, 397, 400)



(点滅)

スリップ表示灯 ※1 (→P.449)



VSC OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.449)



READY インジケーター (→P.253)



パーキングブレーキ表示灯 (→P.264)



ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1 (→P.268)



ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.268)



EV インジケーター (→P.67)



低温表示灯 ※6 (→P.159)



ITS Connect アイコン (→P.360)



ITS Connect アイコン (→P.360)



ITS Connect アイコン (→P.360)



プラスサポート表示灯★ (→P.455)



(白色)

PDA 表示灯 (→P.329)



(緑色)

PDA 表示灯 (→P.329)



ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯 (→P.446)



制動灯表示灯 ※7

I 走行モード表示



AUTO EV / HV モード表示灯 (→P.63)



EV ドライブモード表示灯 (→P.63)



HV モード表示灯 (→P.63)



バッテリーチャージモード表示灯 (→P.64)



エコドライブモード表示灯 (→P.443)



スポーツモード表示灯 (→P.443)



リヤコンフォートモード表示灯 (→P.443)



カスタマイズモード表示灯 (→P.443)



Trail Mode 表示灯 (→P.444)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、クリアランスソナー機能の ON / OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると

消灯します。

※⁵マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車

※⁶外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

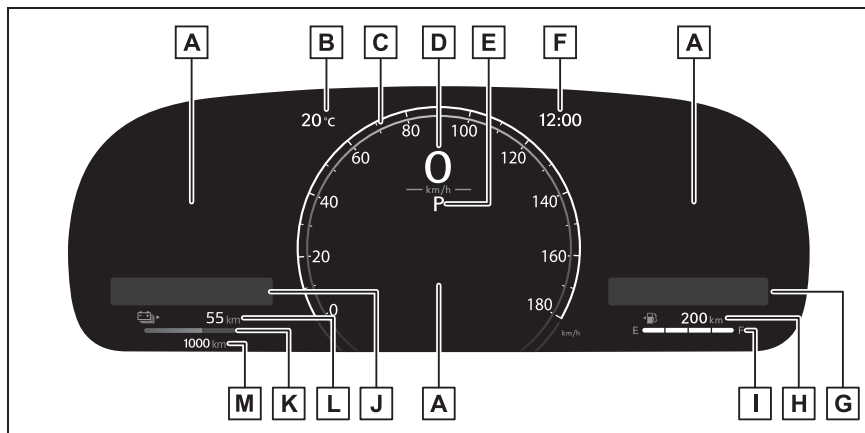
※⁷ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

計器類

メーターの表示について

n 計器類の位置

▶ 表示タイプ 1 / 表示タイプ 2

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.165)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.589)

B 外気温

外気温度を -40℃～60℃のあいだで表示します。

C アナログメーター（表示タイプ 2 のみ）

好みのメーターに変更することができます。(→P.167)

アナログスピードメーター：車両の走行速度を示します。

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.162)

D デジタルスピードメーター**E** シフトポジション／シフトレンジ表示**F** 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G ウィジェット（オーディオシステム連携表示）

オーディオシステム連携表示の一部を簡易表示します。(→P.170)

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 15L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

J ウィジェット（電費／燃費グラフ）

電費／燃費グラフの一部を簡易表示します。（→P.168）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

K 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

ゲージが緑色のゾーンにあるとき、EV 走行が可能になります。ゲージが青色のゾーンに入ると、EV 走行することができなくなります（その場合は、HV モードで走行します）。EV 走行するためには、駆動用電池を充電してください。

L EV エネルギー残量表示／EV 走行可能距離

お好みの表示に切りかえることができます。（→P.167）

EV エネルギー残量表示：

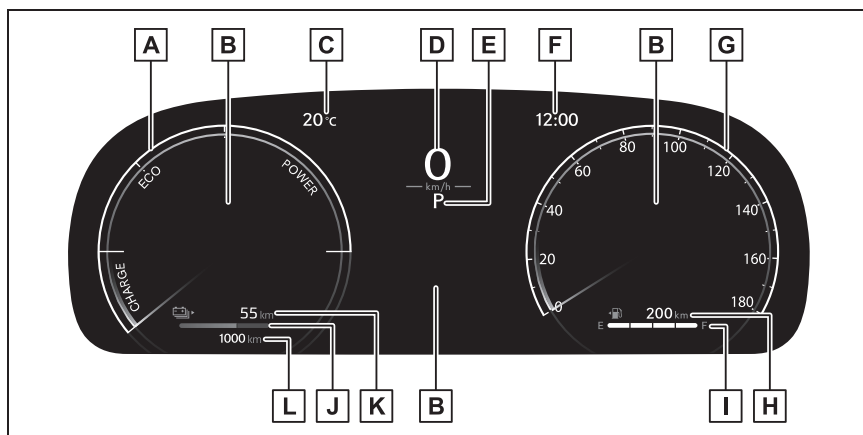
駆動用電池の残量を示します。

EV 走行可能距離：

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.163）

M オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.164）

▶ 表示タイプ 3



A アナログメーター

お好みのメーターに変更することができます。(→P.167)

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.162)

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.165)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.589)

C 外気温

外気温を $-40^{\circ}\text{C} \sim 60^{\circ}\text{C}$ のあいだで表示します。

D デジタルスピードメーター**E** シフトポジション／シフトレンジ表示**F** 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G アナログスピードメーター**H** 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 15L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

J 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

ゲージが緑色のゾーンにあるとき、EV 走行が可能になります。ゲージが青色のゾーンに入ると、EV 走行することができなくなります (その場合は、HV モードで走行します)。EV 走行するためには、駆動用電池を充電してください。

K EV エネルギー残量表示／EV 走行可能距離

お好みの表示に切りかえることができます。(→P.167)

EV エネルギー残量表示：

駆動用電池の残量を示します。

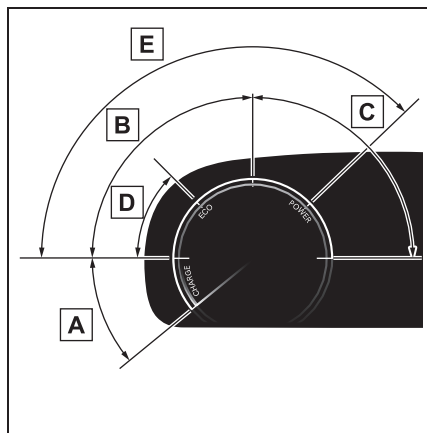
EV 走行可能距離：

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.163)

L オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.164)

n ハイブリッドシステムインジケーター

EV モードまたは AUTO EV / HV モード時と HV モード時とで、ハイブリッドシステムインジケーターの表示内容が一部かわります。



[A] チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

[B] エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

[C] パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

[D] ハイブリッドエコエリア（HV モード時）

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

[E] EV 走行エリア（EV モードまたは AUTO EV / HV モード時）

電気モーターのみで走行している状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

知識

n メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

n エンジン回転数について

プラグインハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

n ハイブリッドシステムインジケーターの作動条件

次のときにハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。

- └ READYインジケーターが点灯しているとき
- └ シフトポジションが D または S のとき

n 外気温表示について

└ 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

└ “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

n 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

n EV 走行可能距離について

- 1 エアコンの作動中はが表示され、エアコンを使用した場合の EV 走行可能距離にかかります。
- 1 システムの電力消費により、走行していなくても EV 走行可能距離が減少する場合があります。

n 航続可能距離について

- 1 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 1 燃料給油量が少量のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.163）

n 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディ

スプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

n フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/tovota/>

n カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイので、計器類の表示を変更できます。（→P.167）

⚠ 警告

n 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

！ タコメーターが表示されているときは、タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

！ “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” または “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.622）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

n 表示項目

！ オドメーター

走行した総距離を表示します。

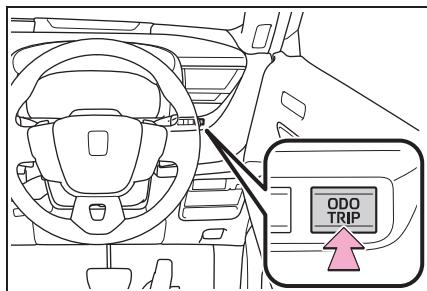
！ トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にスイッチを長押しします。

n 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



□ 知識

n 音声対話サービスでの操作★

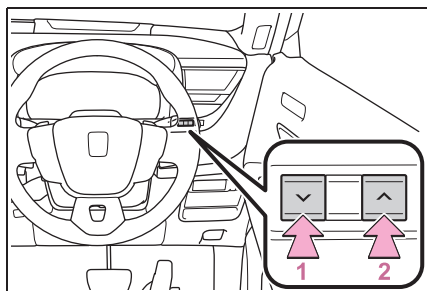
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用してオドメーター／トリップメーターを表示することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

□ 知識

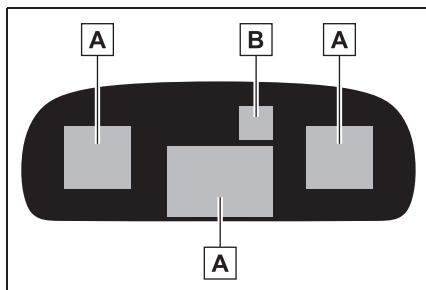
n メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

- l 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- l 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示



A コンテンツ表示エリア

走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

B 走行支援システム表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.302）
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.311）
- ・ LCA（レーンチェンジアシスト）（→P.316）
- ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.320）
- ・ レーダークルーズコントロール（→P.337）
- ・ クルーズコントロール（→P.347）
- ・ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.325）

□ 知識

n 液晶ディスプレイについて

→P.163

⚠ 警告

n 運転中の使用について

Ⅰ マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

Ⅰ マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

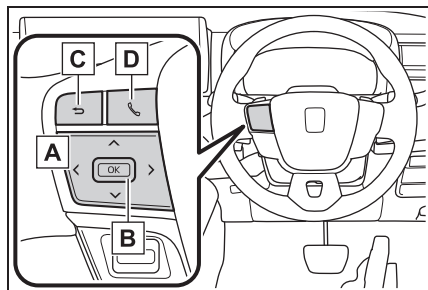
n 低温時の画面表示について

→P.163

表示を切りかえるには

n メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A </> : マルチインフォメーションディスプレイの切り換え
 ▲/▼ : 表示項目の切り換え・ページ送り・カーソル移動

B 短押し : 決定
 長押し : リセット・詳細項目表示・ページ送り

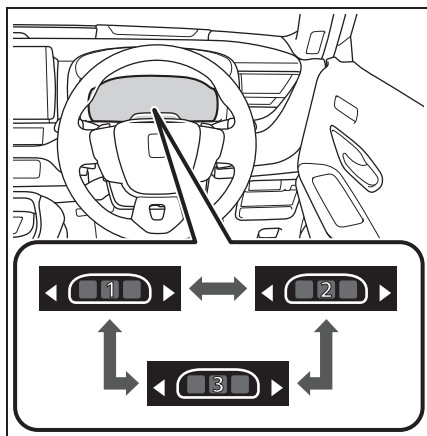
C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示
 ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n メーターのページ切りかえ

メーター操作スイッチの < または > を押してページを切りかえる



マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について (中央画面)

n 表示項目

- Ⅰ ブランク (非表示)
- Ⅰ 運転支援システム情報
- Ⅰ ナビゲーションシステム連携表示
- Ⅰ 設定
- Ⅰ 警告メッセージ (→P.589)

n ページ内の表示項目の切りかえ

ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

1 メーター操作スイッチの < または > を押してページを選択する (→P.166)

2 OK を長押しして設定モード画面にする

3 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して変更する表示画面を選択する

4 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して表示項目を選択する

5 設定完了後、**⏏** を押す

n 運転支援機能情報表示について
次のシステムの作動状況を表示します。

l PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.302)

l LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.311)

l LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.316)

l LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.320)

l レーダークルーズコントロール (→P.337)

l クルーズコントロール (→P.347)

l PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.325)

n ナビゲーションシステム連携表示

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

l 目的地案内

l コンパス

n 変更できる項目 (メーター表示)

メーター表示の設定を  から変更することができます。

l 言語

表示される言語を選択することができます。

l 単位

電費／燃費表示の単位を選択することができます。

l メータータイプ

メーター表示のタイプを変更することができます。

l メーターデザイン

メーター表示のデザインを変更することができます。

l アナログメーター

アナログメーターに表示する項目を選択することができます。

l EV インジケーター

EV インジケーターの作動／非作動を変更することができます。

l EV ドライブインフォ

メーターに表示する情報を EV エネルギー残量表示／EV 走行可能距離表示から選択することができます。

l 燃費グラフ

燃費情報の表示を変更することができます。

l ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの作動／非作動を変更することができます。

l 電費グラフ

電費情報の表示を変更することができます。

I ドライブインフォタイプ

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

I TRIP A/B の表示項目

TRIP A/B のドライブインフォ情報を変更することができます。

I 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

I カレンダー

年・月・日を設定することができます。
(マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります)

I 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

n 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.632

マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について（サイド画面）

n 表示項目

I ブランク（非表示）

I 燃費グラフ／電費グラフ

I エコアクセルガイド／エコジャッジ

I 始動後走行時間／EV 走行比率

I 運転支援システム情報 (→P.167)

I ナビゲーションシステム連携表示

I オーディオシステム連携表示

I ドライブインフォメーション

I TRIP A/B のドライブインフォメーション情報

I エネルギーモニター (→P.178)

I タイヤ空気圧 (→P.549)

I 4WD 作動状態表示

n ページ内の表示項目の切りかえ →P.166

n サイド画面に表示させる項目の変更

1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押してページを選択する

2 OK を長押しして設定モード画面にする

3 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して変更する表示画面を選択する

4  が表示されている画面でメーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押すと、各項目の表示・非表示を選択できる画面に移動します。

5 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して表示させる項目を選択し OK を押す

n 燃費グラフ／電費グラフ

EV モードまたは AUTO EV / HV モードと HV モードとで表示

される内容がわかります。

表示される数値は参考として利用してください。

- ▶ EV モードまたは AUTO EV / HV モード時

Ⅰ 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

Ⅰ 平均電費

始動後・通算のうち、いずれかの平均電費を表示します。

表示される平均電費は⚙️で変更することができます。(→P.167)

- ▶ HV モード

Ⅰ 瞬間燃費

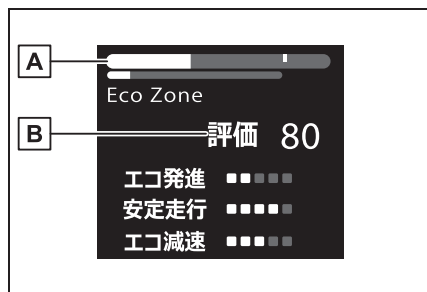
現在の瞬間燃費を表示します。

Ⅰ 平均燃費

始動後・リセット後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は⚙️で変更することができます。(→P.167)

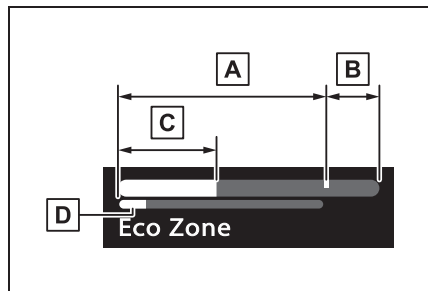
n エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

Ⅰ エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

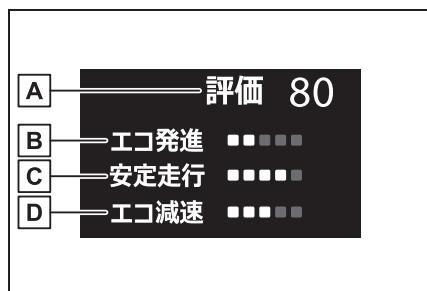
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

Ⅰ エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という3つの観点から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、車両が停車するたびに100点満点で採点結果を表示します。



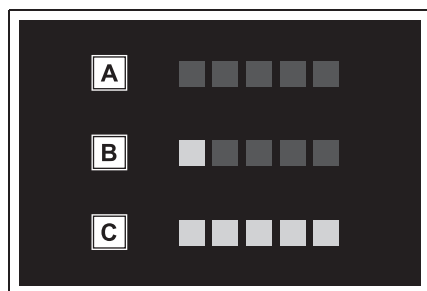
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

バー表示の見方



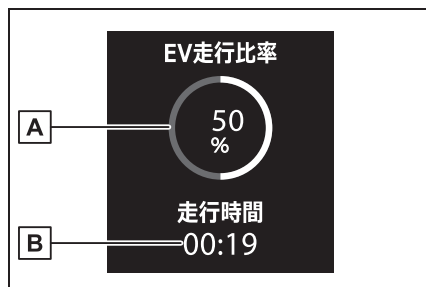
A 未評価

B 評価が低い

C 評価が高い

- ・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

n 始動後走行時間／EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

n ナビゲーションシステム連携表示

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

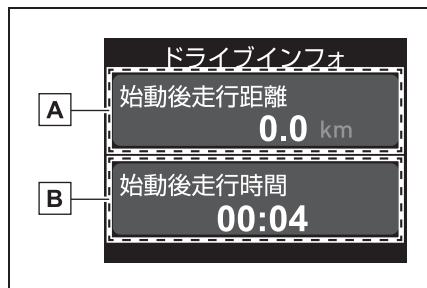
l 目的地案内

l コンパス

n オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

n ドライブインフォメーション



A ドライブインフォメーション 1

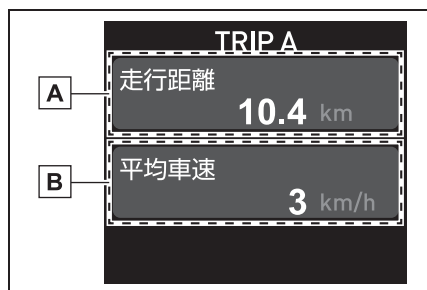
B ドライブインフォメーション 2

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを

⚙️から選択して表示させることができます。(→P.167)

- I 平均车速：ハイブリッドシステム始動後の平均车速を表示
- I 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- I 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

n TRIP A/B のドライブインフォメーション



A TRIP A/B 1 のドライブインフォメーション

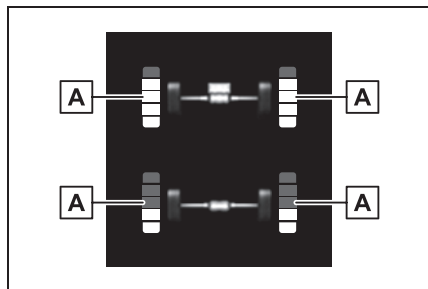
B TRIP A/B 2 のドライブインフォメーション

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを

⚙️から選択して表示させることができます。(→P.167)

- I 平均车速：TRIP A/B の平均車速を表示
- I 走行距離：TRIP A/B の走行距離を表示
- I 走行時間：TRIP A/B の経過時間を表示

n 4WD 作動状態表示



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

A 駆動力表示

0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

知識

n 電費について

EV 走行時の電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジン車の燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時 (1kWh) あたりの走行キロ数 (km/kWh) が、“電費”として各画面上に表示されます。

n エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

次の場合、エコジャッジとエコアクセル

ガイドの作動が停止します。

- | ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- | レーダークルーズコントロールを使用しているとき
- | クルーズコントロールを使用しているとき

設定について

n 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.632

n 変更できる項目（メーター表示）

→P.167



知識

n 設定画面の操作について

- | 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- | 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



警告

n ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

n ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

n パワーバックドア機能の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（マルチインフォメーションディスプレイでパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態では運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

n 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

n 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。



知識

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）

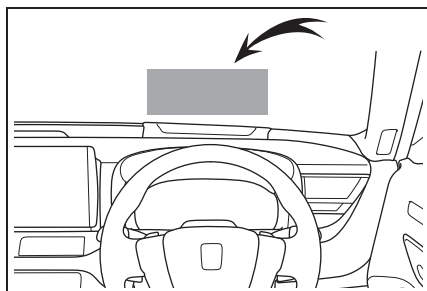
ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

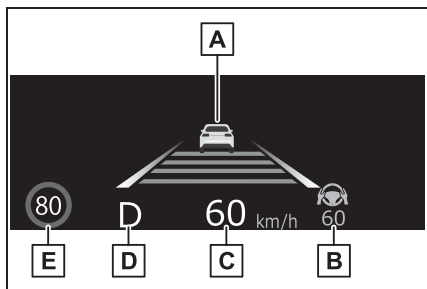
ディスプレイの表示

ヘッドアップディスプレイの表示タイプを変更することができます。（→P.175）

走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。



n フル



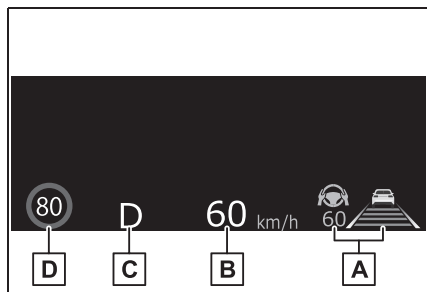
イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア

(→P.176) /ナビゲーション
システム連携表示エリア
(→P.176) /ハイブリッドシ
ステムインジケーター・タコ
メーター表示エリア
(→P.177)

- B** 運転支援システム表示エリア
(→P.176)
- C** スピードメーター
- D** シフトポジション/シフトレン
ジ表示
- E** RSA (ロードサインアシスト)
表示エリア (→P.334)

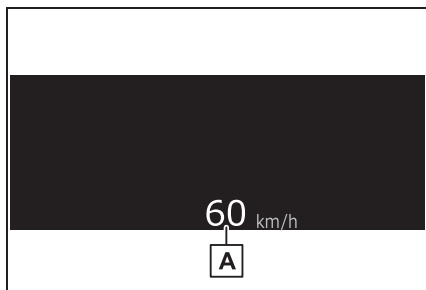
n スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 運転支援システム表示エリア
(→P.176)
- B** スピードメーター
- C** シフトポジション/シフトレン
ジ表示
- D** RSA (ロードサインアシスト)
表示エリア (→P.334)

n ミニマム



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** スピードメーター

□ 知識

n ヘッドアップディスプレイの作動条件
パワースイッチが ON のとき

n ヘッドアップディスプレイについて
サングラス (特に偏光サングラス) を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

n 交差点名表示について

地図データに情報が無い場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

n レーン (車線) 表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。(レーン情報のある交差点の手前 300 m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など)

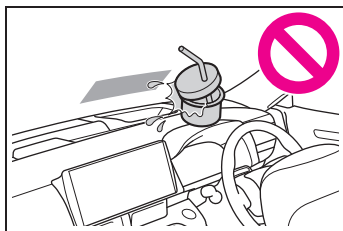
⚠ 警告**n ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヘッドアップディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

⚠ 注意**n ヘッドアップディスプレイ映写部について**

映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかる、装置が故障する原因になります。



映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から“HUD メイン”を選択します。(→P.636)

n ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチのOK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

n ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチのOK を長押しすると次の設定を変更できます。

表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.173)を変更することができます。

表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

□ 知識**n ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について**

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、非表示のままです。

n 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイのによる明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

n ヘッドアップディスプレイ表示の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.235)

警告

n ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- I LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.311)
- I LCA (レーントチェンジアシスト) (→P.316)

- I LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.320)
- I PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.325)
- I FCTA (フロントクロストラフィックアラート) (→P.330)
- I レーダークルーズコントロール (→P.337)
- I クルーズコントロール (→P.347)
- I アドバンスドドライブ (渋滞時支援) (→P.353)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して目的地案内を表示します。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

n 運転支援システム

運転支援システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

n 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。

知識

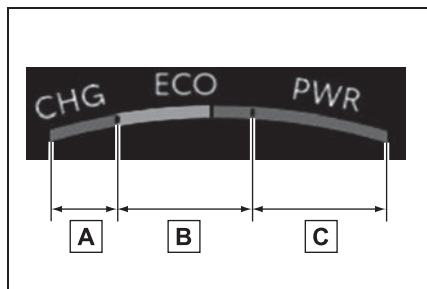
n 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割

り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア

n ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

表示される内容はメーターのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.162 を参照してください。

n タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。



知識

n ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーターの表示条件

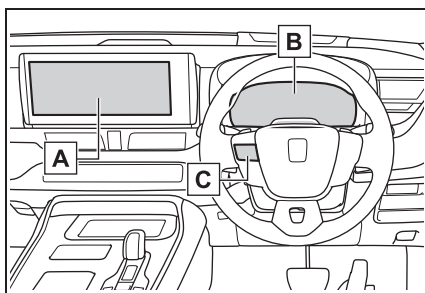
- l 次の条件をすべて満たしているときハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。
 - ・ 運転支援システム情報（→P.176）が表示されていないとき
 - ・ 走行モードがスポーツモード以外するとき

- ・ ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.173）しているとき
- l 次の条件をすべて満たしているときタコメーターが表示されます。
 - ・ 運転支援システム情報（→P.176）が表示されていないとき
 - ・ 走行モードがスポーツモードのとき
 - ・ ヘッドアップディスプレイをフル表示（→P.173）しているとき

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに表示します。

システムの構成部品



- A** マルチメディアディスプレイ
- B** マルチインフォメーションディスプレイ
- C** メーター操作スイッチ

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

n 表示のしかた

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

マルチインフォメーションディスプレイ

のコンテンツ表示エリア（左／右）に表示させることができます。

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.166 を参照してください。

▶ マルチメディアディスプレイ

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “エネルギーフロー” を選択する

n 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

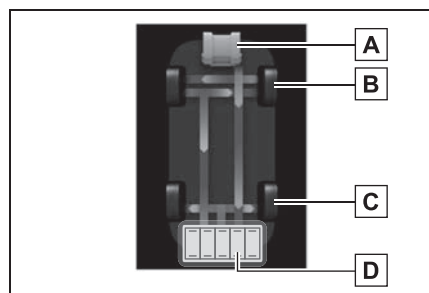
矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

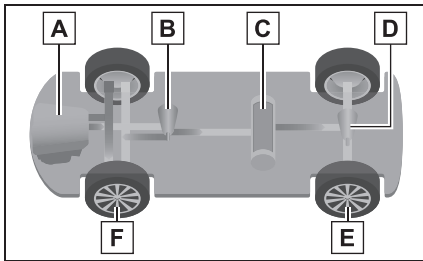
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ



- A** エンジン
- B** フロントタイヤ
- C** リヤタイヤ
- D** 駆動用電池

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

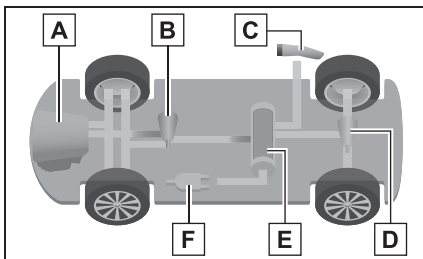
▶ マルチメディアディスプレイ
(充電時・AC 外部給電時以外)



- A** エンジン
- B** フロントモーター
- C** 駆動用電池
- D** リヤモーター
- E** リヤタイヤ
- F** フロントタイヤ

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

▶ マルチメディアディスプレイ
(充電時・AC 外部給電時)



- A** エンジン ※¹
- B** フロントモーター ※¹
- C** 普通充電コネクタ ※²
- D** リヤモーター
- E** 駆動用電池
- F** アクセサリーコンセント

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

※¹HV 給電モードでの AC 外部給電中、状況によってエネルギーの流れが表示されます。

※²AC 外部給電時はヴィークルパワーコネクタの表示にかわります。

知識

n マルチメディアディスプレイ上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは緑色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色が変わります。

n 駆動用電池の残量警告について

l シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

l マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

n マルチメディアディスプレイ上のエンジンの表示について

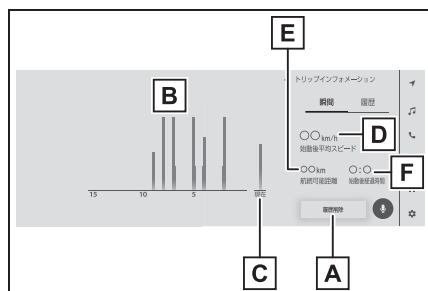
ガソリンエンジンの暖気中はガソリンエンジンのイメージが青色で表示され、暖気が終了すると赤色にかわります。

燃費画面の見方

n 瞬間燃費画面

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する

燃費履歴画面が表示されたときは、“瞬間”を選択します。



- A** 履歴消去
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- C** 瞬間燃費
- D** ハイブリッドシステム始動後平均車速
- E** 航続可能距離
- F** ハイブリッドシステム始動後経過時間

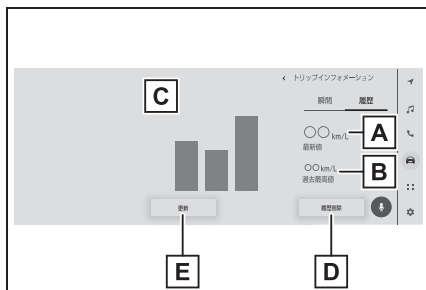
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

n 燃費履歴画面

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “トリップインフォメーション”を選択する

瞬間燃費画面が表示されたときは、“履歴”を選択します。



- A** 最新値表示
- B** 過去最高値表示
- C** 過去平均燃費表示
- D** 履歴削除
- E** 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

n 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

n 燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

n 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

4-1. キー

キー 182

デジタルキー 185

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 188

電動ステップ 194

パワーバックドア 196

スマートエントリー&スタートシステム 205

4-3. シートの調整

フロントシート 211

パワーリヤシート 214

ヘッドレスト 217

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 220

デジタルインナーミラー 221

ドアミラー 229

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ 232

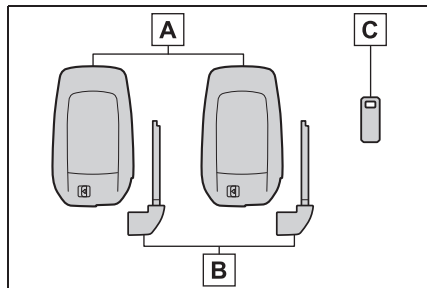
4-6. お好み設定パワーイージーアクセスシステム／
ポジションメモリー／メモリー
コール機能 235リヤシートポジションメモリー
..... 239

マイセッティング 240

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.205)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.183)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

n 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

n 電池の消耗について

- l 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- l 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- l 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。(→P.206)

l 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・作動範囲が狭くなった
- ・電子キーの LED が点灯しない

l 電池はお客様自身で交換することができます (→P.566) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

l 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

l スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

l 電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。(→P.188)

n 電池の交換方法

→P.566

n キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

n 電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

n マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが1週間程続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

n キーの故障を防ぐために

- ↓ 落したり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ↓ 温度の高いところに長時間放置しない
- ↓ めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ↓ キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ↓ 分解しない
- ↓ 電子キー表面にシールなどを貼らない
- ↓ テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

↓ 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

n キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

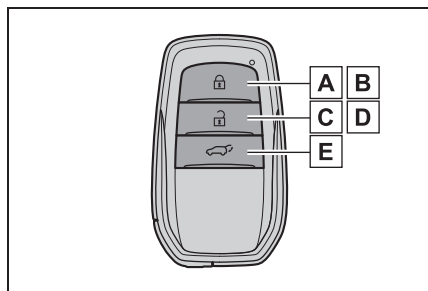
→P.614

n 電子キーを紛失したとき

→P.614

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する (→P.188)

- B** ドアガラスを閉める ※
(→P.188)
- C** 全ドアを解錠する (→P.188)
- D** ドアガラスを開く ※
(→P.188)
- E** パワーバックドアを開閉する
(→P.198)

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

n メカニカルキーを紛失したとき

→P.614

n 不正キーの使用について

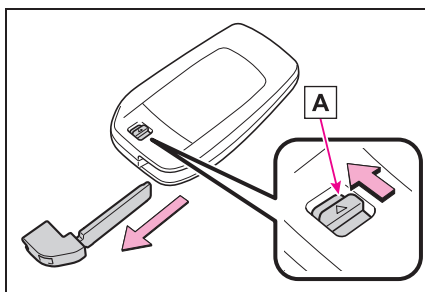
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.614)



知識

n 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠(→P.500)します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

デジタルキー

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL :

https://toyota.jp/digital_key/

QR コード :



n QR コード

QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

n フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

n デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- I デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携帯することを推奨いたします。

- ・スマートフォンが故障した場合

- ・スマートフォンとサーバーが通信できない場合

- ・スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合

- ・システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

- I スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

- I デジタルキーは、スマートエントリー&スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

- I 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

- I お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web

サイトを参照ください。

- | 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルをに触れて下さい。
- | サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- | デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

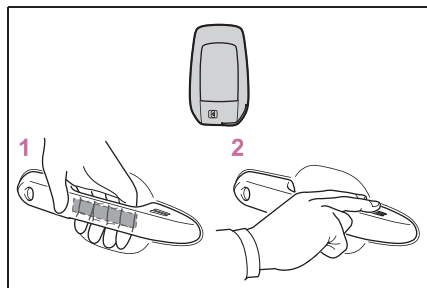
- | 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- | デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー&スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

n スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

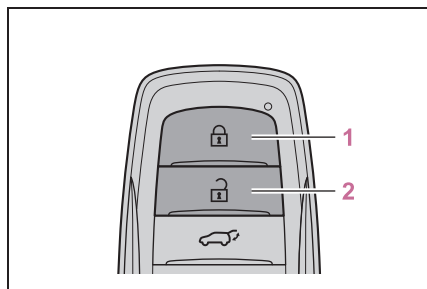
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

n ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。^{*}

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。^{*}

^{*} トヨタ販売店ででの設定が必要です。

知識

n 降車オートロック機能^{*}

^{*} トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.205）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.190）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

n パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能

パワーバックドアの閉作動中^{※1}にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。^{※2}

^{※1}バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

^{※2}トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

n 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子

キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- 1 ドアを施錠・解錠する
- 1 ハイブリッドシステムを始動する

n 接近時オートアンロック機能※

※ トヨタ販売店で設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- 1 すべてのドアが閉まっている
- 1 すべてのドアが施錠されている

n 接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

n 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する
(操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.56)

- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示/ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピッ” (3 回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピッ” (2 回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.56)

n 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、すべてのドアの手動リリースハンドルの作動が有効になります。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作

動しないことがあります。

n 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

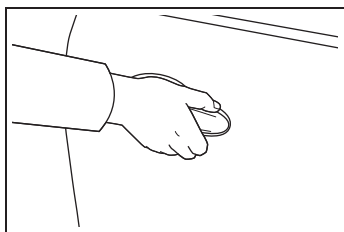
n 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

n ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



n 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

n オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.56)

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.206

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.614)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.566)

n 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.614)

n リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

l リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した

l ハイブリッドシステムが作動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

⚠ 警告

n 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1 すべてのドアを確実に閉め、施錠する

1 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

1 お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

n ドアを開閉するときの留意事項

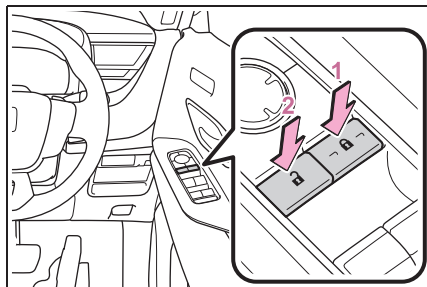
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

n ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

n ドアロックスイッチを使用する

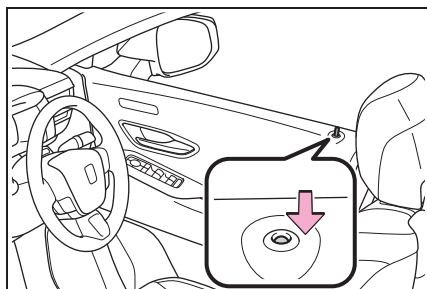


1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

n ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



n ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

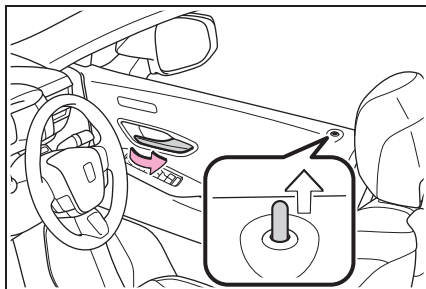
ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタン

が上がります。



知識

n キーを使わずに外側からドアを施錠するには

▶ 運転席ドア

- 1 ドアロックボタンを押し下げる
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ 運転席以外のドア

- 1 ドアロックボタンを押し下げる
- 2 ドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

n イーjeeクローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イーjeeクローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- l パワースイッチが OFF になっていても、イーjeeクローザーは作動します。
- l 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イーjeeクローザーは作動しません。

- l イーjeeクローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）
- l イーjeeクローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

n 半ドア走行時警告ブザー

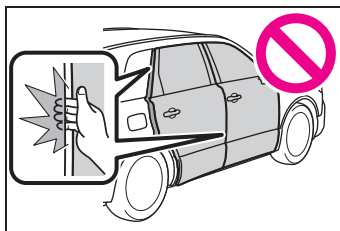
いずれかのドア・バックドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドア・バックドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

n イーjeeクローザーについて

ドアが半ドア状態になったとき、イーjeeクローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイーjeeクローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

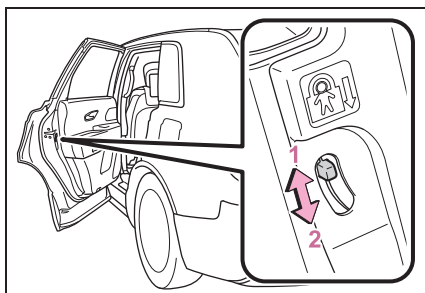


**注意****n イーजीクローザーの故障を防ぐために**

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イーजीクローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

**1 解錠****2 施錠**

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

**知識****n チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.632

を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

電動ステップ

ドアを開けるかスイッチを操作することで電動ステップが展開します。

ドアを閉めるかスイッチを操作する、または約 5km/h 以上で走行すると格納されます。

⚠ 警告

■ 電動ステップの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電動ステップの作動中はすべての乗員と周囲の人が電動ステップに手をふれたり、体の一部が電動ステップと車両のあいだに挟まれないようにしてください。

■ 乗り降りする前に、電動ステップが完全に展開／格納したことを確認してください。電動ステップ作動中に乗り降りすると、作動が停止することがあります。

■ スイッチを操作するときは周囲の人やものに注意してください。電動ステップが展開／格納すると、周囲の人やものにぶつかるおそれがあります。

■ 電動ステップ清掃時、ジャッキアップ前、車両の下に何かものを置く前、電動ステップが正しく作動していない場合は必ず電動ステップスイッチを OFF にしておいてください。

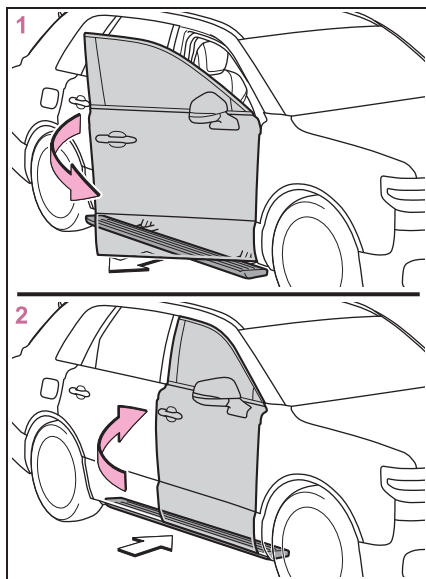
■ お子さまに電動ステップを操作させないでください。電動ステップを操作することで周囲の人に電動ステップがぶつかることにより、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行後、エンジンが作動している状態が続くと、電動ステップが熱くなることがあります。やけどをするおそれがあるため乗降時、金属部に皮膚がふれないよう注意してください。

■ 挟み込み防止機能

体の一部を挟んだりしないでください。挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。

ドア連動機能（オートモード）



1 ドアを開ける：電動ステップが展開されます。

2 ドアを閉める：電動ステップが格納されます。

□ 知識

n 挟み込み防止機能

電動ステップ展開時に障害物に接触すると格納されます。格納時に障害物が電動ステップと車両のあいだに挟まると、電動ステップが展開されず。

電動ステップ作動中に 3 回連続で障害物を検知すると、電動ステップはその障害物が接触している位置で停止します。障害物を取り除いたあと、停止している側のドアを開閉するかスイッチを操作すると、電動ステップが再度展開／格納されます。

n 自動格納機能

次のときは、安全のため電動ステップが自動で格納されます。

↓ 電動ステップが完全に格納されていない

↓ 車速が約 5km/h 以上のとき

車速が約 5km/h 未満になっても電動ステップは再び展開しません。

n マルチインフォメーションディスプレイに“電動ステップ展開できません 取扱書を確認”が表示されたときは

電動ステップが完全に展開されないことがあります。再度ドアを開閉するかスイッチを操作し、電動ステップを完全に展開してください。(→P.195)

n マルチインフォメーションディスプレイに“電動ステップ格納できません 取扱書を確認”が表示されたときは

電動ステップが完全に格納されないことがあります。電動ステップと車両のあいだに何も挟まっていないことを確認してください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“電動ステップ故障 販売店で点検”が表示されたときは

電動ステップに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

n 電動ステップに雪や泥が付着したり、凍結しているときは

電動ステップが正常に作動しないことがあります。足をのせる前に、電動ステップが完全に展開していることを確認してください。

電動ステップが正常に作動していないときは雪・泥・氷を取り除いてください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

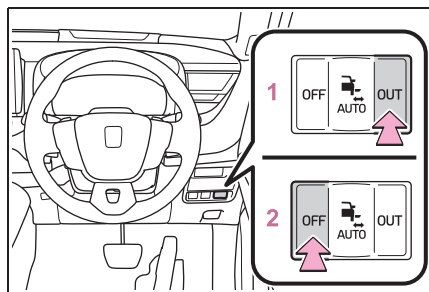
n 補機バッテリーを脱着したときは

電動ステップが完全に展開／格納しないと、次回操作したときに意図した方向に作動しないことがあります。2 回目以降は、通常の作動に戻ります。

n 車両に乗り降りするときは

衣服や靴が車両下部に接触して汚れないように注意してください。

車内から電動ステップを展開／格納するには



- 1 両側の電動ステップを展開する
- 2 両側の電動ステップを格納する
スイッチを中立位置にすると、電

動ステップがオートモードになります。

“OUT” 側を押して電動ステップを展開した場合、スイッチは中立位置に戻りますがオートモードになりません。一度“OFF” 側を押したあと、中立位置に戻すことでオートモードになります。

オートモードでは、ドアの開閉に連動して電動ステップが展開／格納します。(→P.194)



知識

n 自動格納機能

電動ステップは車速が約 5km/h 以上になると、安全のため自動で格納されます。

パワーバックドア

パワーバックドアはバックドアオープンスイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行する前に

走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

- 走行中はパワーバックドアを開めてください。

開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にパワーバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーバックドアの使用にあたって

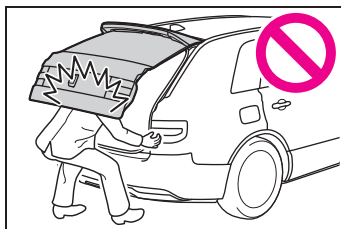
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

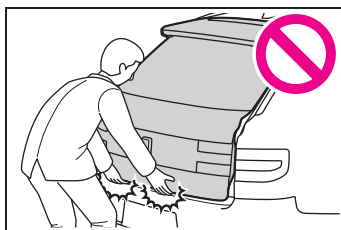
- 強風時の開閉には十分注意してください。

パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。



- パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- スピンドルユニット（→P.203）を持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

n ワイヤレス機能を使用する

→P.183

車内から解錠／施錠するには

n ドアロックスイッチを使用する

→P.191

パワーバックドアを開閉するには

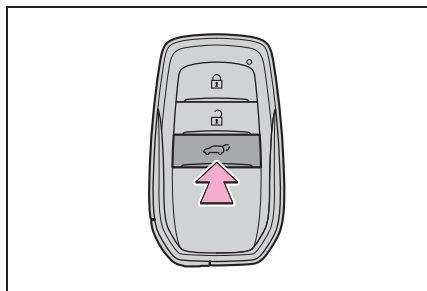
n ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

パワーバックドア解錠時に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



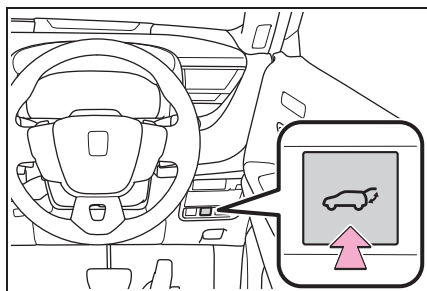
n 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



n 車外からスイッチ操作で開閉する

1 開ける

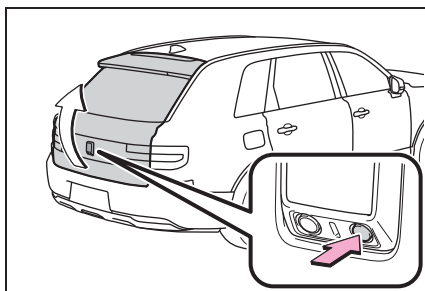
パワーバックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

パワーバックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開きます。

パワーバックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



1 閉じる

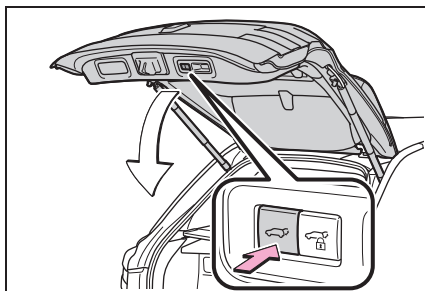
 スイッチを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中で

 スイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。

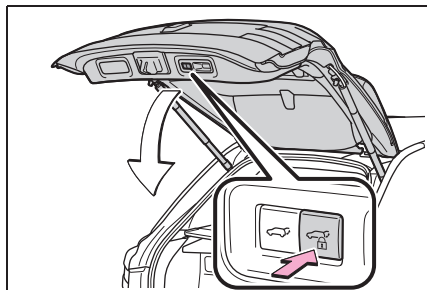


1 バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ&ロック [ウォークアウェイ] 機能）

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯して

バックドア下部の  スイッチを押す

通常ブザーとは異なるブザー音が断続的に鳴り、クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 ブザーが鳴っているあいだに、バックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 1 からやり直してください。

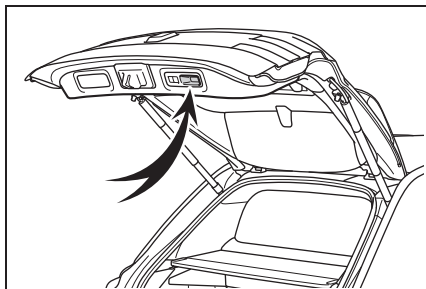
バックドアが閉作動中に電子キーを携帯してバックドアに近付くと作動が停止し、すべてのドアが解錠され、作動の合図でお知らせします。

作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、再びクローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

n バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってパ

ワーバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。



□ 知識

n ラゲージルームランプ

- l パワーバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- l パワースイッチを OFF にしたときに、ラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

n バックドアアイジークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイジークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

- l パワースイッチがどの状態であっても、バックドアアイジークローザーは作動します。
- l バックドアアイジークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

n パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

- l パワーバックドアが解錠されているとき
- l パワーバックドアが施錠された状態で、電子キーを携帯してバックドアオープ

ンスイッチを押したとき

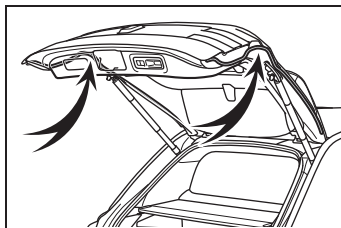
- l パワースイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 以下で、次のいずれかの条件で作動します。
 - ・ パーキングブレーキがかかっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる
 - ・ シフトポジションが P の位置にある

n パワーバックドアの作動について

- l 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅します。
- l パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しません。が手動で開閉できます。
- l パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を検知すると、ブザーが鳴り、パワーバックドア開作動中はすぐに停止、パワーバックドア閉作動中は自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

n 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



n 落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

n バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

n バックドア予約ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンの施錠操作を行う(→P.183) または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う(→P.188)

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。(→P.190)

- l 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。
- l 予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。
- l 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

n クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能の作動の設定が ON のとき
- l 自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき
- l パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
- l ブレーキペダルを踏んでいないとき
- l パワースイッチが OFF のとき
- l 電子キーが作動検知エリア内にあるとき

n クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能が正常に作動しない状況

次のような状況では作動しないことがあります。

- l スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき
- l クローズ&ロック機能が正常に作動しないとき
- l クローズ&ロック (ウォークアウェイ) 機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

n パワーバックドアが自動で作動しなくなったときは

パワーバックドアを開いた状態で長時間放置すると、パワーバックドアが自動で作動しなくなる場合があります。

この場合は、パワーバックドアを手動で一度全閉にしてください。

n 補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパワーバックドアを手動で一度完全に閉めて解錠操作をしてください。

n パワーバックドアが開かないときは

メカニカルキーを使ってバックドアを開けることができます。(→P.615)

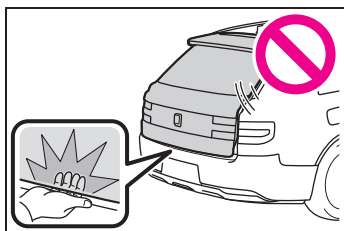
n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

⚠ 警告

n バックドアイージークローザーについて

- パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

n パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

自動開閉中に作動可能条件(→P.200)を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 警告

n 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

❗ 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

❗ 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

❗ 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

n クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能について

バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

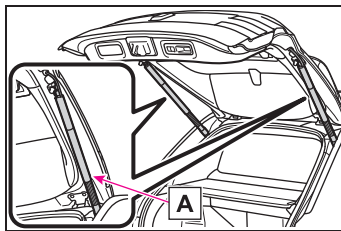
周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

⚠ 注意

n スピンドルユニットについて

パワーバックドアにはパワーバックドアを支えるためのスピンドルユニット

Aが取り付けられています。スピンドルユニット**A**の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



❗ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

❗ パワーバックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない

❗ スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

n バックドアアイジークローザーの故障を防ぐために

❗ バックドアアイジークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイジークローザーの故障の原因となります。

❗ パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアアイジークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

⚠ 注意

n パワーバックドアの故障を防ぐために

パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。

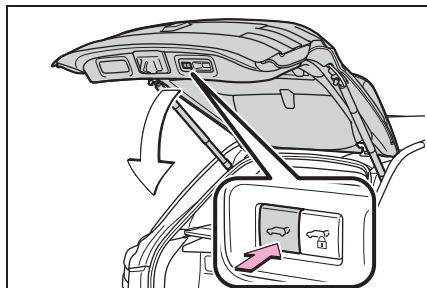
パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.200）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

パワーバックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる（→P.198）
- 2 パワーバックドア下部の  スイッチを約 2 秒間押し続ける
 - ・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
 - ・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックド

アが停止します。

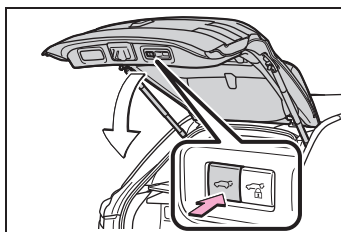


□ 知識

n パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

パワーバックドア下部の  スイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



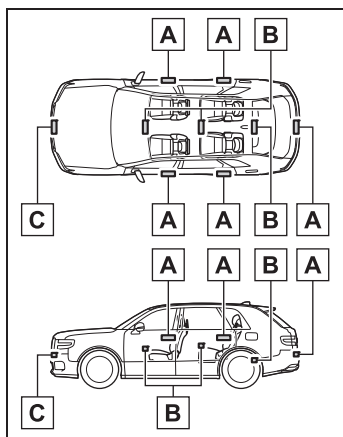
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- 1 ドアを施錠・解錠する
(→P.188)
- 1 バックドアを開ける
(→P.198)
- 1 ハイブリッドシステムを始動する
(→P.253)

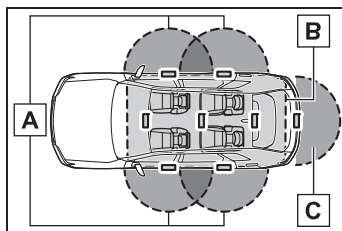


n アンテナの位置



- A** 車外アンテナ
- B** 車室内アンテナ
- C** 車外アンテナ（アドバンストパークリ
モート機能用）

n 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパ ワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C バックドアの解錠時

バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

n 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.589）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 1 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- ⌋ 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

⌋ マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

⌋ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- ⌋ 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。
- ・車の外約 3.5m 以内に電子キーを 40 秒以上放置した
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
 - ⌋ 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなりま

す。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

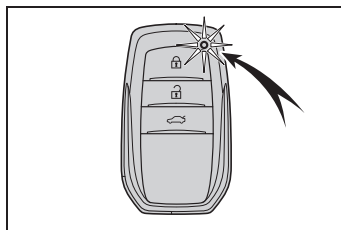
⌋ 電子キーを節電モードにするには

長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押ししながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



⌋ 電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

⌋ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場

合があります。(対処方法: →P.614)

- ┃ 電子キーの電池が消耗しているとき
 - ┃ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいます
 - ┃ 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
 - ┃ 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - ┃ 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キー、自車のもう一つの電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
 - ┃ リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
 - ┃ 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
 - ┃ コインパーキングに駐車しているとき
スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。
 - ┃ ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する
 - ┃ ワイヤレス機能を使用する
- 上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.614)

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.616 を参照してください。

㊦ ご注意いただきたいこと

- ┃ 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
 - ・ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている
- ┃ インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- ┃ 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- ┃ 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動することができます。
- ┃ 電子キーが作動範囲内にいるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)
- ┃ ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解

錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます)

- Ⅰ 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
 - Ⅰ ロック操作は、連続で2回まで有効です。3回目以降はロック動作しません。
 - Ⅰ 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から約2m以上離れた場所に置く(盗難に注意し保管してください)
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P.206)
 - Ⅰ 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
 - Ⅰ ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ハンドル下側のロックセンサーで操作してください。
 - Ⅰ すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
 - Ⅰ 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。
- n 降車オートロック機能^{*1}についてご留意いただきたいこと**
- Ⅰ 車内に人が乗っている場合でも、車内

に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。(→P.188) 乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

- Ⅰ 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- Ⅰ 全てのドアを閉めたあと(パワーバックドア閉作動中も含む^{*2})に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
 - ・ ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ パワースイッチを押したとき
 - ・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠したとき

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉(パワーバックドア閉作動も含む^{*2})してください。

- Ⅰ 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- Ⅰ 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。^{*2}
- Ⅰ すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。^{*2}
- Ⅰ 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- Ⅰ 降車オートロック機能を一時的に非作動にする(→P.188)とき、ブザーが2回鳴る前に次の操作をすると、降車

オートロック機能は非作動になりません。

- ・ いずれかのドアを開けたとき
- ・ ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ パワースイッチを押したとき

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

- ↓ 降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.188）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。
- ↓ 降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.188）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※1 トヨタ販売店で設定変更が必要です。

※2 パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.188）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

n 長期間運転しないとき

- ↓ 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- ↓ あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
- ↓ 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.206）

n システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。

す。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

n スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ↓ ドアの施錠・解錠ができないとき、またはパワーバックドアが開けられないときは、次の方法を行ってください。
- ・ 電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
- ・ 電子キーをパワーバックドアにあるスイッチ（→P.198）に近づけてスイッチを押す
- ・ ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.614）なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.56）

- ↓ ハイブリッドシステムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.616）

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）

n カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ↓ ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.188, 198, 614）
- ↓ ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.616
- ↓ ハイブリッドシステムの停止：→P.255

 警告**n 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.205）から約 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

⚠ 警告

n シートを調整するとき

- ⌚ 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- ⌚ シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ⌚ 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

n リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

n 助手席を前倒しにしたとき

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。

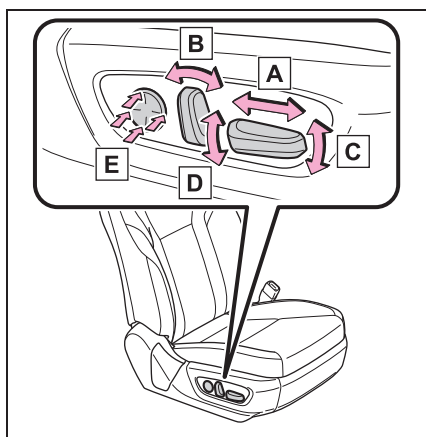
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

調整のしかた



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 運転席：腰部調整（ランバーサポート）

助手席：ヘッドレストの上下前後調整（→P.218）

□ 知識

n シートを調整するときは

天井やインストルメントパネル、後席との干渉を回避するために、シートの作動を制限することや、調整している部位以外が作動することがあります。

n パワーイージーアクセスシステム

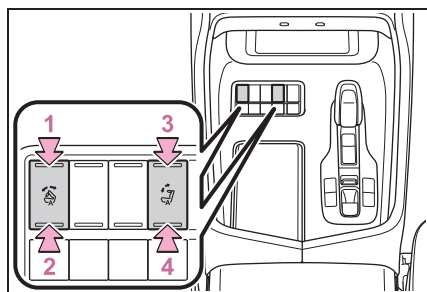
パワースイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。

(→P.235)

運転席から助手席を操作するには

n オート作動での操作

▶ 助手席パワーシートスイッチでの操作



1 背もたれとヘッドレストを前倒しにし、シートを前方に動かす

2 背もたれとヘッドレストを起こし、シートを中立位置に戻す

リヤ席のオットマンが展開されているときは、リヤ席のオットマンを格納したあと、助手席が中立位置に戻ります。

3 ヘッドレストを前倒しにする

4 ヘッドレストを中立位置に戻す
作動条件を満たさないときは、スイッチを押しても作動しません。

▶ マルチメディアディスプレイでの操作

1 メインメニューの を選択する

2 “シート” を選択する

3 “アレンジ” を選択する

4 “助手席” を選択する

5 操作スイッチを選択する

作動条件を満たさないときは、スイッチを選択しても作動しません。

1 “シートを倒す”：背もたれとヘッドレストを前倒しにし、シートを前方に動かす

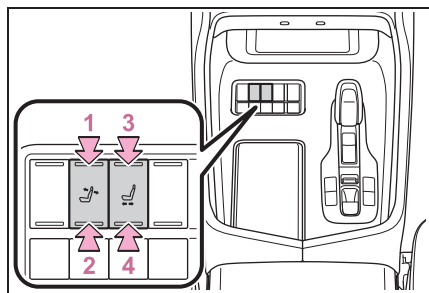
1 “シートを戻す”：背もたれとヘッドレストを起こし、シートを中立位置に戻す※

1 “ヘッドレストを倒す”：ヘッドレストを前倒しにする

1 “ヘッドレストを戻す”：ヘッドレストを中立位置に戻す

※ リヤ席のオットマンが展開されているときは、リヤ席のオットマンを格納したあと、助手席が中立位置に戻ります。

n マニュアル作動での操作



1 背もたれを前に傾ける

2 背もたれをうしろに傾ける

3 シートを前方に移動する

4 シートを後方に移動する

操作スイッチを押しているあいだ、助手席シートを調整することができます。

知識

n 助手席側シート調整スイッチでの可倒式ヘッドレストの操作について

助手席のヘッドレストが前倒しのとき、助手席側のドアを開けて、助手席側シー

ト調整スイッチで助手席位置を後方に調整、またはリクライニングを後方に倒すと、スイッチを離れたあと、ヘッドレストが中立位置まで戻ります。

n 助手席の操作について

次のときは、助手席を操作できません。

- l パワースイッチがACCまたはOFFのとき
- l 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 一度シートが重量を検知すると、助手席ドアを開閉するか、パワースイッチをOFFにするまで、検知状態が継続します。
- l 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- l 助手席ドアが開いているとき

リヤ席から助手席を操作するには

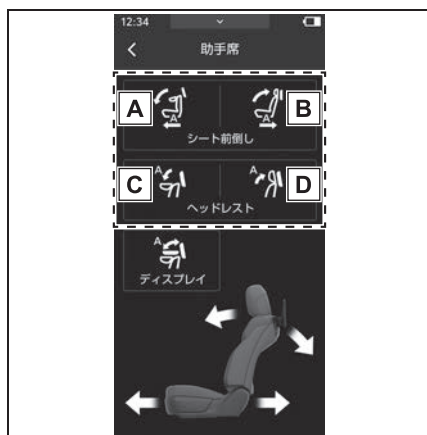
n オート作動での操作

- 1 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する (→P.469)
- 2 “調整”を選択する
- 3 “助手席”を選択する
- 4 操作ボタンを選択する

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

途中で停止するときは、“停止”を選

択します。



- A** 背もたれとヘッドレストを前倒しにし、シートを前方に動かす
- B** 背もたれとヘッドレストを起こし、シートを中立位置に戻す

リヤ席のオットマンが展開されているときは、リヤ席のオットマンを格納したあと、助手席が中立位置に戻ります。

- C** ヘッドレストを前倒しにする
- D** ヘッドレストを中立位置に戻す

n マニュアル作動での操作

- 1 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する (→P.469)
- 2 “調整”を選択する
- 3 “助手席”を選択する
- 4 調整したい部位を選択する

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

操作ボタンをタッチしているあいだ、助

手席シートを調整することができます。



- A** 背もたれを前に傾ける
- B** 背もたれをうしろに傾ける
- C** シートを前方に移動する
- D** シートを後方に移動する



知識

n 助手席の操作について

→P.213

パワーリヤシート

⚠ 警告

n シートを調整するときは

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 前後調整やオットマンの操作をするときは、足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

n リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n オットマンの使用について

- オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を降りる際はオットマンを格納してください。
- 走行中は角度調整をしないでください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

n オットマンの故障を防ぐために

1 足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。

1 オットマン部分に重いものを載せないでください。

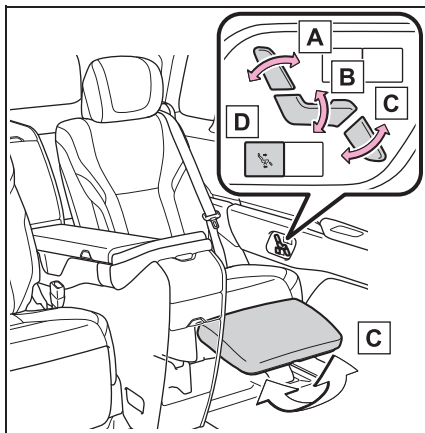
1 オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

n 後席ディスプレイの故障を防ぐために

後席ディスプレイを手で動かさないでください。ディスプレイが損傷するおそれがあります。

調整するには

n パワーリヤシートスイッチでの操作



A リクライニング調整

B クッション前端の上下調整

C オットマン角度調整

D リヤシートを中立位置に戻す

n リヤマルチオペレーションパネルでの操作

1 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する(→P.469)

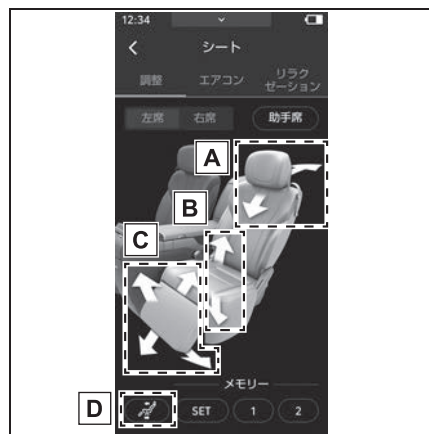
2 “調整”を選択する

3 “左席”または“右席”を選択する

4 調整したい部位を選択する

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

操作ボタンをタッチしているあいだ、シートを調整することができます。



A リクライニング調整

B クッション前端の上下調整

C オットマン角度調整／長さ調整／格納

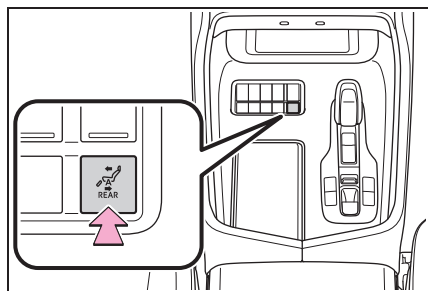
D リヤシートを中立位置に戻す

フロント席からリヤ席に戻すには

n リヤシート位置もどしスイッチでの操作

スイッチを押す

リヤ席が中立位置に戻ります。



n マルチメディアディスプレイでの操作

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “シート” を選択する
- 3 “アレンジ” を選択する
- 4 “リヤ席” を選択する
- 5 “戻す” を選択する

リヤ席が中立位置に戻ります。

知識

n フロント席からのリヤ席操作について

次のときは、リヤ席を操作できません。

- l リヤ席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、パワースイッチをOFFにしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

- l リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

警告

n フロント席からリヤ席を戻すとき

リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

リヤシートリラクゼーションシステム

エアの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが装備されています。リラクゼーションシステム操作画面でコースや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

- 1 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する (→P.469)
- 2 “リラクゼーション” を選択する
- 3 “左席” または “右席” を選択する
- 4 モードを選択する
- 5 強さを選択する

5段階で調整することができます。

“OFF” を選択すると作動が停止します。

知識

n リヤシートリラクゼーションシステムについて

l 作動条件

- ・ パワースイッチがONのとき
- ・ 車室内の温度が高温でないとき
- ・ リヤシートが乗員の重量を検知しているとき、またはリヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

一度シートが重量を検知すると、リヤ席ドアを開閉するか、パワースイッチをOFFにしたあとドアを施錠するまで、検知状態が継続します。

l 自動停止機能

- ・ 作動開始から約 30 分で自動的に停止します。
- ・ 作動開始後に乗員がいなくなると約 30

秒で自動的に停止します。

⚠ 警告

n リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

- | 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- | お子さまは使用しないでください。
- | 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。
- | 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

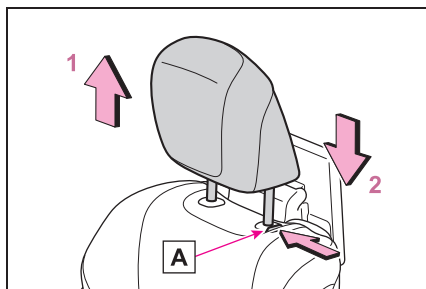
n ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- | ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- | 助手席以外：ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- | 助手席以外：ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには（助手席以外）



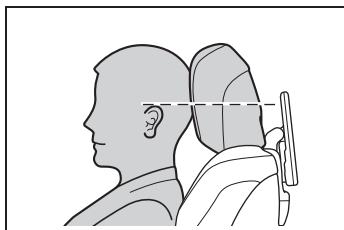
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

 知識

n ヘッドレストの高さについて

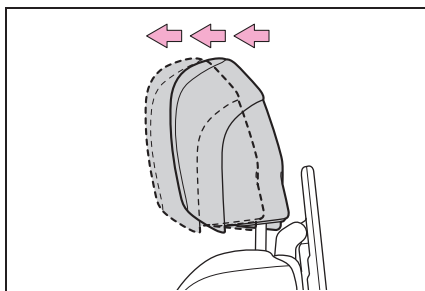


必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

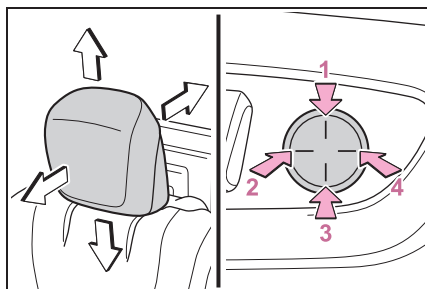
前後調整するには（運転席）

運転席のヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



上下前後調整するには（助手席）



- 1 上げる
- 2 前方に移動
- 3 下げる
- 4 後方に移動

 知識

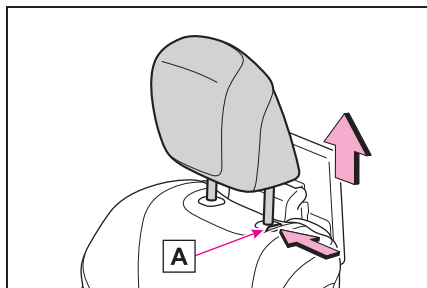
n ヘッドレストの高さについて

→P.218

ヘッドレストを取りはずすには（助手席以外）

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。

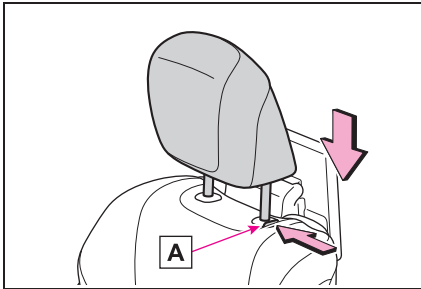
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。
(→P.211, 214)



ヘッドレストを取り付けるには (助手席以外)

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

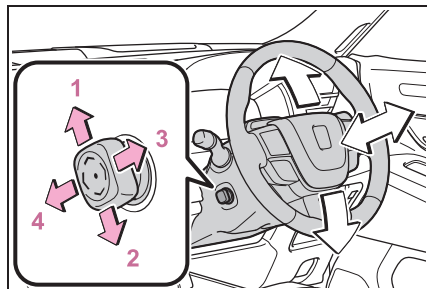
さらに下げるときは、解除ボタン
Aを押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

n ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

n ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.235)

n パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルと運転席シートが動きます。(→P.235)

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。(→P.632)



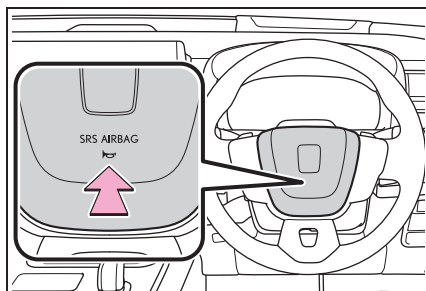
警告

n 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

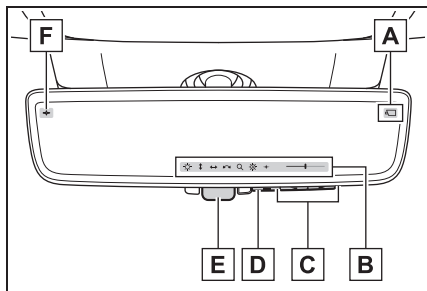
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- ① 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.223)
- ・ 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

① ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



① カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

② アイコン表示エリア

調整アイコン (→P.223)・調整ゲージが表示されます。

③ 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

④ メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

⑤ 切りかえレバー

デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

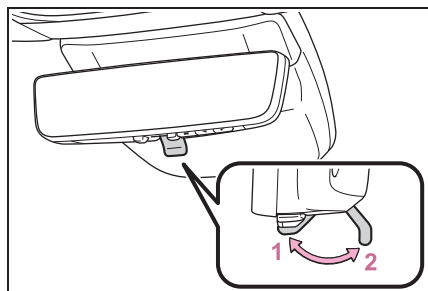
⑥ デジタル防眩モードインジケータ

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。(→P.223)

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、

デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイにが表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

n デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

n デジタルミラーモードについて

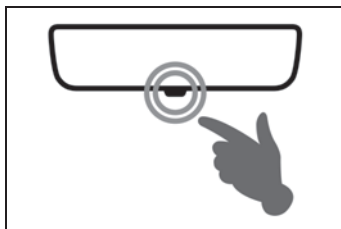
- l ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- l 雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リアワイパーを作動させてください。
- l バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してくだ

さい。

- l ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェードを閉めてください。
- l 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
 - ・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する
 映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。
- l デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- l 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。
- l 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

n システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

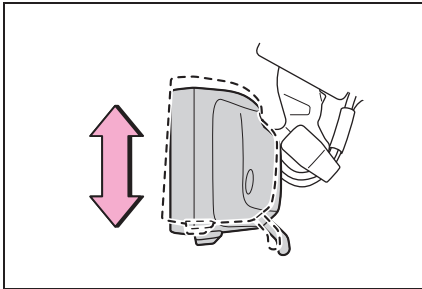


調整するには

n ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

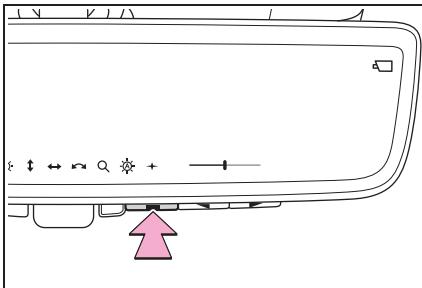


n ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 メニュースイッチをくり返し押しして、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 調整アイコンを押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。＊ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースwitchを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	デジタル防眩モードの ON / OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。

＊ 光学ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定

できます。

n 自動防眩機能の ON / OFF 切りかえ（光学ミラーモード）

光学ミラーモードの自動防眩機能の自動防眩機能の ON / OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、光学ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

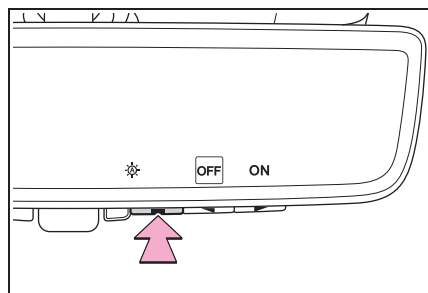
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.223

▶ 光学ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 または を押して自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。



知識

n ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

ディスプレイ表示の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。

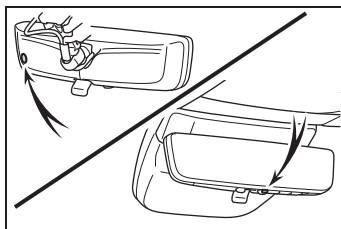
ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。

デジタル防眩モードを ON にすると、夜のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

n センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

n 走行中の留意事項

走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

n 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

お手入れについて

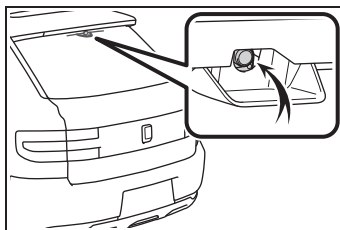
n デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

📖 知識

n カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠ 注意

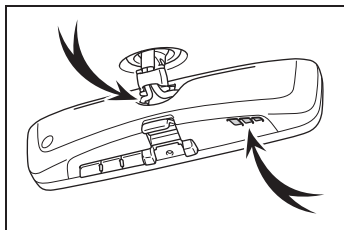
n カメラの故障や誤作動を防ぐために

デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
- ・ 有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。
- ・ カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

**故障とお考えになる前に**

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ に表示される 映像が見にく い	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れを そっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光 など）がデジタルインナーミラー にあたった	光学ミラーモードに切りかえてく ださい。 (ルーフからの光があたっていると きは、電動サンシェードを閉めて ください)
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、 強い電波やノイズが発生する場 所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、また は低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接 カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯 などの照明の下で使用した ・ 排気ガスが映り込んでいる	光学ミラーモードに切りかえてく ださい。 (カメラおよびその周辺環境が改善 されてから、再びデジタルミラー モードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴、ほこりな どの異物や汚れが付着している	トヨタ販売店で点検を受けてくだ さい。
	ラゲージルームの荷物がガラス等 に反射して映り込んでいる	Ⅰ 光学ミラーモードに切りかえて ください。 Ⅱ 荷物を映りこまない位置に移動 するか、黒い布等で覆いガラス への反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇ってい る	リヤウインドウデフォグガー (→P.477) を使用し、曇りを 取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚 れている	リヤワイパーで汚れをふき取って ください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚 れている	トヨタ販売店で点検を受けてくだ さい。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の  が消灯した		
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます)

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

n 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

n 走行中の留意事項

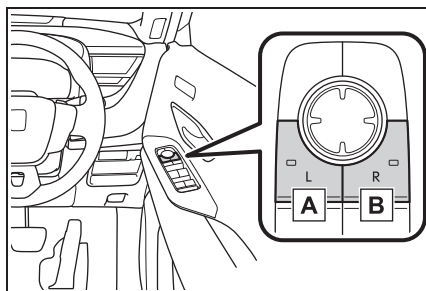
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❶ ミラーの調整をしない
- ❷ ドアミラーを格納したまま走行しない
- ❸ 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

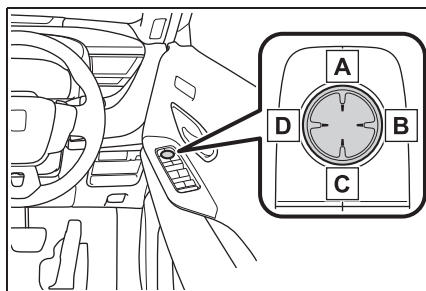


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

n 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

n ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.477)

n ミラー角度の自動調整

好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.235)

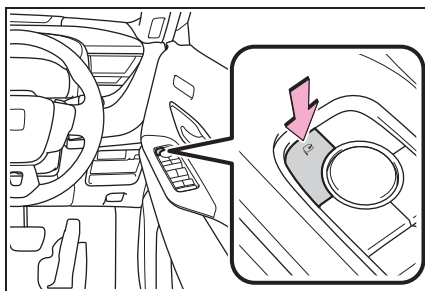
⚠ 警告

n ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

n マニュアル作動での格納・復帰 ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



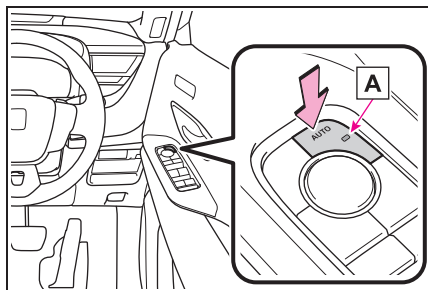
n オート作動での格納・復帰

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター **A** が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



□ 知識

n 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能をON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

⚠ 警告

n ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

n 後退時に下向きになる角度を調整するとき

シフトポジションを R にした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

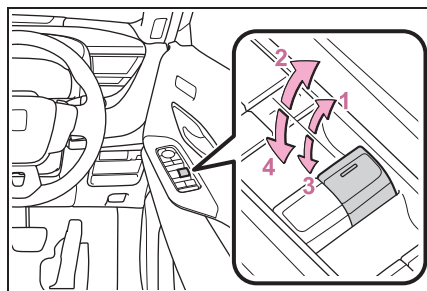
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

n 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

n 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

n ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

1 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあとと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

1 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n ドアロック連動ドアガラス開閉機能

l メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.615）

l ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P.188）

l オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.55）

＊ トヨタ販売店ででの設定が必要です。

n 窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ただし、窓閉め提案サービスが ON の場合は、作動しません。

n 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

l すべての席の窓の開閉

l 各席の窓の開閉

（ウィンドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（→P.632）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

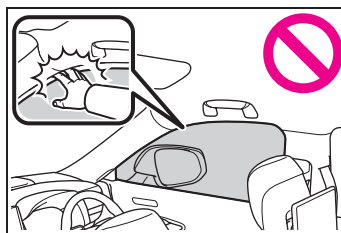
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ドアガラスを開閉するとき

l 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.234）

l ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



l ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

n 挟み込み防止機能

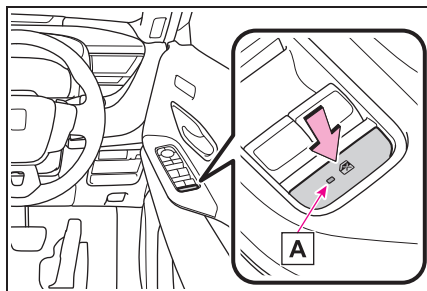
挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

n 巻き込み防止機能

巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。



📖 知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n 補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でフロントシート・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）を登録できます。

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

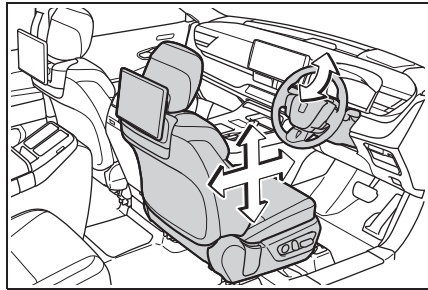
マイセッティングについては、P.240 を参照してください。

パワーイージーアクセスシステム（運転席のみ）

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ シフトポジションを P する
- ・ パワースイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ・ パワースイッチを ACC または ON にする
- ・ シートベルトを着用する

知識

n パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

n 挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステム作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）

警告

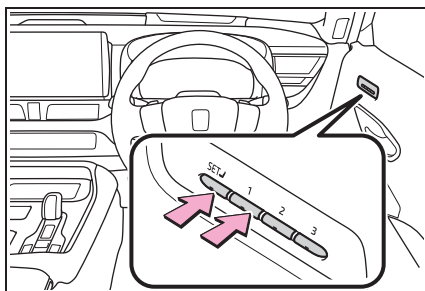
n パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトポジションがPにあることを確認する
- 2 パワースイッチをONにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、またはSET ボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のスイッチで手順4の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

知識

n 登録できるシート位置 (→P.211)

腰部位置調整 (ランバーサポート) 以外の位置が登録できます。

n ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

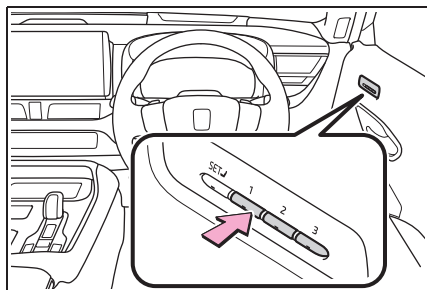
警告

n シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトポジションがPにあることを確認する
- 2 パワースイッチをONにする
- 3 1～3のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

n ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- l SET ボタンを押す
- l 1 ～ 3 のボタンを押す
- l シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- l ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

n 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

n パワースイッチ OFF 後の作動

運転席側：運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側：助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

n 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

n 音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

l ドライビングポジションの登録

l ドライビングポジションの呼び出し

（シフトレバーが P の位置にあるときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

n 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

n マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（→P.241）

l ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

l ドライビングポジションの呼び出し方法

1 電子キーで個人を特定：マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレ

イ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ハンドル・ヘッドアップディスプレイ表示（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

1 メモリーコール機能の解除方法

マイセッティングで運転者の登録内容を初期化する（→P.240）

知識

n メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 1 個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。
- 1 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

n 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）

警告

n 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

リヤシートポジションメモリー

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

ポジションを登録するには

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する (→P.469)
- 3 “調整”を選択する
- 4 “左席”または“右席”を選択する
- 5 リヤ席を好みの位置に調整し、“SET”を選択する
- 6 “1”または“2”を選択する
すでに登録されている場合は、上書きされます。



知識

n ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。



警告

n シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないう注意してください。

ポジションを呼び出すには

n リヤマルチオペレーションパネルでの操作

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 リヤマルチオペレーションパネルのホーム画面で“シート”を選択する (→P.469)
- 3 “調整”を選択する
- 4 “左席”または“右席”を選択する
- 5 “1”または“2”を選択する

作動条件を満たしていないときは、操作ボタンがグレー表示になります。

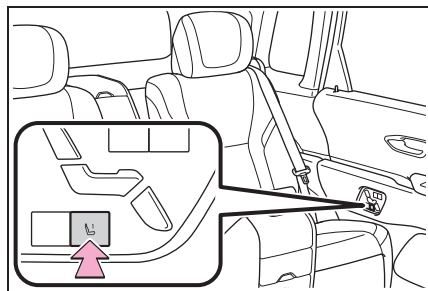
途中で停止するときは、“停止”を選択します。

作動中にシートを調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。

n パワーリヤシートスイッチでの操作

スイッチを押す

作動中にシートを調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。



知識

n ポジション呼び出し作動について

リヤ席乗員のスペースが保たれていない場合、シートの作動が停止し、登録したポジションまで作動しないことがあります。

n オットマンのポジション呼び出し作動について

オットマンは、上方向・伸びる方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下または縮んだ位置に登録されている場合のみ作動します。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

Ⅰ 電子キー／デジタルキー

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.185, 205)

Ⅰ 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。(→P.300)

電子キーまたは、デジタルキーで個人を特定した場合でも、顔認証による個人の

特定が優先されます。

I Bluetooth® デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を認識したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

I マルチメディアディスプレイで 設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定を除く

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

I ドライビングポジションメモリー（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- ・ 電子キーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けたとき
- ・ デジタルキーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムで解錠して運転席ドアを開けたとき
- ・ 顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチを ACC または ON にする

I メーター表示 ※ / ヘッドアップ ディスプレイ表示 ※ / マルチ メディア設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

I 安全運転支援機能 ※

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	245
荷物を積むときの注意	251

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	253
トランスミッション	257
方向指示レバー	263
パーキングブレーキ	264
ブレーキホールド	268

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	271
AHS（アダプティブハイビームシステム）	275
AHB（オートマチックハイビーム）	278
リヤフォグランプスイッチ	280
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	281
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	284

5-4. 給油のしかた

給油口の開け方	287

5-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense / アドバンスド ドライブ [渋滞時支援]）	290
Toyota Safety Sense	292
ドライバーモニター	300
PCS（プリクラッシュセーフティ）	302
LTA（レーントレーシングアシスト）	311

LCA（レーンチェンジアシスト）	316
LDA（レーンディパーチャーアラート）	320
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	325
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）	330
発進遅れ告知機能	332
RSA（ロードサインアシスト）	334
レーダークルーズコントロール	337
クルーズコントロール	347
ドライバー異常時対応システム	350
アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）	353
ITS Connect	358
BSM（ブラインドスポットモニター）	364
後方車両接近告知	369
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）	372
後方車両への接近警報	375
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）	377
安心降車アシスト	380
クリアランスソナー	384
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	392
RCD（リヤカメラディテクション）	397
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	400

パーキングサポートブレーキ（前後方
静止物 / 周囲静止物）.....404

パーキングサポートブレーキ（後方接
近車両）.....407

パーキングサポートブレーキ（後方歩
行者）.....409

トヨタチームメイト アドバンスト
パーク.....411

ドライブモードセレクトスイッチ
.....443

Trail Mode 444

ダウンヒルアシストコントロールシス
テム.....446

運転を補助する装置 447

プラスサポート 455

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....461

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

n 乗車前の確認事項

普通充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する
(→P.106, 134)

n ハイブリッドシステムを始動する

→P.253

n 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする
(→P.257)

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.264)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.265)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

n 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.264)

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→P.258)

n 駐車する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.264)
- 3 シフトポジションを P にする
(→P.258)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

n 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.264)
- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する (→P.264)

知識

n 電気・燃料を節約する走り方

この車のシステム特性を理解し、ハイブリッドシステムの各機能を活用してください。また、急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけも必要です。

「プラグインハイブリッド車運転のアドバイス」(→P.76)を参照してください。

n 雨の日の運転について

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

n ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

n 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

n 環境に配慮した運転

→P.179

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

n 運転するとき

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

⚠ 警告

- ❖ 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。
- ❖ 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.574 を参照してください。
- ❖ 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.257)
- ❖ 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- ❖ すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- ❖ オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- ❖ 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

n すべりやすい路面を運転するとき

- ❖ 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- ❖ 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- ❖ 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

n シフトポジションを変更するとき

- ❖ 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- ❖ 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ❖ 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ❖ 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 警告

走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

n 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

n 停車するとき

不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

n 駐車するとき

炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。

吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。

直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。

READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。

やけどをするおそれがあります。

n 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

n 万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**n 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

⚠ 注意

Ⅰ 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

n 部品の損傷を防ぐために

Ⅰ パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けしないでください。

Ⅰ ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

n 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- Ⅰ ハンドルがとられる
- Ⅰ 異常な音や振動がある
- Ⅰ 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.603 を参照してください。

n 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- Ⅰ エンストする
- Ⅰ 電装品がショートする
- Ⅰ 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- Ⅰ ブレーキの効き具合
- Ⅰ エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

Ⅰ 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

Ⅰ 駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

n 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

n 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- Ⅰ R に切りかえたとき ※
- Ⅰ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

n 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。



知識

n ドライブスタートコントロールについて

l TRC の作動を停止（→P.449）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.449）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- ・トレイルモードを ON にしているとき
- l タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- l 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.632）
- ・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
- ・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。



警告

n 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- l 燃料が入った容器
- l スプレー缶

n 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- l できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- l ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- l 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・運転席足元
 - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・トノボード
 - ・インストルメントパネル
 - ・ダッシュボード
 - ・リヤシートのうしろ

⚠ 警告

Ⅰ 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

Ⅱ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

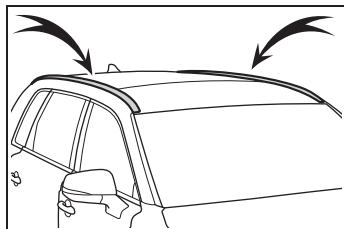
Ⅰ 荷物を積み過ぎないでください。

Ⅰ 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅲ **ルーフモールの取り扱いについて**

ルーフモールにはキャリアなどを取り付けしないでください。お守りいただかないと、走行中にキャリアが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 普通充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないことを確認する（→P.106, 134）
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.264）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションがNと表示されている時は、ハイブリッドシステムを始動できません。

ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションをPにしてください。（→P.258）

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

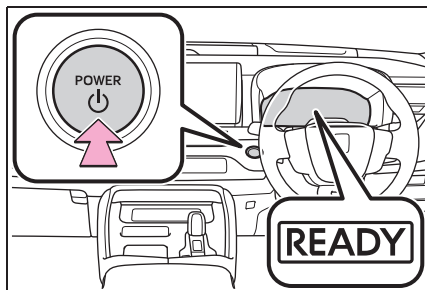
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、

ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.455 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

n パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- 1 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- 1 パワースイッチがOFFのとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- 1 パワースイッチがACCまたはONのときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- 1 パワースイッチをACCまたはONから

OFFにしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

n ハイブリッドシステムが始動しないとき

- l イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.54)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- l 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- l メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.614を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合(→P.191)はハイブリッドシステムを始動できます。

n 外気温が低いときは

- l ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケータの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- l 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合(およそ-30℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

n プラグインハイブリッド車特有の音と振動について

→P.62

n 電子キーの電池の消耗について

→P.182

n スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.206

n ご留意いただきたいこと

→P.207

n マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム 故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n 万一、READY インジケータが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケータが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

n プラグインハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.76

n 電子キーの電池交換

→P.566

n パワースイッチの操作について

- l スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
- l パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

n カスタマイズ機能

カスタマイズメニューでスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、→P.614を参照してください。

⚠ 警告**n ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。
このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**n ハイブリッドシステムを始動するとき**

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.264)
- 3 P ポジションスイッチを押す
(→P.258)

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリ”や“パワー ON”表示が消灯していることを確認する

□ 知識**n シフト制御システムについて**

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告**n 緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

- 1 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.574)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

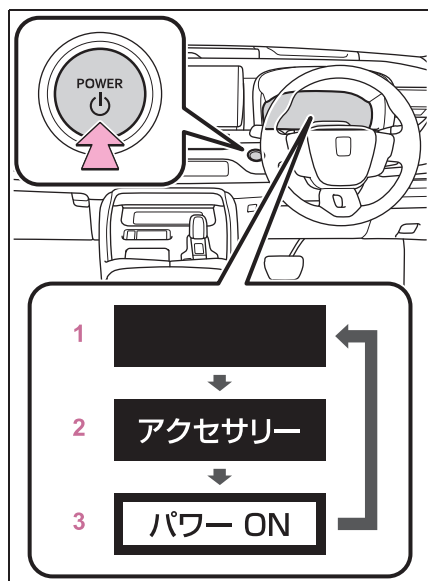
- 2 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

警告

- 1 走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションをNにし、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリ”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。メーターに“パワー ON”が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。(→P.632)

知識

n ACC カスタマイズが“OFF”のとき

- 1 パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 1 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

n 自動電源 OFF 機能

- 1 シフトポジションがPにあるとき、20分以上 ACC または ON (ハイブリッドシステムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- 1 シフトポジションがPおよびパワースイッチが ACC または ON (ハイブリッドシステムが始動していない状態) のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

n 補機バッテリーあがりを防止するために

- l ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないください。
- l ハイブリッドシステム停止中に、メーターの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

トランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※ ¹
S	S モード走行 ※ ² (→P.261)

※¹燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※²S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

□ 知識

n レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- l DポジションまたはSモードで走行中に5または4レンジにシフトダウンしたとき (→P.261)
- l Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→P.443)

n 急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

→P.250

n シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

n 補機バッテリーを脱着したとき

→P.619

警告

n すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

n 駆動用電池の充電について

シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

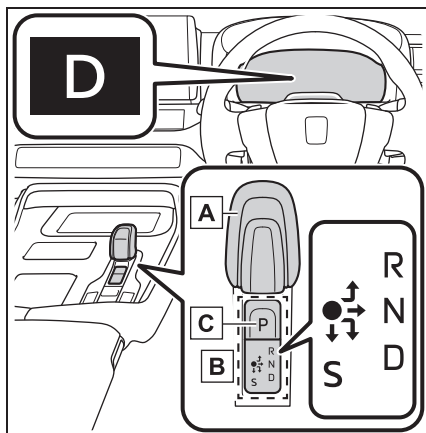
n シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.589）

シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Sへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・S・RからPへ、またはD・SからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

[B] シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

[C] P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

 知識**n** パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- l パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- l パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- l READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- l READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

n P から他のシフトポジションに切りかえる

- l ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- l 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- l P から直接、シフトポジションを S に切りかえることはできません。

n シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- l ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- l アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- l ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- l アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- l P または N から、S を選択した
- l 走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

n シフトポジションが自動的に N に切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

Ⅰ 車両が前進しているときにRを選択した
低速走行時は R に切りかわることがあります。

Ⅰ 車両が後退しているときにDを選択した
低速走行時は D に切りかわることがあります。

Ⅰ R から S を選択した

n 走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

n リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

n 自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

Ⅰ パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

Ⅰ シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

- ・ パワースイッチが ON
- ・ 運転席シートベルトを着用していない
- ・ ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

Ⅰ 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

Ⅰ シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

n シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.617 を参照してください。

⚠ 警告

n シフトレバーについて

Ⅰ シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

Ⅰ 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

n P ポジションスイッチについて

Ⅰ 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

Ⅰ 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

**注意****n 車を降りるとき（運転席のみ）**

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

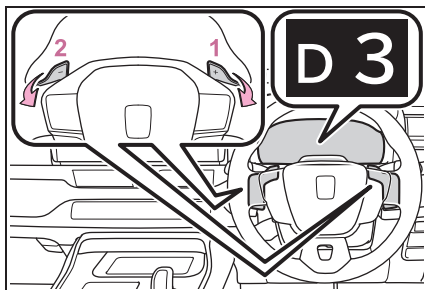
走行モードの選択**n ドライブモード**

→P.443

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの“－”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

パドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D5 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、D4 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“＋”側を一定時間以上保持、または D5 レンジでパドルシフトスイッチの“＋”側を操作します。

n シフトレンジ機能

1 エンジンブレーキ力は、5 段階から選択が可能です。

1 シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

**知識****n Dポジションでパドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき**

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

n Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

1 停車したとき

1 アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

1 シフトポジションを D 以外にしたとき

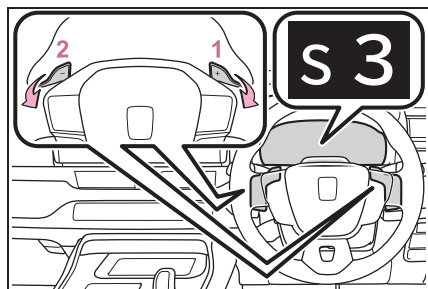
n シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

S モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。パドル

シフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、S4 に設定されます。*

* 走行モードがスポーツモードのときは、S3 に設定されます。(→P.443)

n シフトレンジ機能

- 1 加速力・エンジnbrake力は、6 段階から選択が可能です。
- 1 シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジnbrake力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。



n S モードについて

- 1 エンジンの過回転を防ぐために、S2 レンジ以下のとき、自動的にシフトアップする場合があります。
- 1 S4 レンジ以下のとき、パドルシフトスイッチを“＋”側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

n シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

- 1 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。
- 1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる
- 2 シフトレバーを定位置 (●) にもどす
- 3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する
- 4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します *

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“N 保持中 解除するには P スイッチを押してください”が表示されたことを必ず確認してください。

- 1 シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください
- 1 必ずハイブリッドシステムが始

動している状態で操作してください。

ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションをNに保持できない場合があります。

- ※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります。

⚠ 注意

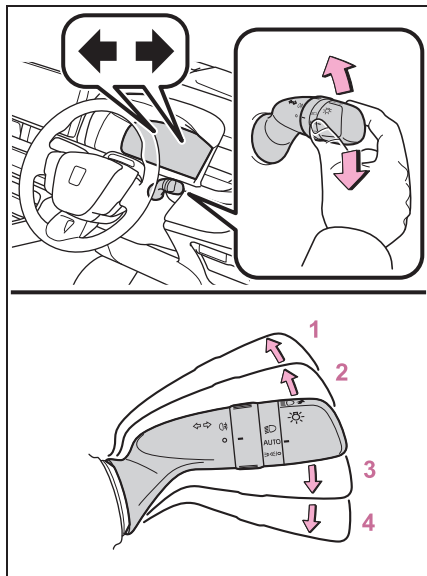
- n** 自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをNに保持したいときは

必ずハイブリッドシステムが始動状態であることを確認してください。ハイブリッドシステム始動状態以外で操作を行うと、Pポジションに切り替わるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持 ※)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持 ※)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

- 4 右折

※ 2 または 3 の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が5回点滅します。

知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

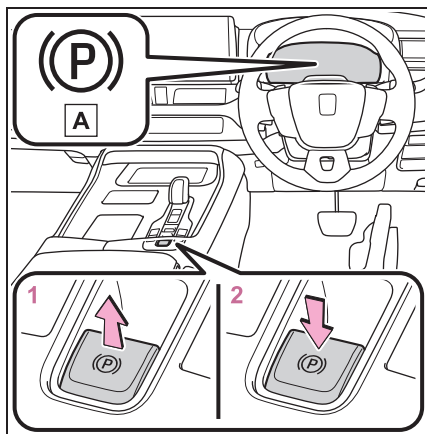
オートモードのときは、シフトポジションの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

n マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.265)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.587)

n オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- l シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- l シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.264)

n オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

n パーキングブレーキの作動

- l パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- l パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

n パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- l 運転席ドアが閉まっているとき
- l 運転席シートベルトを着用しているとき
- l シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- l エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

n パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- l ブレーキを踏んでいない
- l 運転席のドアが開いている
- l 運転席のシートベルトを装着していない
- l シフトポジションがPもしくはN以外の位置にある

(アドバンストパーク作動中はシフトポジションがPのみ。)

- l エンジン警告灯やブレーキ警告灯が点灯している

- n マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で 操作されました しばらく お待ちください”が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

- n マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在 使用できません”が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- n パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

- n パーキングブレーキ表示灯について

- l パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するま

で点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- l パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

- n パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

- n 駐車するとき

→P.245

- n パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

- n ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.581

- n 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.462

警告

- n 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**n パーキングブレーキスイッチについて**

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

n パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**n 駐車するとき**

車から離れるときは、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

n システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

n 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.617)

n 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

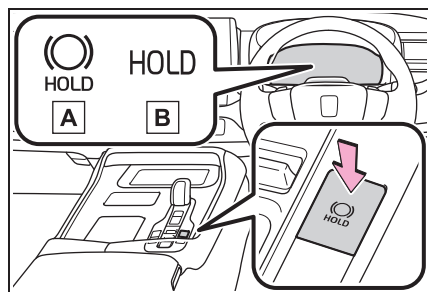
ブレーキホールド

シフトポジションがD・S・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）**A**が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B**が点灯します。



□ 知識

n システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- └ 運転席ドアが閉まっていない
- └ 運転席シートベルトを着用していない
- └ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”や“EPB 故障 販売店で点検してく

ださい”が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

n ブレーキ保持について

└ ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

└ 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

└ ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

└ パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチをOFFにしてください。

n ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- └ 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- └ ブレーキペダルを踏みながら、パーキ

ングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→P.264)

n トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください”または“BrakeHold 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

n ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- l “BrakeHold 作動不可 取扱説明書を確認してください”
- ・ ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動中に、ブレーキホールドスイッチを押した場合

- ・ ブレーキホールドシステムが作動中に、ブレーキを踏み込んで DAC スイッチを操作した場合

l “BrakeHold 現在使用できません ブレーキを踏み解除ください”

- ・ ブレーキホールドシステムが作動中に、ブレーキを踏み込まずに DAC スイッチを操作した場合

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステムと同時に作動させることができません。ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

n ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.587

警告

n 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

n すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意****n 駐車するとき**

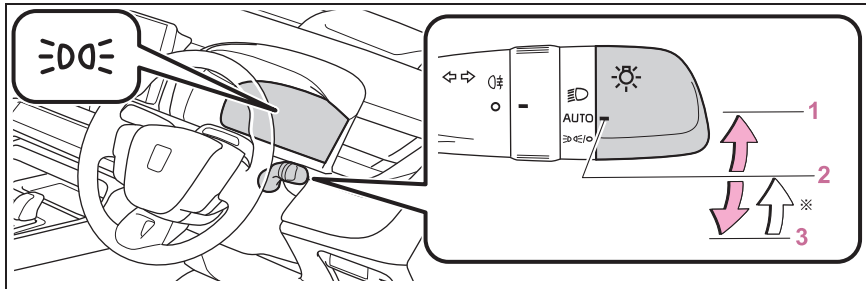
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※ ¹	LED デイタイムランニングランプ (→P.272) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※¹ 操作するたびに、**2** **AUTO** による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀️ スイッチを 3 ➡️/O の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 ➡️/O か 3 ➡️/O の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 ➡️/O の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 ➡️/O	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ (→P.272) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

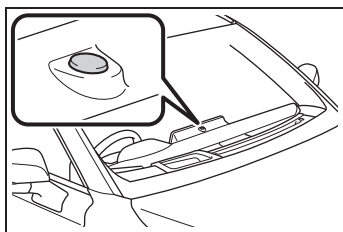
※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

📖 知識

- n **AUTO モードの作動条件**
パワースイッチが ON のとき
- n **LED デイタイムランニングランプ機能**
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイタイムランニングランプが自動

- で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)
- LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。
- n **自動で点灯／消灯する明るさについて**
周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。
 - n **ライトセンサー**
センサーの上にものを置いたり、セン

サーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざれると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



n ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

n ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが ACC または OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

n オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

n ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

日中での走行時、ランプスイッチが

AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、

自車が高車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

n 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると、節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

└ ランプスイッチを操作したとき

└ ドアを開閉したとき

n ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）



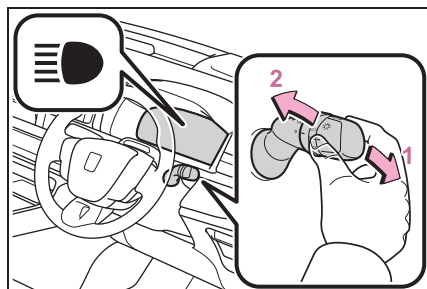
注意

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないください。

ハイビームにする

点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ┃ ハンドルを操作したとき
- ┃ 方向指示レバーを操作したとき
- ┃ シフトポジションが R のとき
（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

n コーナリングランプ制御について

- ┃ 車速が約 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウィンドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

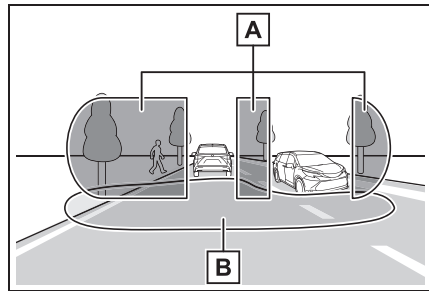
n アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

システムの制御

- 1 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- 1 カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 1 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



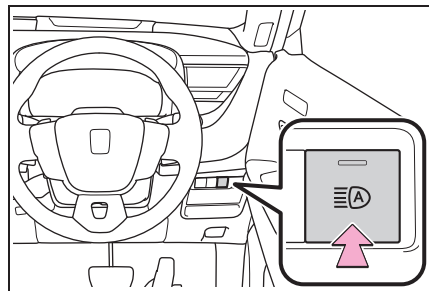
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 1 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。
- 1 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

アダプティブハイビームシステムを使うには

- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

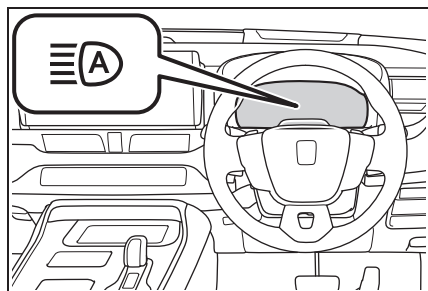


- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

☞にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

n システムの作動条件

↓ 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

↓ 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

↓ 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- ・ 車速が約 12km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両の台数が多い
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

n 前方カメラの検知について

↓ 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき

- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

↓ 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

↓ 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

↓ 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両との車間距離
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

↓ ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

↓ 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

↓ 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
- ・システムを OFF にする必要があるとき：→P.292
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

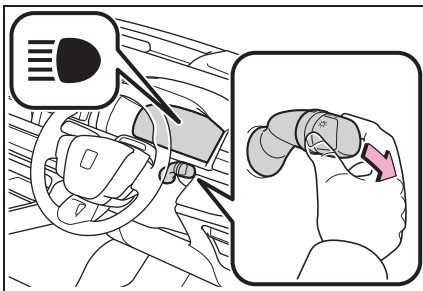
手動制御に切りかえるには

n ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



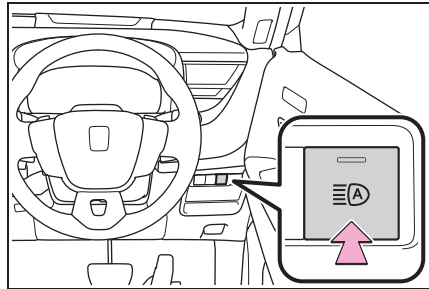
n ロービームへの切りかえ

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯

が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

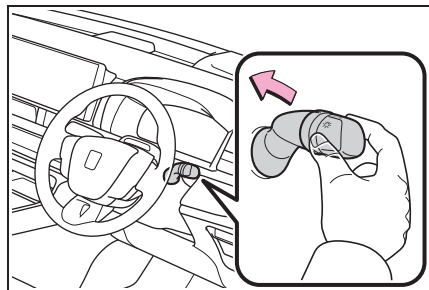


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるときに使用します。

1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

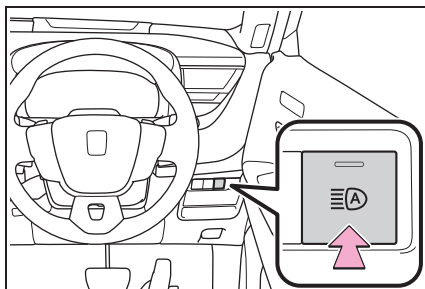
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

n オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

オートマチックハイビームを使うには

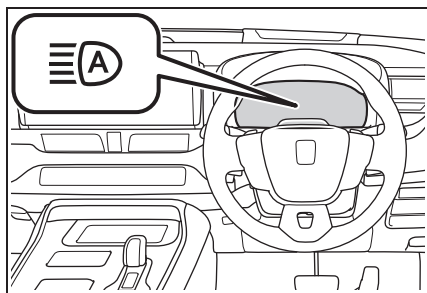
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

☾にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



□ 知識

n ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

↓ 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

↓ 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

n 前方カメラの検知について

↓ 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296
- | 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- | 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- | 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- | ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- | 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- | 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、

ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.292
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

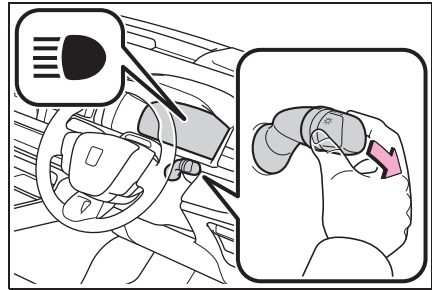
手動制御に切りかえるには

n ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



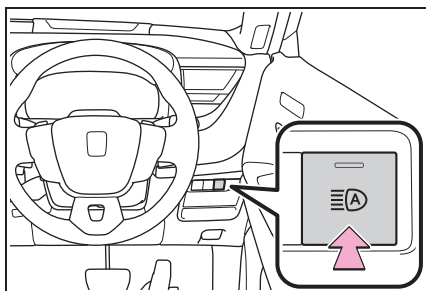
n ロービームへの切りかえ

1 オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチ

を押します。

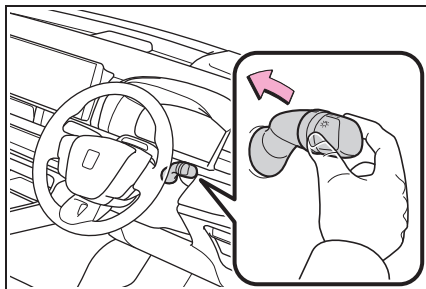


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

- 1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



リヤフォグランプスイッチ

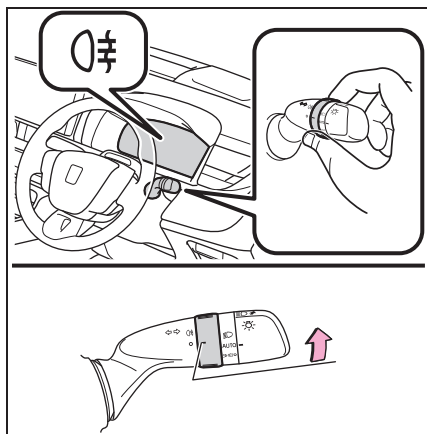
雨や霧などの悪天候下で後続車に自車の存在を知らせることができます。

操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。

操作後に手を離すと ● の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



知識

n 点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

n リヤフォグランプについて

必要となきのみ使用してください。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切り替えたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

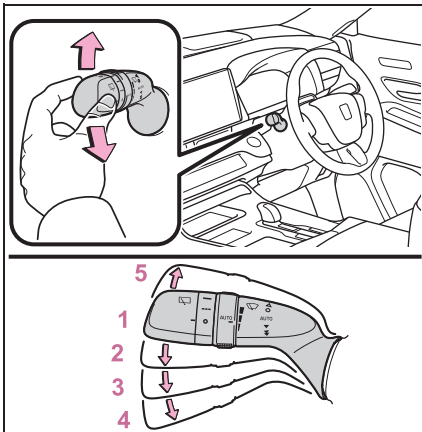
n フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 ○ 停止

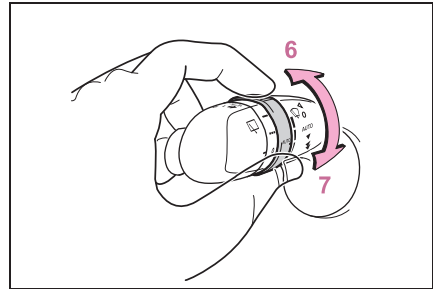
2 AUTO/AUTO モード

3 ▼ 低速作動

4 ▼ 高速作動

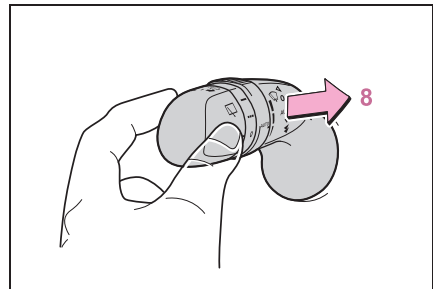
5 △ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。)

知識

n 作動条件

パワースイッチがON のとき

n 音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- l フロントワイパーを 1 回のみ作動
- l ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

n 雨滴感知センサー

- l 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウィンドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- l パワースイッチがONのときにワイパースイッチをAUTOにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- l AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- l 雨滴感知センサーの温度が 85℃以上ま

たは -15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

n ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

n ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO モード選択中、パーキングブレーキがかかっている、またはシフトポジションが P の位置にある状態でワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しびきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

⚠ 警告

n AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウィンドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

n ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けな
いでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

n ノズルがつまったらときは

ノズルがつまったらときはトヨタ販売店
へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

n 補機バッテリーあがりを防止するた めに

ハイブリッドシステムを停止した状態
でワイパーを長時間作動しないであ
ください。



ワイパーの停止位置切りかえ／ ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、
ボンネット下に格納されています。
寒冷時やワイパーゴムを交換する
ときは、ワイパーの停止位置を格
納位置からサービスポジションに
切りかえた上でワイパーを立てて
ください。

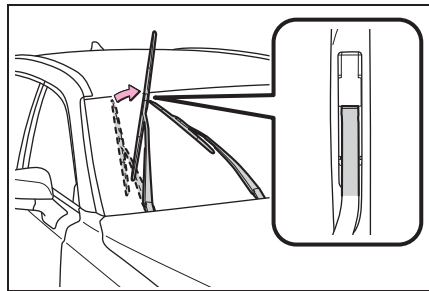
n サービスポジションへ切りかえ る

パワースwitchを OFF にしたあ
と、約 45 秒以内にワイパース
witchを Δ の位置で約 2 秒以上
保持する

ワイパーがサービスポジションに移動し
ます。

n ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持っ
てガラス面から引き上げる



A フック部

□ 知識

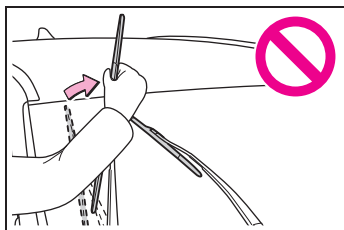
n ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースwitch
を ON にし、いずれかのワイパー操作を
してください。作動後は格納位置で停止
します。

⚠ 注意

n ワイパーを立てるときは

- 1 ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- 1 ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- 1 ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)

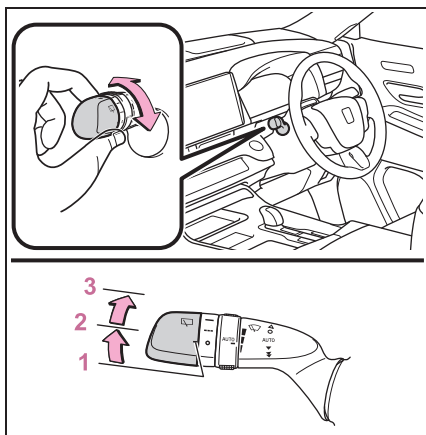
⚠ 注意

n リヤウインドウガラスが乾いているときは

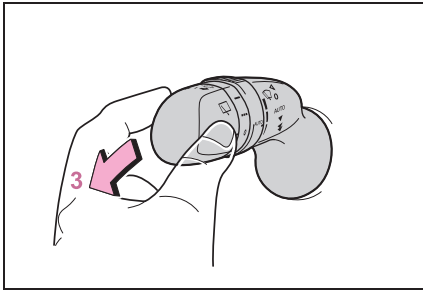
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠運動
- 3 — 通常作動



- 4**  **ウォッシャー液を出す**
レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n 音声対話サービスでの操作★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- l リヤワイパーを 1 回のみ作動
- l ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

n リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

n バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.632）

注意

n ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

n ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

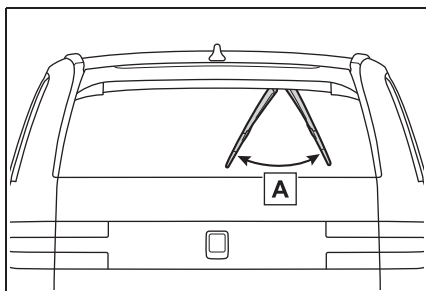
リヤワイパーの立て方

リヤワイパーは使用していないとき、リヤスポイラー下に格納されています。

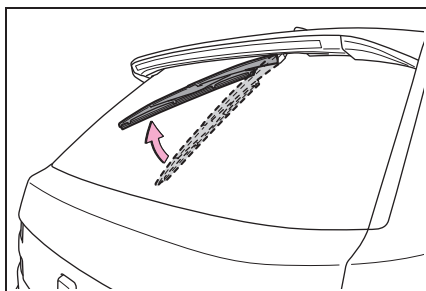
ワイパーゴムを交換するときは、次の手順でリヤワイパーを停止させた上でリヤワイパーを立ててください。

- 1**  スイッチでリヤワイパーを作動させる（→P.284）

- 2 パワースイッチを OFF にし、
リヤワイパーを **A** の範囲で停止
させる



- 3 ワイパーアームを持ち上げる



 知識

- n リヤワイパーを格納位置にもどすには
リヤワイパーを倒した状態でパワース
イッチを ON にし、リヤワイパーを作動
させたあと停止させてください。

給油口の開け方

給油する前に

- I ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- I 燃料の種類を確認してください。

知識

n 燃料の種類について

- I 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
- I バイオ混合ガソリン（プレミアム）

n バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

n 給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

I キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

I 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

I 喫煙しないでください。

I 給油口にノズルを確実に挿入してください。

I 継ぎ足し給油をしないでください。

I 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

n 給油するとき

I 燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

I 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。

- ・ ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ・ ガソリンエンジンの出力が低下する

⚠ 注意

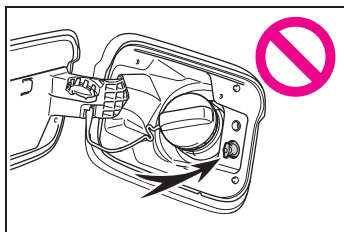
❶ その他の燃料（粗悪ガソリン／軽油／灯油／高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料をしようと、次のような状態になるおそれがあります。

- ・ ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ・ ガソリンエンジンの出力が低下する
- ・ ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ・ 排気制御システムが正常に機能しない
- ・ 燃料系部品が損傷する

※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE の混合率 22%をこえるもの

❷ 約30分以内に給油を完了してください。約 30 分以上経過すると内部のフタが閉じます。内部のフタが閉じた状態で給油すると燃料がこぼれるおそれがあります。給油扉オープナースイッチを再度押してください。

❸ ノズルなどで給油扉ロックを押さないでください。ロックが押されると内部のフタが閉じ、燃料がこぼれるおそれがあります。給油扉ロックが押された場合は、給油扉オープナースイッチを再度押してください。



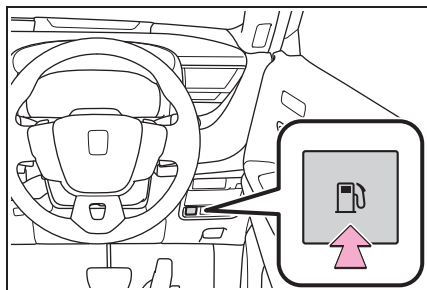
❹ 燃料について

→P.75

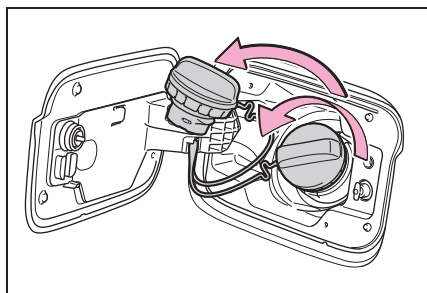
給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける

スイッチを押してから約 10 秒以内に、給油扉が開きます。給油できるようになるまで、マルチインフォメーションディスプレイに、給油扉オープナーの作動状況が表示されます。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



❏ 知識

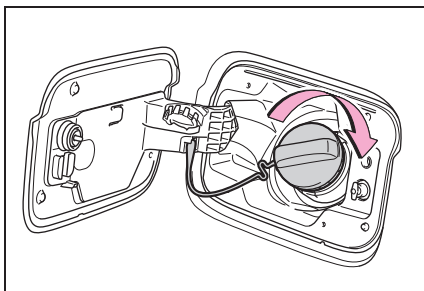
❶ 給油扉が開かないとき

トヨタ販売店にご相談ください。

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

n キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま
使用したり、純正品以外のキャップを
使用すると、火災などを引き起こし、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する (Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ [渋滞時支援])

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール (DCM) を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ (渋滞時支援) は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ (渋滞時支援) の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ (渋滞時支援) 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジ

タル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

□ 知識

n ご使用にあたっての留意事項

- l お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- l T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ (渋滞時支援) のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 マルチメディアディスプレイの  にタッチします
- 2 “運転支援アップデート” にタッチします

自車の Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



知識

n デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



知識

n ソフトウェアアップデートについて留意事項

一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense / アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）を使用することができます。

次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

- ・ システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
- ・ 法規上の問題が発生したとき ※
- ・ 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

n 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

n Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お客様で自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

n システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

過積載やパンクで車両が傾いているとき

過度な高速走行をしているとき

けん引時

トラック／船舶／列車などに積載するとき

車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

オフロード走行やスポーツ走行をするとき

洗車機を使用するとき

センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき

センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき

タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき

警告

- ！ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- ！ 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

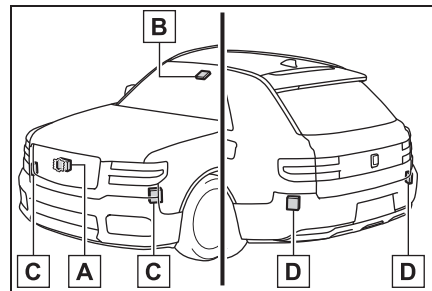
- n AHS (アダプティブハイビームシステム)
→P.275
- n AHB (オートマチックハイビーム)
→P.278
- n PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.302
- n LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.311
- n LDA (レーンディパーチャーアラート)
→P.320
- n LCA (レーンチェンジアシスト)
→P.316
- n FCTA (フロントクロストラフィックアラート)
→P.330
- n PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
→P.325
- n 発進遅れ告知機能
→P.332

- n RSA (ロードサインアシスト)
→P.334
- n レーダークルーズコントロール
→P.337
- n クルーズコントロール
→P.347
- n ドライバー異常時対応システム
→P.350
- n ドライバーモニター
→P.300

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

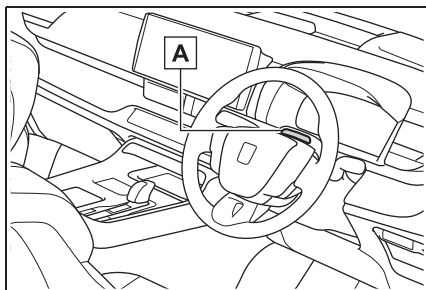
複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

- n 周囲の状況を検出するセンサー



- A** 前方レーダー
- B** 前方カメラ
- C** 前側方レーダー
- D** 後側方レーダー

n 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

⚠ 警告

n レーダーの故障や誤作動を防ぐために

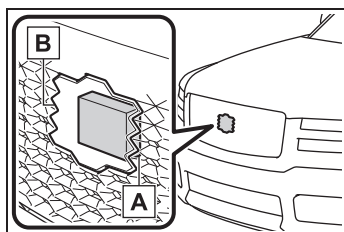
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

❖ レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

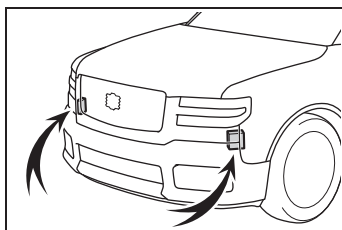
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

❖ 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。



❖ レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

❖ レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

❖ レーダーを分解しない

❖ レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

❖ 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

n ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるときシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

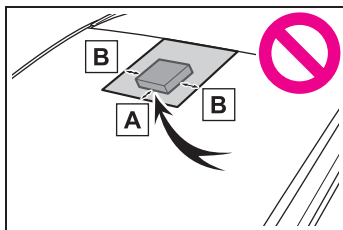
警告

前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❖ フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ❖ フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- ❖ 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

❖ フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

❖ フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

❖ 前方カメラに液体をかけない

❖ 前方カメラに強い光を照射しない

❖ 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

❖ 前方カメラに強い衝撃を加えない

❖ 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

❖ 前方カメラを分解しない

❖ インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

❖ ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

❖ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

⚠ 警告

Ⅰ ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

Ⅱ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウィンドウガラスが曇る可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウィンドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

Ⅲ ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅰ ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

Ⅰ ドライバーモニターカメラを分解・改造しない

Ⅰ ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

Ⅰ ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない

Ⅰ ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない

Ⅰ ドライバーモニターカメラのレンズを傷つけない

Ⅰ ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷つけないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。

Ⅰ お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

□ 知識

Ⅱ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

Ⅰ 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

Ⅰ フロントウィンドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

Ⅰ 外気温が高温または低温のとき

Ⅰ センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき

Ⅰ 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

Ⅰ 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

Ⅰ 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

Ⅰ ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

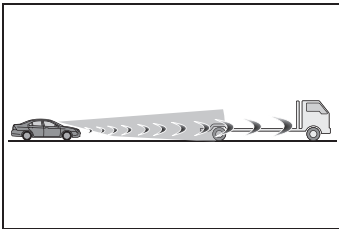
Ⅰ ヘッドランプの光軸がずれているとき

Ⅰ ヘッドランプが故障しているとき

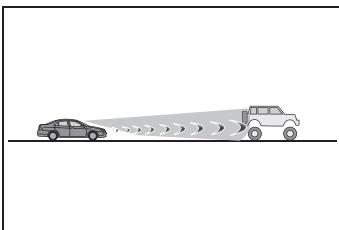
Ⅰ 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

Ⅰ 急激な明るさの変化があるとき

- | テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- | ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- | 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール
 - ・ ガードレール
 - ・ 鉄板
- | 周囲に段差や突起物があるとき
- | 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- | 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- | 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- | 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- | 対象車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき

- | 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- | トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- | 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- | 対象車両の位置がずれている場合
- | 対象車両に雪や泥などが付着している場合
- | 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
- | ハンドル操作が不安定な場合
- | 車線内での自車の位置が一定でない場合
- | 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- | ホイールアライメントがずれているとき
- | 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- | カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- | カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- | 駐車場や庫車、カーエレベータなどに出入りするとき
- | 駐車場内を走行するとき
- | 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

l 風が強いとき

n 車線を検知できないおそれがあるとき

l 車線の幅が極端に狭い、または広いとき

l 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

l 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

l 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

l 同一車線上に複数の白線があるとき

l 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

l 車線が縁石等の上に引かれているとき

l コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

n システムの一部もしくは全てが作動しないとき

l 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時

l VSC、TRC 等の安全システムが作動時

l VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

n ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

l ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

l システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

n ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

l 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

l 強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

l 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんばんに変化するとき

l 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき

l 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき

l 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

l 前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき

l ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき

l 帽子を被っているとき

l 眼帯を着用しているとき

l 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき

l コンタクトレンズをつけているとき

l マスクを着用しているとき

l 笑ったり、眼を細めたりしているとき

l 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

l 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなく

なるような化粧をしているとき

- l 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき

- l 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

n レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

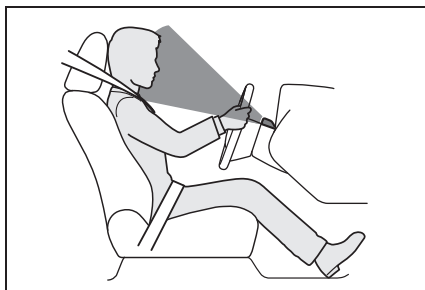
JP 01

ドライバーモニター

基本機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

ドライバーモニターが正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラで運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



n 注意喚起

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- l 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- l 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

n 顔認証システム

個人特定システムの一機能として、ドライバーモニターは顔認証機能のデバイスとして使われます。

車両での顔認証機能の使い方、他個人特定デバイスとの優先度、連動する車両設定については「マイセッティング」を参照してください。(→P.240)

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l ドライバーモニターは運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- l ドライバーモニターは運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

□ 知識

n 注意喚起

車速が低いときは作動しないことがあります。

n 顔認証システムについて

ドアを開け閉めすると顔認証が開始されます。

顔認証システムでは、お客様の顔の特徴情報を数値化し、車両に装備されたコンピューター内に保存してマイセッティングにおける認証に利用します。

- l お客様の顔の画像／動画や音声を保存することはありません。
- l 数値化された顔情報はマイセッティングにおける認証以外での用途では使用いたしません。また、顔情報を読み出すことはできず、第三者へ開示または提供されることはありません。
- l 顔情報はお客様自身で削除することが可能です。
- l 顔情報の取扱いについて、以下項目を同意いただいた上でご利用ください。
 - ・ 顔認証システムは完全な本人認証、照合、識別を保証するものではありません。
 - ・ 顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。
 - ・ コンピュータに保存した顔情報を読み出ししたり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
 - ・ 消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。

n 顔認証システムが正しく認識しない場合

本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。

- l 顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態
- l 眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している
- l 正面を向いていない場合
- l 髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサ

リー等で顔の一部が隠れている

- l 目を閉じている
 - l 双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者
- n **ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況**

→P.298

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.632）

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.302）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.310）

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・安全にお使いいただくために：→P.292

n プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- l システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- l 車両
- l 自転車 ※
- l 歩行者
- l 自動二輪車 ※
- l 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

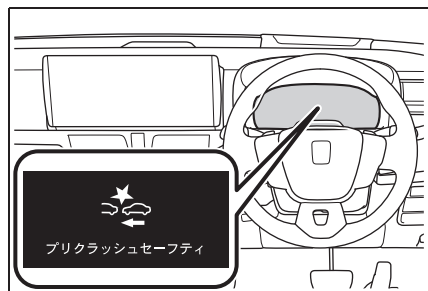
機能一覧

n 衝突警報

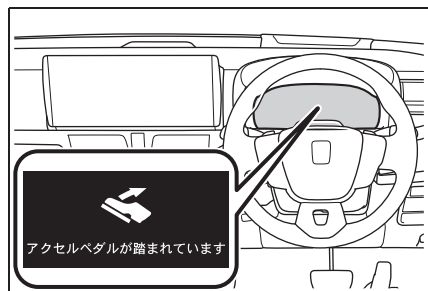
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



n プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

n プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

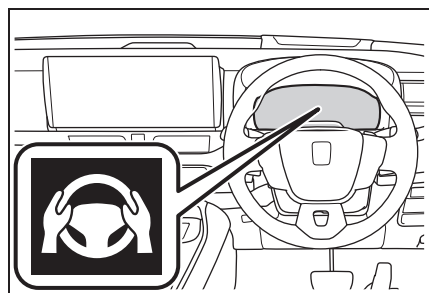
n 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- l 衝突する可能性が高い
 - l 自車線内に回避するための十分なスペースがある
 - l 運転者の回避操舵があった
- 運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。



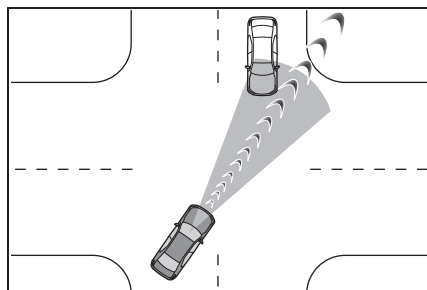
n 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

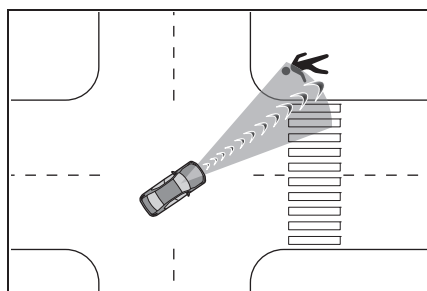
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- l 交差点で右折して対向車／対向

自動二輪車の進路を横切るとき



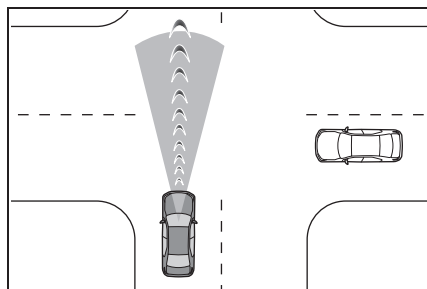
- 1 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



n 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

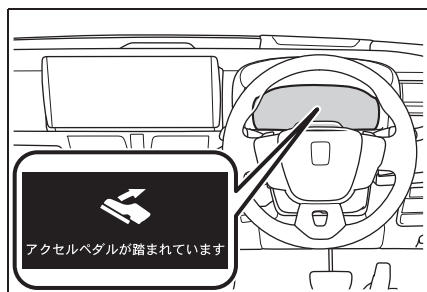
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



n 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



n プリクラッシュシートバック（パワーリヤシート）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、パワーリヤシートの背もたれを起こします。

シートの背もたれを倒しているときに作動します。

スイッチ操作によるシート調整中には作動しません。

n サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.448）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

 警告**n プリクラッシュブレーキについて**

プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

n 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

n 緊急時操舵支援について

緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

 知識**n プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ┃ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
 - ┃ シフトポジションが R のとき
 - ┃ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）
- 各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

┃ 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

┃ ブリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

┃ ブリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が

解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

Ⅰ 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

Ⅰ 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

Ⅰ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	約 50km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

Ⅰ 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

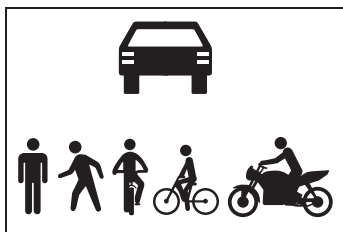
- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

n 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

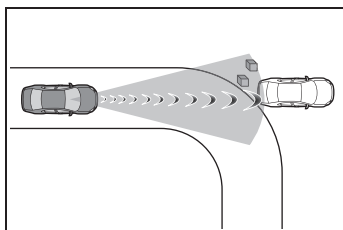
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



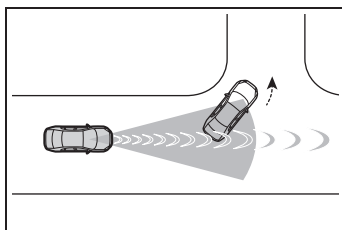
n 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

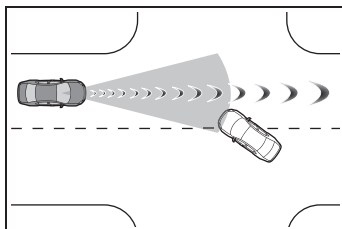
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



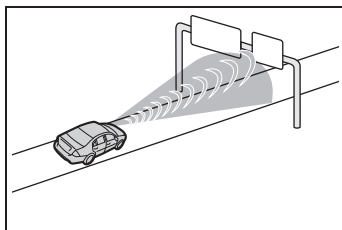
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



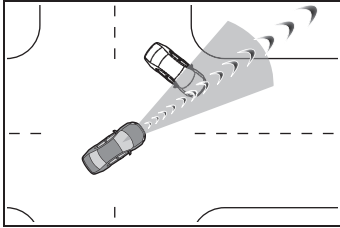
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



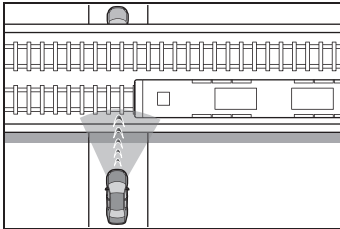
- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車

／横断歩行者／横断自転車の手前を通
過しようとしたとき

- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車
／横断歩行者／横断自転車が自車進路
に入る手前で停止または進路変更した
とき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動
二輪車が右折しているとき、または左
折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンド
ルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがある
とき



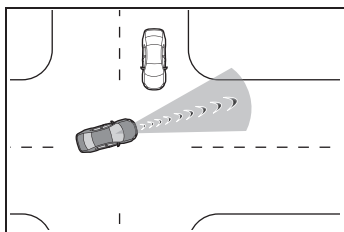
n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前方セン
サーが作動対象を検出できず、システ
ムが正常に作動しないおそれがありま
す。

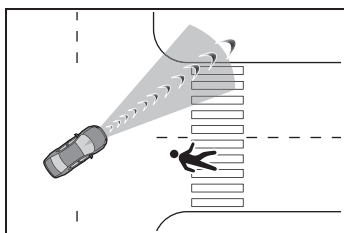
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてく
るとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハ
ンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレ
ール・マンホール・路面の鉄板、他の車
両などのそばにいるとき

- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対
象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れてい
るとき（大きな荷物や傘、またはガー
ドレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射
しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に
明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶
け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出
してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いた
とき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自
転車、2人以上乗車している自転車、
前傾姿勢で乗車している自転車、また
は特殊な形状の自転車（チャイルド
シート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、
または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいな
とき（レインコート・ロングス
カートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、また
はしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車
などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、また
は周囲が暗い（夜間やトンネル内など）
など、作動対象が背景に溶け込んでい
るとき
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、
走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がり
きってから数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が
自車の走行する車線よりも 3 つ以上離
れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対

する正方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追抜くように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- | 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
- ・ 作動対象に近づきすぎたとき
- ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・ 対向車がいるとき
- | 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
- ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
- ・ 壁が生垣など草木のとき
- ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
- ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- | PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.632)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- | システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- | カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.632)

- | 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。



を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。

- | 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、ユーザー設定に関わらず、衝突警報・緊急時操舵支援が“早い”のタイミングで作動します。
- | レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報がのタイミングで作動します。
- | アドバンスド ドライブ制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が“早い”のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

- 1 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

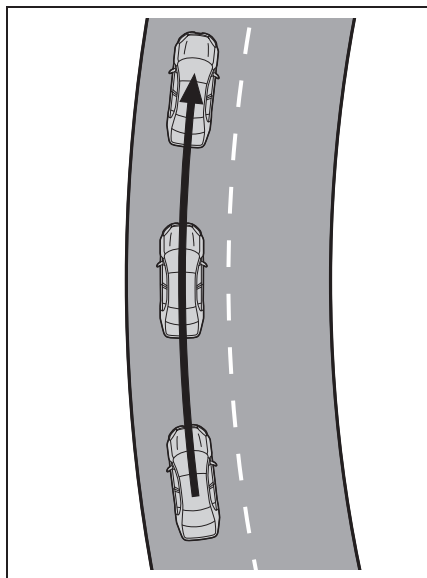
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

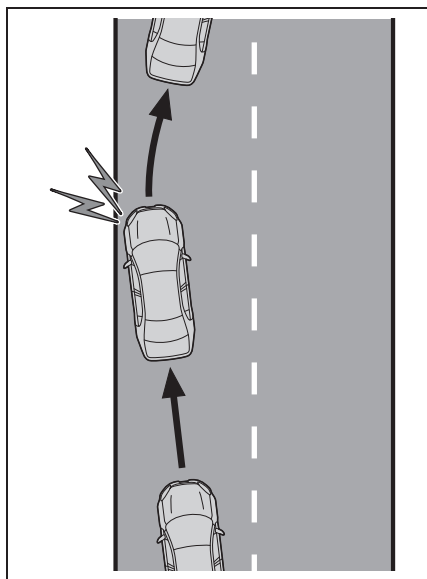
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



- 1 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

n LTA をお使いになる前に

- l LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- l 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- l LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

n 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- l システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- l レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- l 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- l 方向指示レバーを操作していないとき
- l 急カーブを走行していないとき
- l 一定以上の加減速がないとき
- l 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- l 手放し運転に対する注意喚起（→P.312）が行われていないとき
- l 車線中央付近を走行しているとき

n 機能の一時解除

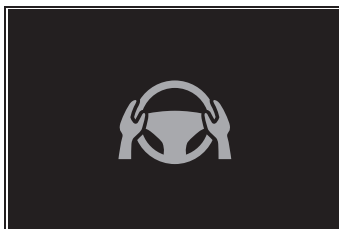
- l 機能の作動条件（→P.312）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- l 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- l 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

n LTA 中の車線逸脱警報について

- l LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- l 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

n 手放し運転に対する注意喚起について

- l 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- l 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

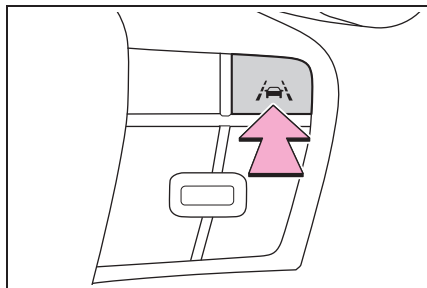
n 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- l 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- l 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・ 運転者が手袋をしているとき
 - ・ ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・ 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- l 次の状況では、手放しをしても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。
 - ・ ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

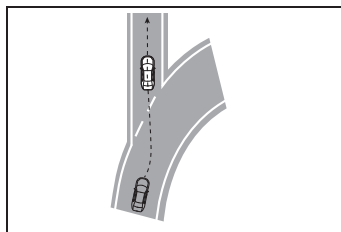


⚠ 警告

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- l 先行車／周辺車が車線変更したとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります)



- l 先行車／周辺車がふらついたとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります)

 警告

- | 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- | 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- | 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- | 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- | センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296
- | 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.298
- | システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 白色	 灰色／白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱し ている

LCA（レーンチェンジアシスト）

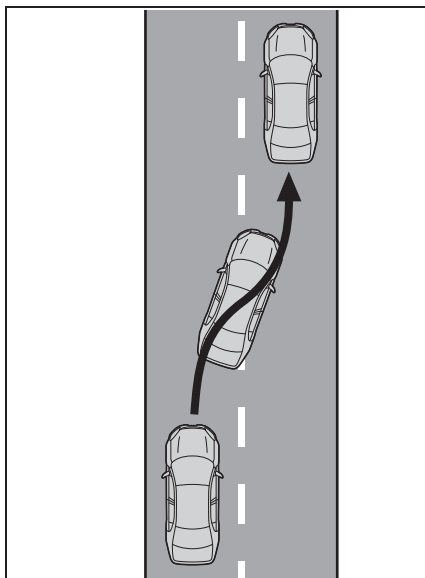
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠ 警告

n LCA をお使いになる前に

┃ LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

また、車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩等）に対して LCA を使用しないでください。

┃ 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖 知識

n 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ┃ LTA が作動しているとき
- ┃ カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき
- ┃ 自車速度が約 70 ～ 130km/h のとき
- ┃ システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- ┃ システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき
- ┃ 車線を変更する先に車両が存在しないとき
- ┃ ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
- ┃ 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- ┃ 手放し運転に対する注意喚起（→P.312）が行われていないとき

- ハイブリッドシステム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

n 機能の解除

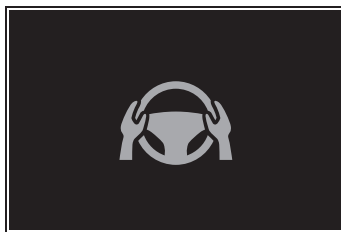
次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

- 作動条件が満たされなくなった場合
(→P.316)
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを 2 段目の位置
(→P.317) へ操作したとき
- 方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき
- 手放し運転に対する注意喚起
(→P.317) が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

n 手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかり握ってください。



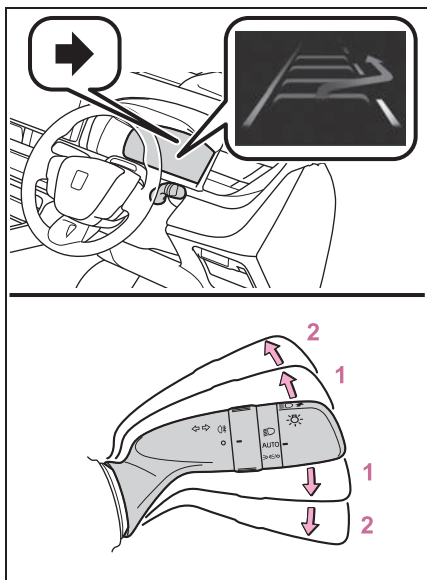
n 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・運転者が手袋をしているとき
 - ・ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき
- 次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
 - ・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
 - ・ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるときの

LCA の作動方法

方向指示レバーを 1 段目の位置で“ピッ”とブザーが鳴るまで保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



- 1 1 段目：LCA 作動位置
- 2 2 段目：LCA 非作動位置

警告

n LCA を使用してはいけない状況

l 片側 1 車線の道路を走行しているとき

l 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON / OFF を変更する

LCA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.632)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
 灰色矢印／緑色線	 緑色	LCA がスタンバイ状態
 青色矢印／白色線		LCA が作動中

LCA 表示	ステアリング アイコン	状態
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
なし	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

LDA（レーンディパーチャアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

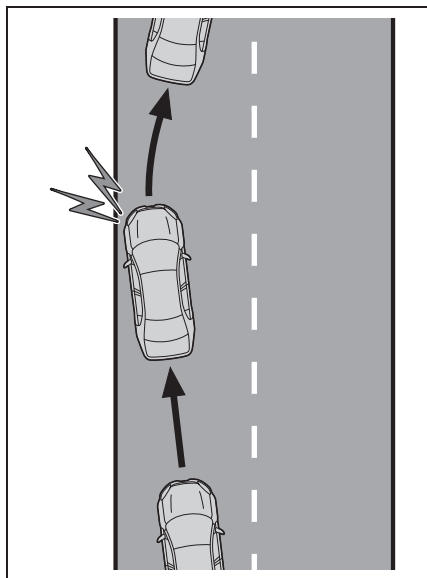
n 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



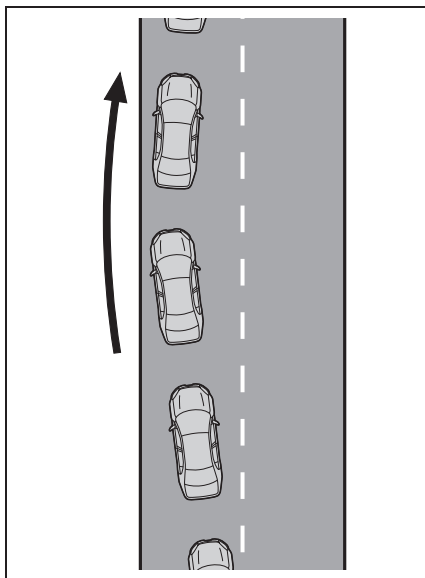
n 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

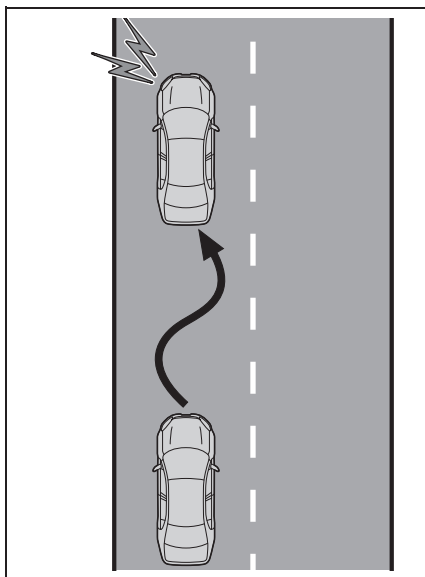
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



Ⓝ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

Ⓝ LDA をお使いになる前に

- Ⓛ LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- Ⓛ 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖 知識

Ⓝ 各機能の作動条件

Ⓛ 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

- ・ システムが車線または走路※を認識しているとき(車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき(方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき
- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

n 機能の一時解除

作動条件（→P.321）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

n 車線逸脱警報／抑制機能の作動について

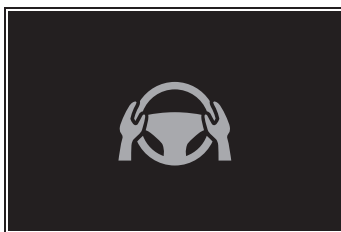
- Ⅰ 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- Ⅰ カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- Ⅰ 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- Ⅰ 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- Ⅰ とんりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- Ⅰ 運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する警報、抑制のタイミングが変化します。
- Ⅰ 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

n 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの

表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- Ⅰ 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

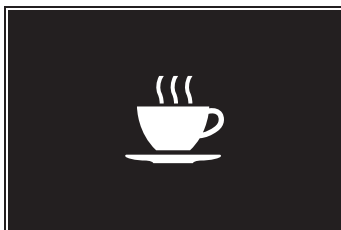
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

n 休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- Ⅰ 車速が約 50km/h 以上のとき
- Ⅰ 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- Ⅰ LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.632）
- Ⅰ カスタマイズ設定から、LDA の

設定を変更することができます。
(→P.632)

⚠ 警告

機能正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき

- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.298

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱 警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱 抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱 警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.326）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としています。支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.327）

プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n プロアクティブドライビングアシストを OFF にすると

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	歩行者 自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	歩行者 自転車運転者 駐車車両
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	先行車 自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト (SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援
約 30km/h ～ 60km/h
- 道路脇の作動対象に対する支援

- 約 30km/h ～ 60km/h
- 先行車に対する減速支援
約 20km/h 以上
- カーブに対する減速支援
約 20km/h 以上

Ⅰ 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

Ⅰ 車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

n システムの作動が停止するとき

- Ⅰ 次のときシステムは作動を停止します
 - ・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
 - ・PCS が OFF のとき
 - ・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298
 - ・シフトポジションが P、R または N のとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
- Ⅰ 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
 - ・車速が約 15km/h 以下のとき
 - ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- Ⅰ 次のときシステムは作動を停止する場合があります
 - ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライプスタートコントロール）
 - ・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
 - ・車線が検出できなくなった場合
 - ・ブレーキ操作を行った場合
 - ・アクセル操作を行った場合
 - ・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
 - ・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠ 警告

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- Ⅰ 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.298
- Ⅰ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- Ⅰ ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- Ⅰ 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- Ⅰ 車線変更や右左折している作動対象などを追いつくとき
- Ⅰ 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- Ⅰ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- Ⅰ 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- Ⅰ 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- Ⅰ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- Ⅰ 自車や作動対象がふらついているとき
- Ⅰ 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- Ⅰ 作動対象に急接近したとき
- Ⅰ 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- Ⅰ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- Ⅰ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

⚠ 警告

- | 作動対象が複数重なっているとき
- | 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- | 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- | 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- | 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- | 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- | 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- | 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- | 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- | 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- | 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- | 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- | 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- | 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- | 車線幅が約4m以上あるとき

- | 車線幅が約2.5m以下のとき
- | ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- | 右左折中および右左折後の数秒間
- | 進路変更中および進路変更後の数秒間
- | 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- | 信号機の灯色が黄色のとき
- | 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- | プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.632）
- | プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.632）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

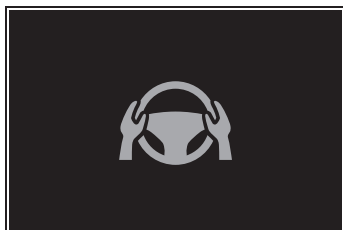
表示	意味
	- 白色：作動対象監視中 - 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	- 道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している - 操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

□ 知識

n 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイ

プレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- l 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

n 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

- l 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ ヘッドアップディスプレイ



- l 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとしてシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・ マルチインフォメーションディスプレイ



⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTAは前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

□ 知識

n FCTA システムの作動条件

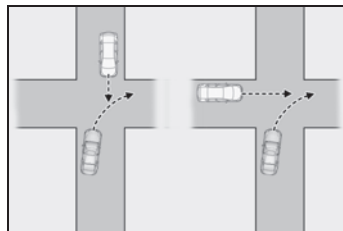
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ┃ シフトポジションがP・R以外にあるとき
- ┃ 自車速度が約15km/h以下のとき
- ┃ 前方を交差する接近車両の速度が約10～60km/hであるとき
- ┃ 先行車がないとき
- ┃ アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ┃ ブレーキを強く踏み込んでいないとき

n 検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- ┃ 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- ┃ 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- ┃ 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- ┃ 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- ┃ 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- ┃ 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- ┃ 交差車両が減速し停止するとき
- ┃ 交差車両が自車直前で右左折するとき
- ┃ 歩行者が自車に接近するとき
- ┃ 対向車が右左折するとき
- ┃ 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- ┃ 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- ┃ 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



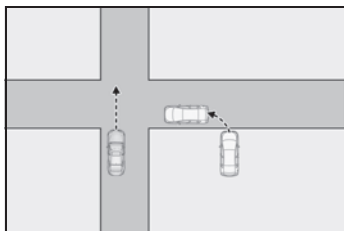
- ┃ 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- ┃ 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- ┃ 自車が車両や歩行者と並走するとき

- Ⅰ 自車側面に車両や歩行者が接近するとき

Ⅱ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- Ⅰ 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- Ⅰ 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- Ⅰ 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- Ⅰ 自車と交差車両の間に障害物があるとき
- Ⅰ 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- Ⅰ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296
- Ⅰ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298

FCTA の設定を変更する

- Ⅰ FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.632）
- Ⅰ カスタマイズ設定から、FCTA の設定を変更することができます。（→P.632）

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青に変わったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

Ⅱ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- Ⅰ シフトポジションが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションが N で停止しているとき
- Ⅰ ブレーキホールドが作動中のとき
- Ⅰ レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

Ⅱ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- Ⅰ 先行車がオートバイ・自転車などのとき

- | 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- | 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- | センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

n 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- | 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- | 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

n 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- | 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合
- | 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合
- | 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合
- | 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.632)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.632)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。
- l RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

n RSA を使用してはいけない状況

- l システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- l センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296

ディスプレイ表示機能

- l 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- l 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標

識が制限される場合があります。

□ 知識

n 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- l システムが標識を認識しているとき
- 次の状況では、標識の表示が消えることがあります。
- l 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

- l 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

- l 終わりを示す補助標識を認識したとき

n 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- l 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

- l 電光標識のコントラストが低いとき

- l 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

- l 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

- l 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

- l 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

- l 先行車の後部分にステッカーが貼有的时候

- l システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

- l 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

- l ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

- | トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- | 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- | 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- | 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- | ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- | ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- | 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- | 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- | 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

n 告知機能の作動条件

- | 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

- | 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

- | 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

n 告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- | 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。

- ・ 右左折等により標識が検知できないとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 信号機が点滅信号のとき
- ・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・ 交差点間の距離が近いとき
- └ 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・ 信号機の灯色が黄色のとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- └ 次の種類の道路標識を表示します。
- ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

- └ RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.632)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で利用してください。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.342

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

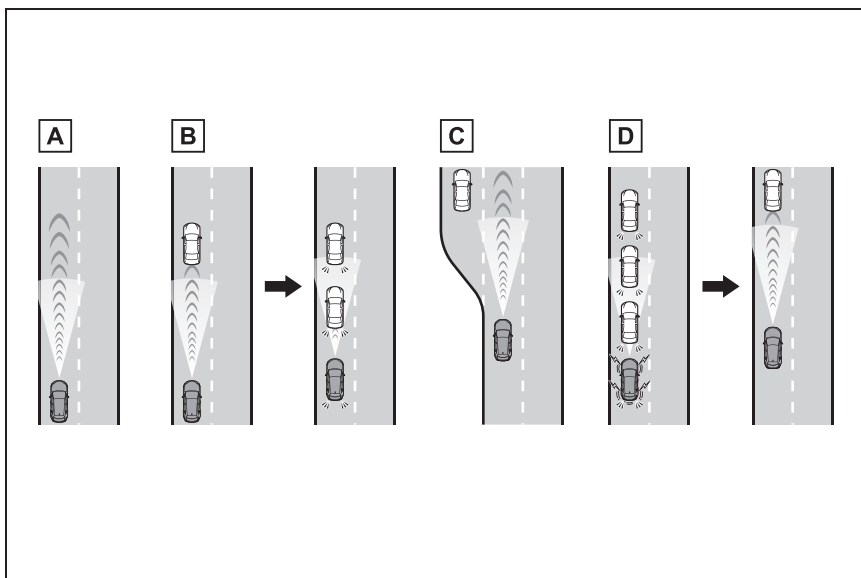
警告

n レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 歩行者や自転車等が混在している道
- | 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- | 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- | センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.296
- | システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

基本機能



- A** 定速走行：
先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行・追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

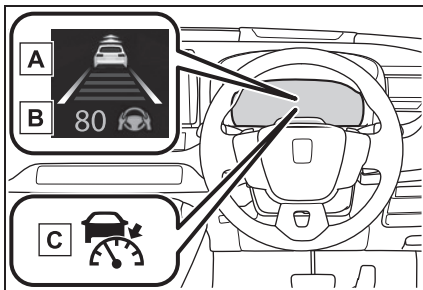
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約3分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

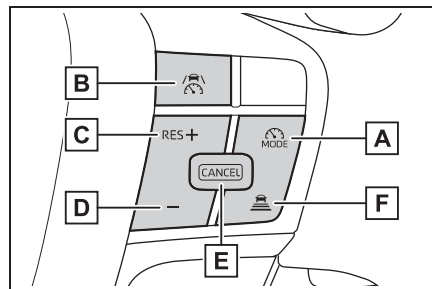
システムの構成部品

n メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

n 操作スイッチ



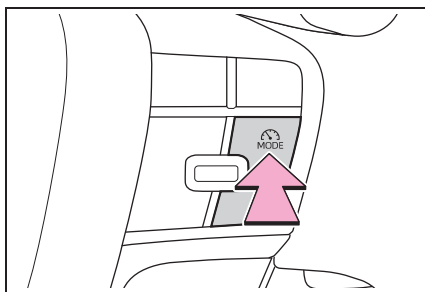
- A** 走行支援モード選択スイッチ
- B** 走行支援スイッチ
- C** “+” スイッチ、“RES” スイッチ
- D** “-” スイッチ
- E** キャンセルスイッチ
- F** 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロール を使用する

速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択します。

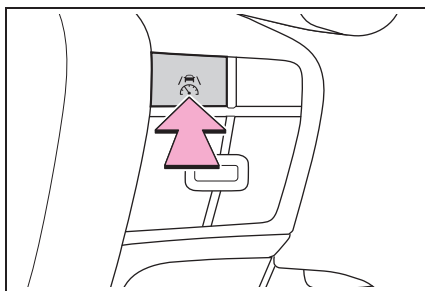
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

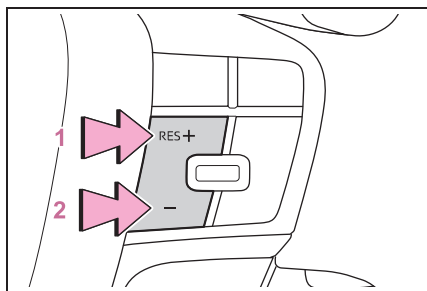
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- 1 スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スイッチまたは“-”スイッチを押します。



- 1 速度を上げる

- 2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1 km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

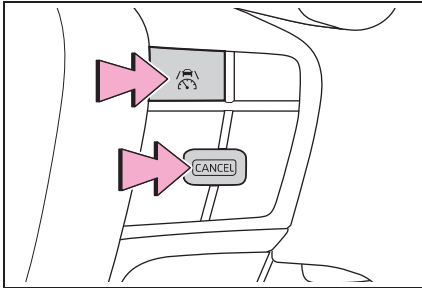
カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

- 1 アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

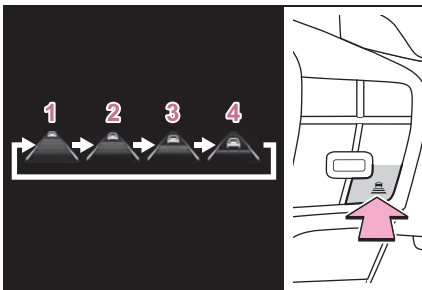
(制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)

- 2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安 (車速 100km/h の場合)
1	短	約 30m
2	中	約 45m
3	長	約 60m
4	最長	約 70m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

n 設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
- 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

n 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

n 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

n 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- ┆ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：ブリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- ┆ パーキングブレーキが作動したとき
 - ┆ 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
 - ┆ ブリクラッシュセーフティが OFF のとき
 - ┆ 急坂路で制御停車したとき
 - ┆ 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した
- 自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

- ┆ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298

n レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.292

n センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.342）も作動しないおそれがあります。

- ┆ 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- ┆ 自車が車線変更しているとき
- ┆ 先行車が低速で走行中のとき
- ┆ 同じ車線に停車中の車がいるとき
- ┆ 同じ車線を二輪車が走行中のとき

n システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ┆ 先行車が急ブレーキをかけた場合
- ┆ 渋滞時等、低速で車線変更したとき

n 再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ┆ 自動車専用道路など限定された道路を走行中。
- ┆ 先行車が存在し、システムが先行車を検知できている
- ┆ 先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない
- ┆ 先行車が入れかわっていない
- ┆ クリアランスソナーおよび前側方レーダが前方の物体を検知していない
- ┆ 運転者が前方を向いているとドライバーモニターが判断している
- ┆ ハンドルを操作していない
- ┆ ブレーキペダルを操作していない

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

n 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような

場合は警報されないことがあります。

- Ⅰ 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- Ⅰ 先行車が極端な低速走行をしているとき
- Ⅰ 速度を設定した直後
- Ⅰ アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

n カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- Ⅰ 緩やかなカーブを走行しているとき
- Ⅰ アクセルペダルを操作しているとき
- Ⅰ 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

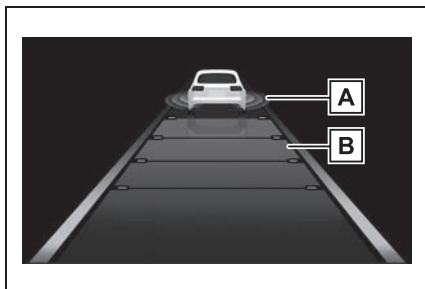
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示



知識

n 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- l 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- l 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- l 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

n 通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

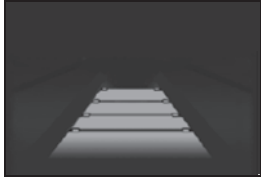
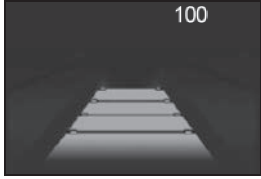
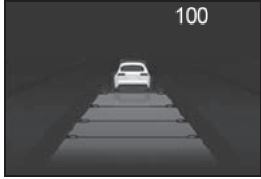
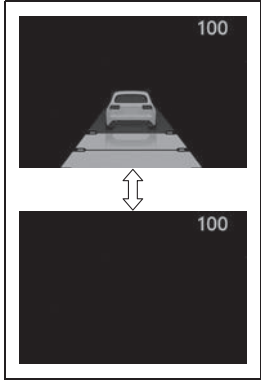
- l 先行車との通信が途絶したとき
- l センサーが先行車を誤って検知したとき
- l トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- l 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- l 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

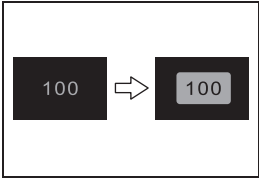
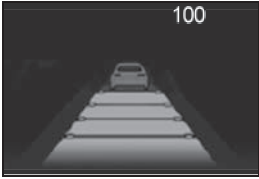
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- l レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。(→P.632)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

n クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

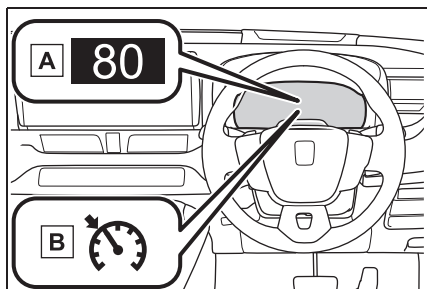
- ⌋ 急カーブのある道
- ⌋ 曲がりくねった道
- ⌋ 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ⌋ 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- ⌋ システムを OFF にする必要があるとき：→P.292

システムの構成部品

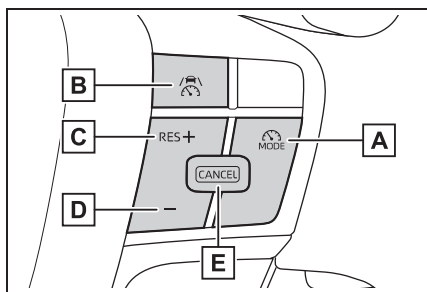
n メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

n 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D “-” スイッチ

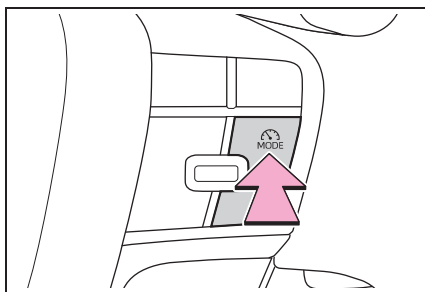
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

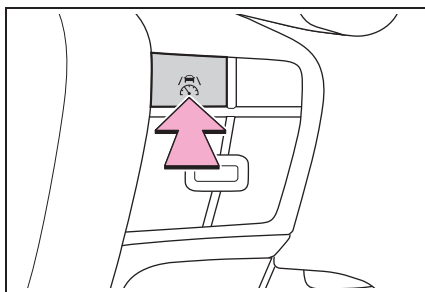
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

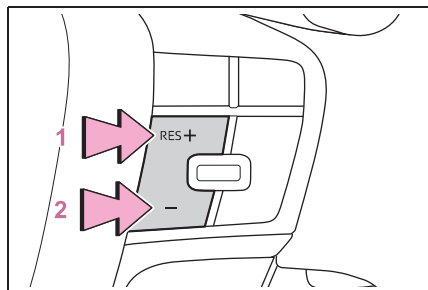
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- 1 スイッチで設定速度をかえる
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スウィ

チまたは“-”スイッチを押します。



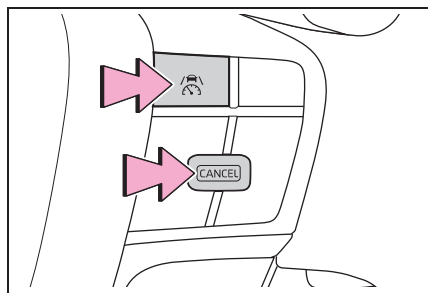
- 1 速度を上げる
- 2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h
大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

- 1 アクセルペダルで設定速度を上げる
- 1 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 “+” スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す
ブレーキペダルを踏んだときも解除され

ます。

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

 知識

n クルーズコントロールの自動解除

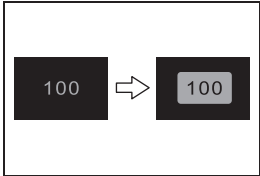
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

┃ 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

- ┃ 車速が約 30km/h 未満になったとき
 - ┃ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- (例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- ┃ パーキングブレーキが作動したとき
 - ┃ 運転席シートベルトを着用していないとき
 - ┃ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		なし	クルーズコントロール OFF
 緑色		設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定速度：緑色 反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）制御中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況：→P.298

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。「警告1フェーズ」、「警告2フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。

す。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

n 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

l システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

l LTA を ON にしているとき

または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）制御中のとき

l 自車速が約 50km/h 以上

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）作動中は 50km/h 以下でも作動します

n 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

l LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

l レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

l ドライバ操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

l 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

l 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

l パワースイッチを ON から OFF にしたとき

l システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.298

n 作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからでも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

ドライバ異常の検出状況によっては警告 1 フェーズを経由せず警告 2 フェーズから制御が開始される場合があります。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は続きます。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、

ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。



知識

n ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

n 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

l LTA

l LCA

l アドバンストドライブ（渋滞時支援）

警告

n ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）

機能概要

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・加減速・停車・発進を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）を支援するセンサー

- Ⅰ 周囲の状況を検出するセンサー（→P.293）
- Ⅰ 運転者の状態を検出するセンサー（→P.294）

知識

- n システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.298

- n ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.298

- n ドライバーモニターが正常に作動しないおそれがある状況

→P.298

ドライバー異常時対応システム

→P.350

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.337

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・加減速・停車を支援するシステムです。

作動条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。（→P.355）

レーダークルーズコントロール、LTA（レーントレーシングアシスト）の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

警告

- n 安全にお使いいただくために

Ⅰ 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

Ⅰ 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。

本システムは道路の形状・状態・交通状況や運転者の状態に応じて、運転者への情報提供や運転支援を行います。常に周囲の状況を把握した上で、運転者の責任においてシステムを使用してください。

⚠ 警告

- Ⅰ 渋滞時支援機能は周囲の状況・道路の状態、運転者の状態によっては作動しない、または作動を中断することがあります。また、常に同じ性能を発揮できるものではありません。機能の作動条件をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- Ⅰ 渋滞時支援機能の認識性能・制御性能には限界があるため、システム作動中であっても運転者自身の操作で安全を確保する必要があります。また本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中はLDAの逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- Ⅰ システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- Ⅰ 渋滞時支援機能作動中でも運転者での操作が必要となる状況があるため、運転者自身で視界を確保する必要があります。
- Ⅰ 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

Ⅰ 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作を回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 路上落下物
- ・ 車線外（路肩など）にいる車両
- ・ くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
- ・ 工事区間
- ・ 隣接する並走車両や壁
- ・ 動物

n 機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅰ システムを OFF にする必要があるとき

→P.292

Ⅰ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.296

Ⅰ 車線を検知できないおそれがあるとき

→P.298

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

Ⅰ 水しぶきがかかったとき

Ⅰ 外気温が高温または低温のとき

⚠ 警告

- | 自車の前方に割り込みがあったとき
- | 合流してくる車線があるとき
- | 見通しが悪い状況で走行しているとき
- | 車両姿勢が変化しているとき
- | タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- | 中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路を走行しているとき
- | 自車と他車の速度差が大きいとき
- | 地図情報が正常に更新されていないとき
- n レーダーの故障や誤作動を防ぐために
→P.294
- n 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために
→P.295
- n フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について
→P.296

📖 知識

n 機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- | システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- | レーダークルーズコントロールおよびLTA（レーントレーシングアシスト）が作動しているとき
- | 方向指示レバーを操作していないとき
- | 急なカーブを走行していないとき

- | 車線中央付近を走行しているとき
- | ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- | 高速道路・自動車専用道路の本線にて渋滞走行しており、車速が約40km/h以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約30km/h以下で機能が開始します）
- | 運転席ドアが閉まっている
- | 運転席シートベルトを締めている
- | アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）のカスタマイズがOFFに設定されていないとき
- | システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- | PCS カスタマイズがOFFに設定されていないとき
- | レーダークルーズコントロールの再発進可能時間延長カスタマイズがOFFに設定されていないとき

n 機能の一時解除

- | 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- | 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音と表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。
(→P.356)

n 制御走行中の運転操作について

- | アクセルペダル

通常走行と同様、アクセルペダルを踏むことで加速できます。約10km/h以上で走行中にアクセルペダルを踏んだときに

は、機能が解除されます。

ブレーキペダル

通常走行と同様、ブレーキペダルを操作することができます。ただし、制御走行は解除されます。

ハンドル

通常走行と同様、ハンドルを操作することができます。一定以上ハンドルを操作すると、制御走行が解除されることがあります。

ディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

“Advanced Drive 使用できません 販売店で点検”

渋滞時支援機能が正常に作動しなくなっているおそれがあります。販売店で点検をうけてください。

“Advanced Drive 使用できません 停車支援機能 作動履歴有”

ドライバー異常時対応システムが作動したため、一時的にシステムが使用できません。使用するには、パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしてください。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

渋滞時支援機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.632）

ドライバーモニターの画像記録機能は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.632）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示	状態	対処
	渋滞時支援機能が作動中	—
 (灰色)	渋滞時支援機能終了を事前に告知	ハンドルを保持する
 (黄色)	渋滞時支援機能終了を告知	ハンドルを保持する

ディスプレイ表示	状態	対処
 (赤色)	レーダークルーズコントロール／LTA（レーントレーシングアシスト）の両方、またはいずれかの作動が終了したことを通知	速やかに運転者自身でハンドルを保持し、運転操作を行う
 (黄色)	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要であることを告知	運転者自身で周辺環境に応じて、ハンドル・アクセル・ブレーキの操作を行う

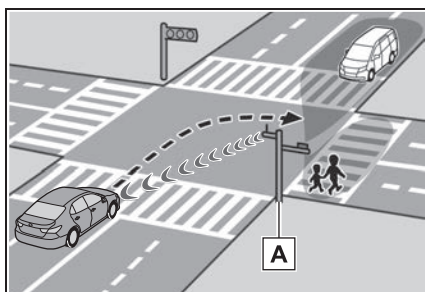
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

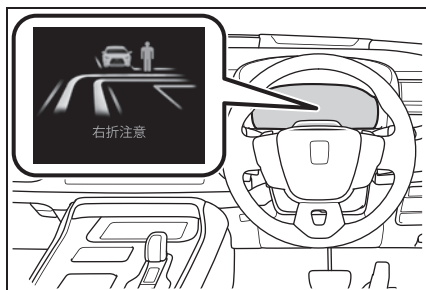
n 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

n 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.343 を参照してください。

知識

n ITS Connect 機器に関する情報

- l 本製品は、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- l フリー／オープンソースソフトウェア情報について
本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
<https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/>

- l 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

機種名：DTU-1030

型式認定番号：10008

- l 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

n ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

- l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→P.362)をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

n ITS Connect について

- l 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

- ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
- ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- l 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

n 右折時注意喚起 (DSSS 用路側装置との通信) について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→P.360)をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

n 右折時注意喚起 (通信機を搭載した車両との通信)・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

n ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ・ ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。
ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではありませんのでご注意ください。
- ・ ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

n 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります

す。

- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

n 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示燈を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

n 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近

する右または左方向の車両を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

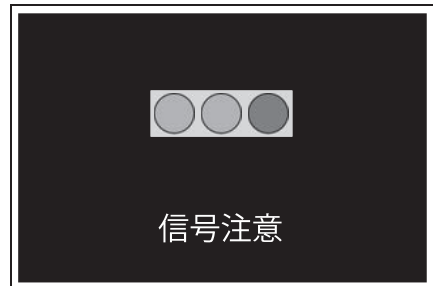
低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

n 赤信号注意喚起

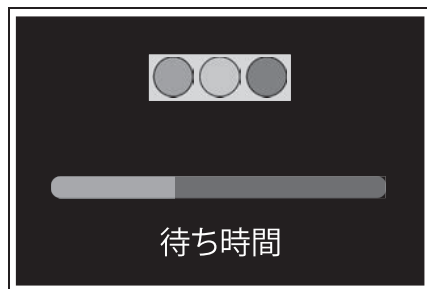
赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



n 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号が変わることを表します。



n 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



知識

n 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- ・ トンネルや高架下を通過しているとき
- ・ ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでの間

例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
- ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
- ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
- ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
- ・ 他車両の通信機が故障しているとき

右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- ・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- ・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向

車や歩行者がいるとき

- ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- └ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- └ 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
 - ・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- └ 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 遅い速度で走行しているとき
 - ・ 停車しているとき
 - ・ 交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
 - ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- └ 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
 - ・ 青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
 - ・ 停車していないとき
 - ・ 交差点付近の側道や駐車場など、

DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき

- ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- └ 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
 - ・ 緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
 - ・ 立体交差点付近を走行しているとき
 - ・ 緊急車両から受信した情報が誤っているとき

n 出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの車両設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。

└ 信号情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）※¹

- ・ 赤信号注意喚起
- ・ 信号待ち発進準備案内

└ 道路環境情報

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）※¹

- ・ 右折時注意喚起
- ・ 出会い頭注意喚起 ※²

└ 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON / OFF を切り替えることができます。（初期設定：

ON)

I 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切り替えることができます。（初期設定：高い）※3, 4

- ・ 右折時注意喚起
- ・ 赤信号注意喚起

I クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON / OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）

- ※¹ 信号情報または道路環境情報に含まれる各機能を個別に ON / OFF することはできません。
- ※² FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。
- ※³ 各機能の通知感度を個別に変更することはできません。
- ※⁴ 「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

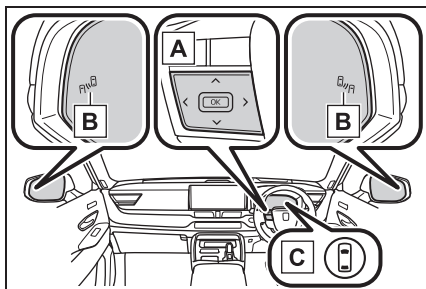
n 安全にお使いいただくために

I 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

I ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター(→P.156) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され

n 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



ます。

 知識

n ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

n ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

C5-001

 警告

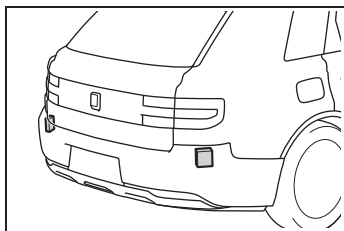
n システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

⚠ 警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.368）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談下さい。

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

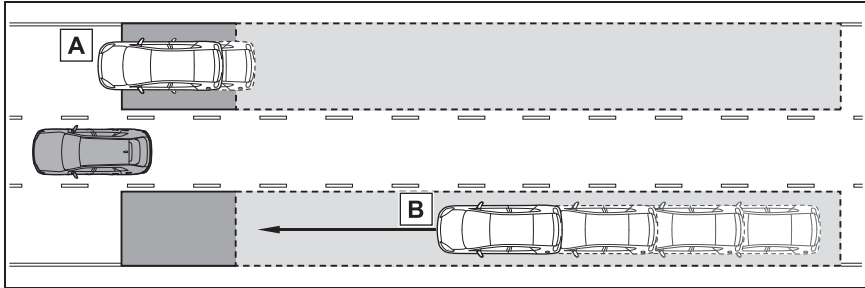
ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.632）

ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.156）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

n 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

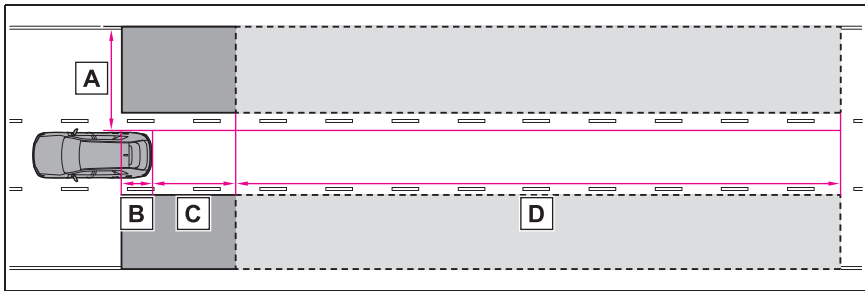


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

n 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※¹

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※²

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※³

※¹ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続

します。

※³ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状況で点灯・点滅します。

n 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディ
パーチャーアラート）にあります。
本機能の作動条件などの詳細につ
いては P.320 を参照してくださ
い。

□ 知識

n 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作
動します。

- l パワースイッチが ON のとき
- l ブラインドスポットモニターが ON のと
き
- l シフトポジションが R 以外のとき
- l 車速が約 10km/h 以上のとき

n センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のよ
うな状況で検知範囲に入った車両を検知
します。

- l 隣の車線を走行する他車に自車が追い
こされるとき
- l 小さい速度差で隣の車線を走行する他
車を追いこすとき
- l 他車が車線変更中に検知範囲に進入す
るとき

n システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のよ
うな車両や車両以外のものを検知対象と
しません。

- l 小型のオートバイ・自転車・歩行者な
ど ※
- l 対向車

- l ガードレール・壁・標識・駐車車両な
どの静止物 ※

- l 同じ車線を走行する後続車 ※

- l 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

- l 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあり
ます。

n ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを
操作していてもドアミラーインジケー
ターは点滅しますが、ブザーは鳴りませ
ん。

- l 方向指示レバーを継続して操作したま
ま、2 台目の車両を検知したとき
- l 大きい速度差で隣の車線を走行する他
車を追い越すとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあ
ります。

n システムが正しく作動しないおそれがある状況

- l 次のような状況では車両を正しく検知
しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃
などにより、センサーの位置や向きが
ずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセン
サーやセンサー周辺のリヤバンパーに
付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまり
などの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接
近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が
大きすぎるとき

- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- ・ けん引しているとき

特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

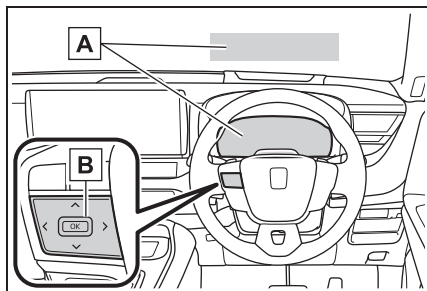
後方車両接近告知を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

システムを正しく作動させるために

→P.365

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B メーター操作スイッチ

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえます。

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.632)

知識

n ブザー音の聞こえ方について

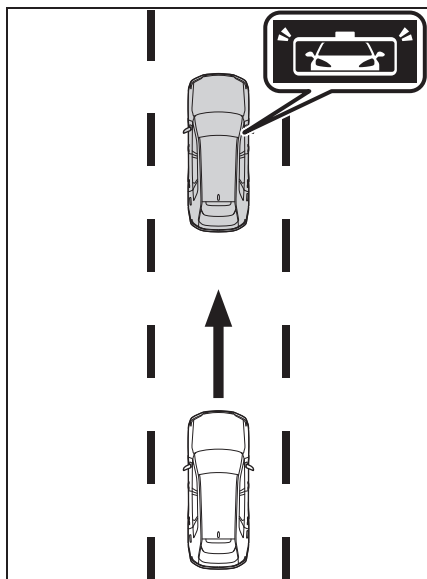
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

n 後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ┆ パワースイッチが ON のとき
- ┆ 後方車両接近告知が ON のとき
- ┆ シフトポジションが R 以外のとき
- ┆ 車速が約 60km/h 以上のとき
- ┆ 方向指示レバーを操作していないとき
- ┆ ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ┆ 前回作動から約5分以上経過していること

n センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

n システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ┆ 小型のオートバイ・自転車・歩行者な

ど※

┃ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

┃ 対向車

┃ 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n 後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

┃ 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んだとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ 後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
 - ・ 後続車が自車から離れていくとき
 - ・ 後続車が自車を追い越そうとしているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- ┃ 特に次のような状況では、後続車の接

近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート (録画機能、通報提案機能)

周辺車両接近時サポートは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方）※が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

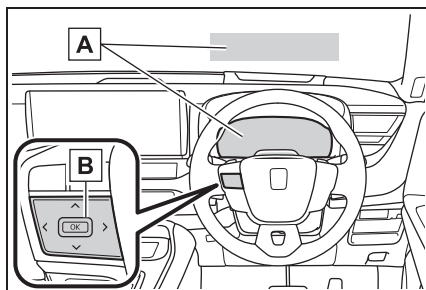
周辺車両接近時サポートを使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

n システムを正しく動作させるために

→P.365

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B メーター操作スイッチ

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.632)

□ 知識

n 音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、音声が届かなくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

n 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイで“はい (YES)” を選択してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

お困りですか？
110番通報しますか？

YES

NO

n ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、ヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

SOS

お困りですか？
ヘルプネットに接続しませんか？

n イベント録画（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

n イベント録画の通知（ドライブレコーダー【前後方】装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

n 周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l パワースイッチが ON のとき
- l 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- l シフトポジションが R 以外のとき
- l 車速が約 60km/h 以上のとき
- l 方向指示レバーを操作していないとき
- l ブレーキペダルを踏んでいないとき
- l 前回作動から約 10 分以上経過しているとき

n 通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l 携帯電話がマルチメディアと Bluetooth[®] でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth[®] ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

- l 携帯電話の電波が圏外でないとき
- l 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

n ヘルプネット接続提案の作動条件

- l 通報提案がされていないとき
- l ヘルプネットの契約がされている

n センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

n システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- l 対向車
- l 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n 周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

- l 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んだとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- l 特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・ 自車が右左折するときに後続車が自車の真後ろを通過したとき
 - ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車

- ・ 両が検知範囲に入ったとき
- ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

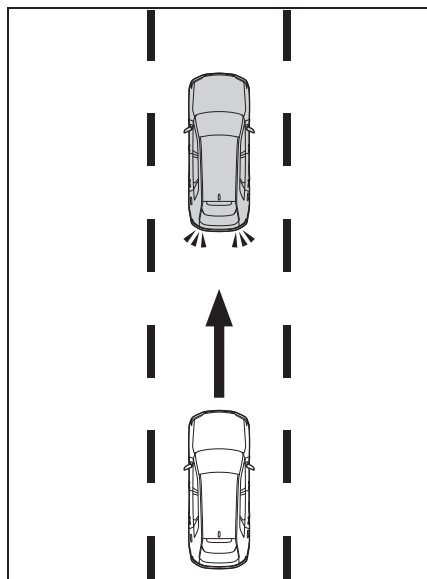
n システムを正しく作動させるために

→P.365

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーショ

ディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



□ 知識

n 後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- ┃ パワースイッチが ON のとき
- ┃ シフトポジションが R 以外のとき
- ┃ 方向指示レバーを操作していないとき
- ┃ 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h の間
- ┃ 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

n センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

n システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ┃ 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ┃ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- ┃ 対向車
- ┃ 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

- ┃ 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
 - ・ 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
 - ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
 - ・ 後方車両が近距離まで急接近したとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

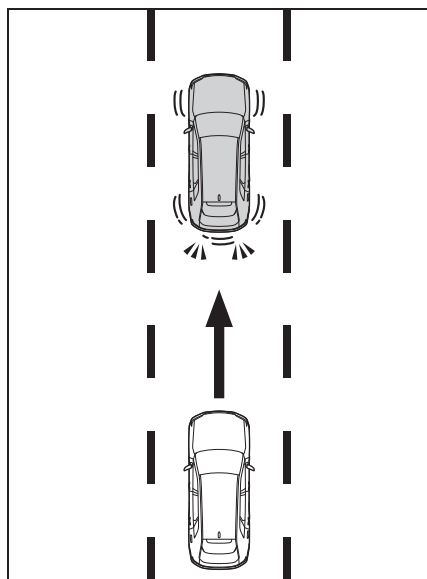
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムを正しく作動させるために

→P.365

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

n セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- l パワースイッチが ON のとき
- l シフトポジションが R 以外のとき ※
- l 方向指示レバーを操作していないとき
- l 前回作動から約 7 分以上経過しているこ

と

- l 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間
- l 自車の車速が約 0km/h のとき
- ※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

n センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

n システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- l 対向車
- l 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- l 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たま

- りなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 停車した直後に後方車両が接近したとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- | 特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・ 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・ 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 停車間隙・発進直後に後方車両が接近したとき
- ・ 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
- ・ 洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

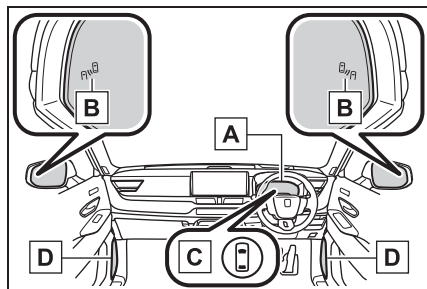
！ 警告

n 安全にお使いいただくために

- ！ 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ！ 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケータが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケータ

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケータ（→P.156）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケータが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー

ドアミラーインジケータが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

□ 知識

n ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいことがあります。

n ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

n 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施され

ません。

- | 車内に乗員がいないと推定されるとき※
 - | ドアを開いて乗車後、ハイブリッドシステムを始動するまで
 - | ハイブリッドシステム停止後3分以上経過したとき
 - | マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
 - | 外部より全ドアが施錠されているとき
 - | ハイブリッドシステム停止後、同一のドアが開いている状態が1分以上継続しているとき
 - | マルチメディアディスプレイの ACC カスタマイズ (→P.632) が ON の状態で、ハイブリッドシステムが停止しているとき
 - | マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき
- ※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

⚠ 警告

n システムを正しく動作させるために
→P.365

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.632)

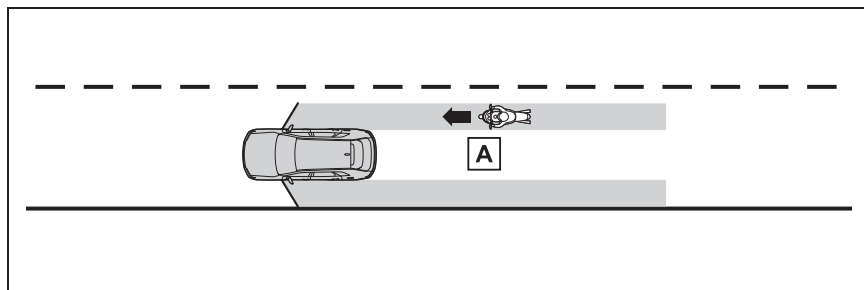
安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

n 安心降車アシストが検知できる対象

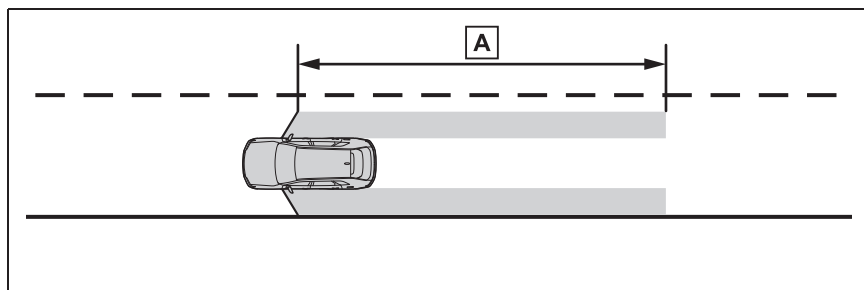
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



- A** ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

n 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



- A** フロントドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケータは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。



知識

n 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- l 安心降車アシストが ON のとき
- l 停車中

l シフトポジションが R 以外のとき

n センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- l 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

n システムが車両を検知しない条件

- l 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
 - ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※

- ・ ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※
- ・ 真うしろから接近する車両・自転車 ※
- ・ 前方から接近する車両・自転車 ※
- ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- ・ 歩行者、動物など ※

Ⅰ 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

- ・ ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・ 自車が完全に停車していないとき

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n システムが正しく作動しないおそれがある状況

Ⅰ 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・ 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 発進した直後の車両や自転車
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 接近する車両や自転車の周囲に走行す

る車両があるとき

- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき

Ⅰ 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

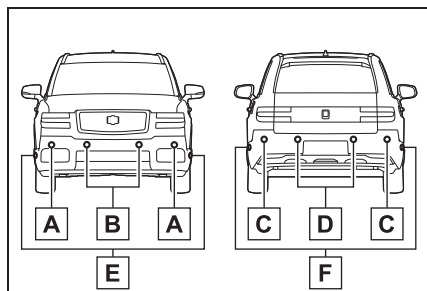
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・ 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

n センサーの種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンターセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** リヤセンターセンサー
- E** フロントサイドセンサー
- F** リヤサイドセンサー

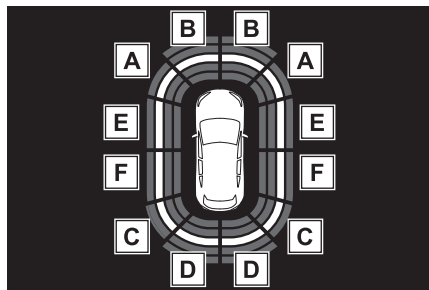
n クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

マルチメディアディスプレイまたはリヤカメラ非装着車は、静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯しま

す。(→P.156)

マルチメディアディスプレイの表示：



- A** フロントコーナーセンサー作動表示
- B** フロントセンターセンサー作動表示
- C** リヤコーナーセンサー作動表示
- D** リヤセンターセンサー作動表示
- E** フロントサイドセンサー作動表示
- F** リヤサイドセンサー作動表示

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.632)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯(→P.156) が点灯します。OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー(→P.632) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しま

せん。
(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

ただし、マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON(作動)になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。またこのとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切り替えることができません。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

n 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- l センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- l センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。

l センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

l 改造・分解・塗装をしないでください。

l ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

l 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

l 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

n 洗車時の注意

l 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

l スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

n 作動条件

- l パワースイッチが ON のとき
- l クリアランスソナー機能が ON のとき
- l 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- l シフトポジションが P 以外にあるとき
- l マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF (非作動) に設定している場合でも、自動的に ON (作動) になり、クリアラン

スソナー OFF 表示灯が消灯します。
クリアランスソナー機能の設定自体は
変更されません。

n センサーの検知について

- | センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- | 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- | センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- | 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- | オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- | 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- | メーター故障時はブザーの音がならないことがあります。

n システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

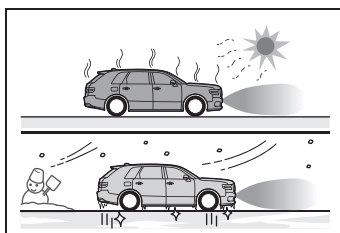
- | 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
 - | 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
 - | 鋭角的な形のもの
 - | 背の低いもの
 - | 背が高く上部が張り出しているもの
- 特に人は衣類の種類によっても検知でき

ない場合がありますので、常に目視で確認してください。

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- | センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- | センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- | 炎天下や寒冷時



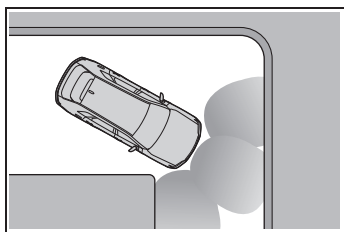
- | 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- | 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- | 大雨や水しぶきがかかったとき
- | センサーに静止物が近付きすぎたとき
- | 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- | 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- | 風が強いとき
- | 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- | 作動対象物と車両の間に検知できない

対象物があるとき

- ┃ 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出てきたとき
- ┃ 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- ┃ センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- ┃ 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ┃ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ┃ タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ┃ けん引しているとき
- **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

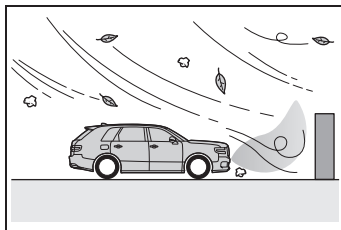
- ┃ 狭い道路を走行するとき



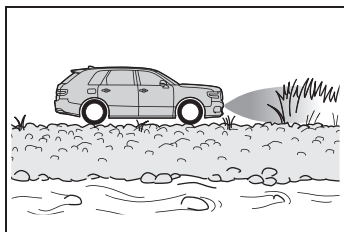
- ┃ 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ┃ 地面にわだちや穴がある場合
- ┃ 排水溝などの金属のフタ（グレーチン

グ）走行時

- ┃ 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- ┃ 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- ┃ センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ┃ 大雨や水しぶきがかかったとき
- ┃ 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- ┃ 風が強いとき



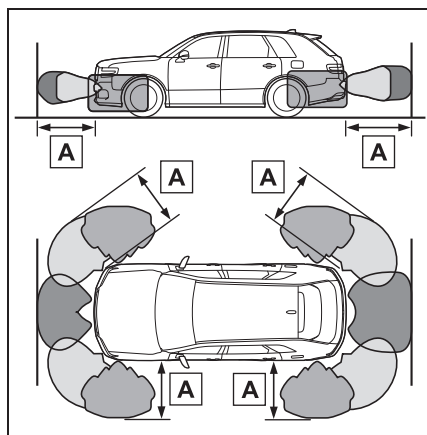
- ┃ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- ┃ 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ┃ 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- ┃ 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- ┃ 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- ┃ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ┃ 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- ┆ タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ┆ けん引しているとき

距離表示の見方

n 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

n 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm サイドセンサー： 約 200cm ～ 165cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※ サイドセンサー： 約 165cm ～ 60cm※	断続音
サイドセンサー以外： 約 60cm ～ 45cm※ サイドセンサー： 約 60cm ～ 40cm※	速い断続音
サイドセンサー以外： 約 45cm ～ 30cm※ サイドセンサー： 約 40cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	継続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.390）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。
ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。
静止物との距離が約 30cm 以下

のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動

ミュート機能)



知識

n ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.632)

n ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時

的にブザー音を消すことができます。

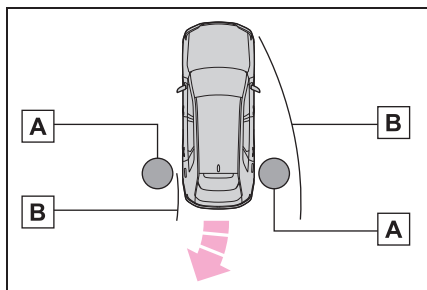
クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

↓ 次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定値以上になったとき
- ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
- ・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

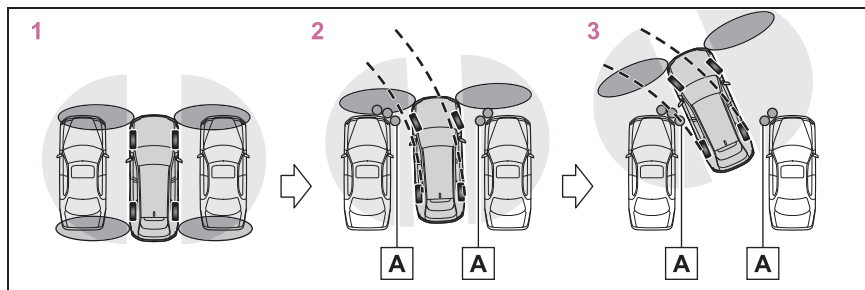
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

- 1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。
- 2 車両移動中に静止物を検知
- 3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

n 巻き込み警報機能の作動条件

- l ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- l シフトポジションが R のとき
- l シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- l  が押され、マルチメディアディスプレイが表示されているとき
- l フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

n サイドエリアの静止物の検知について

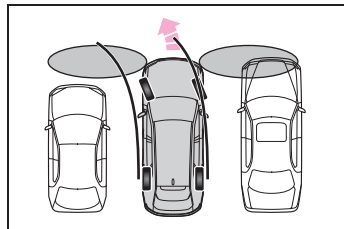
- l サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- l サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

警告

n サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- l パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- l サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合
- l サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。
- l サイドミラーが閉じられているときは、障害物を検知できません。
- l 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

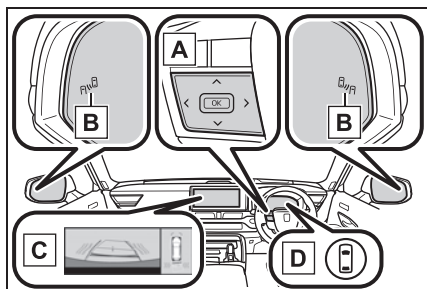
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n システムを正しく作動させるために

→P.365

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター (→P.156) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.393) が点灯します。イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.632)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報灯（→P.156）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。



n ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーイン

ジケータが見えづらいことがあります。

n RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

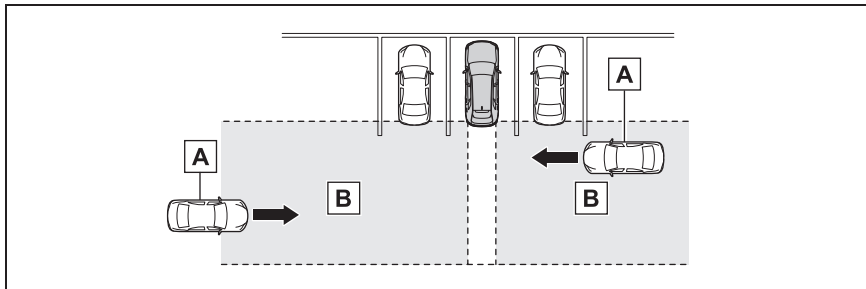
n 後側方レーダーセンサーについて

→P.365

RCTA 機能

n RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



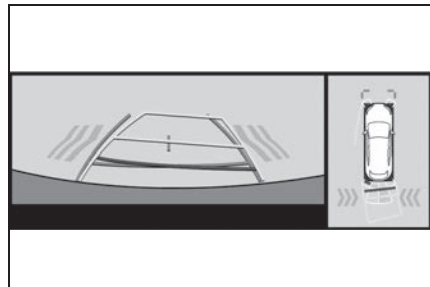
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

n RCTA アイコンの表示

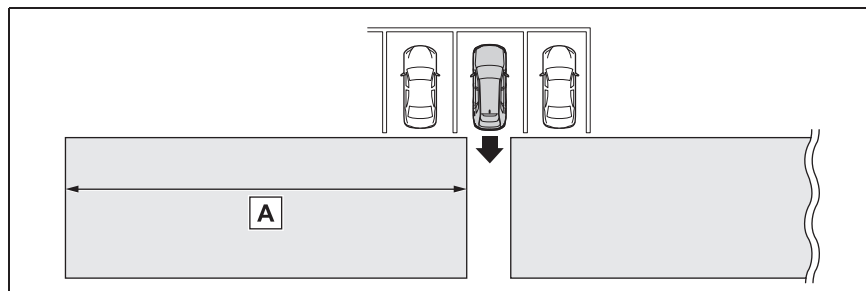
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



n RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m



知識

n RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ┆ パワースイッチが ON のとき
- ┆ RCTA 機能が ON のとき
- ┆ シフトポジションが R のとき
- ┆ 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- ┆ 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

n ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切り換えることができます。（→P.632）

n ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディ

アディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

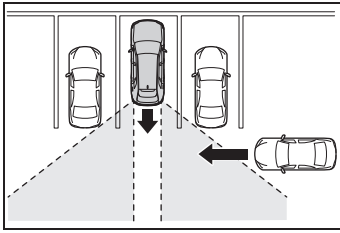
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- ┆ シフトポジションを切りかえたとき
- ┆ 車速が一定値以上になったとき
- ┆ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ┆ 使用中の機能を OFF にしたとき
- ┆ パワースイッチを OFF にしたとき

n システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ┆ 真後ろから接近する車両
- ┆ 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- ┆ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



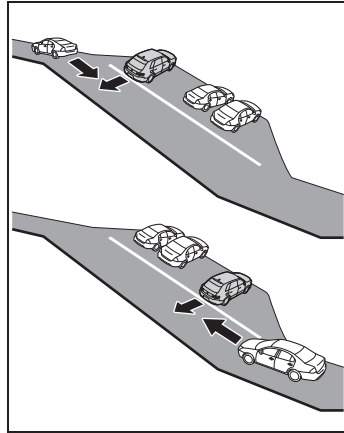
- ┃ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ┃ 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ┃ 自車から遠ざかる車両
- ┃ 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- ┃ センサーと接近車両との距離が近すぎる場合
- ※ 状況によっては検知をすることがあります。

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

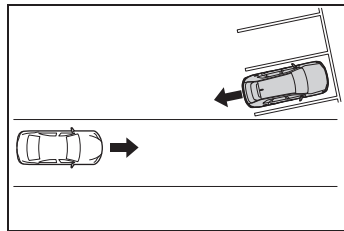
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- ┃ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ┃ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ┃ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ┃ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ┃ 車両が高速で接近するとき
- ┃ センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けしたとき
- ┃ 勾配の変化が激しい坂で後退している

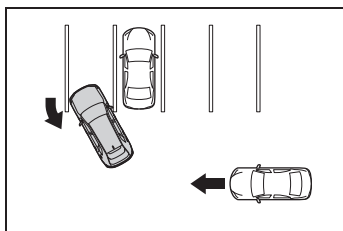
とき



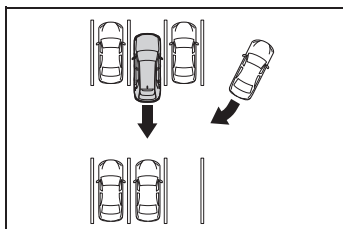
- ┃ 斜めの駐車場から出庫するとき



- ┃ RCTA 機能を ON にした直後
- ┃ RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
- ┃ 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- ┃ けん引しているとき
- ┃ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ┃ 炎天下や寒冷時
- ┃ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けしたとき
- ┃ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ┃ 自車が旋回しているとき



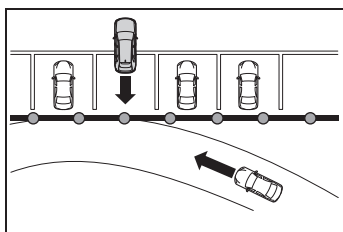
- Ⅰ 旋回しながら車両が近づいてきたとき



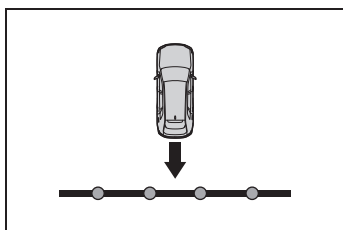
- Ⅱ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- Ⅰ 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



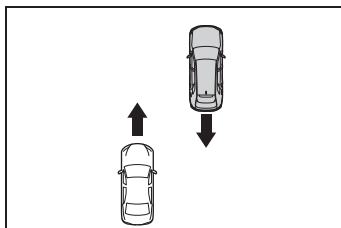
- Ⅰ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



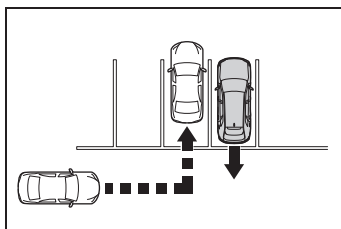
- Ⅰ センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- Ⅰ 車両が自車の横を通過するとき



- Ⅰ 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- Ⅰ 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- Ⅰ センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

- Ⅰ 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

- Ⅰ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- Ⅰ グレーチングや側溝

- Ⅰ 炎天下や寒冷時

- Ⅰ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

- Ⅰ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- Ⅰ けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

！ 警告

n 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

n システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ！ カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- ！ カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けしないでください。
- ！ カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ！ カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- ！ カメラにアクセサリ・ステッカーを付けしないでください。
- ！ リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けしないでください。
- ！ 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- ！ バックドアを完全に閉めてください。

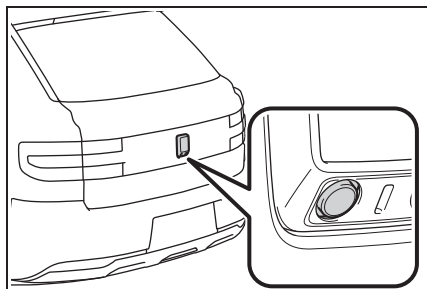
n RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあります。

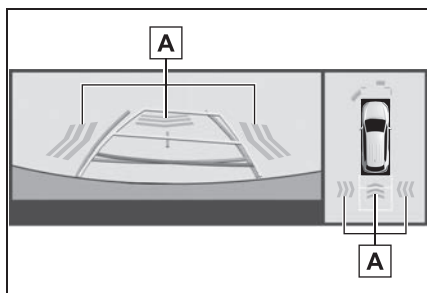
- ！ 上記の内容が守られないとき
- ！ 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



【A】歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

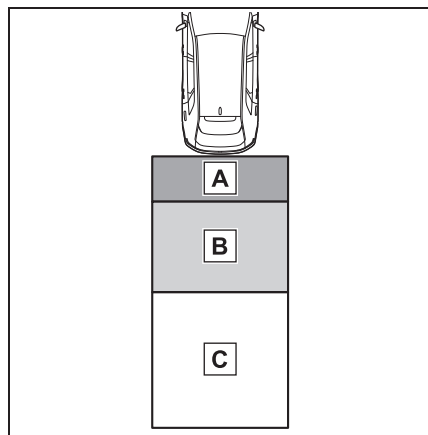
RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることが

できます。(→P.632)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.156) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディアディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者が**A**エリアにいる場合

ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

B 歩行者が**B**エリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるときシステムが判断した場合
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

n 作動条件

- l パワースイッチが ON のとき
- l RCD 機能が ON のとき
- l シフトポジションが R にあるとき
- l アドバンストパークが作動中でないとき

n ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.632)

n ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- l シフトポジションを切りかえたとき
- l 車速が一定値以上になったとき
- l センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- l 使用中の機能を OFF にしたとき
- l パワースイッチを OFF にしたとき

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- l 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
- ・ 寝転んでいる人
- ・ 走っている人
- ・ 自転車や建物の影から突然現れる歩行者
- ・ 自転車やスケートボード等に乗っている人
- ・ 合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- ・ カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
- ・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 悪天候（雨、雪、霧等）
- ・ レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
- ・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
- ・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
- ・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- ・ リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
- ・ けん引しているとき

n システムが作動するおそれがあるとき

例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
- ・ 移動物（通行車両、バイク等）
- ・ 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
- ・ 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
- ・ 金属のフタ（グレーチング）や側溝
- ・ 水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
- ・ 影

例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 路肩や段差があるとき
- ・ 勾配変化があるとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ リヤカメラ付近に市販の電波部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
- ・ 点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ・ けん引しているとき

検知を妨げる状況

- ・ オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞

こえない場合があります。

・ 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- Ⅰ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）（→P.404）
- Ⅰ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）（→P.407）
- Ⅰ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）（→P.409）
- Ⅰ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（→P.404）

警告

n 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

n パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

自走式洗車機を利用する場合

事故や故障で自車の走行が不安定なとき

オフロード走行やスポーツ走行をするとき

タイヤの空気圧が適正でないとき

著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

けん引しているとき

n サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.632）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.156）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、

カスタマイズメニュー (→P.632) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。
(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

I ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

I ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー (単発音)

I ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー (単発音)

I システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”

アクセルが踏まれていない場合は “ブレーキを踏んでください” が表示されず。

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ (連続音)

PKSB (パーキングサポートブレーキ) の作動について

PKSB (パーキングサポートブレーキ) は、衝突の可能性がある作動対象 (壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者) を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。(ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2)

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをか

サポートブレーキ) が停止したときに、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度 PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB (パーキングサポートブレーキ) が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。(→P.156)

- ┆ シフトポジションを P にする
- ┆ 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- ┆ 車両の進行方向を切りかえる

n クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく (→P.384)、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を停止させていなければ (→P.401)、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

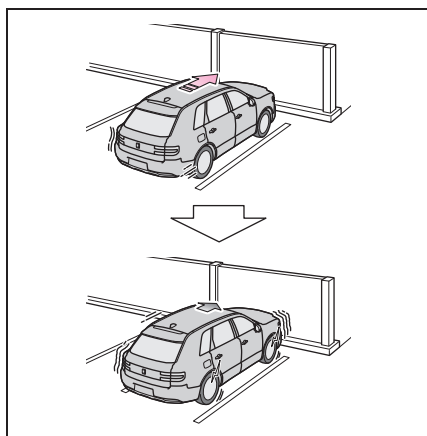
パーキングサポートブレーキ (前後方静止物 / 周囲静止物)

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

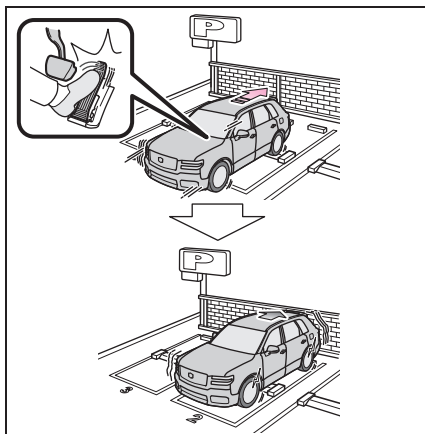
システム作動例 (前後方静止物)

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

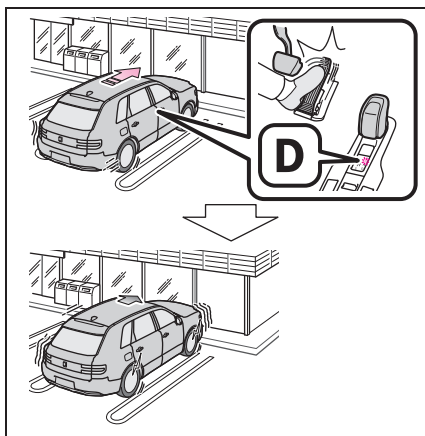
- n 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- n アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



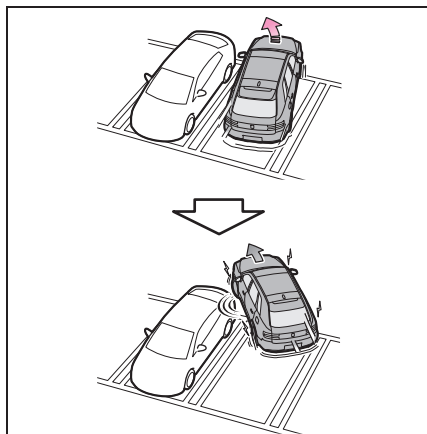
- n 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



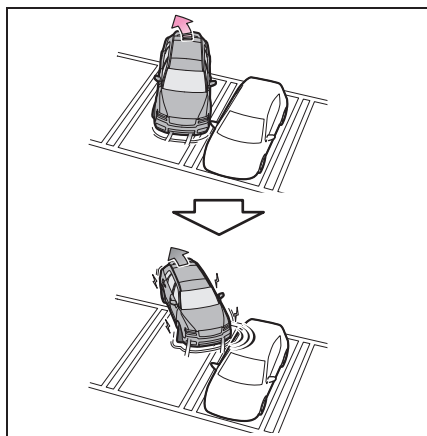
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

- n 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



- n 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.384



警告

- n システムを正しく作動させるために

→P.385

警告

n 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.403

n 洗車時の注意

→P.385

知識

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.155、156）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- l ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

l ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

n パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

- l ハイブリッドシステム始動後、車両が 7m 前進するあいだ
- l シフトポジションが R のとき
- l シフトポジションを R から D にしたあと、車両が 7m 前進するあいだ

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

l ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

l ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

n パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.388）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.386

n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.387

n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

前後方静止物の作動条件（→P.406）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。

l 縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.424）

n サイドエリアの静止物の検知について

l サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

l サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

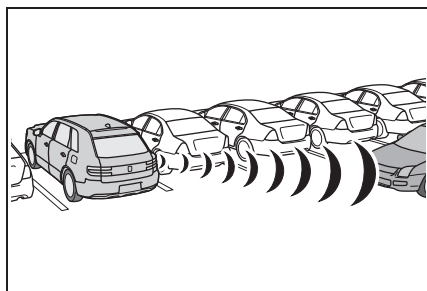
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

n 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.365

⚠ 警告

n システムを正しく作動させるために

→P.365

 知識**n パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.155, 156）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- l ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

- l ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

n パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- l ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自動車後側方への接近車両がなくなったとき

- l ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

n システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.395

n 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

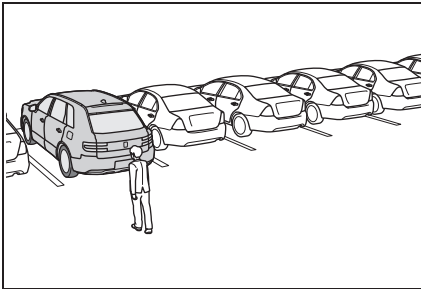
→P.396

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

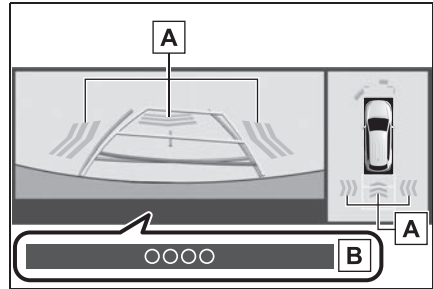
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！”

警告

n 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

n パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.397

知識

n パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.154, 581）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

l ハイブリッドシステム出力抑制制御
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を ON（作動）にしているとき

- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 自車後方に歩行者がいるとき
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

l ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

n パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

l ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

l ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

n パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.403

n パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.398）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後

方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.398

n システムが作動するおそれがあるとき

→P.399

トヨタチームメイト アドバンストパーク

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n リモート機能

アドバンストパークのリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.437

機能一覧

n 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.420)

n 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.423)

n 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.424)

n 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.427)

n メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.429)

n リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。(→P.434)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

■ システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

■ 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

■ 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

■ 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

■ 次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

- ・ 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- ・ 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- ・ 鋭角的な形のもの

・ 背の低いもの（縁石やブロックなど）

・ 背が高く上部が張り出しているもの

■ 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

■ 周辺の車両や障害物・車止め・人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

■ マルチメディアディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

■ 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

■ 次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき

・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・ 作動中に故障が発生したとき

⚠ 警告

- Ⅰ 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをすることがあります。
 - ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
 - Ⅰ 使用中は窓から手を出さないでください。
 - Ⅱ アドバンストパークを正しく作動させるために
- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Ⅰ 次のような状況では使用しないでください。
 - ・ 駐車場以外の場所
 - ・ 砂地・砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
 - ・ 傾斜・段差のある平坦でない駐車場
 - ・ 機械式駐車場
 - ・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ 真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
 - ・ 車両周辺に障害物があるとき

- ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき
- ・ 出庫方向に穴や側溝があるとき
- ・ 人や車両などの通行量が多いとき
- ・ 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- ・ カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき
- ・ タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき
- ・ ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
- ・ 窓から手を出しているとき
- ・ 降雪や豪雨の場合
- Ⅰ メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。
- Ⅰ 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
 - ・ タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・ 極端に重いものを積んでいるとき
 - ・ 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
 - ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

！ 警告

- ・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき
- ・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
- ・ 区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ リモート機能を使用するとき

- リモート機能はアドバンストパークの関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。
- スマートフォンアプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。
- リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中はアプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。

リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。

リモート機能使用中はスマートフォンの連続操作をやめる（指を止める、指をはなすなど）ことで車両を停止することができます。また、アプリで電源ボタンをタッチすることや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。

障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの連続操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止して下さい。

スマートフォンの連続操作の動きを早くしたり遅くしても、車両が加速したり減速したりせず、システムで一定の速度となるように制御されます。

スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。

走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。

車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。

万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の Remote Park アプリが必要です。以下のシステムがサポートされています。

・ Android™

⚠ 警告

- ・ Apple® iOS
- Ⅰ スマートフォンアプリへの車両登録時は車両と接続しているアプリを OFF にしてください。
- Ⅰ リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay 接続を OFF にして下さい。
- Ⅰ 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- Ⅰ リモート機能作動中は平坦で滑りにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。
- Ⅰ リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。
- ・ アシストを中止する
- ・ 車両を停止する
- ・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける
- ・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）
- ・ 車両が施錠されたままになる
- Ⅰ リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

- Ⅰ リモート機能使用中は、運転者は車両から約 3m 以上離れて立たないでください。それ以上離れると、リモート機能が中断され、メッセージがスマートフォン上に表示されます。車両に近づくともリモート機能を再開できます。
- Ⅰ 周囲が暗い場合はヘッドライトを自動で点灯します。
- Ⅰ 異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。
- ・ ドアを開く
- ・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過
- Ⅰ 以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。
- ・ ハイブリッドシステム始動中に、アシストモードを選択後
- ・ パワースイッチが OFF の時

⚠ 注意

n アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

n リモート機能を使用するとき

- Ⅰ 使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。

⚠ 注意

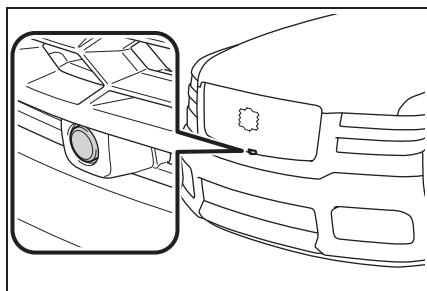
- Ⅰ 使用前にスマートフォンの Bluetooth 通信機能を ON にしてください。Bluetooth 機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- Ⅰ 使用中にスマートフォンの Bluetooth 機能を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- Ⅰ リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- Ⅰ リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で Remote Park アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3 分以上経過した場合はアシストを中止します。
- Ⅰ リモート機能使用中にアプリを強制終了しないでください。強制終了した場合は、アシストを中止します。
- Ⅰ 低温環境下では、補機バッテリー充電の為、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- Ⅰ 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- Ⅰ 下り勾配では、平坦な道路に比べ、走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。

- Ⅰ システム異常時には、シフトポジションが P またはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF してシステムを中止することがあります。その場合は、トヨタ販売店で点検を実施してください。
- Ⅰ システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- Ⅰ リモートスタートが作動している場合は、リモート機能が正常に作動しない場合があります。
- Ⅰ リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結によりパーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- Ⅰ 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

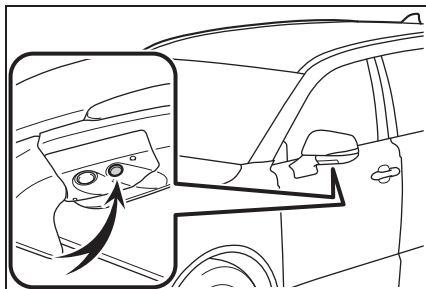
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

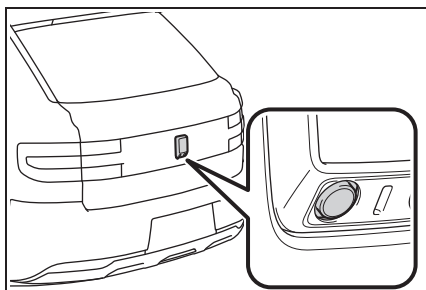
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.384



知識

n カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

n 使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」／周辺監視／パノラミックビューモニター（トヨタチームメイト アドバンストパーク装着車）を参照してください。

- └ 画面の映る範囲について
- └ カメラについて
- └ 画面と実際の路面との誤差について
- └ 画面と実際の立体物との誤差について

n カメラとセンサーの検知範囲について

- └ 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。
- └ 柱や壁など駐車車両以外は検出できません。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

n 区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

- └ 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
 - ・ 区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
 - ・ 区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
 - ・ 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
 - ・ 路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
 - ・ 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ・ 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
 - ・ 積雪や融雪剤があるとき
 - ・ 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
 - ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
 - ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
 - ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- └ 次のような状況では、目標駐車位置を

誤認識する場合があります。

- ・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
- ・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- ・車両周辺が暗いときや逆光のとき
- ・路面の色や明るさが一様でないとき
- ・勾配がついている駐車場
- ・ゼブラゾーンのある駐車スペース
- ・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- ・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
- ・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

n センサーの検知について

→P.386

n センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.386

n センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.386

n 衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.387

⚠ 警告

n カメラとセンサーの取り扱いについて

- ❗ カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

❗ センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.385）

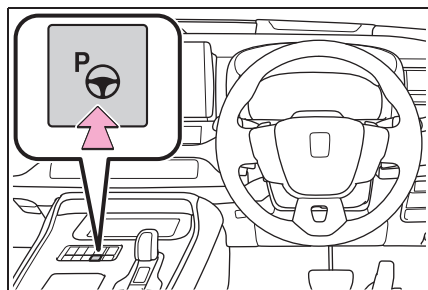
❗ 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- ・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示される場合は、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・ センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けしないでください。

アドバンストパークの ON / OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



□ 知識

n アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

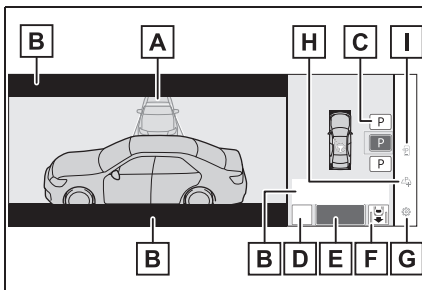
- | ブレーキペダルを踏んでいる
- | 停車している
- | 運転席シートベルトを着用している
- | ハンドルを操作していない
- | アクセルペダルを踏んでいない
- | ドアおよびバックドアが閉まっている
- | ドアミラーが格納されていない
- | パーキングブレーキがかかっていない
- | レーダークルーズコントロールが作動していない
- | ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
- | 急勾配でない
- | TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディアディスプレイのメッセージを確認してください。(→P.442)

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



- A** 目標駐車枠（青色）
- B** アドバイス表示
- C** 駐車形態切り換えスイッチ
複数表示された場合は、スイッチの表示

状態により次のことができます。

P または **P**：他の駐車可能な位置に変更

P または **P**：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切り換え

P：並列前向き・バック駐車機能への切り換え

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。(→P.431)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切り換えスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切り換え

：並列バック駐車への切り換え

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。(→P.440)

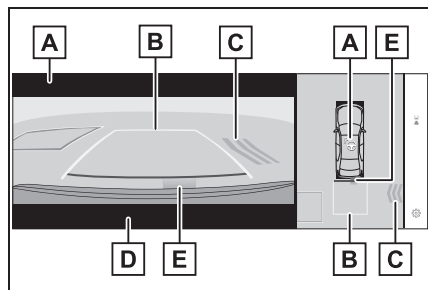
H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

▶ ガイド画面（後退時）

**A** 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン**D** 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.384

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。



知識

n クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON / OFF（→P.384）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

n アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可

能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

n ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

n アドバンストパーク作動中にマルチメディアディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使う

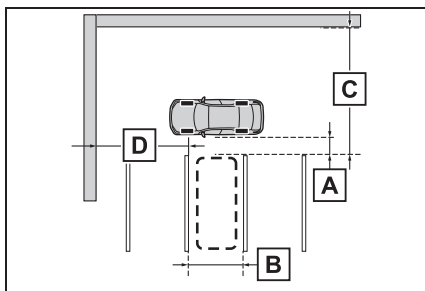
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシス

トします。

並列前向き・バック駐車機能 を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合

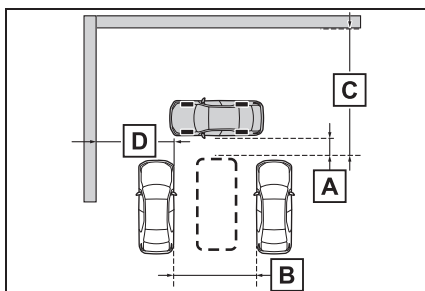


- A** 約 1m※
- B** 約 2.5m※
- C** 約 6m 以上 ※
- D** 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



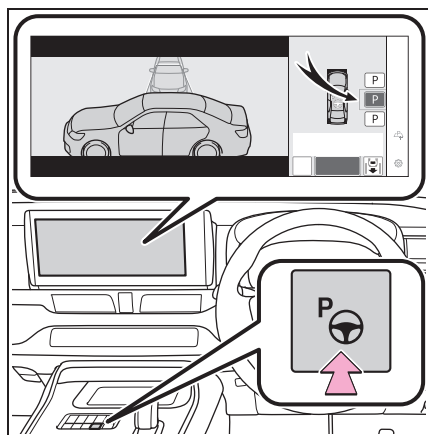
- A** 約 1m※

- B** 約 3m 以上 ※
- C** 約 6m 以上 ※
- D** 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

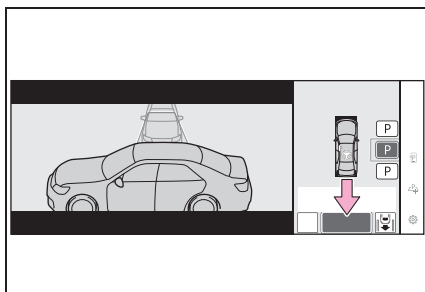


- 1 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 1 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、**(P)**を選択すると縦列駐車機能に切りかわります。
- 1 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、 もしくは を選択すると、駐車向きが変更できます。

- Ⅰ 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- Ⅰ ブレーキペダルを離すと、“前進します”または“後退します”の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。
- Ⅰ アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

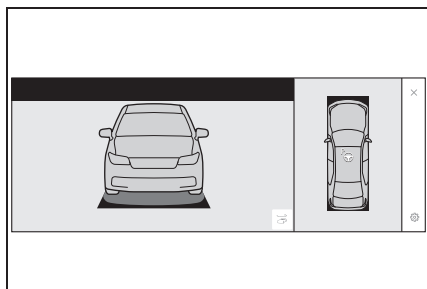
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.422

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイのを選択すると、駐車アシスト完了画面の車両

が回転します。



知識

n 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディアディスプレイの“再開”スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

n ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

n 並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

Ⅰ 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

Ⅰ 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

- Ⅰ 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- Ⅰ 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

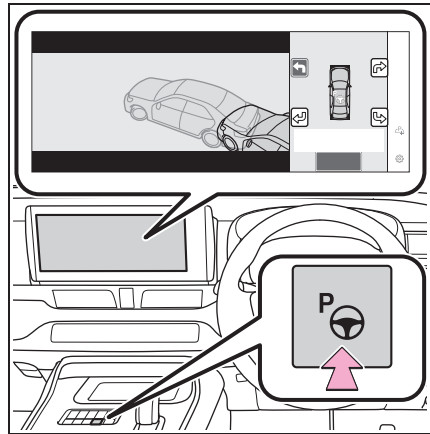
アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレ

イが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

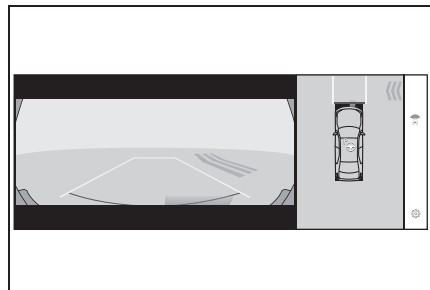


- 2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

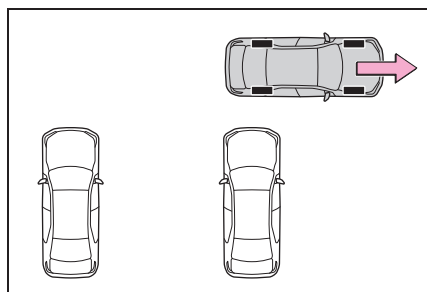
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.422

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

n 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.422

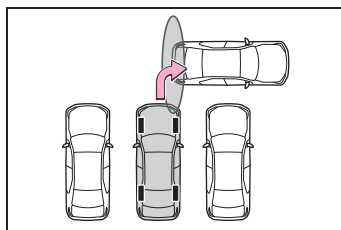
n 並列前向き・バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

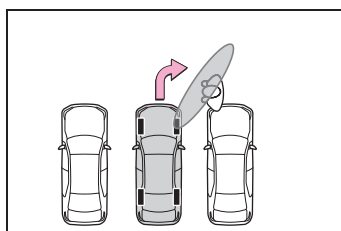
n 並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き・バック出庫は作動しません。

l 出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



l フロントまたはリアのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



n ブレーキが作動したとき

→P.422

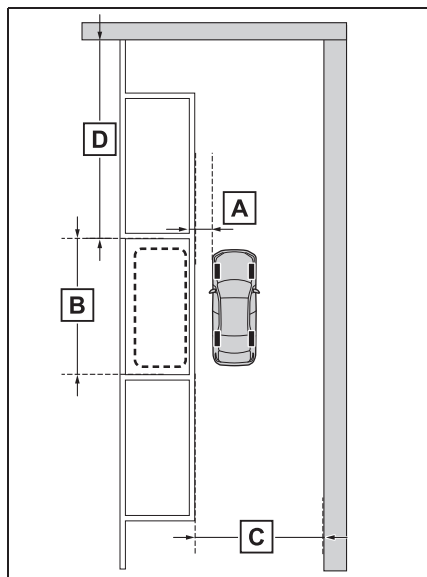
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

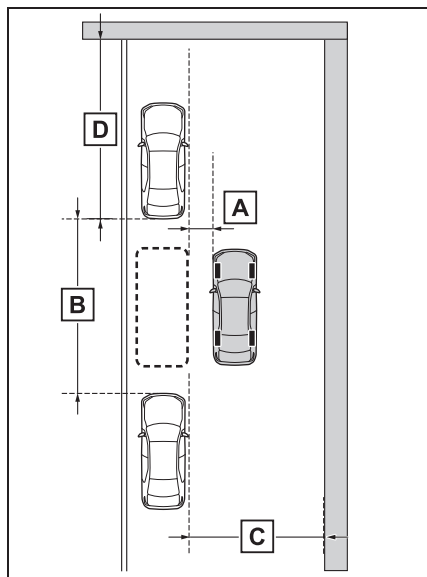
▶ 区画線がある場合



- A** 約 1m※
- B** 約 6m※
- C** 約 4.5m 以上 ※
- D** 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合

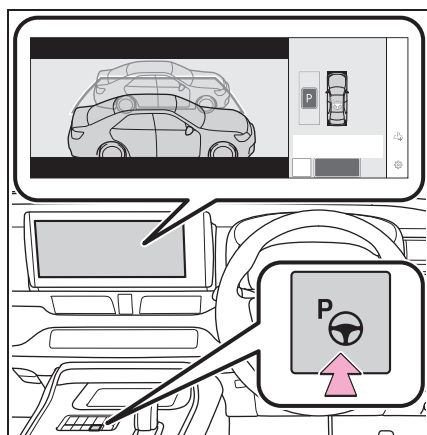


- A** 約 1m※
- B** 約 7m 以上 ※
- C** 約 4.5m 以上 ※
- D** 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なス

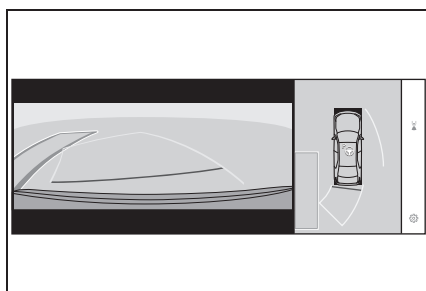
ペースが表示されたことを確認
する



- 1 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 1 並列前向き・バック駐車可能な場合、駐車スペースを選択して、**P**を選択すると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。
- 1 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始”スイッチを選択する
“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



- 1 ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。
- 1 アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

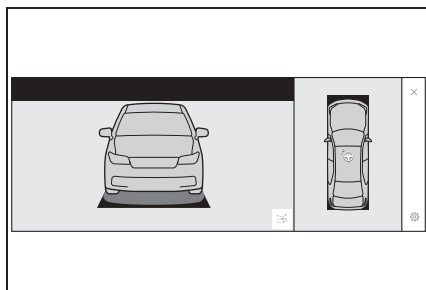
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.422

- 4** 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの  を選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



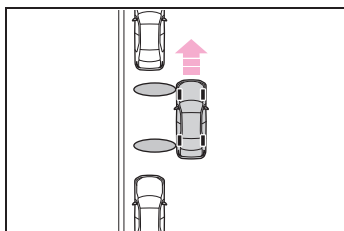
知識

n 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.422

n “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



n ブレーキが作動したとき

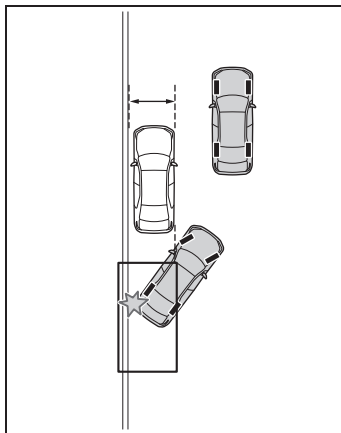
→P.422

注意

n 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

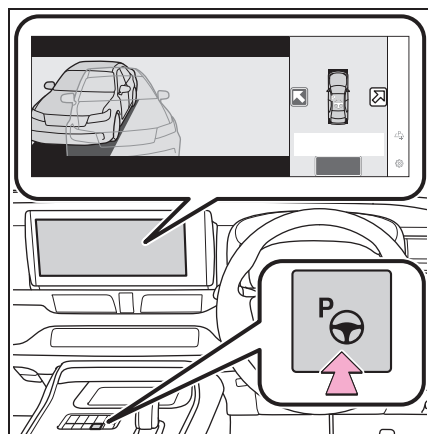
アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押

し、マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

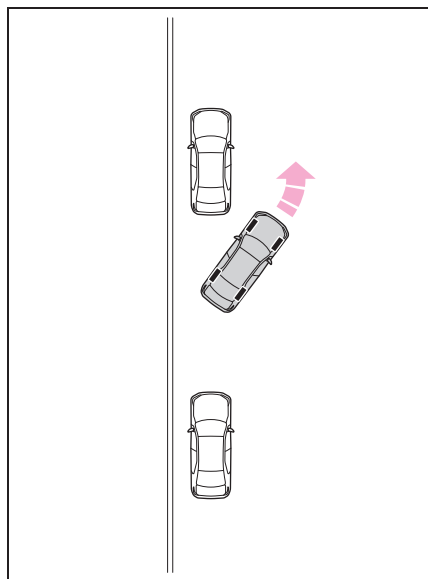
周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.422

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作す

ると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

n 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.422

n 縦列出庫機能について

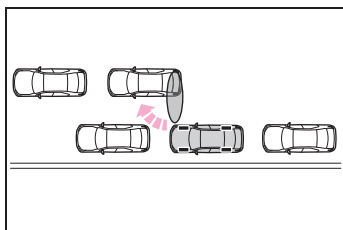
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

n 縦列出庫機能が作動しない状況

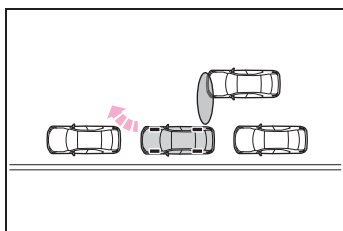
次のような状況では縦列出庫機能は作動

しません。

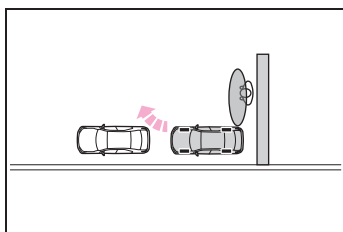
Ⅰ 出庫方向に信号待ちの車両がある場合



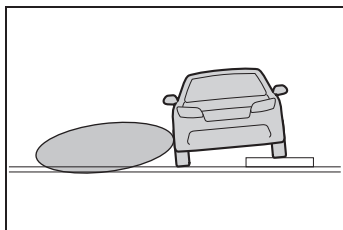
Ⅱ 出庫方向の後方に車両が待っている場合



Ⅲ フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



Ⅳ 縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



Ⅴ 車両の前方に駐車車両がない場合

Ⅵ 車両の前端と駐車車両との間隔があき

すぎている場合

Ⅶ ブレーキが作動したとき

→P.422

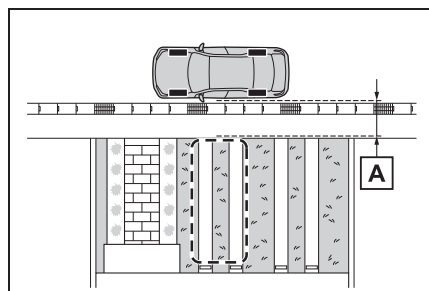
アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

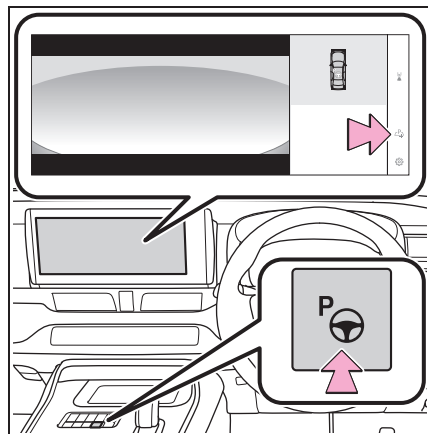


A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、 P_p を選択する

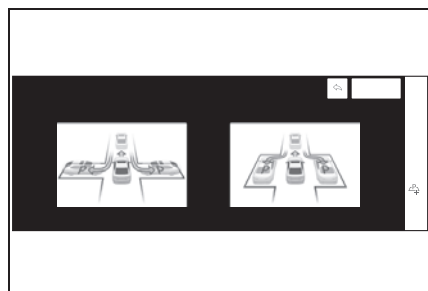
区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがあります

が、続けて P を選択してください。



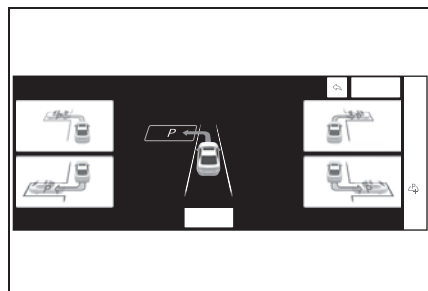
3 並列（前向き・バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

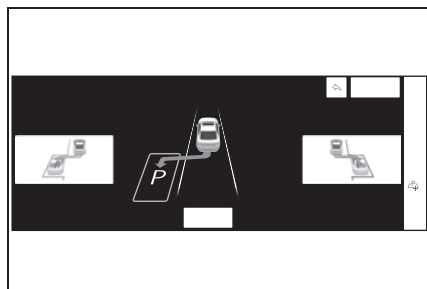


4 駐車向きを選択する

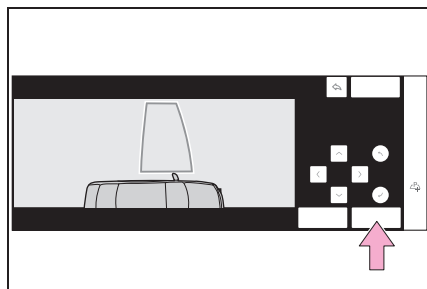
手順3で並列（前向き・バック）駐車を選択した場合：



手順3で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチを選択する



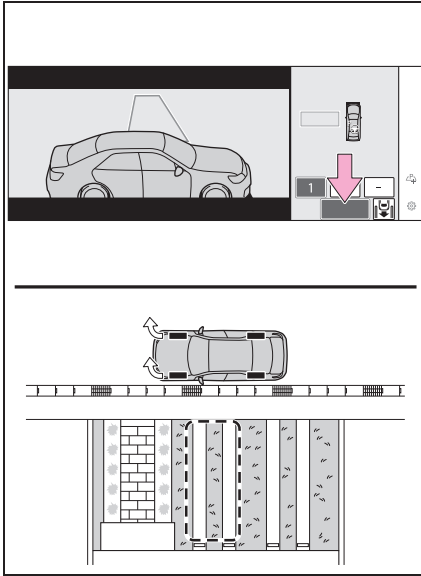
6 “開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

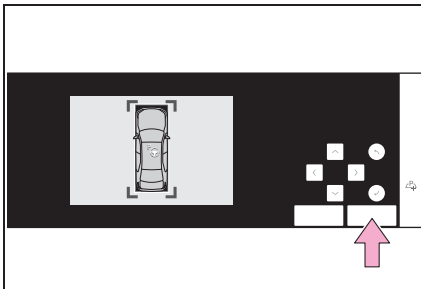
周辺の車両や障害物・人・溝などに近い

と感じたときは：→P.422



- 7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する
- 8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチを選択する

マルチメディアディスプレイに“登録を完了しました”と表示されます。

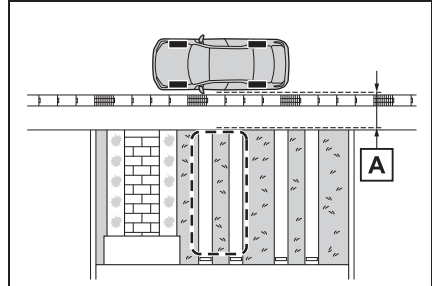


- 1 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 1 調整できる範囲には限りがあり

ます。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

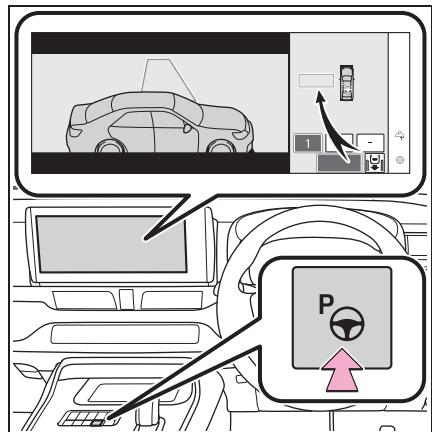
- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチを選択することで、メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチを選択する

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。
(→P.423)

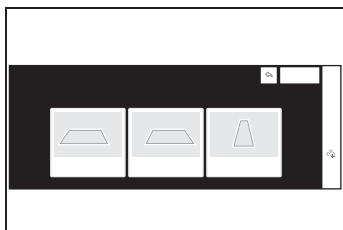
知識

n 周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.422

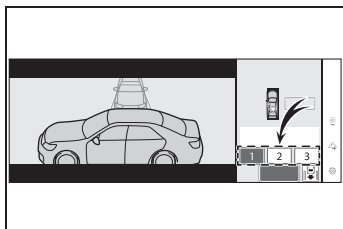
n 登録した駐車スペースを上書きするとき

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で P_p を選択すると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



n 登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”を選択します。



n ブレーキが作動したとき

→P.422

⚠ 注意

n メモリ機能を使用するときは (→P.422、427)

メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

- ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・ 雨雪が降っているとき
- ・ 夜間（周囲が暗いとき）

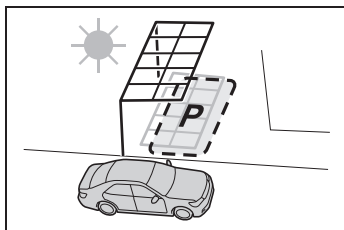
次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

- ・ 道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場
- ・ 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

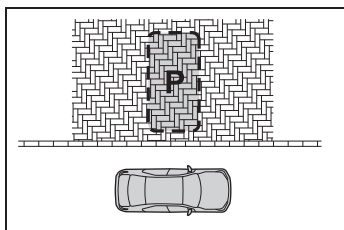
⚠ 注意

↓ 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

- ・ 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



- ・ 駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



↓ 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

- ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- ・ 設定した駐車スペースに障害物があるとき
- ・ システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき
- ・ アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

- ・ 輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面模様が変わったとき（路面の経年劣化、リフォーム等）
- ・ 日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）
- ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
- ・ 駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
- ・ 勾配がある駐車場
- ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・ カメラの視界をさまたげるようなアクセサリを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

↓ メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が見つかりません” と表示されることがあります。

↓ メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

⚠ 注意

Ⅰ カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

Ⅰ カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークのリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能・出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する(→P.421、425)
- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する。(→P.421、425)

- 3  スイッチを選択し、“並列駐車 / 縦列駐車”を選択する
- 4 “設定完了”を選択する
- 5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。パイロンは降車後に移動させることもできます。

- 6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

- 7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

- 8 駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

□ 知識

n 障害物があっても駐車機能を使用できる場合

- 1 白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。
- 1 アドバンストパークでの並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

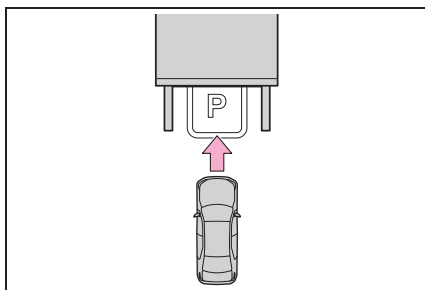
n ブレーキが作動したとき

→P.422

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

- 1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



- 2 アドバンストパークメインスイッチを押す (→P.421)

- 3 ⓘ スイッチを選択し、“前後に移動”を選択する

- 4 “設定完了”を選択する

- 5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

- 6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。

- 7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

- 8 スマートフォン画面の電源ボタンを選択する

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

□ 知識

n 進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面の進行方向切りかえスイッチを操作して、車両を少し前進させて荷物を入れた後、元の場所に戻すといった使い方ができます。

n ブレーキが作動したとき

→P.422

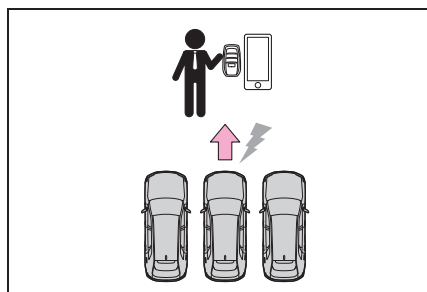
リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列・縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。

前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

- 1 駐車中の車両に近づき、電子キーで解錠してからスマートフォンアプリを起動する

スマートフォンアプリが接続できない場合は、電子キーで再度解錠操作を行ってください。



- 2 スマートフォン画面の開始スイッチを選択する

車両のパワースイッチが ON になります。

- 3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する
- 4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

- 5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

 知識

n ブレーキが作動したとき

→P.422

リモート機能とメモリ機能を使用して駐車する

メモリ機能で事前に登録した駐車スペースの真横で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作でメモリ機能を遠隔操作することができます。

また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する (→P.431)
- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する (→P.431)

3  スイッチを選択し、“並列駐車 / 縦列駐車”を選択する

4 “設定完了”を選択する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチを選択することでメモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンのアプリを起動する

電子キーが検知できる範囲は、車両周囲約 3m です。パイロンなどの障害物が進行方向に存在する場合は、降車後に障害物を移動させてください。

6 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面の開始ボタンを選択する

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面の操作エリアをなぞり操作する

なぞり操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

8 駐車位置に到着するとシフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

n ブレーキが作動したとき

→P.422

リモート機能の使用前のご準備

n 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

- 1 アプリストアから Remote Park アプリをダウンロードする
- 2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

- 3 Remote Park アプリを立ち上げ、車両登録を実施する
- 4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

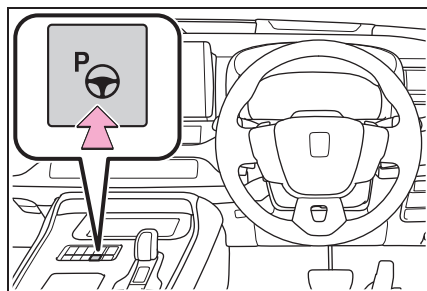
新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

n リモート機能の ON / OFF

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択して、“Advanced Park”を選択する
- 2 “Remote Park”の ON / OFF を選択する（初期設定は ON）
- 3 アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



4 マルチメディアディスプレイに表示されるPスイッチを選択する

⚠ 注意

n リモート機能について

- l 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。
- l 電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。
- l デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。
- l 車に乗り込んで リモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

- l リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

- l リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

n 機能が正常に働かないおそれのある状況

- l スマートエントリー & スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのある時：→P.206
- l 近くにインバータ式蛍光灯がある場合

n 電波が及ぼす影響について：→P.210

n 電子キーの電池の消耗について

- l リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

- l 電池が切れたとき：→P.566

n センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.386

- l リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

- ・ 車両と車両の周囲が最もよく見えること
- ・ 車両の進路に人・動物、または物体がないこと
- ・ 車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと
- ・ 車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
- ・ 必要に応じて、リモート機能を中止すること

アドバンストパークを中止・中断する

n アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- l アドバンストパークメインスイッチを押した
- l シフトポジションを P に変更した
- l パーキングブレーキをかけた
- l ドアまたはバックドアを開けた
- l 運転席シートベルトをはずした
- l ドアミラーを格納した
- l TRC・VSC を OFF にした
- l TRC・VSC・ABS が作動した
- l パワースイッチを押した
- l システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- l システム異常
- l 停止中にマルチメディアディスプレイ上で“中止”を選択した

n アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディアディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブ

レーキを踏みながらシフトポジションを2回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- l ハンドルを操作した
- l アクセルペダルを踏んだ
- l シフトポジションを変更した
- l 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- l カメラスイッチを押した

n リモート機能のアシストが中止されるとき

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- l アドバンストパークのアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトを外した場合は中断します。
- l リモート空調中にリモート機能を作動し、リモート空調が終了する前にパワースイッチを ON にしたとき
- l リモート機能を起動してから5分以上が経過したとき
- l 何も操作をせずに3分が経過したとき
- l スマートフォン画面で車両の走

行操作をしても走行できずに、
30 秒が経過したとき

- l スマートフォン画面の電源ボタンを選択したとき
- l スマートフォンアプリが強制終了されたとき
- l 急勾配のとき
- l リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- l 外気温がマイナス10℃以下のとき
- n **リモート機能のアシストが中断されるとき**

次のとき、アシストを中断します。

- l スマートフォンとマルチメディアアシストとの Bluetooth 通信が切断されたとき
- l スマートフォンの連続操作が中断されたとき
- l スマートフォンアプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- l 電子キーが検知できないとき
- l 前後の移動先に障害物があるとき
- l アシスト走行中に車両が操作されたとき
- l 走行中に電子キーの操作があったとき
- l 走行中にドアの解錠操作があったとき
- l 走行中にドアを開いたとき

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディアディスプレイの

を選択して、“Advanced Park” を選択します。

n Remote Park

リモート機能の ON / OFF を設定できます。

n 音声案内

音声案内の ON / OFF を設定できます。

n 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

n 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

n 優先駐車方法

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のうちでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

n 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がかどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

n 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

n 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

n 駐車時の映像

並列前向き・バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

n 出庫時の映像

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

n 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

n 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

n 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

n 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

n 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物と

の接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

n 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

注意

「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。

周辺の車両や障害物・車止め・縁石などに接触しそうときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

Remote Park アプリの設定を変更する

n クリアランスソナー警告音の ON / OFF（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の ON / OFF を設定できます。

n クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

スマートフォンアプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

マルチメディアディスプレイに表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディアディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。



知識

n “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

n “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

n “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

n “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

n “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア

ディスプレイの“再開”スイッチを選択してください。

n “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で△Pを選択したときに表示されます。

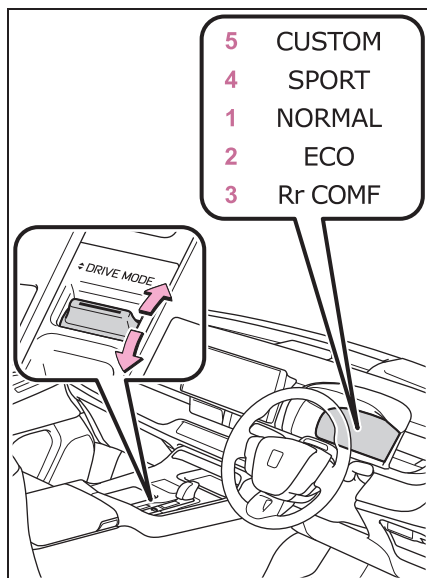
システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。(→P.429)

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

ドライブモードセレクトスイッチを前後に操作し、マルチインフォメーションディスプレイ表示からドライブモードを選択します。



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 リヤコンフォートモード

パワートレイン・ステアリング・ブレーキを制御することにより、後席の同乗者の乗り心地が最適になります。

リヤコンフォートモード表示灯が点灯します。

4 スポーツモード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

5 カスタムモード

パワートレイン制御・ステアリング制御・サスペンション制御・ブレーキ制御・エアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。

(→P.632)

カスタマイズモード表示灯が点灯します。

知識

n ノーマルモード以外の走行モードを選択したとき

各走行モードの車両性能を実現するための最適な制御が作動します。燃費の向上を意識した走行モード以外はノーマルモード選択時に比べて十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

4WD 制御は、選択した走行モードに適した制御に切りかわります。

n エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

風量を調整する (→P.476)

エコドライブモードを解除する

n リヤコンフォート／スポーツ／カスタムモードの自動解除

リヤコンフォート／スポーツ／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

n 走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)

Trail Mode

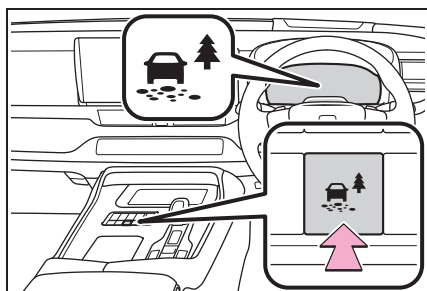
Trail Mode は、4WD・ブレーキ・駆動力などを統合制御し、タイヤの空転を抑えます。凹凸のある路面等を走行するときに、使用してください。

システムを作動させるには

Trail Mode スイッチを押す

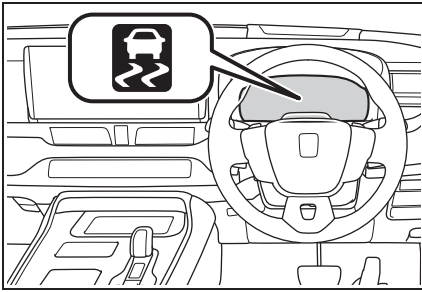
Trail Mode スイッチを押すと Trail Mode が ON になり、マルチインフォメーションディスプレイに Trail Mode 表示灯が点灯します。

もう一度、Trail Mode スイッチを押すとシステムが OFF になります。



Trail Mode が作動しているとき

タイヤが空転しているときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



知識

n Trail Mode について

- l Trail Mode は悪路の走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、Trail Mode が OFF の状態に比べて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。
- l Trail Mode を長時間使用すると、走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されますが、通常走行は可能です。しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの“TRC OFF しました”が消灯したらシステムが正しく作動します。

n Trail Mode が解除される時

次の場合は、Trail Mode を選択していても自動で解除されます。

- l 走行モードを切りかえたとき
(→P.443)
- l ハイブリッドシステムを再始動したとき

n Trail Mode の作動音と振動

Trail Mode が作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- l 車体やハンドルに振動を感じる

- l エンジンルームからの音が聞こえる

n Trail Mode 表示灯が点灯しないとき

Trail Mode スイッチを押しても Trail Mode 表示灯が点灯しないときは、システムの故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

n Trail Mode をお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- l Trail Mode は悪路を走行する場合のみに使用してください。
- l Trail Mode 表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。
- l Trail Mode は、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

n Trail Mode を正常に作動させるために

Trail Mode を長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

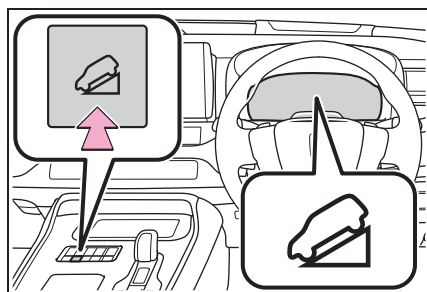
ダウンヒルアシストコントロールシステム

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。
システムはブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。
システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

n ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトポジションが P または N 以外のときに作動します。

n ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

l 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。

- ・シフトポジションが P にあるとき
- ・車速が約 30km/h を超えたとき
- ・ブレーキシステムが異常過熱したとき

l 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。

- ・シフトポジションが N にあるとき
ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅します。

n 長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに

“TRC OFF しました” が表示されます。(通常走行は可能です) しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、マルチインフォメーションディスプレイの “TRC OFF しました” の表示が消えればシステムが使用可能となります。

n 作動音や振動について

- | ハイブリッドシステム始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。
- | ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

n システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- | パワースイッチをONにしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- | DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- | スリップ表示灯が点灯する

警告

n ダウンヒルアシストコントロールを使うときは

ダウンヒルアシストコントロールを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

n 正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- | 凍結路
- | 未舗装路

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

n ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

n ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

n ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

n VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

n S-VSC（ステアリングアシストビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車

両の方向安定性確保に貢献します。

n TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

n ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

n DRS (ダイナミックリヤステアリング)

ハンドル操作と車速に応じて後輪が切れる角度を制御することで、低速走行時の取り回し性、中速走行時の操舵応答性、高速走行時の安定性向上に寄与します。

n EPS (エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

n E-Four Advanced (電気式4WD システム)

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて前後輪の駆動力配分を自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

**n NAVI・AI-AVS
(AVS : アダプティブバリアブルサスペンションシステム)**

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、優れたフラット感(安定性)と快適な

乗り心地の確保に貢献します。

また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。(→P.443)

n VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・DRS・AVSを総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

n 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

n セカンダリーコリジョンブレーキ

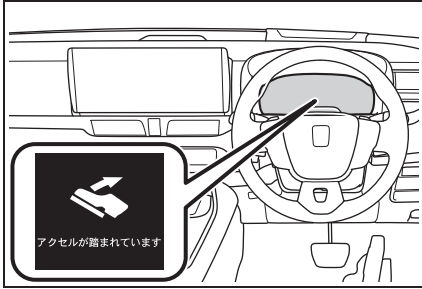
SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

n 衝突時の急加速抑制

SRSエアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案

内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



n ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）

ブレーキペダルを強く踏み込んだことで車両が前のめりになるのを抑え、乗員の姿勢変化を低減するよう補助します。

ゆっくりとブレーキペダルを踏んだときは作動しません。

n スムーズストップ

停止直後の急激な車両の揺れ動きを抑え、乗員の姿勢変化を低減するよう補助します。

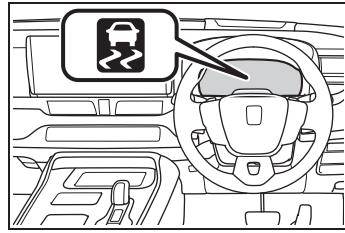
ブレーキペダル操作の不足を補う機能ではありません。



知識

n TRC・VSC・ABS・DRS※ が作動しているとき

TRC・VSC・ABS・DRS※ が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



※ VDIM 作動中のみ

n TRC を停止するには

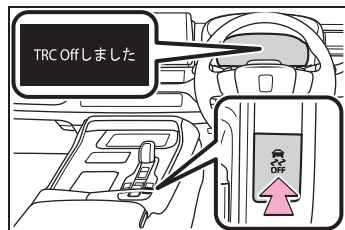
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



n TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

n スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

n ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ┆ シフトポジションの位置がPまたはN以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ┆ 車両停止状態
- ┆ アクセルペダルを踏んでいない
- ┆ パーキングブレーキがかかっている
- ┆ パワースイッチが ON

n ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

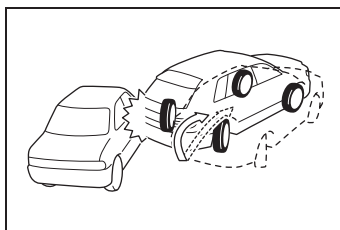
- ┆ シフトポジションをPまたはNのシフト位置にした
- ┆ アクセルペダルを踏んだ
- ┆ ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ┆ ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- ┆ パワースイッチが OFF

n DRS 作動時の車両の動き

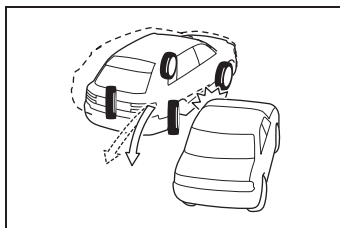
低速走行時は後輪が前輪と逆方向に切れ、車両の旋回半径が小さくなります。このとき後輪は、DRS のない車両と比べて前進時は外側、後退時は内側を通過します。そのため、駐車場など狭い場所での前進時は車両後部、後退時は車両側面にもご

注意ください。

▶ 前進時



▶ 後進時



n DRS の作動が停止する場合

次の状況では DRS が作動を停止することがあります。この場合、DRS 作動時に比べて最小回転半径が大きくなります。

- ┆ 極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ┆ ハンドルを操作した状態で短時間に発進・停止をくり返したとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

┆ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき
補機バッテリー端子を接続後、しばらく走行すればシステムは復帰します。

n ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

┆ ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

┆ 上記のシステムが作動すると、次のよ

うな現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ・ 車体やハンドルに振動を感じる
- ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

n ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

- l ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- l 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- l ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

n EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

n TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- l パワースイッチを OFF にしたとき
- l (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

n NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

n 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- l 非常点滅灯が点滅していないこと
- l 車速 55km/h 以上
- l 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

n 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- l 非常点滅灯を点滅させた
- l 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

n セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

n セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

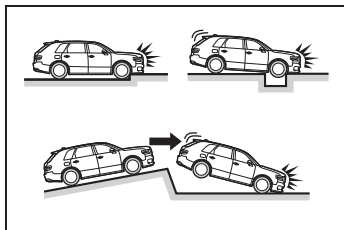
次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- l 車速が約 0km/h になったとき
- l 作動して一定時間経過したとき
- l アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

n 衝突時の急加速抑制について

- l 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
- ・ 車速が約 60km/h 以下のとき

- ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき
 - ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※
- ※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき
- ↓ 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
 - ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
 - ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- ↓ アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

n ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに、ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）が作動します。

- ↓ ブレーキペダルを操作しているとき
- ↓ リヤコンフォートモードが選択されているとき（ブレーキペダル操作中にリヤコンフォートモードに切りかえた場合は作動しません）
- ↓ 車両が前進しているとき
- ↓ 極低速走行時を除く

- ↓ スリップ表示灯が点灯・点滅していないとき（ABS・VSC・TRCなどの車両安定化制御中は作動しません）

- ↓ 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムが判断したとき

- ↓ 車両の左右加速度から急な旋回状態ではないとシステムが判断したとき

n ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）の解除条件

作動条件が満たされなくなった場合、ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）は解除されます。

n ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）について

ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）では、ブレーキ操作時の車両の姿勢変化を低減できるように前後のブレーキを制御します。リヤコンフォートモードが選択されているときは、作動頻度が増えるために十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

n スムーズストップの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに、スムーズストップが作動します。

- ↓ ブレーキペダルを踏んでいるとき（レーダークルーズコントロールなどの自動ブレーキ制御中は作動しません）
- ↓ リヤコンフォートモードが選択されているとき（ブレーキペダルを踏みながらリヤコンフォートモードに切りかえた場合は作動しません）
- ↓ 車両が前進しているとき
- ↓ 極低速走行時を除く
- ↓ スリップ表示灯が点灯・点滅していないとき（ABS・VSC・TRCなどの車両安定化制御中は作動しません）
- ↓ 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムが判断したとき
- ↓ 車両の左右加速度から急な旋回状態ではないとシステムが判断したとき

はないとシステムが判断したとき

n スムーズストップの解除条件

作動条件が満たされなくなった場合、スムーズストップは解除されます。

n マルチインフォメーションディスプレイに“DRS 故障 販売店で点検を受けてください”と表示されたときは

DRS が正常に作動しないおそれがあります。このとき、DRS 正常作動時に比べて最小回転半径が大きくなることや、ハンドルが切れた状態で車両が直進する場合があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

n マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

l “4WD システム高温 高負荷走行を控えてください”

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

l “4WD システム高温 2WD 走行に切り替わりました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

l “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けて

ください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

⚠ 警告

n ABS の効果を発揮できないとき

l タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

l 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

n ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

l 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

l タイヤチェーンを装着しているとき

l 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

l 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

n TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**n ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

n スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

n TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

n タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.631）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

n タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

n セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 衝突時の急加速抑制

衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- Ⅰ 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。
- Ⅱ **ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）／スムーズストップについて**
- Ⅰ 本システムは、ブレーキペダルの操作に不慣れな方や、乗員の快適性を意識した運転が難しい方向けの補助機能です。普段からなめらかに停車できる方の操作性が向上する機能ではありません。運転の技量やシーンに応じて、ドライブモードセレクトスイッチで機能 ON / OFF を切りかえて活用してください。
- Ⅰ 本システムは “ なめらかに止まる ” 機能ではなく、 “ ブレーキペダル操作時の乗員の快適性向上をサポート ” する機能です。ブレーキペダルから足を離すとブレーキ力は維持されません。
- Ⅰ 本システムは、ブレーキペダルの踏み方・車両状態によって効果が変わります。また、凹凸のある路面などの悪路や急勾配の坂を走行する際は十分な効果を発揮できない場合がありますので、ブレーキペダルの操作で慎重に運転してください。
- Ⅰ 本システムは、ブレーキペダルの操作に応じたブレーキ力が発生するように設計されていますが、総ブレーキ力を変えない範囲で減速度が変化する場合があります。
- Ⅰ 本システムは、タイヤやブレーキの限界性能を高める機能ではありません。速度・車間距離などに十分注意し、安全運転を心がけてください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

Ⅱ 機能の追加

- Ⅰ 急アクセル時加速抑制
- Ⅰ 交差点対向車注意喚起
- Ⅱ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

- Ⅰ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- Ⅰ RSA（ロードサインアシスト）
- Ⅰ 急アクセル時加速抑制
- Ⅰ PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- Ⅱ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

- Ⅰ PCS（プリクラッシュセーフ

ティ)

- Ⅰ LDA (レーンディパーチャーアラート)
- Ⅰ RSA (ロードサインアシスト)
- Ⅰ BSM (ブラインドスポットモニター)
- Ⅰ PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
- Ⅰ RCTA (リアクロストラフィックアラート)
- Ⅰ PKSB (パーキングサポートブレーキ)
- Ⅰ 安心降車アシスト
- Ⅰ クリアランスソナー

知識

Ⅱ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

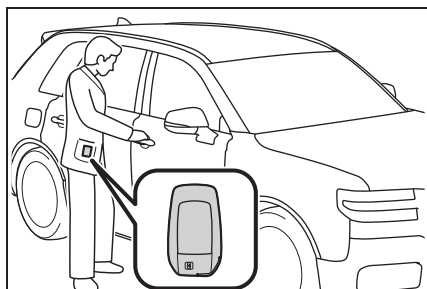
プラスサポートを使用するには

Ⅱ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する(→P.182、188)

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作

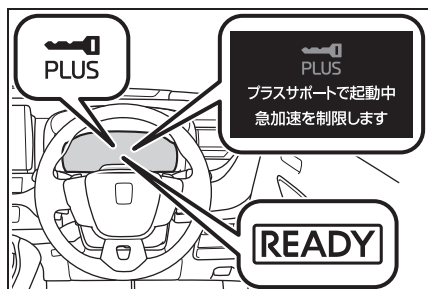
動可能になりません。



- 2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する(→P.253)
- 3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



- 4 メーター操作スイッチの ➡ を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します”のメッセージは表示されたままになります。

n プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

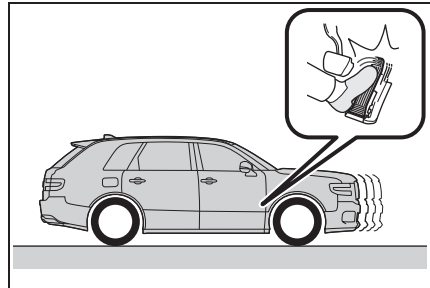
n プラスサポートを正しく使用するために

- ❶ 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- ❷ サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ❸ ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.156）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しな

いように制御します。



⚠ 警告

n 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- ❶ 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- ❷ 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- ❸ 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

⚠ 警告

お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

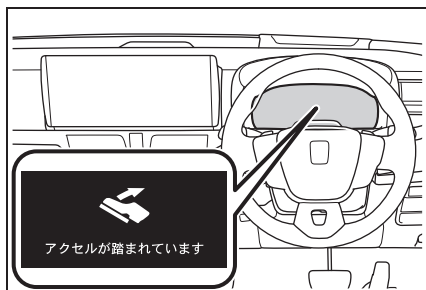
■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



□ 知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- ├ シフトポジションが P・N 以外のとき
- ├ 車速が約 30km/h 以下のとき
- ├ アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h* までゆるやかに加速します。

- ├ 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- ├ 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

* 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- ├ 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ├ ブレーキペダルを踏んでいるとき、ま

たはブレーキペダルを離したあと約2秒間（前進時）

Ⅰ 急な上り坂に自車がいるとき

Ⅱ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

Ⅰ 車両の変化

- ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

Ⅱ 周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

Ⅲ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくともシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

Ⅰ 車両の変化

- ・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

Ⅱ 周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき

- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

Ⅲ 運転操作の影響

- ・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ETCゲート通過後に急加速したとき
- ・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



□ 知識

Ⅱ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- Ⅰ 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- Ⅰ 補機バッテリーの点検を受けてください。
- Ⅰ 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.548）

知識

n タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- Ⅰ 安全に作業できる場所で行う
- Ⅰ 前 2 輪に取り付ける
- Ⅰ タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

警告

n 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- Ⅰ 指定サイズのタイヤを使用する
- Ⅰ 空気圧を推奨値に調整する
- Ⅰ 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- Ⅰ 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

n タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- Ⅰ 路面の凹凸や穴を避ける
- Ⅰ 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- Ⅰ カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- Ⅰ LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

 注意**n タイヤチェーンの使用について**

トヨタ販売店の推奨チェーン以外を使用すると、車体に当たり走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

n タイヤを修理・交換するとき

トヨタ販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
(タイヤについての詳しい説明は P.548 を参照してください)

n タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- Ⅰ ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- Ⅰ フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- Ⅰ 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- Ⅰ 乗車する前に靴底に付いた雪を

よく落としてください。

 知識**n 寒冷地用ワイパーブレードについて**

- Ⅰ 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- Ⅰ 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 注意**n ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- Ⅰ パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。
パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

- ・ ブレーキホールドシステム
- ・ Advanced Park (リモート機能付)

- Ⅰ パーキングブレーキをかけると、

ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- I パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションをPにした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。
- I 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。(→P.283)

6-1. ディスプレイ

リヤマルチオペレーションパネル
..... 466

6-2. エアコン・デフォグガーの使い方

ALL AUTO 制御 475

フロントオートエアコン 476

リヤオートエアコン 485

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター
..... 488

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 495

6-4. 収納装備

収納装備一覧 499

ラゲージルーム内装備 503

6-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 508

アクセサリーコンセント
(AC100V 1500W)・非常時給電システム 523

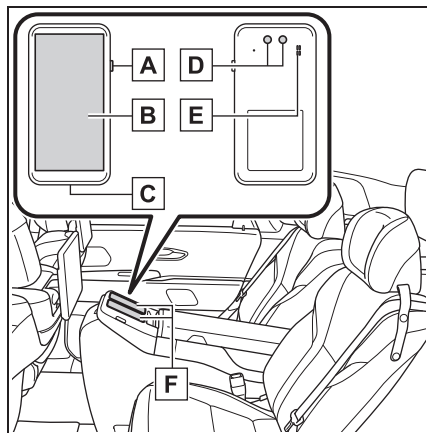
正常にアクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは 532

リヤマルチオペレーション パネル

リヤコンソールに取り付けてある機器を使って、リヤのオーディオ・エアコン・シート・室内灯・電動サンシェードの操作をすることができます。

リヤマルチオペレーションパネルはリヤコンソールから取りはずして操作することもできます。

各部の名称



- A** 電源ボタン
- B** ディスプレイ
- C** USB Type-C 端子
- D** 充電端子
- E** スピーカー
- F** 充電台

⚠ 警告

n 運転中の使用について

安全のため、運転者は走行中に操作をしないでください。

法令で定める場合を除き、運転中にリヤマルチオペレーションパネルの画面を注視したり、手で持って操作することは、罰則の対象となります。

n リヤマルチオペレーションパネルの取り扱いについて

↓ 次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、火災・やけど・けが・感電などにつながるおそれがあります。

- ・ 砂や土、泥をかけたり、直に置いたりしないでください。また、砂などが付着した手でふれないでください。
- ・ 水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）で濡れた状態では、充電台の上に置かないでください。
- ・ 強い圧力を加えたり、落下させたり、衝撃、振動を与えないでください。
- ・ 分解、改造をしないでください。
- ・ 充電端子や USB Type-C 端子に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにしてください。
- ・ お手入れの際は、消毒液や水分がすき間、USB Type-C 端子に入らないようにしてください。
- ・ 異臭・異音・発煙・発熱・変色・変形などの異常がみられた場合は、リヤマルチオペレーションパネルを充電台から取り外して電源を OFF にしてください。
- ・ お子さまが使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教え、誤った使い方をさせないでください。

⚠ 警告

- ・ ディスプレイのガラスを破損した場合は、割れたガラスや露出したリヤマルチオオペレーションパネルの内部にふれないでください。

- リヤマルチオオペレーションパネル内部の物質が目や口などに入った場合は、すぐにきれいな水で洗った後、ただちに医師の診療を受けてください。

リヤマルチオオペレーションパネル内部の物質などの影響により、失明や体調不良などの原因となります。

- リヤマルチオオペレーションパネルの使用により、皮膚に異状が生じた場合は、ただちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じる場合があります。

n 走行中の警告

走行中はリヤマルチオオペレーションパネルを充電台や安全な場所に格納してください。

お守りいただかないと、車内に投げ出されて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、リヤマルチオオペレーションパネルを 15cm 以上離してご使用ください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意**n リヤマルチオオペレーションパネルがよごれたときは**

- ディスプレイは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）でふいてください。強くこすると傷がつく場合があります。

- ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになる場合があります。乾いた柔らかい布（めがねふきなど）でふいてください。

- シンナー・ベンジン・洗剤などでふくと、印刷が消えたり、色があせたりする場合があります。

- リヤマルチオオペレーションパネルはアルコール除菌シートを使用することができません。

なお、すべての条件で、変色・退色や塗装の剥がれ、変形しないことを保証するものではありません。

n リヤマルチオオペレーションパネルの取り扱いについて

- 直射日光が長時間当たると故障の原因となります。使用後は充電台に戻してください。

- 極端な高温または低温の環境での使用は避けてください。正しく動作しない場合があります。

温度は 5℃～35℃、湿度は 35%～85% の範囲で使用するをおすすめします。

- リヤマルチオオペレーションパネルの背面に貼ってある認証ラベルは絶対にはがさないでください。認証が無効となります。

⚠ 注意

リヤマルチオペレーションパネルを改造したり分解したりしないでください。

改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。

リヤマルチオペレーションパネルは、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則を順守しており、その証として「技適マーク」がリヤマルチオペレーションパネルの電子銘板に表示されております。

電子銘板は、リヤマルチオペレーションパネルで次の手順でご確認いただけます。

1. ホーム画面で  を選択する
2. “機種情報” を選択する
3. “認証情報” を選択する

リヤマルチオペレーションパネル内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。

技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法に抵触し法律より罰せられることがあります。

リヤマルチオペレーションパネルの盗難に注意してください。車外で保管するときは安全な場所に保管してください。

n リヤマルチオペレーションパネルのバッテリーについて

リヤマルチオペレーションパネルは専用バッテリーを搭載しています。作動時間が大幅に低下したときは、専用バッテリーを交換する必要があります。専用バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

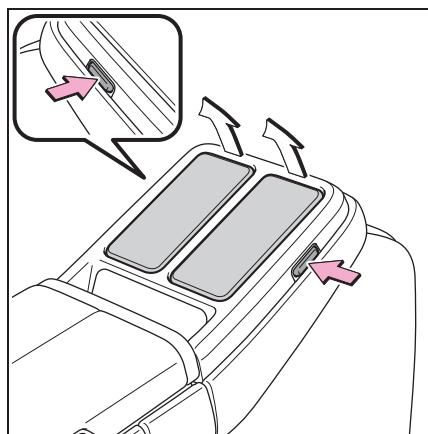
n リヤマルチオペレーションパネルの廃棄について

リヤマルチオペレーションパネルは個人で廃棄しないでください。廃棄方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

リヤマルチオペレーションパネルを取りはずす

ボタンを押して取りはずす

リヤマルチオペレーションパネルは車内で使用してください。



リヤマルチオペレーションパネルを ON / OFF する

電源ボタンを長押しする

電源を OFF にするには電源ボタンを長押しします。

□ 知識

n リヤマルチオペレーションパネルの再起動について

リヤマルチオペレーションパネルが動作を停止したり入力を受け付けなくなったりしたときは、電源ボタンを約 20 秒長押ししたあと、再度電源を ON にしてリ

リヤマルチオペレーションパネルを再起動してください。

リヤマルチオペレーションパネルを充電する

リヤマルチオペレーションパネルを充電台に置く

しっかりと固定されていることを確認してください。



知識

n リヤマルチオペレーションパネルの充電について

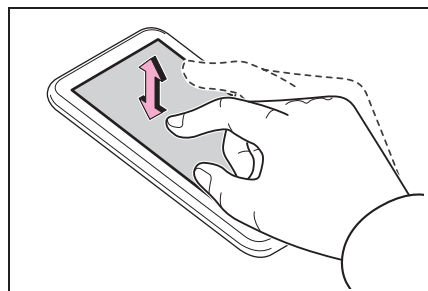
リヤマルチオペレーションパネルはUSB Type-C 接続端子（充電専用）を搭載しています。USB Type-C 接続端子を使用する場合は車外で充電をおこなってください。

リヤマルチオペレーションパネルの操作について

画面を指で直接ふれて操作します。

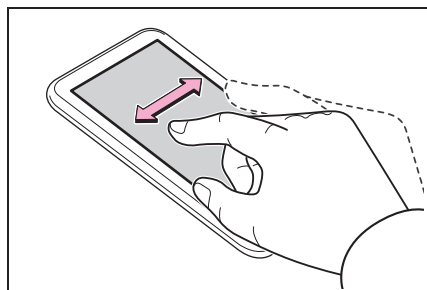
n タッチ（選択）

画面を指で軽くタッチします。



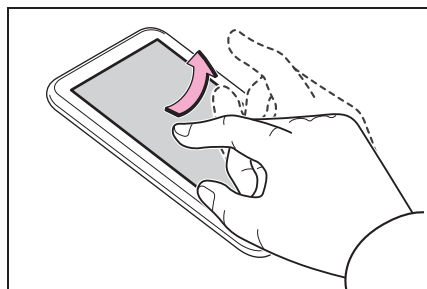
n ドラッグ

画面にふれたまま指を動かします。



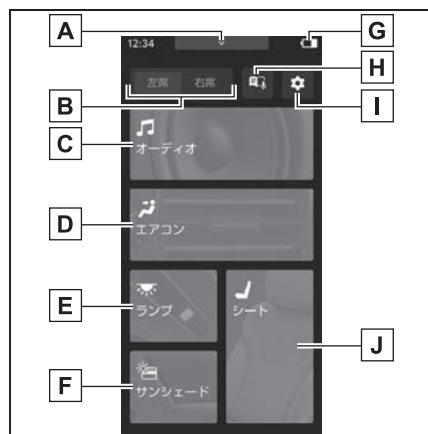
n フリック

画面にふれた指先を素早く払います。



リヤマルチオペレーションパネル画面の概要

n ホーム画面



[A] ショートカット画面表示スィッチ

チ (→P.470)

スイッチを下にフリックするとショートカット画面を表示します。

B 操作する席を選択する

C オーディオ操作画面を表示する
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

D リヤエアコン操作画面を表示する (→P.486)

E リヤの室内灯操作画面を表示する (→P.497)

F 電動サンシェード操作画面を表示する (→P.518)

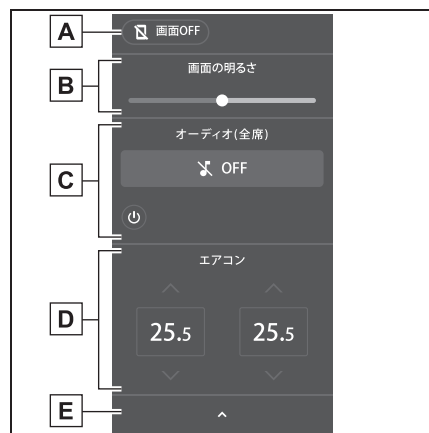
G バッテリー残量表示
残量を4段階で表示します。

H 音声認識ガイドを表示する
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

I リヤマルチオペレーションパネル設定画面を表示する (→P.470)

J リヤシート操作画面を表示する (→P.215)

n ショートカット画面



A 画面を消す

B 画面の明るさを調整する

C オーディオを操作する

詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

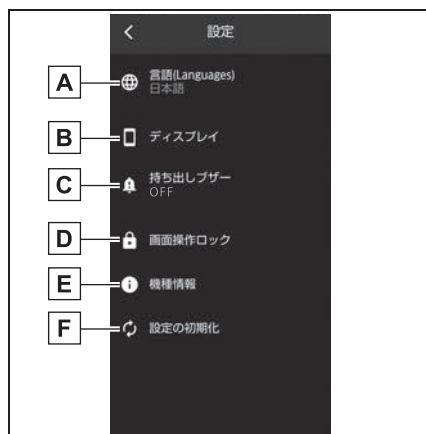
D リヤエアコンの温度を調整する (→P.486)

E ホーム画面表示スイッチ

スイッチを上フリックするとホーム画面を表示します。

n リヤマルチオペレーションパネル設定画面

画面の操作ロック設定や画面の明るさなどを調整できます。



A 言語を変更する

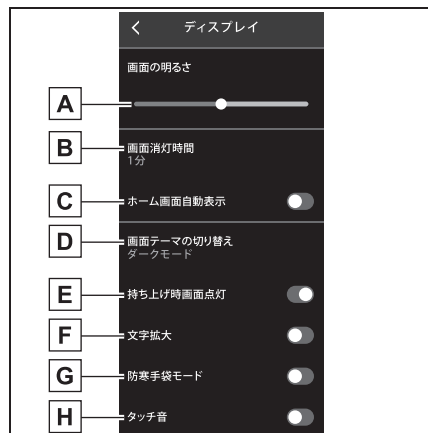
B ディスプレイ設定の調整をする (→P.471)

C 持ち出しブザーの設定をする (→P.471)

D 画面操作をロックする

操作ロック中に画面中央のボタンを長押しすると、ロックが解除されます。

E 機器情報を表示する

F 初期化する**n** ディスプレイ設定画面**A** 画面の明るさを調整する**B** 画面が消灯するまでの時間を調整する**C** 自動画面遷移の設定をする

一定時間画面操作を行わなかった場合、ホーム画面へ自動で切りかわるかを設定できます。

D 画面テーマの設定をする

ライトモードとダークモードを切りかえることができます。

E 画面の自動点灯を設定する

充電台から取り外したときに画面が自動で点灯するかを設定できます。

F 文字を拡大する**G** 手袋モードの設定をする**H** タッチ音の設定をする

画面をタッチしたときの操作音のON/OFFを設定できます。



知識

n 操作画面について

画面に“<”が表示されているときに

“<”を選択すると、ひとつ前の画面に戻ります。

**n** 持ち出しブザー

リヤマルチオペレーションパネルを車外に持ち出すと、ブザーが鳴り安全のために一部の機能が制限されます。リヤマルチオペレーションパネルを充電台に戻すと制限が解除されます。

n リヤマルチオペレーションパネルの取り扱いについて

↓ 次の場合、リヤマルチオペレーションパネルが正しく反応しなかったり、誤作動することがあります。

- ・ 手袋を着用しているとき（着用する手袋によっては、手袋モードがONのときは操作できます）
- ・ 爪の先で操作したとき
- ・ ディスプレイに異物があるとき
- ・ ディスプレイにフィルムやシールを貼ったとき
- ・ ディスプレイが濡れているとき
- ・ 指が濡れているとき
- ・ 水中で操作したとき
- ・ 近くにテレビ塔・発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- ↓ リヤマルチオペレーションパネルが次のような金属製のものに接していたり覆われたりしているときは、リヤマルチオペレーションパネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
- ・ 小銭

- ・ 鍵
- ・ 財布や鞆の金属部品
- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱やケース
- ・ カイロ
- ・ CD / DVD などのメディアや USB などのケーブル
- ・ スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などの機器
- ・ 強い磁石

オープンソースソフトウェアについて

- 本製品には、GNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL)、その他のライセンスに基づくソフトウェアが含まれています。当該ソフトウェアのライセンスに関する詳細は、ホーム画面で [] → [機種情報] → [法的情報] → [ライセンス情報] をご参照ください。

- GPL、LGPL、Mozilla Public License (MPL) に基づくソフトウェアのソースコードは、下記サイトで無償で開示しています。詳細は下記サイトをご参照ください。

(https://k-tai.sharp.co.jp/auto/remote_control/index.html)

電波障害自主規制について

リヤマルチオペレーションパネルは、VCCI自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合しており、その適合マークをリヤマルチオペレーションパネルの電子銘板に表示しています。

電子銘板は、リヤマルチオペレーションパネルで以下の操作を行うことで、ご確認いただくことができます。

ホーム画面で [] → [機種情報] → [認証情報]

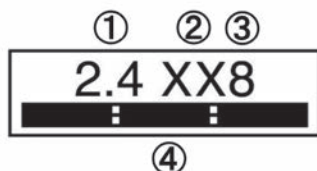
Bluetooth機能を利用する場合のお願い

●周波数帯について

本端末のBluetooth機能が利用する周波数帯は、ホーム画面で

[

で確認できます。ラベルの見かたは次のとおりです。



- ① 2.4 : 2400MHz帯を利用する無線設備を表します。
- ② XX : 変調方式がその他の方式であることを示します。
- ③ 8 : 想定される与干渉距離が80m以下であることを示します。
- ④ : 2400MHz～2483.5MHzの全帯域を利用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

●Bluetooth機器使用上の注意事項

本端末の利用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで利用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

1. 本端末を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本端末と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに利用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。

Bluetooth® word mark and logo are registered trademarks owned by the Bluetooth SIG Inc., and SHARP CORPORATION is licensed to use these trademarks.



ALL AUTO 制御

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、各席のシートヒーターやシートベンチレーター・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

ALL AUTO 制御を使用する

- 1 エアコン操作画面でエアコンオプション画面表示スイッチを選択する (→P.476)
- 2 “All auto” を選択する
- 3 AUTO スイッチを押す

スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・各席のシートヒーター／シートベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

- 1 エアコン (→P.476)

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

- 1 シートヒーター／シートベンチレーター (→P.488)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気が OFF になることもあります。

助手席およびリヤシートのシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

- 1 ステアリングヒーター (→P.488)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

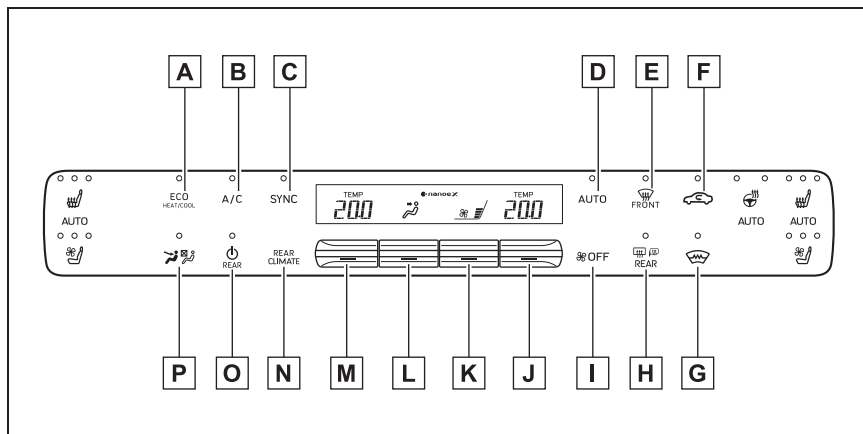
- n シートヒーター／シートベンチレーターの作動について

シートヒーター／シートベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

フロントオートエアコン

“AUTO” スイッチを ON にすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** “ECO HEAT/COOL” スイッチ (→P.478)
- B** “A/C” (冷房・除湿) スイッチ
- C** “SYNC” (シンクロ) スイッチ (各席連動モード)
- D** “AUTO” スイッチ
- E** フロントデフロスタースイッチ
- F** 内外気切りかえスイッチ
- G** ウインドシールドデアイサースイッチ
- H** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- I** “OFF” スイッチ
- J** 運転席側温度調整スイッチ
- K** 風量調整スイッチ
- L** 吹き出し口切りかえスイッチ
- M** 助手席側温度調整スイッチ
- N** “REAR CLIMATE” スイッチ
- O** リヤオートエアコン ON/OFF スイッチ

[P] フロント席集中送風モード (S-FLOW) スイッチ

n 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上、下げるときは下に操作します。

“A/C” (冷房・除湿) スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

n 風量を切りかえる

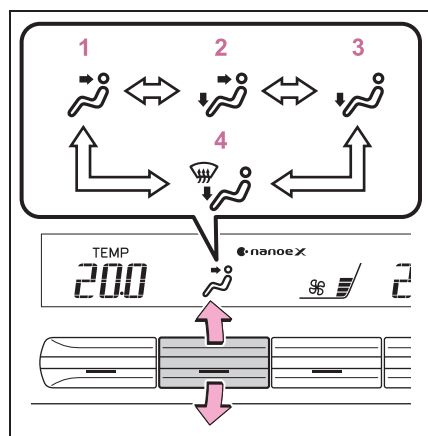
風量を増やすときは風量調整スイッチを上、減らすときは下に操作します。

“OFF” スイッチを押すと、ファンが止まります。

n 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作します。

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風／ガラスの曇りを取る

n 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押します。

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

n エアコン (冷房・除湿機能) を切りかえるには

“A/C” (冷房・除湿) スイッチを押します。

“A/C” (冷房・除湿) 機能が ON のときは、作動表示灯が点灯します。

n フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押します。

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取るができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

n リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。リヤウインドウデフォグガー&ミ

ラーヒータースイッチを押します。

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取りことができます。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

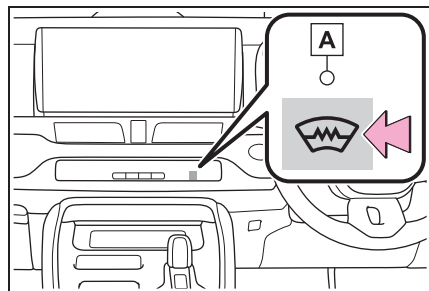
n ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

▶ エアコン操作スイッチ

ウインドシールドデアイサースイッチを押します。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯 **A** が点灯します。



▶ マルチメディアディスプレイ

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択します
(→P.481)

2 “デアイサー” スイッチを選択します

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

n エコ空調モード

エコ空調モードに切りかえると、燃費を優先するために空調の効き

を抑えます。

▶ エアコン操作スイッチ

“ECO HEAT/COOL” スイッチを押します。

▶ マルチメディアディスプレイ

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択します
(→P.481)

2 “Eco Heat/Cool” スイッチを選択します

1 エコ空調モードでは燃費性能を優先させるため、空調が次のように制御されます。空調の効きをよくしたいときは、エコ空調モードを解除してください。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

1 ドライブモードセレクトのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードに切りかわります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが解除される場合があります。

1 エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でもエアコン操作スイッチの“ECO HEAT/COOL” スイッチを押すかマルチメディアディスプレイの“Eco Heat/Cool” スイッチを選択するとエコ空調モードを解除することができます。

□ 知識

n ガラスの曇りについて

- l 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C”（冷房・除湿）スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取り除くことができます。
- l “A/C”（冷房・除湿）スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- l 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

n 外気導入・内気循環について

- l トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- l 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

- n 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき
“A/C”（冷房・除湿）スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

n ナノイー X^{*1,2} について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置はリヤ席中央のコンソール吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。^{*3}

- l ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- l ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
 - ・リヤ席中央のコンソール吹き出し口が開いているとき

- l ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

- l ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

- ・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
- ・作動直後は作動音が大きい場合があります。

^{*1} nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

^{*2} ナノイー X はナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

^{*3} 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

n 換気とエアコンの臭いについて

- l 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- l エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- l エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために：
 - ・駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
 - ・オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- l 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

n 暖房について

- | HV モード時は、エンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエンジンが作動することがあります。
- | EV モード・AUTO EV / HV モード時は、水加熱ヒーターによる暖房を行います。

“AUTO” スイッチが ON のときに設定温度を調整することで安定的に最適な空調を行うように設定されています。

- | 次のときは、EV モードであってもエンジン冷却水の排熱による暖房を行うため、ガソリンエンジンが作動することがあります。
- ・ 外気温が約 - 10℃ 以下のとき
- ・ フロントデフロスタースイッチが ON のとき

n 音声対話サービスについて

音声対話サービスを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n エアコンフィルターについて

→P.564

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。(→P.632)



警告

n フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

n リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

n ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

n ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。



注意

n 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

n ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

リヤ席中央のコンソール吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

- 1 エアコン操作スイッチの“AUTO” スイッチを押します
- 2 温度を設定します

3 ファンを止めたいとき

は、“OFF” スイッチを押します

風量や吹き出し口を切りかえると、“AUTO” スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



知識

n オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO” を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

各席の設定温度を連動して設定する (SYNC モード)

SYNC モードを ON にするには、“SYNC” スイッチを押します。

運転席側温度調整スイッチで運転席・助手席・リヤ席の設定温度を調整できます。運転席・助手席・リヤ席の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチまたはリヤ席温度調整スイッチを操作するか、“SYNC” スイッチを押してください。

SYNC モードが ON のときは、“SYNC” スイッチの作動表示灯が点灯します。

運転席と助手席およびリヤ席の設定温度を別々に設定する (独立モード)

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

1 SYNC が ON の時に、エアコン操作スイッチの“SYNC” スイッチを押します。

1 助手席およびリヤ席の設定温度を変更します。

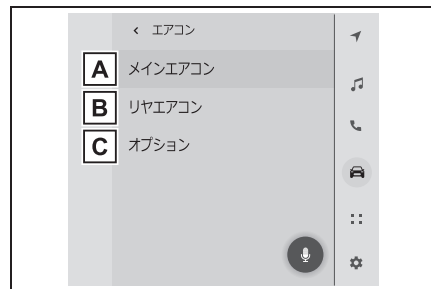
独立モードになり“SYNC” スイッチの作動表示灯が消灯します。

エアコン操作画面について

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

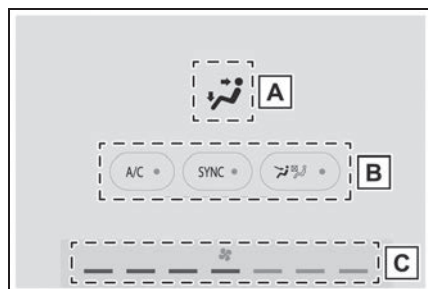
n 表示のしかた

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから  を選択します
- 2 サブメニューの“エアコン”を選択します
- 3 各画面を選択します



- A フロントエアコン操作画面を表示する
- B リヤエアコン操作画面を表示する
- C オプション操作画面を表示する

n フロントエアコン操作画面

**A** 吹き出し口を切りかえる

選択するたびに、吹き出し口が切りかわります。



：上半身に送風



：上半身と足元に送風



：足元に送風



：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

B 各機能の ON / OFF を切りかえる

選択するたびに、機能の ON / OFF が切りかわります。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

“A/C”：冷房・除湿機能（→P.477）

“SYNC”：SYNC モード（→P.481）

：フロント席集中送風モード（S-FLOW）（→P.483）

C 風量表示

現在の風量が表示されます。

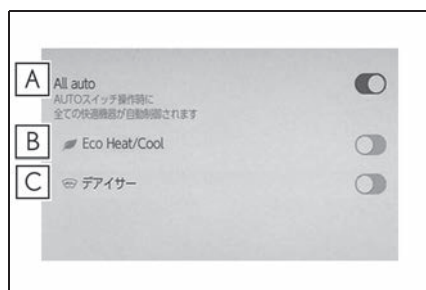
n リヤエアコン操作画面

→P.486

n オプション操作画面

各機能の （作動）・

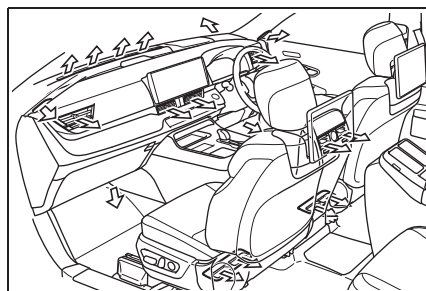
（非作動）を選択します。

**A** ALL AUTO 制御を作動させる**B** エコ空調モードを作動させる**C** フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）

吹き出し口の配置・操作

n 吹き出し口の位置

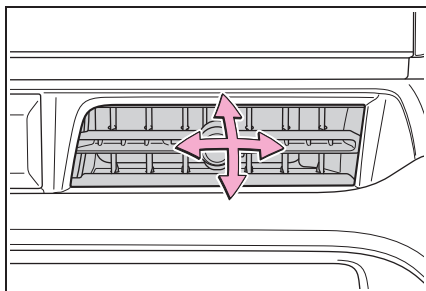
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



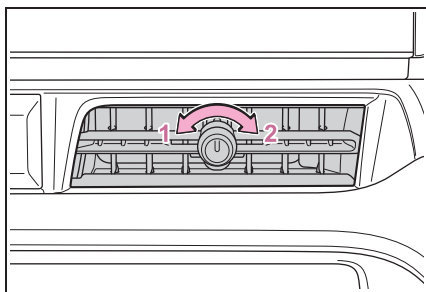
n 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

風向きの調整



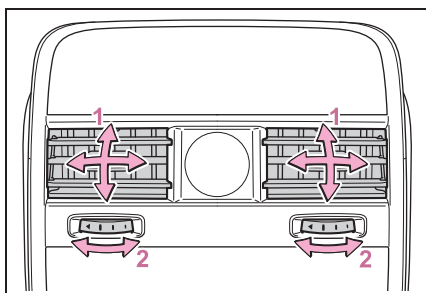
吹き出し口の開閉



1 開ける

2 閉じる

▶ リヤ



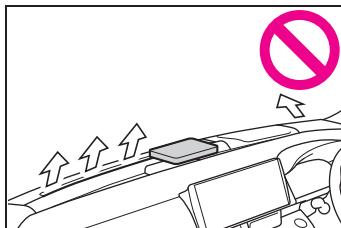
1 風向きを調整する

2 吹き出し口を開閉する

⚠ 警告

n フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



フロント席集中送風モード (S-FLOW)

S-FLOW が ON の時、リヤ席の送風を止めることで燃費の向上に貢献します。

S-FLOW を OFF にしても、長時間ハイブリッドシステムを OFF にした後にパワースイッチを ON にすると自動的に ON になります。

自動的に ON の時に限り、リヤドアを開閉すると S-FLOW が自動的に OFF になります。

作動中は、 が点灯します。

n 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作パネルの を押し、送風を切りかえます。

- | 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- | 表示灯が消灯：全席への送風

知識

n 送風の自動制御について

- | 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- | ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。
- | リヤ席の乗員検知は、長時間ハイブリッドシステムを OFF にした後にパワースイッチを ON にすると、乗員なしと判定します。
リヤ席の乗員あり判定は、リヤドアの開閉で判定します。一度乗員ありと判定すると、その運転中は乗員なし判定になりません。
- | とても暑い時や寒い時など、車両全体を空調させる必要がある場合は、S-FLOW 作動中もリヤ席に送風されることがあります。

n 送風の手動制御について

手動で S-FLOW を ON にした場合は、その運転中はリヤドアを開閉してもリヤ席に送風されません。手動で OFF にして送風してください。

n 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする

T-Connect 対応アプリを使用して遠隔でハイブリッドシステムを始動させ、同時にエアコンを始動させることができます。

リモートスタート（アプリ）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

リモートスタート（アプリ）

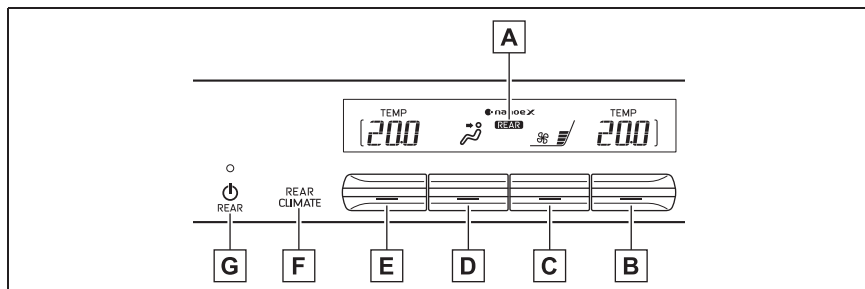
駐車中にスマートフォンの

リヤオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチやマルチメディアディスプレイ、リヤマルチオペレーションパネルで操作することができます。

リヤエアコン操作について（エアコン操作スイッチ）



A リヤエアコンインジケータ

“REAR CLIMATE” スイッチを押すと、リヤエアコンインジケータが表示されます。

B 運転席側リヤ席温度調整スイッチ

C リヤ席風量調整スイッチ

D リヤ席吹き出し口切りかえスイッチ

E 助手席側リヤ席温度調整スイッチ

F “REAR CLIMATE” スイッチ

リヤオートエアコン ON/OFF スイッチ インジケータ **G** 点灯時に “REAR CLIMATE” スイッチを押すと、リヤエアコンが操作できます。

“REAR CLIMATE” スイッチを押すたびに、フロントエアコンとリヤエアコンが切りかわります。

G リヤオートエアコン ON/OFF スイッチ

n 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上、下げるときは下に操作します。

n 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整ス

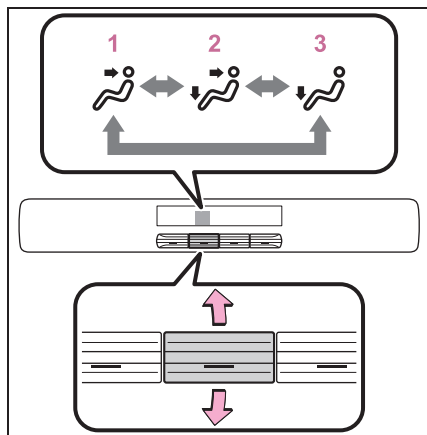
イッチを上、減らすときは下に操作します。

n 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上、下に操作します。

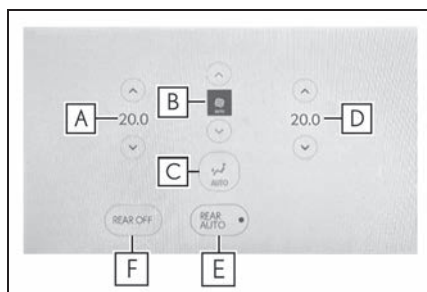
スイッチを操作するたびに吹き出し口が

切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風

リヤエアコン操作について（マルチメディアディスプレイ）



- A 助手席側リヤ席の温度を調整する
- B リヤ席の風量を切りかえる
- C リヤ席の吹き出し口を切りかえる

選択するたびに、吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

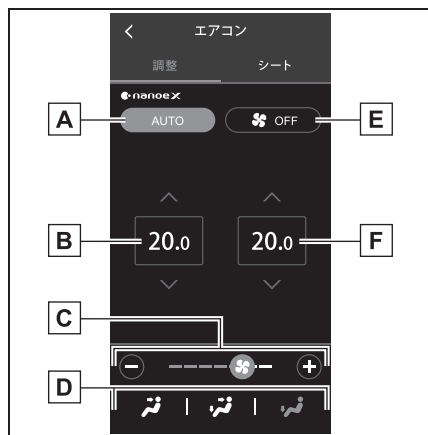
：上半身と足元に送風

：足元に送風

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

- D 運転席側リヤ席の温度を調整する
- E “REAR AUTO”：リヤ席の吹き出し口と風量が自動的に調整される
- F “REAR OFF”：リヤ席のファンを停止する

リヤエアコン操作について（リヤマルチオペレーションパネル）



- A “AUTO” スイッチ
- B 助手席側リヤ席温度調整スイッチ
- C リヤ席風量調整スイッチ
- D リヤ席吹き出し口切りかえスイッチ
- E “OFF” スイッチ
- F 運転席側リヤ席温度調整スイッチ

チ

n 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチの“ $\wedge$ ”を、下げるときは“ $\vee$ ”を選択します。

温度調整スイッチを直接選択して調整することもできます。

n 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの“+”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの“-”を選択するか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

“OFF”スイッチを選択すると、ファンが止まります。

風量調整スイッチのアイコンを左方向へスライドすることでもファンが止まります。

n 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチをを選択します。

選択するたびに吹き出し口が切りかわります。



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風

各席の温度を設定する

次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

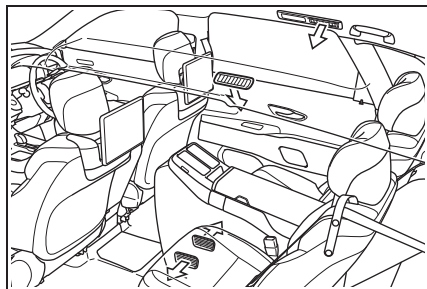
1 “SYNC” インジケーターが点灯しているときに運転席の温度を設定する

リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。

1 マルチメディアディスプレイとリヤマルチオペレーションパネルのリヤエアコン操作画面もしくはエアコン操作スイッチでリヤ席の温度を設定する

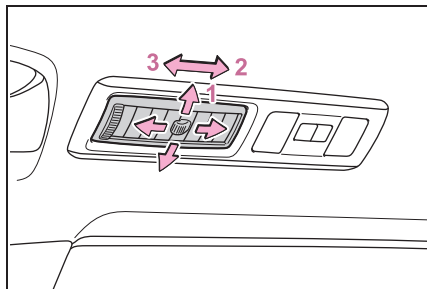
吹き出し口の配置・操作

n 吹き出し口の配置



→P.482

n 風向きの調整と吹き出し口の開閉



- 1 風向きの調整
- 2 開ける
- 3 閉じる

 注意

n 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター

Ⅰ ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

Ⅰ シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

Ⅰ シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

 警告

n 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- Ⅰ 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- Ⅰ 皮膚の弱い方
- Ⅰ 疲労の激しい方
- Ⅰ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

 注意

n シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

n 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

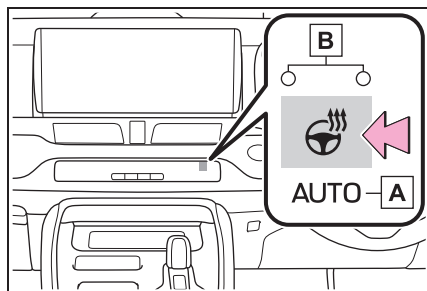
n エアコン操作スイッチ

システムの ON/OFF を切りかえます

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



n マルチメディアディスプレイ

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから を選択します
- 2 サブメニューの “シート空調” を選択します

3 ステアリングヒーターのスイッチを選択します



A ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチのまわりにあるレベルインジケーター（赤）が点灯します。

B AUTO モードに切りかえる

“Auto” を選択すると AUTO 作動に切りかわります。AUTO 作動中は、ステアリングヒーターの作動状況に応じてステアリングヒータースイッチのまわりにあるレベルインジケーターが点灯します。

知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n AUTO 作動を選択したとき

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、ステアリングヒーターの機能が OFF になることがあります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができません。（→P.632）

シートヒーター

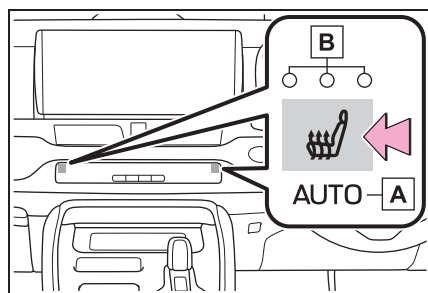
n エアコン操作スイッチ（フロントシートヒーター）

システムの ON/OFF を切りかえます

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



n マルチメディアディスプレイ（フロントシートヒーター）

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから  を選択します
- 2 サブメニューの “シート空調” を選択します

3 シートヒーターのスイッチを選択します



A シートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチのまわりにあるレベルインジケーター（赤）が点灯します。

B AUTO モードに切りかえる

“Auto” を選択すると AUTO 作動に切りかわります。AUTO 作動中は、シートヒーターの作動状況に応じてシートヒータースイッチのまわりにあるレベルインジケーターが点灯します。

n シートヒータースイッチ（リヤシートヒーター）

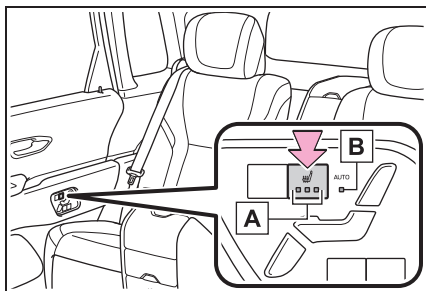
スイッチを押します

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（アンバー）**A** が点灯します。

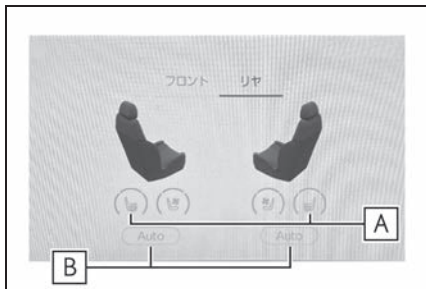
AUTO 作動中は AUTO インジケーター **B** が点灯します。



n マルチメディアディスプレイ (リヤシートヒーター)

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから を選択します
- 2 サブメニューの“シート空調”を選択します
- 3 “リヤ”を選択します
- 4 シートヒーターのスイッチを選択します



[A] シートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチのまわりにあるレベ

ルインジケーター（赤）が点灯します。

[B] AUTO モードに切りかえる

“Auto” を選択すると AUTO 作動に切りかわります。AUTO 作動中は、シートヒーターの作動状況に応じてシートヒータースイッチのまわりにあるレベルインジケーターが点灯します。

n リヤマルチオペレーションパネル（リヤシートヒーター）

- 1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で“エアコン”を選択します
- 2 “シート”を選択します
- 3 を選択します

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（赤）が点灯します。

AUTO 作動中は、“AUTO” が点灯します。

□ 知識

n シートヒーターの作動条件

パワースイッチが ON のとき

n AUTO 作動を選択したとき

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、シートヒーターの機能が OFF になることがあります。

n シートヒーターの作動について

リヤマルチオペレーションパネルの“シート”画面で、シート・オットマンを選択すると、それぞれを独立して ON / OFF する事ができます。

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができ

ます。(→P.632)

⚠ 警告

n 異常加熱や低温やけどを防ぐためにシートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- ⌚ 長時間連続使用しないでください。
- ⌚ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

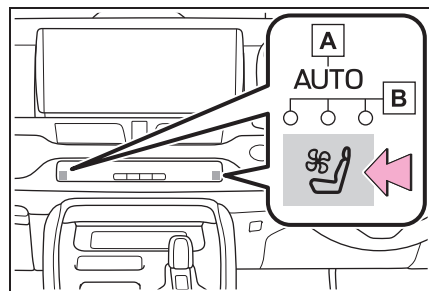
n エアコン操作スイッチ（フロントシートベンチレーター）

システムの ON/OFF を切りかえます

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



n マルチメディアディスプレイ（フロントシートベンチレーター）

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから を選択します
- 2 サブメニューの “シート空調” を選択します
- 3 シートベンチレーターのスイッチを選択します



A シートベンチレーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチのまわりにあるレベルインジケーター（青）が点灯します。

B AUTO モードに切りかえる

“Auto” を選択すると AUTO 作動に切りかわります。AUTO 作動中は、シートベンチレーターの作動状況に応じてシートベンチレータースイッチのまわりにあるレベルインジケーターが点灯します。

n シートベンチレータースイッチ（リヤシートベンチレーター）

スイッチを押します

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

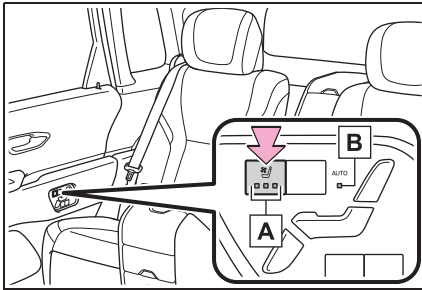
AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、レベルインジケーター（緑）

A が点灯します。

AUTO 作動中は AUTO インジケーター

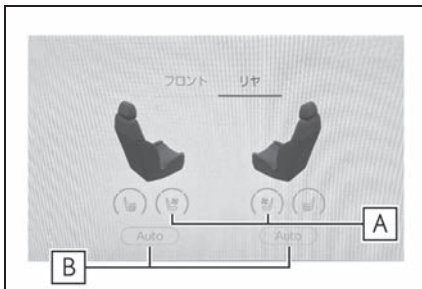
B が点灯します。



n マルチメディアディスプレイ (リヤシートベンチレーター)

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから を選択します
- 2 サブメニューの“シート空調”を選択します
- 3 “リヤ”を選択します
- 4 シートベンチレーターのスイッチを選択します



A シートベンチレーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態が

次のように切りかわります。

AUTO→強(3個点灯)→中(2個点灯)→弱(1個点灯)→OFF

作動中は、スイッチのまわりにあるレベルインジケーター(赤)が点灯します。

B AUTO モードに切りかえる

“Auto” を選択すると AUTO 作動に切りかわります。AUTO 作動中は、シートベンチレーターの作動状況に応じてシートベンチレータースイッチのまわりにあるレベルインジケーターが点灯します。

n リヤマルチオペレーションパネル (リヤシートベンチレーター)

- 1 リヤマルチオペレーションパネル(→P.466)のホーム画面で“エアコン”を選択します
- 2 “シート”を選択します
- 3 を選択します

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強(3個点灯)→中(2個点灯)→弱(1個点灯)→OFF

作動中は、レベルインジケーター(青)が点灯します。

AUTO 作動中は、“AUTO” が点灯します。

知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n AUTO 作動を選択したとき

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、シートベンチレーターの機能が OFF になることがあります。

n エアコン連動制御モードについて

フロントシートベンチレーターが強のととき、エアコンの風量に応じてフロント

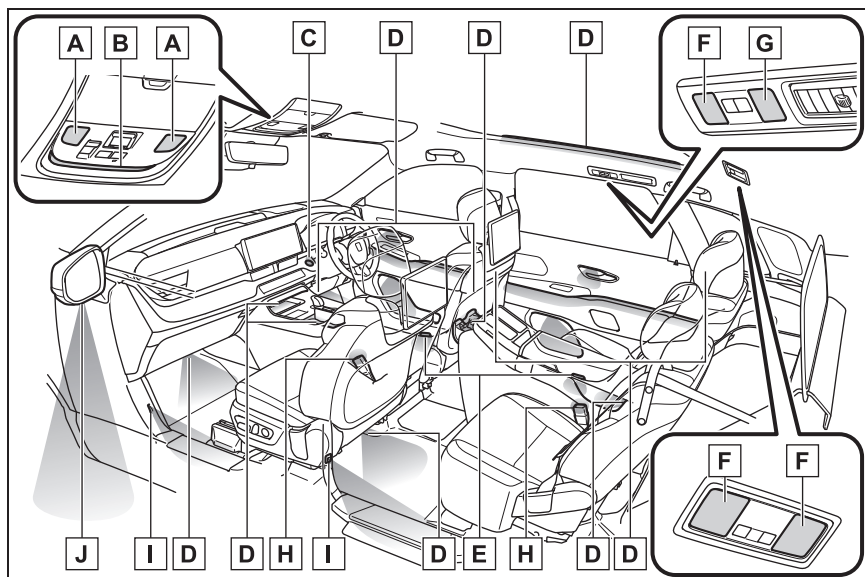
シートベンチレーターの風量が強くなります。

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。(→P.632)

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** フロントパーソナルランプ (→P.496)
- B** フロントインテリアランプ (→P.495)
- C** パワースイッチ照明
- D** アンビエントイルミネーション (→P.497)
- E** ドアカーテシランプ
- F** リヤパーソナルランプ (→P.496)
- G** リヤインテリアランプ (→P.496)
- H** シートベルトバックル照明
- I** 足元照明
- J** ドアミラー照明

インテリアランプを操作するには

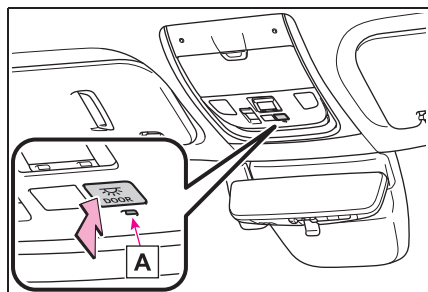
- n** ドアポジション (ドア連動) を ON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

フロントパーソナルランプも連動して点灯・消灯します。

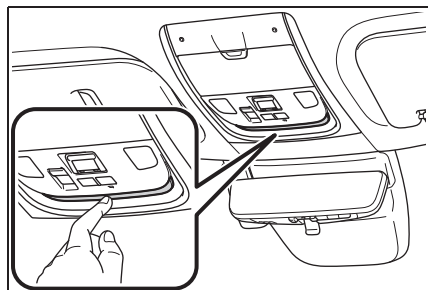
ON のときはインジケーター **A** が点灯します。



n フロントインテリアランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

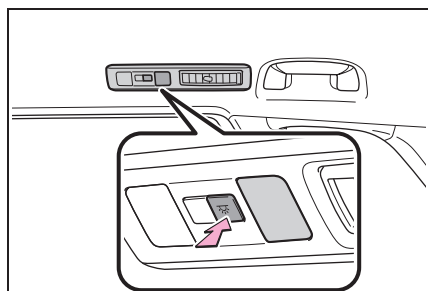
リヤインテリアランプも連動して点灯・消灯します。



n リヤインテリアランプを点灯・消灯する

▶ スイッチ

スイッチを押す



▶ リヤマルチオペレーションパネル

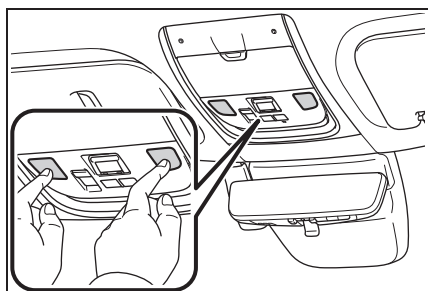
- 1 リヤマルチオペレーションパネル (→P.466) のホーム画面で“ランプ”を選択する
- 2 “室内灯”を選択する
- 3 “点灯”または“消灯”を選択する

両側のリヤインテリアランプが点灯・消灯します。

パーソナルランプを操作するには

n フロントパーソナルランプを点灯・消灯するには

ランプにタッチする



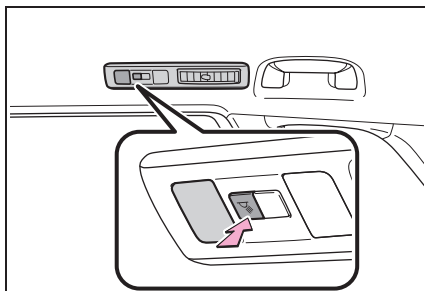
n リヤパーソナルランプを点灯・消灯するには

▶ スイッチ (側方)

スイッチを押す

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

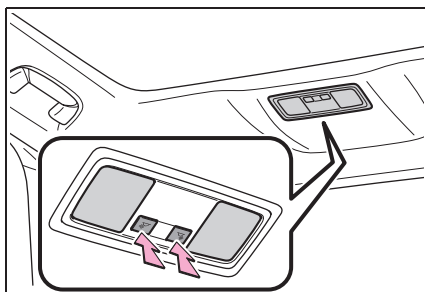


▶ スイッチ（後方）

スイッチを押す

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。



▶ リヤマルチオペレーションパネル

- 1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で“ランプ”を選択する
- 2 “読書灯”を選択する
- 3 点灯・消灯したいランプを選択する

“+”または“-”を選択すると明るさを 4 段階に切りかえることができます。

“消灯”を選択すると、点灯しているすべてのリヤパーソナルランプが消灯します。

アンビエントイルミネーションの設定を変更するには

n アンビエントイルミネーションの明るさを調整するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で“ランプ”を選択する
- 2 “イルミネーション”を選択する
- 3 “全体”または“エリアごと”を選択する
- 4 バー上のアイコンをスライドさせる

明るさを 9 段階に切りかえることができます。

n アンビエントイルミネーションの色を変更するには

- 1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で“ランプ”を選択する
- 2 “イルミネーション”を選択する
- 3 “テーマカラー変更”を選択する
- 4 お好みの色を選択する

□ 知識

n イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

n 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

n フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しない おそれのある状況

次の場合は、フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。

- l レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- l 濡れた手で操作したとき
- l 手袋などを装着しているとき

n 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.632)



注意

n ランプのレンズの取りはずしについて

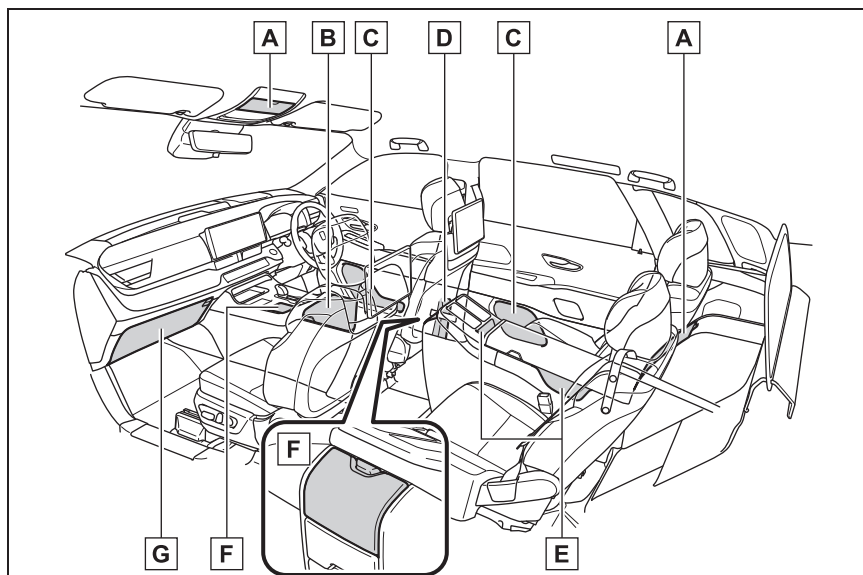
フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** 小物入れ (→P.502)
- B** コンソールボックス (→P.500)
- C** ドアポケット (→P.502)
- D** 靴べら差し (→P.503)
- E** スマートフォンホルダー (→P.503)
- F** カップホルダー (→P.501)
- G** グローブボックス (→P.500)

⚠ 警告

n 収納装備に放置してはいけないもの

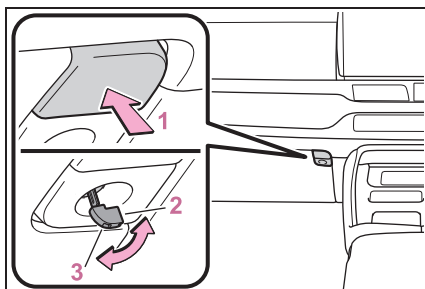
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠



知識

n グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。



警告

n 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



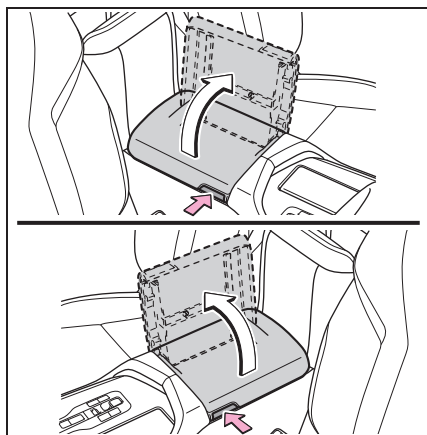
注意

n グローブボックスの破損を防ぐために

急な下り坂に停車しているときは、ボタンを押してもグローブボックスが十分に開かないことがあります。その場合は無理に開けようとしないで、平坦な場所に車を移動させてから再度操作してください。

コンソールボックス

ボタンを押してフタを開ける
両側から開けることができます。



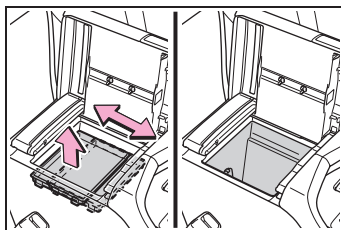
知識

n コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

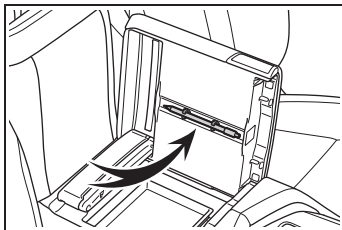
n コンソールボックス内のトレイについて

トレイは取りはずしたり、スライドさせたりすることができます。



n コンソールボックス内のペンホルダーについて

フタの裏側にペンを取り付けることができます。



⚠ 警告

n 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

n コンソールボックスの損傷を防ぐために

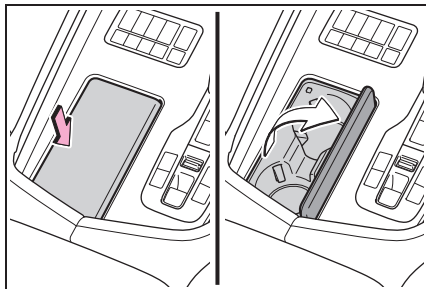
！ コンソールボックスのフタが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

！ フタを開けるときは、左右のボタンを同時に押して両側からフタを開けようとするなど、無理な力をかけないでください。

カップホルダー

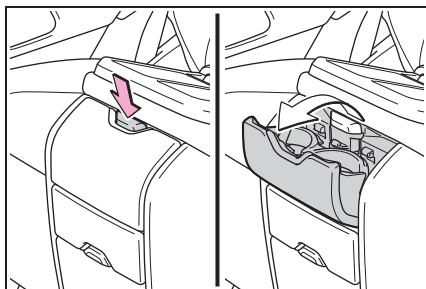
▶ フロント

カップホルダーのフタを押す



▶ リヤ

ボタンを押す



⚠ 警告

n 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶、ペットボトル以外のものを置かないでください。

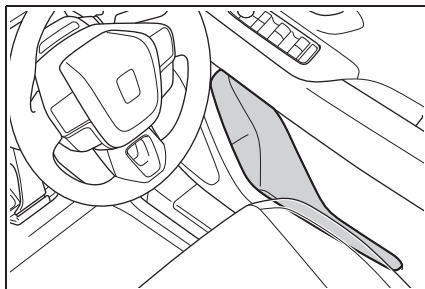
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

n 使わないときは

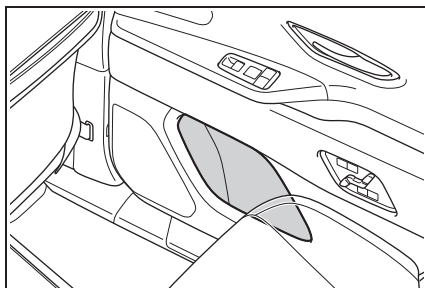
フタを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

ドアポケット

▶ フロント



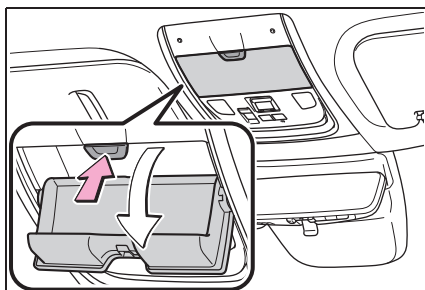
▶ リヤ



小物入れ

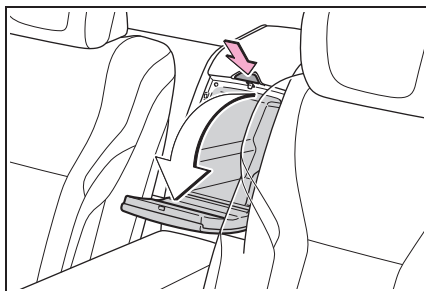
▶ 天井

ボタンを押す



▶ リヤシート（冷蔵庫非装着車）

ボタンを押す



知識

n リヤシート小物入れランプ

車幅灯点灯時は、リヤシート小物入れ内のランプが点灯します。

警告

n 収納してはいけないもの（天井）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入ると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

n 走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

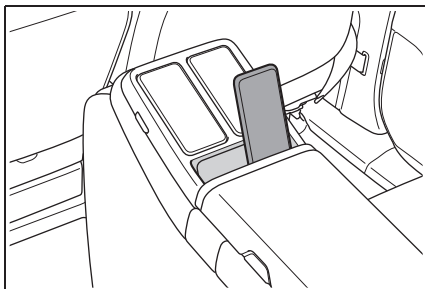
注意

n 小物入れの損傷を防ぐために

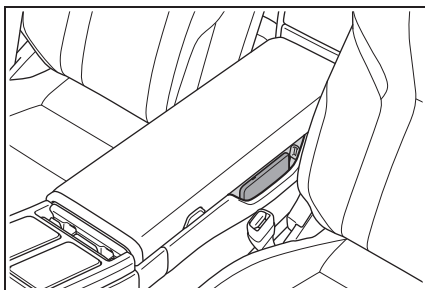
小物入れのフタが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

スマートフォンホルダー

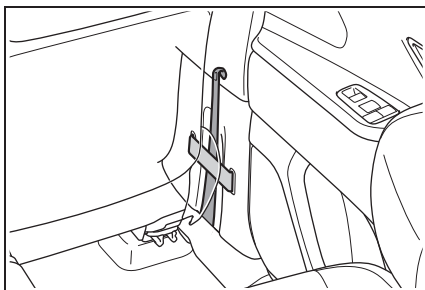
▶ スタンドタイプ



▶ ポケットタイプ



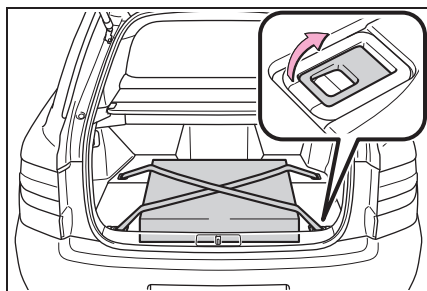
靴べら差し



ラゲージルーム内装備

デッキフック

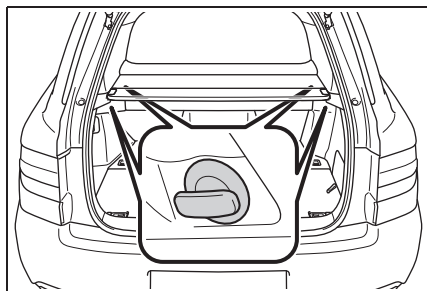
デッキフックを起こして使用するフックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

n デッキフックを使用しないときはけがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

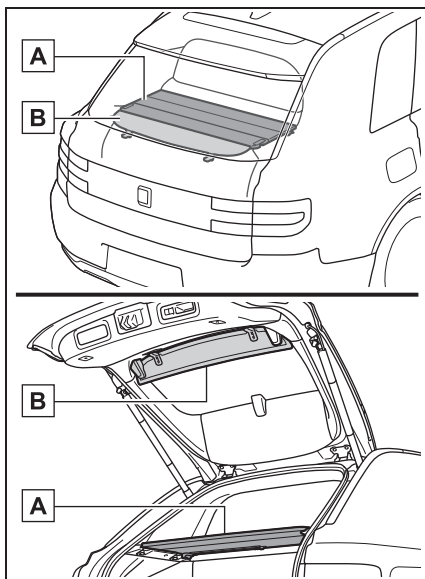
買い物フック



⚠ 注意

n 買い物フックの破損を防ぐために3kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

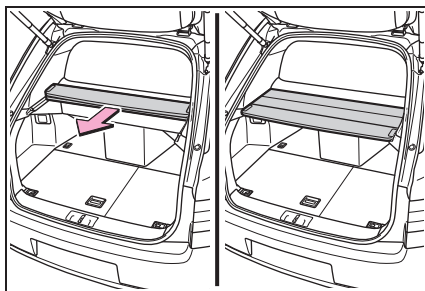
トノボード



- A** 折りたたみ式トノボード
B バックドア付けトノボード

n トノボードを使うには

折りたたみ式トノボードを車両後方へ広げる



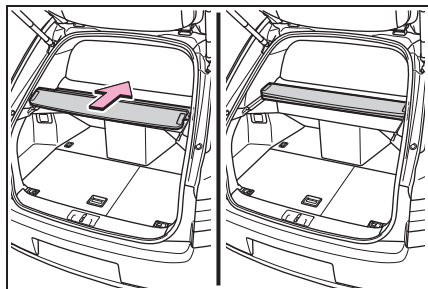
n 折りたたみ式トノボードをたたむには

トノボードを持ち上げ、車両前方へ三つ折りにする

荷物を出し入れしやすくなります。

高さのある荷物を載せるときは折りたた

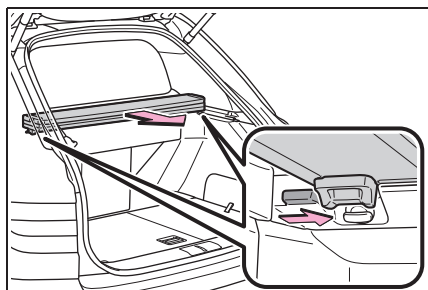
んでください。



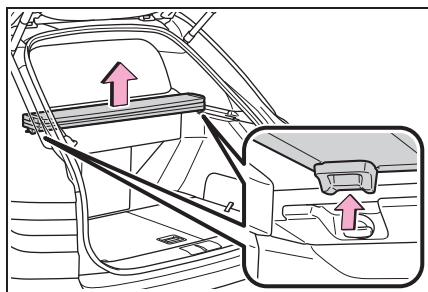
n トノボードを取りはずすには

▶ 折りたたみ式トノボード

- 1 車両後方に引っぱってトノボード両端のホルダーをはずす

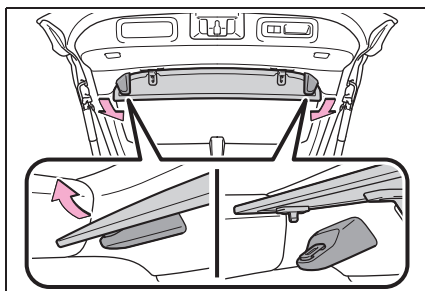


2 トノボードを持ち上げる

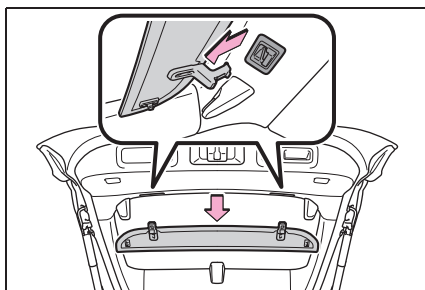


▶ バックドア付けトノボード

- 1 トノボードを上にして押してツメをはずす



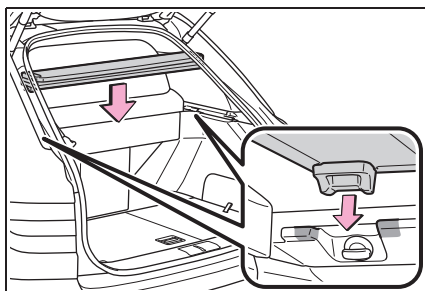
- 2 トノボードを押し上げたまま引き抜く



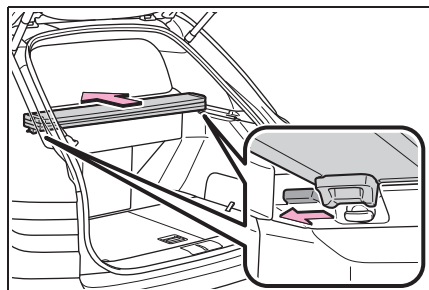
n トノボードを取り付けるには

▶ 折りたたみ式トノボード

- 1 トノボード側のホルダーと車両側の切り欠きの位置を合わせ、トノボードを置く

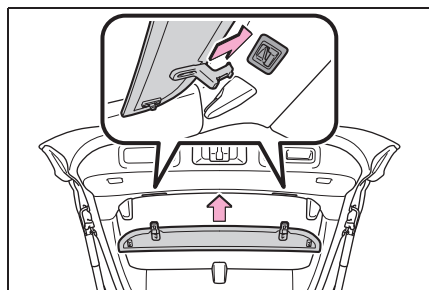


- 2 車両前方に押してトノボード両端のホルダーを取り付ける

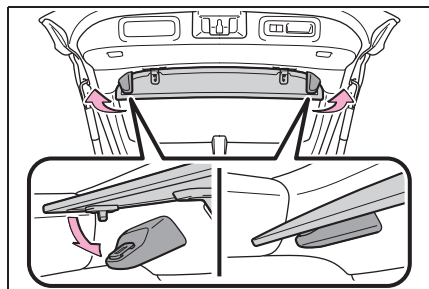


▶ バックドア付けトノボード

- 1 バックドアの穴にトノボードを挿し込む



- 2 トノボードのツメをバックドアに取り付ける



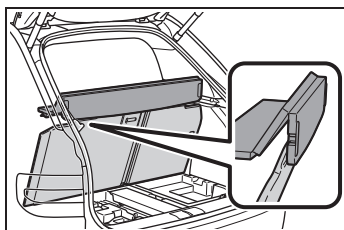
□ 知識

- n 折りたたみ式トノボードを広げたときは

5kg 未満の荷物であれば、一時的にトノボードの上に置くことができます。

n デッキボードを開けたときは

トノボードに立てかけることで、デッキボードを開けた状態で保持することができます。



n バックドア付けトノボードについて

バックドアを閉めたときに、荷物に当たってトノボードのツメがはずれることがあります。

その場合はトノボードを付け直して、荷物の高さを調節してください。



警告

n はずれたバックドア付けトノボードを付け直すときは

バックドアが完全に開くまで近づかないでください。はずれ方によっては、バックドアを開けたときにトノボードが落下して体に当たり、けがをすることがあります。



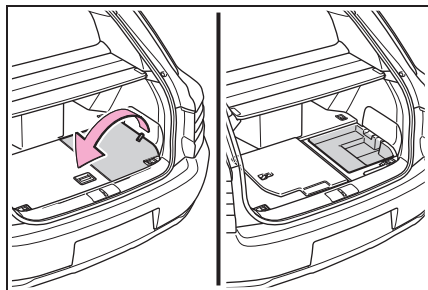
注意

n トノボードの破損を防ぐために

- l 5kg 以上の荷物を折りたたみ式トノボードの上に載せないでください。
- l 折りたたみ式トノボードの上に荷物を載せたまま走行したり、長時間放置しないでください。
- l バックドア付けトノボードのツメがはずれた状態で走行しないでください。

デッキアンダートレイ

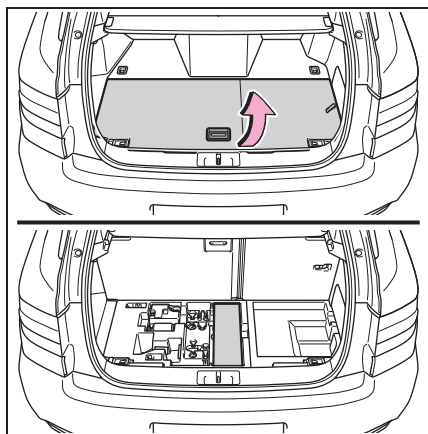
ストラップを持ち上げてデッキボードを開く



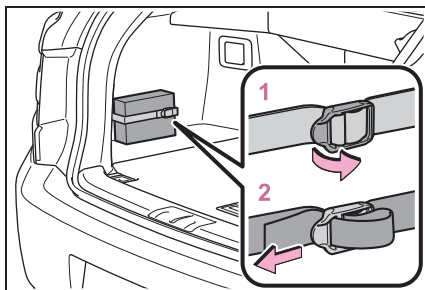
三角表示板収納スペース

レバーを引き上げてデッキボードを開く

三角表示板を収納することができます。
(大きさや形状によって、収納できない場合があります)



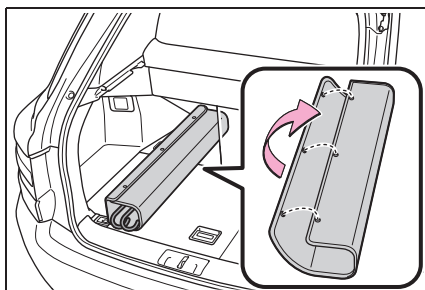
救急箱等固定用ベルトを使うには



1 ベルトをゆるめる

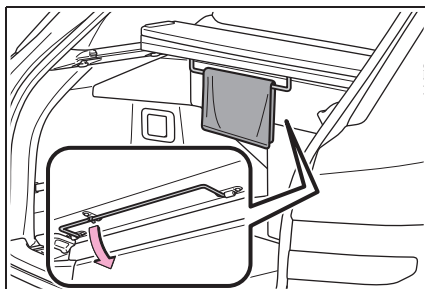
2 ベルトを締める

傘・毛バタキ入れ



タオルハンガー

ハンガーをクリップからはずして下ろす



その他の室内装備

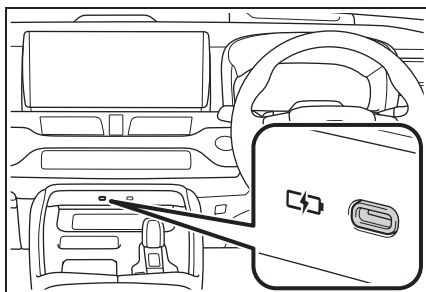
充電用 USB 端子

DC5V / 3.0A (消費電力 15W) の電源としてお使いください。

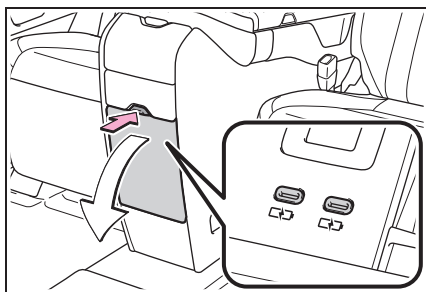
この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

n 充電用 USB 端子を使用するには

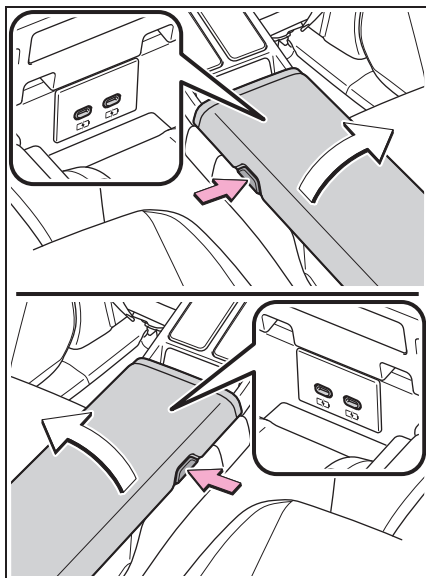
▶ インストルメントパネル



▶ リヤコンソール前側パネル ボタンを押して開ける



▶ リヤコンソール内 ボタンを押してフタを開ける



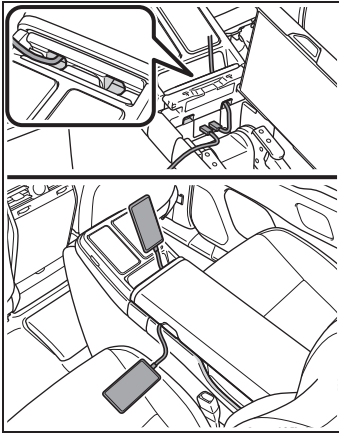
知識

n 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n 走行中にリヤコンソール内の充電用 USB 端子を使用するときは

充電ケーブルを充電用 USB 端子の上にある穴に通すか、リヤコンソール側面に出してからリヤコンソールのフタを閉じてください。



n 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- l DC5V / 3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- l パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- l 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- l 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

n 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

n 走行中の警告

リヤコンソール前側パネルの上にものを置かないでください。
急ブレーキや急旋回時などに、置いたものが体に当たったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

n 使わないときは

リヤコンソールのフタは必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

n 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- l 端子部に異物を入れないでください。
- l 水や液体をかけないでください。
- l 強い力や衝撃を加えないでください。
- l 分解や改造、取りはずしをしないでください。

n 外部機器の損傷を防ぐために

- l 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- l 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

n 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（「おくだけ充電[®]」）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。適合機器は WPC のホームページ（<https://www.wirelesspowerconsortium.com/>）でご確認いただけます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

n 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。

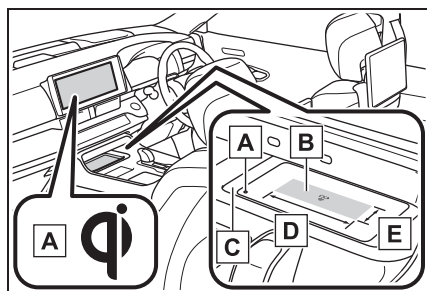


n 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



n 各部の名称



- A** 作動表示灯
- B** 充電エリア ※
- C** 充電トレイ
- D** 約 10cm

E 約 2.5cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、携帯機器内の充電用コイル位置まで充電エリア内を移動することができます。携帯機器のコイル中心が充電エリア内に入っていれば充電が可能です。
また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

n 充電する

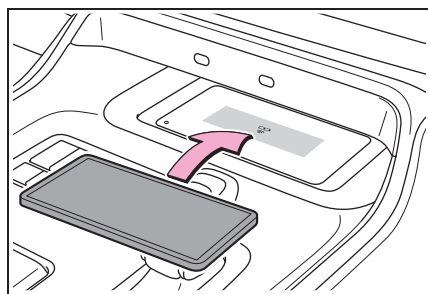
携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、「機能が正常に働かないおそれのある状況」をご確認ください。(→P.514)

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。



n 再充電機能

充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

l 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルの中心がある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

n 急速充電機能

次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- l WPC の Ver1.3.2 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- l 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
- l Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

n 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯		状況
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
消灯	非表示	マルチメディアシステムの電源が OFF、またはパワースイッチが OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）※ ¹
		充電完了時 ※ ²
橙（点灯）	青	充電中

※¹待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いて、加熱されることはありません。

※²携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

n ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	灰	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.253）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	非表示	ワイヤレス充電器とマルチメディアシステムの通信異常 → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.253）
緑（点灯）	青	AM 放送局を自動選局している → AM 放送局の自動選局が完了するのをお待ちください。また、自動選局が完了しないときは、自動選局を停止させてください。 スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行っている → キーの検出が完了するのをお待ちください。

作動表示灯		想定される原因・対処方法
充電トレイ	マルチメディアディスプレイ	
緑（点灯）	灰	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常過熱防止機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。
		携帯機器のすれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。
		携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。
		電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された → パワースイッチ押下により ACC または IG ON し、キーを確定させてください。
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	灰	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

□ 知識

n 使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n 使用できる携帯機器について

l ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

- l 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。

- ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
- ・ Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
- ・ WPC 規格の Ver1.3.2 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

n スマートエントリー&スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムが電子キーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

n 携帯機器にカバーやアクセサリを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いて充電が行われなときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

n 充電中の AM ラジオ放送連携機能

- l 充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。
- l AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

n 充電中についての留意事項

- l 車室内に電子キーを検出できない場合

は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

- l 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

n 作動中の音について

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“カチッ”や“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

n 清掃について

→P.540

n 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- l 携帯機器が満充電のとき
- l 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- l 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- l 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- l 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- l 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- l 折りたたみ式など小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアから外れているとき
- l 携帯機器が充電トレイよりも大きいと

き

- | 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上あるとき
- | 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
- | 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のようなものが挟まれているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
 - ・ レンズ部に凸形状があるケースやカバー
- | 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のデコレーション
 - ・ 金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入ったケース
- | 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- | 電子キーが車室内にないとき
- | 2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき
- | S ペン (Galaxy 端末付属のタッチペン) 内蔵の端末 (Note シリーズ等) をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われ
ない、または、作動表示灯が点滅したま
まのときは、ワイヤレス充電器の異常が

考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせ
ください。

n スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新
したとき、充電の仕様が大きく変更され
ることがあります。WPC の対応バージ
ョンが変更された場合、急速充電機能が
使えなくなる場合があります。詳しくは
各メーカーのホームページ情報等でご
確認ください。

n 商標について

- | iPhone は、米国および他の国々で登
録された Apple Inc. の商標です。なお、
iPhone の商標はアイホン株式会社のラ
イセンスにもとづき使用されています。
- | Galaxy は、Samsung Electronics
Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

⚠ 警告

n 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、
運転者は運転中に携帯機器本体の操作
をしないでください。

n 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量
の携帯機器は、走行中に充電しないで
ください。非常に軽量のため充電トレ
イから飛び出し、思わぬ事故の原因に
なるおそれがあり危険です。

n 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み
型両心室ペーシングパルスジェネレー
タおよび植込み型除細動器などの医療
用電気機器を装着されている方は、ワ
イヤレス充電器のご使用にあたっては
医師とよくご相談ください。ワイヤレ
ス充電器の動作が医療用電気機器に影
響を与えるおそれがあります。

！ 警告**n 故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- ！ 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- ！ 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- ！ 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- ！ 小物入れがわりにものを置かない
- ！ 強い力や衝撃をかけない
- ！ 分解や改造、取りはずしをしない
- ！ 指定された携帯機器以外は充電しない
- ！ 磁気を帯びたものを近付けない
- ！ 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ！ 布などをかぶせて充電しない

！ 注意**n 故障やデータ破損を防止するために**

- ！ 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

！ 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

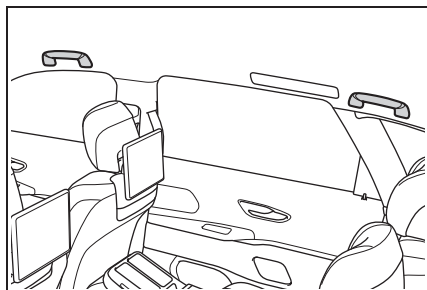
！ 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

**！ 警告****n アシストグリップについて**

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

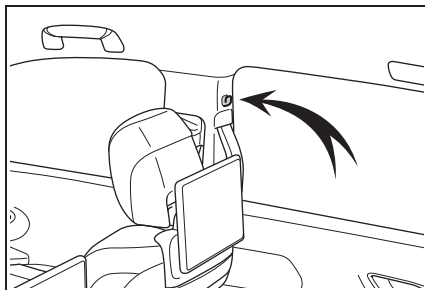
⚠ 注意

n 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフックを使うには

コートフックはピラーに付いています。



⚠ 警告

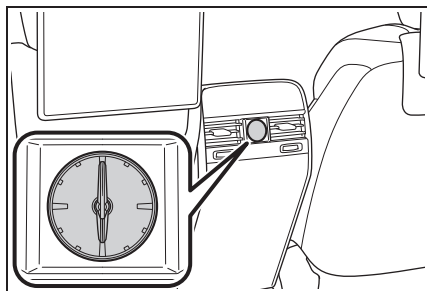
n コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

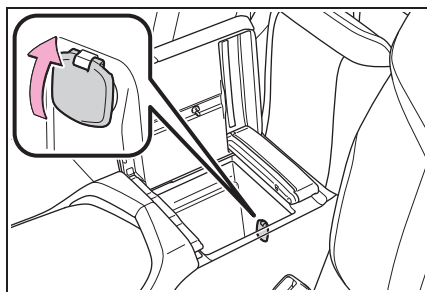


アクセサリソケットを使うには

DC12V / 10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

フタを開けて使用する



□ 知識

n 使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

n ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッド

システムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

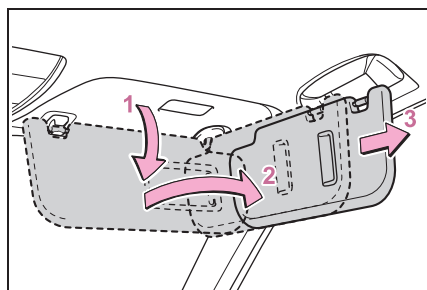
n ショートや故障を防ぐために

アクセサリソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、キャップ・フタを閉じておいてください。

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには

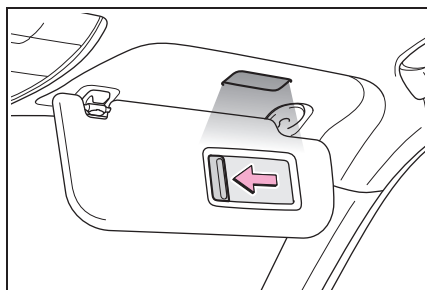


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



□ 知識

n 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

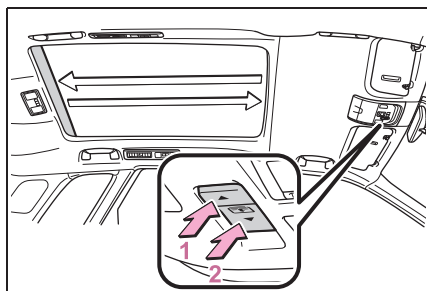
⚠ 注意

n 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

電動サンシェード

▶ フロント席（スイッチ）

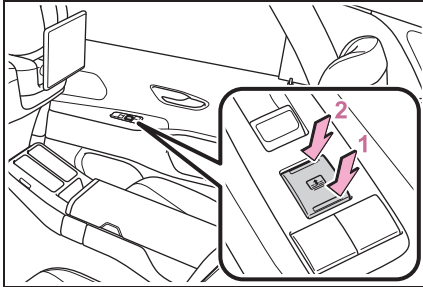


1 開ける ※

2 閉める ※

※ 途中で停止するとき、スイッチを軽く押します。

▶ リヤ席（スイッチ）



1 開ける ※

2 閉める ※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

▶ リヤマルチオペレーションパネル

1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で

“サンシェード”を選択する

2 “開ける” / “閉める”を選択する

“停止”を選択すると途中で停止します。



知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n 電動サンシェードの挟み込み防止機能

1 電動サンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

1 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの閉める側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

1 電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

n 電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON にする

2 スwitchの閉める側を押し続ける

全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

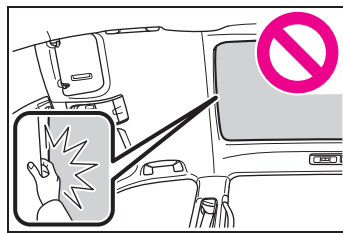
以上の操作を行っても開閉機能が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 電動サンシェードを開閉するとき

1 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。



1 お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

n 挟み込み防止機能

1 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

⚠ 警告

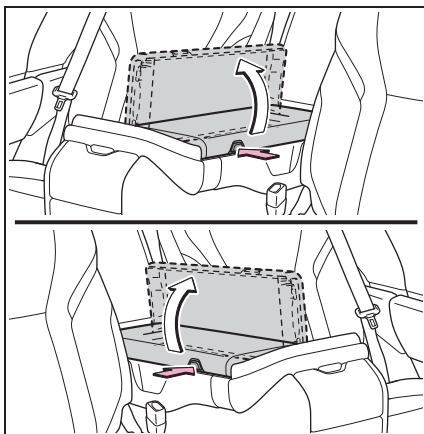
挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

n やけどやけがを防ぐために

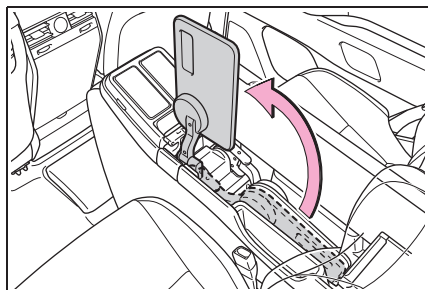
ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

テーブルを使うには

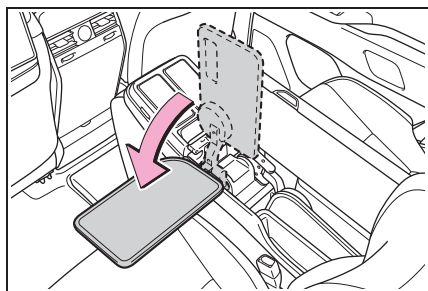
1 リヤコンソールのフタを開ける



2 テーブルを一番上まで引き起こす



3 テーブルを倒す

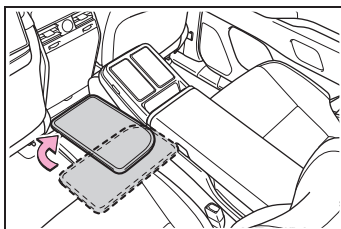


4 リヤコンソールのフタを閉じる

□ 知識

n テーブルの向きについて

必要に応じて、テーブルの向きを変えることができます。



⚠ 警告

n テーブルについて

- ↓ 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。
- ・ 走行中はテーブルを使用しない
- ・ 使用しないときは、必ずリヤコンソール内に格納する
- ・ テーブルの上に乗らない
- ↓ テーブルを展開 / 格納するときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ↓ テーブルを使用中はリヤシートの背もたれを必要以上に倒さないでください。
テーブルが体に当たり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

n テーブルの損傷を防ぐために

- ↓ 10kg 以上のものをテーブルに載せないでください。
- ↓ フロントシートの背もたれを必要以上に倒さないでください。

n リヤコンソールのフタの損傷を防ぐために

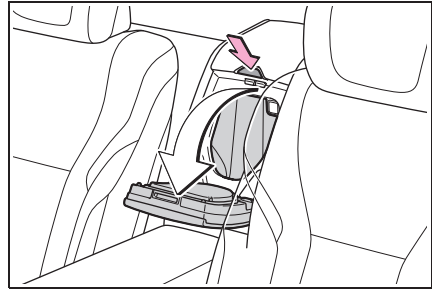
- ↓ フタが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。
- ↓ フタを開けるときは、左右のボタンを同時に押して両側からフタを開けようとするなど、無理な力をかけないでください。

冷蔵庫★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n 開閉のしかた

ボタンを押してフタを開ける



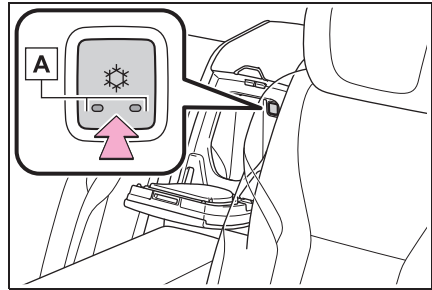
n 電源の ON/OFF

スイッチを押す

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

弱（1 個点灯）→ 強（2 個点灯）→ OFF

作動中は、インジケータ **A** が点灯します。



📖 知識

n 作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

n 冷蔵庫に入れるものとして適さないもの

- ↓ フタがされていない容器に入ったもの
- ↓ 割れもの、腐るもの、匂いが強いもの

警告**n 走行中の警告**

冷蔵庫を開けたままにしないでください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**n 補機バッテリーあがりを防止するために**

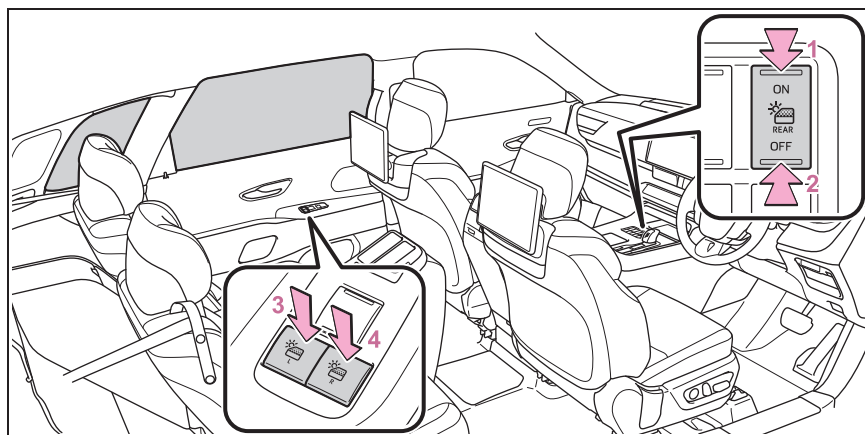
ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間使用しないでください。

n 冷蔵庫のフタの損傷を防ぐために

冷蔵庫のフタが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

調光ガラス

リヤドアガラス・リヤクォーターガラスの調光／半透過／透過状態を切りかえることができます。

▶ スイッチ

1 両側のガラスを調光状態にする

2 両側のガラスを透過状態にする

3 左側のガラスの調光／半透過／透過状態を切りかえる

4 右側のガラスの調光／半透過／透過状態を切りかえる

▶ リヤマルチオペレーションパネル

1 リヤマルチオペレーションパネル（→P.466）のホーム画面で“サンシェード”を選択する

2 切りかえたい側のスイッチ

（☀ [調光状態]、☀ [半透過状態]、☀ [透過状態]）を選択する



知識

n 作動条件

パワースイッチが ON のとき

n リヤドアガラス・リヤクォーターガラスが透過状態に切りかわらないときは

スイッチを押しても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n パワースイッチを OFF にしたとき

調光ガラスが透過状態のときにパワースイッチを OFF にすると、全ドアを施錠したとき、または約 4 分経過後に自動で調光状態に切りかわります。

アクセサリーコンセント (AC100V 1500W)・ 非常時給電システム

I アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.524)

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.525)

I 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.525)

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- I システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- I 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

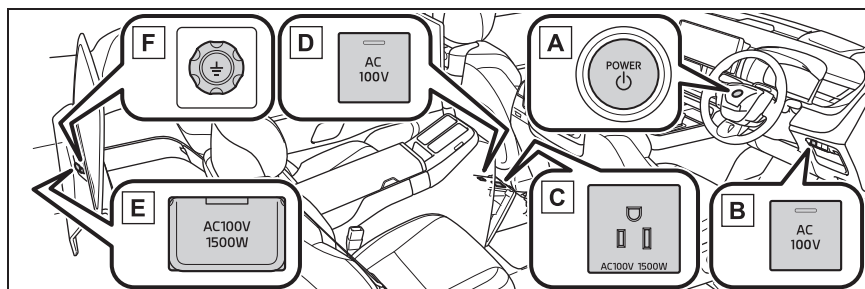
- Ⅰ ボンネットが閉まっていること
- Ⅰ パーキングブレーキがかかっていること
- Ⅰ シフトポジションが P になっていること
- Ⅰ パワースイッチが OFF になっていること
- Ⅰ 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を

防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

非常時給電システムを使用するときには次の点についても確認ください。

- Ⅰ 普通充電を行っていないこと
- Ⅰ AC外部給電を行っていないこと

各部の名称



- A** パワースイッチ (→P.253)
- B** “AC 100V” スイッチ
- C** リヤコンソールボックスコンセント
- D** “AC 100V” スイッチ
- E** ラゲージルームコンセント
- F** アース端子

アクセサリコンセントを使用するには

n コンセントを ON するとき

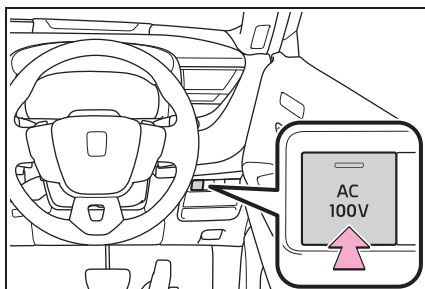
- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.253)

- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、“AC 100V” スイッチを押す

“AC 100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

“AC 100V” スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわりま

す。



- 3** フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む (→P.526)

n コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

- 1** 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2** “AC 100V” スイッチを押して OFF にする
- 3** コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4** コンセントのフタを閉める

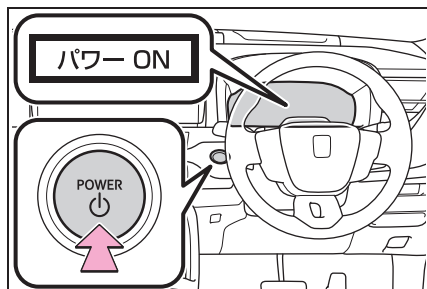
非常時給電システムを使用するには

n 非常時給電システムを起動するとき

- 1** ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする (→P.256)

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは

使用できません。

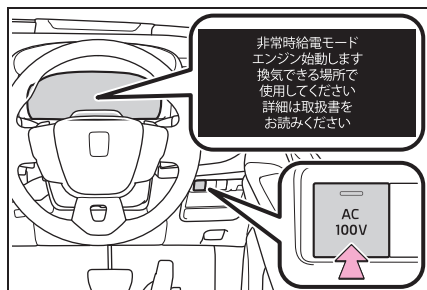


- 2** READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“AC 100V” スイッチを 3 回連続で押す

“AC 100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

“AC 100V” スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないことがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“AC 100V” スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



- 3** フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む (→P.526)

n 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 “AC 100V” スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

n 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

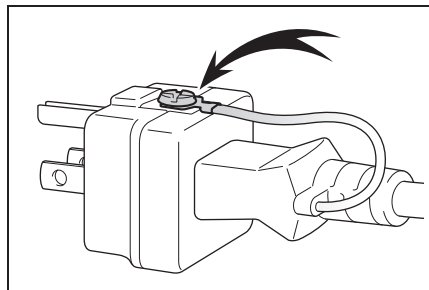
次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 1 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 1 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

▶ リヤコンソールボックス

アース線のある電気製品を使用す

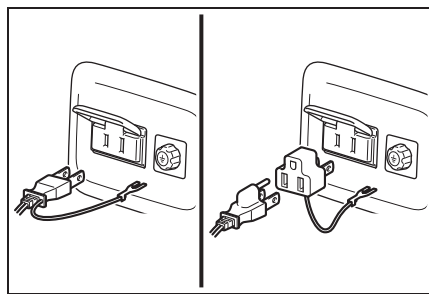
るときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する



▶ ラゲージルーム

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



□ 知識

n アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- 1 AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 1 消費電力が大きな電気製品（ホットブ

レートなど)の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
その場合は、他の電気製品と併用しないでください。

- | 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- | コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。
この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- | コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- | コンセントの使用時、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- | 非常時給電システムの使用時は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

n 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- | 起動時の電力が大きい電気製品
- | 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- | 精密なデータ処理をする計測機器
- | きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- | タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

n アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

n 駐車中または停車中に使用するとき

- | スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- | 非常時給電システム起動後のみワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に動作しない場合があります。
- | ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

n 非常時給電システムを使用するとき

- | 普通充電はできません。
- | AC 外部給電はできません。車内のコンセントに接続してください。



警告

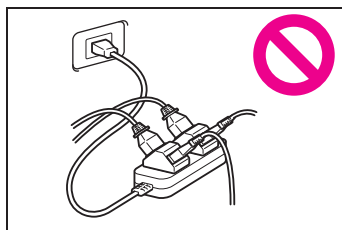
n 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

！ 警告

- Ⅰ 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- Ⅰ お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- Ⅰ めれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差し込んだりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- Ⅰ コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- Ⅰ コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- Ⅰ コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- Ⅰ コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

- ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

Ⅰ リヤコンソール

- ・ アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

Ⅰ ラゲージルーム

- ・ アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

- Ⅰ 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでゆめいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

Ⅱ 接続する電気製品について

- Ⅰ 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

- Ⅰ 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

- Ⅰ 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

⚠ 警告

- Ⅰ 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- Ⅰ 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- Ⅰ 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- Ⅰ 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- Ⅰ 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- Ⅰ 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- Ⅰ コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

Ⅰ コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

Ⅰ コンセントの使用中は車両から離れないでください。

Ⅰ 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

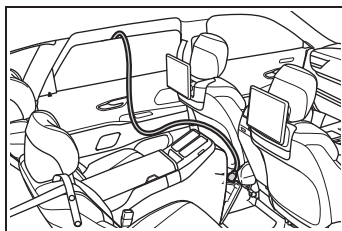
Ⅰ 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

Ⅰ 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

Ⅰ 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

Ⅰ 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

- ・ 雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- ・ コードを窓やドアで挟まない
- ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない

⚠ 警告

- Ⅰ 給油や洗車は行わないでください。
- Ⅰ ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- Ⅰ 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- Ⅰ 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- Ⅰ 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。
- n 走行中に使用するとき
 - Ⅰ 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

- ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
- ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
- ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
- ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- Ⅰ 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

n ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- Ⅰ 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- Ⅰ 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

 注意

I コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

n **駐車中または停車中に使用するとき**

I 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

I 特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

n **非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき**

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

n アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度“AC 100V”スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度“AC 100V”スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度“AC 100V”スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度“AC 100V”スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 “AC 100V” スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 “AC 100V” スイッチを押してください。 ｜ ピンなどの異物が挿さっていないか ｜ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ｜ ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

n 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.256) マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。
“AC 100V” スイッチを押す間隔が長すぎる、または “AC 100V” スイッチを 3 回よりも多く押している	“AC 100V” スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ピンなどの異物が挿さっていないか 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ほこりやゴミが付着していないか
普通充電を実施している	普通充電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
AC 外部給電を実施している	AC 外部給電を終了し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

n “燃料の残量低下により 給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 536

内装の手入れ 540

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 543

ガレージジャッキ 544

エンジンルームカバー 545

ウォッシャー液の補充 547

タイヤについて 548

タイヤの交換 559

タイヤ空気圧について 563

エアコンフィルターの交換 564

電子キーの電池交換 566

ヒューズの点検・交換 568

電球（バルブ）の交換 570

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- Ⅰ 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- Ⅰ 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- Ⅰ 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- Ⅰ 水をふき取る
- Ⅰ 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

n セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- Ⅰ 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- Ⅰ 傷が復元するまでの時間は、傷の深さ

や周囲の温度により変化します。

なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- Ⅰ 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- Ⅰ 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

n 自動洗車機を使うとき

- Ⅰ お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- Ⅰ ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

- Ⅰ 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

- Ⅰ Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.262を参照してください。

- Ⅰ パーキングブレーキの解除が必要なときは、ブレーキホールドシステムをOFFにしてパーキングブレーキを解除し、Nポジションを保持したままパワースイッチをACCにしてください。（→P.264）

n 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

n 洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次の

ような処置をして、洗車などをしてください。

- l 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- l 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.206）

n 電動ステップについて

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

n ホイール・ホイールキャップについて

- l 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- l 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- l 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

n ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

n ブレーキキャリパーの塗装について

- l 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- l ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- l 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

n バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

n フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- l フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- l 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- l コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- l 金属製の道具で霜取りをしない

n メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- l 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- l 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- l 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

n 洗車をするとき

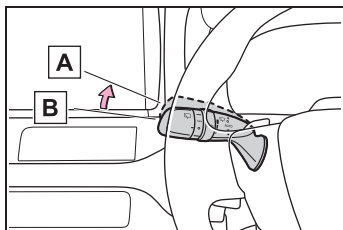
エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

n フロントウィンドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- | 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
- | 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- | フロントウィンドウガラスに衝撃を与えたとき
- | 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

n 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

n リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

| BSM（ブラインドスポットモニター）

| 後方車両への接近警報

| RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

| 安心降車アシスト

| 後方車両接近告知

| 周辺車両接近時サポート

| セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

| PKSB（パーキングサポートブレーキ）

| クリアランスソナー

| Toyota Safety Sense

⚠ 注意

n 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

| 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- | 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- | ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**n ランプの清掃**

- | 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- | ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

n 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.281)
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

n 高圧洗浄機を使用するときは

- | 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- | エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。
- | ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- | モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- | フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- | 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- I 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- I 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

n カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

n シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

n グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を清掃するときは

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

⚠ 警告

n 車両への水の浸入

- I 床・ラゲージルーム内・ジャンクションボックス周辺など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- I SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.32)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- I おくだけ充電（ワイヤレス充電器）(→P.509) をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n 清掃するとき使用する溶剤について

- I 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

 注意

- ・ シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- ・ ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー
- ❗ 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

n 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- ❗ 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- ❗ 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ❗ ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

n 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

n フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。
(→P.293)

n リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- ❗ 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- ❗ 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- ❗ 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- ❗ 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識

n サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- ❗ 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- ❗ 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- ❗ 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- ❗ 乾いたやわらかい布で表面の水

分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる



知識

n 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- Ⅰ 掃除機などでほこりを取り除く
- Ⅰ 中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- Ⅰ 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ウルTRASウェード部分の手入れをするには

- Ⅰ 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- Ⅰ 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
乾いたらエチケットブラシなどで毛並みを整える

抗菌・抗ウイルス表皮部分の手入れをするには

- Ⅰ 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- Ⅰ 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

表面が汚れていたり、溶剤で清掃すると抗菌・抗ウイルス性能が発揮されません。

インストールメントパネル上面のファブリック部分の手入れをするには

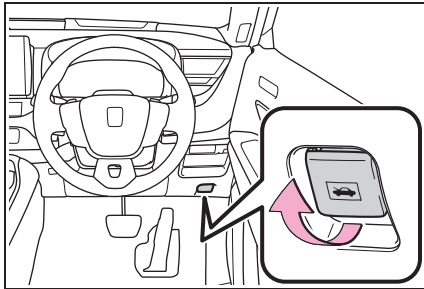
- Ⅰ 掃除機や粘着テープなどでほこりを取り除く
- Ⅰ 水を浸した布を固くしぼり、汚れをふき取る

クリーナー等の洗剤を使用しないでください。

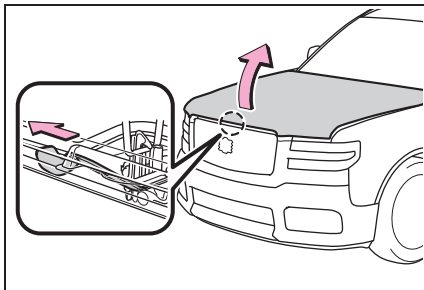
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

n ボンネットの閉め方

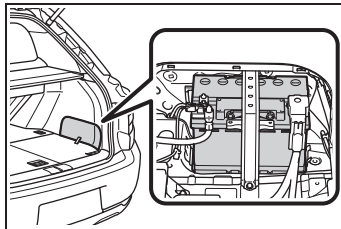
ボンネット閉めるときは、少し高い位置（約 20 cm）から必ず落として閉めてください。

手で押して閉めると、ボンネットが片側のみロックされるおそれがあります。

n 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。
補機バッテリーがあがってしまったとき

は、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
（→P.617）



警告

n 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

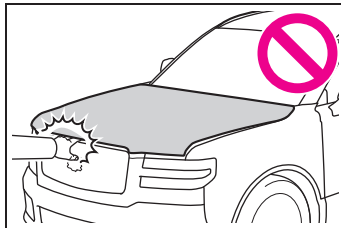
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 警告

n エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

n 補機バッテリーの取り扱いについて

→P.617

⚠ 注意

n ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- l ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- l ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

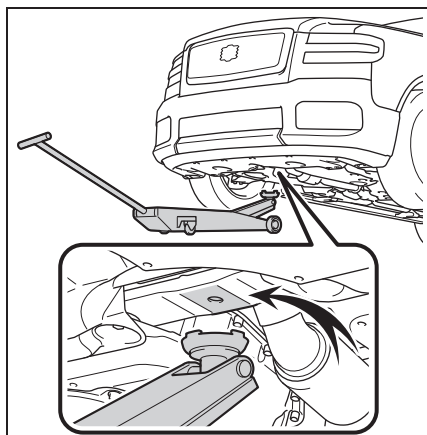
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

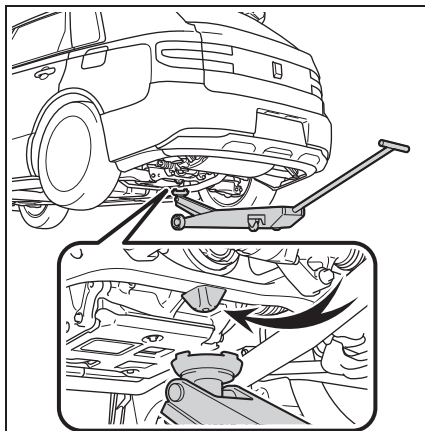
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

n フロント側



n リヤ側



エンジンルームカバー

ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

⚠ 警告

n けがを防ぐために

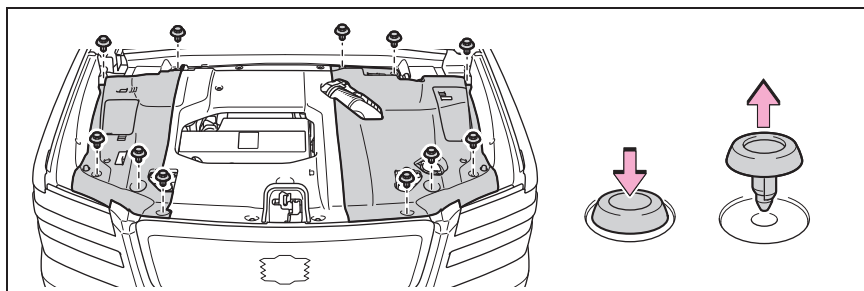
カバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

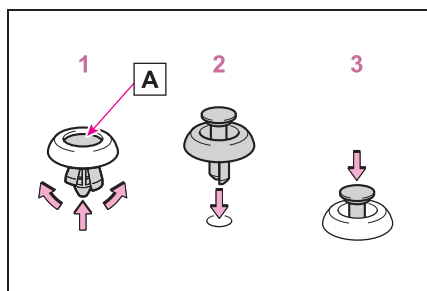
n カバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

エンジンルームカバーの取りはずし



クリップの取り付け

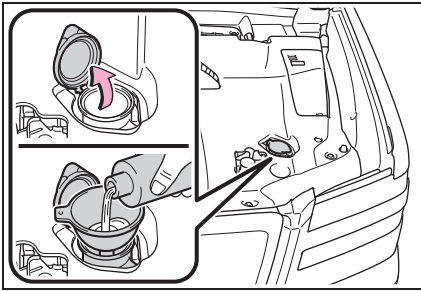


- 1 クリップの中央部分[A]を押し上げる
- 2 挿し込む
- 3 クリップ中央部分を押し

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

n ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

n ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

n ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

Ⅰ タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

Ⅰ タイヤの亀裂・損傷の有無

Ⅰ タイヤの溝の深さ

Ⅰ タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

n タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 255/55R20 107V

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

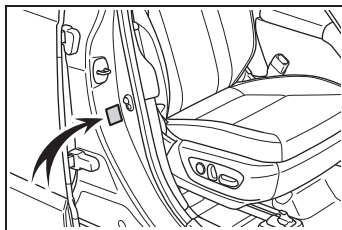
後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

▶ 255/45R22 107V XL

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

後輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧



n タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

n 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Ⅰ タイヤはすべて同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

Ⅰ メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

Ⅰ ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

Ⅰ サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

Ⅰ 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 警告

n 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- l 破裂などの修理できない損傷を与える
- l 車両が横すべりする
- l 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

n タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。

オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

n 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

n 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

n 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

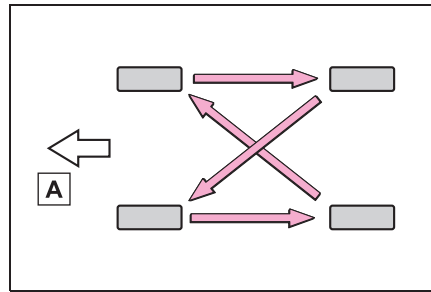
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を確実に行ってください。（→P.552）



A 前側

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

このシステムは状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイで 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。(→P.584)

- 1 マルチインフォメーションディスプレイに“空気圧を調整してください”が表示されたとき

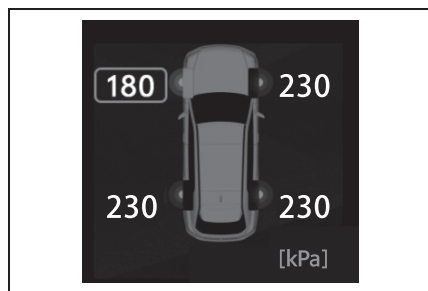
通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイに“すみやかに安全な場所でタイヤ点検”が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- 1 タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



n 単位の切りかえかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する

車両が動いているときは、単位の切りかえができません。

- 2 ハイブリッドシステムを始動する

- 3 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する

- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする

- 5 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“TPWS 設定”を選択し、OK スイッチを押す

- 6 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“単位設定”を選択し、OK スイッチを押す

- 7 メーター操作スイッチの▲または▼を押してお好みの単位を選択し、OK スイッチを押す

□ 知識

n タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

n タイヤ空気圧表示について

- 1 パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 2 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 2 分かかります。

- 1 タイヤ空気圧は温度によって変化しま

す。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

n タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- | 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

- | 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- | 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- | タイヤが破裂（バースト）したときな

ど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.555）

知識

n ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

n タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

| タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。

| トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

注意

I ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

I バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエア漏れの原因となります。

I バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

n バンク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ位置を登録するには

n タイヤ位置の登録が必要なとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

n タイヤ位置の登録のしかた

- 1** 車を安全な場所に駐車し、15分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する

4 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする

5 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“TPWS 設定”を選択し、OK スイッチを押す

6 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“タイヤローテーション”を選択し、OK スイッチを押す

7 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“はい”を選択し、OK スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

n タイヤ位置を登録するとき

- l 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- l 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

n タイヤ位置登録の操作について

- l タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。
- l タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

n タイヤ位置登録がうまくいかないとき

- l 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
- 1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。
- l タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

n タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気

圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 1 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- 1 タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。
(→P.553)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.554)

n 指定空気圧での設定のしかた

1 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する

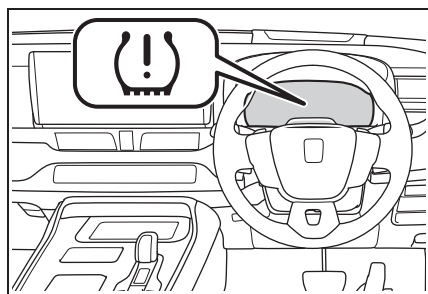
3 メーター操作スイッチのまたはを押して“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチのまたはを押して“TPWS 設定”を選択し、OK スイッチを押す

- 5 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“タイヤ空気圧設定”を選択し、OK スイッチを押す
- 6 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“指定空気圧で設定”を選択し、OK スイッチを押す
- 7 フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択して“はい”を選択し、OK スイッチを押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



n 現在の空気圧での設定のしかた

- 1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

- 2 ハイブリッドシステムを始動する

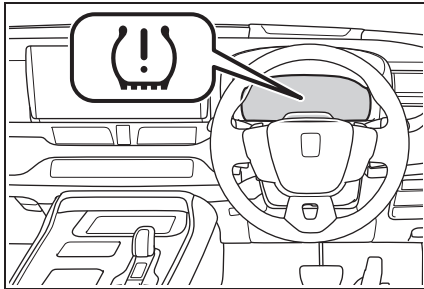
車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

- 3 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する
- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする
- 5 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“TPWS 設定”を選択し、OK スイッチを押す
- 6 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“タイヤ空気圧設定”を選択し、OK スイッチを押す
- 7 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“現在空気圧で設定”を選択し、OK スイッチを押す
- 8 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“はい”を選択し、OK スイッチを押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了

のメッセージが表示されます。



知識

n タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）

- l 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- l 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- n 空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）
 - l 空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
 - l 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

n タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき

- l 現在の空気圧で設定をする場合、通常約 2 分で終了します。
- l 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- l 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

n 現在の空気圧で設定するとき

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

n ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

n ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上ハイブリッドシステムを停止する

2 ハイブリッドシステムを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“車両設定”を選択し、OK スwitchを長押しする

5 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“TPWS 設定”を選択し、OK スwitchを押す

6 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“タイヤ交換”を選択し、OK スwitchを押す

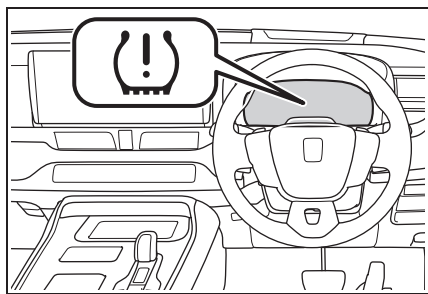
7 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“新規タイヤ登録”を選択し、OK スwitchを押す

8 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“タイヤセット 1”または“タイヤセット 2”を選択し、OK スwitchを押す

表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットを選択し、登録したいセットを選択します。

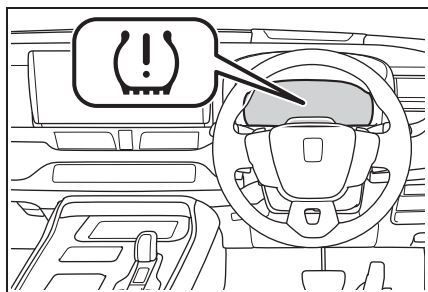
すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。



9 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ を押して“はい”を選択し、OK スwitchを押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。



10 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

11 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する (→P.553)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。



n ID コードの登録をするとき

- l 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- l 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- l ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- l すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.557)

n ID コードの登録がうまくいかないとき

- l 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した

- ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
- ・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

- l 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- l 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- l 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- l 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、トヨタ販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、マルチインフォメーションディスプレイの“新規タイヤ登録”を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“新規タイヤ登録”を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくことで便利です。

- l この機能は 2 セット目（タイヤ

セット2)のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。タイヤセット2のタイヤが登録されていない場合、“切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認”と表示され、選択しても切りかえはできません。

IDコードの登録はお客様自身で登録することができます。

(→P.555)

1 IDコードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットのIDコードを混在させた場合は作動しません。

1 IDコード登録中は、正常にIDコードの切りかえができないおそれがあります。IDコードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

n IDコードの切りかえかた

1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する

2 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する

3 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“車両設定”を選択し、OKスイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“TPWS 設定”を選択し、OKスイッチを押す

5 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“タイヤ交換”を選択し、OKスイッチを押す

6 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“登録済みタイヤ切替”を選択し、OKスイッチを押す

7 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“タイヤセット1”または“タイヤセット2”を選択し、OKスイッチを押す

8 メーター操作スイッチの▲または▼を押して“はい”を選択し、OKスイッチを押す

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり3回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、IDコードの切りかえを開始します。

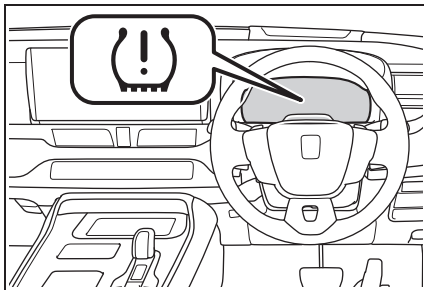
IDコードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。

約2分後にIDコードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約4分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください

さい。



- 9** 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する
(→P.553)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

- 10** タイヤの位置を登録する
(→P.552)

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するとき
は、工具とジャッキをご準備く
ださい。

ご自身でのタイヤの交換に不安
がある場合は、トヨタ販売店に
ご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- Ⅰ 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- Ⅰ パーキングブレーキをかける
- Ⅰ シフトポジションをPにする
- Ⅰ 電動ステップを展開する
(→P.194)
- Ⅰ ハイブリッドシステムを停止する

知識

n 工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはトヨタ販売店で購入することができます。

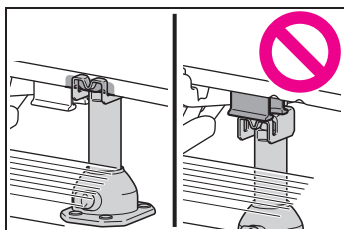
- Ⅰ 輪止め
- Ⅰ ホイールナットレンチ
- Ⅰ ジャッキ
- Ⅰ ジャッキハンドル

⚠ 警告

n ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ❶ ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ❷ 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ❸ ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



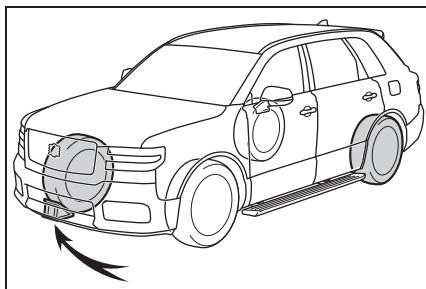
- ❶ ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ❷ 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- ❸ 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ❹ 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ❺ 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ❻ 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- ❼ 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

n パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、バックドアの作動を停止してください。
(→P.632)
停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

タイヤの取りはずし

1 輪止めをする

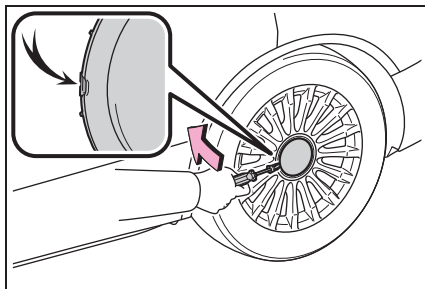


交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

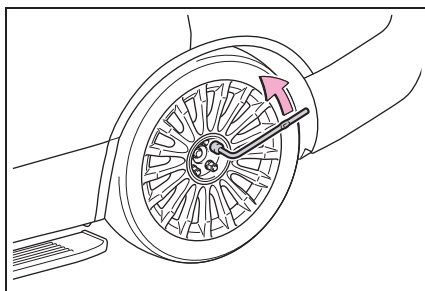
2 マイナスドライバーを溝に差込み、センターオーナメントをはずす (→P.603)

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

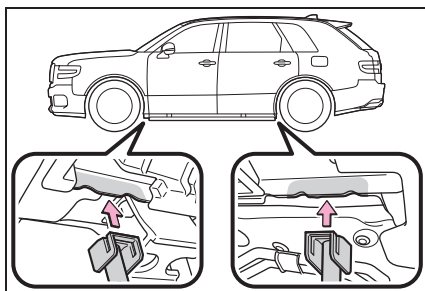
ださい。



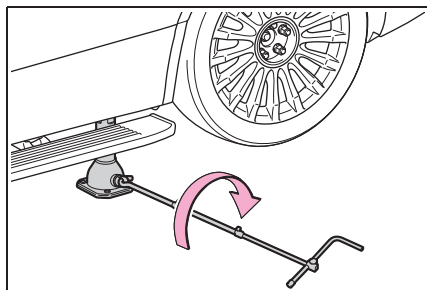
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



4 ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

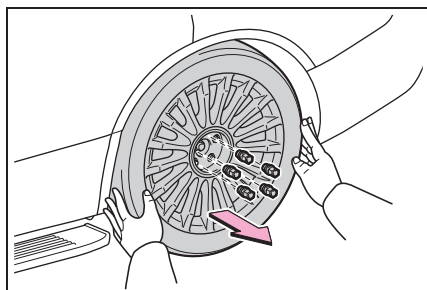


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

n タイヤ交換について

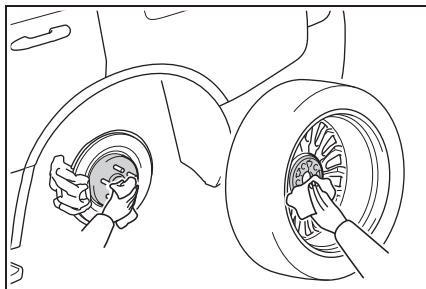
走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

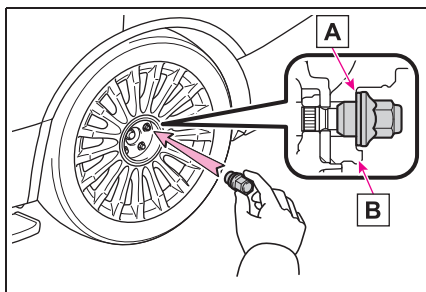
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。



2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

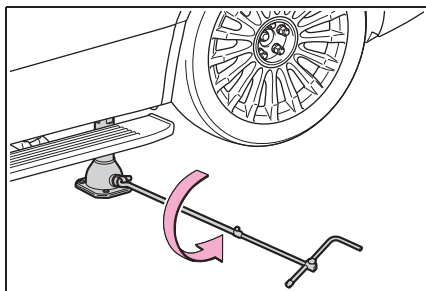
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



A 座金

B ホイール

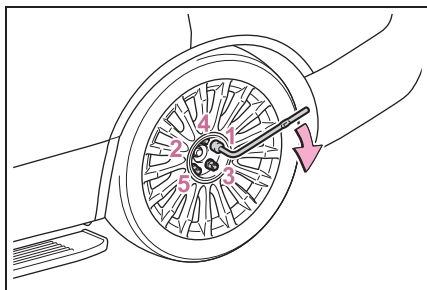
3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

140N・m (1428kgf・cm)



⚠ 警告

ⓘ タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ねじ部にオイルやグリースを塗らない

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

ホイールの交換後は、すぐに140N・m (1428kgf・cm) の力でナットを締める

タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける



注意

n タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換
→P.551

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。



知識

n タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ┆ 燃費の悪化
- ┆ 乗り心地や操縦安定性の低下
- ┆ 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ┆ 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

n タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ┆ タイヤが冷えているときに点検する
- ┆ タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ┆ 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ┆ 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

⚠ 警告

n タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | 過度の摩耗
- | 偏摩耗
- | 操縦安定性の低下
- | タイヤの過熱による破裂
- | タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- | ホイールの変形、タイヤの損傷
- | 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

⚠ 注意

n タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

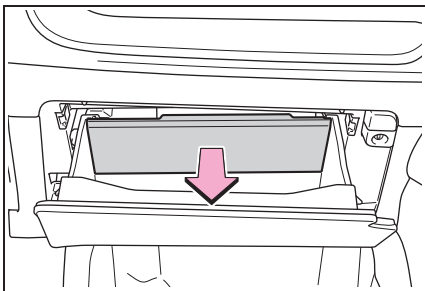
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

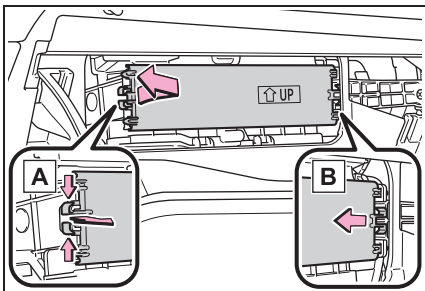
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

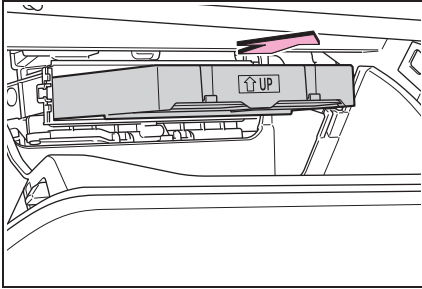
- 1 パワースイッチを OFF にする
普通充電コネクタが接続されていないことを確認してください。
- 2 グローブボックスを開け、背面のパネルをはずす



- 3 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

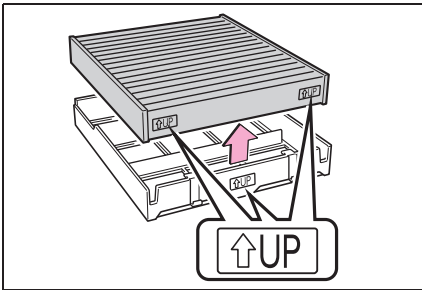


4 フィルターケースを取りはずす



5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

n エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

^{※1}大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2}芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

n エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますの

で、フィルターを交換してください。



注意

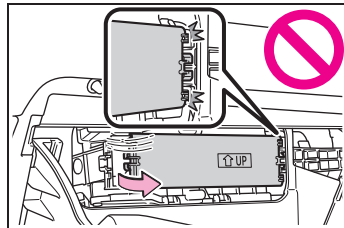
n エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

n フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。



n 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- l スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- l 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- l マイナスドライバー
- l 小さいマイナスドライバー
- l リチウム電池：CR2450

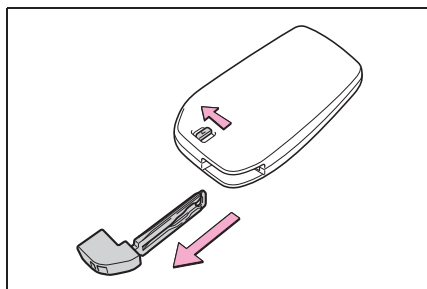


n リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

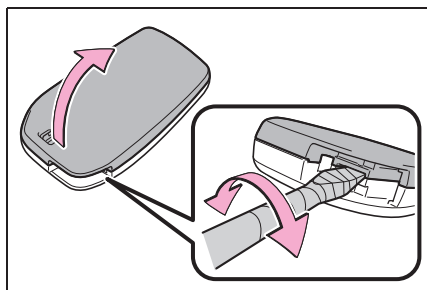
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

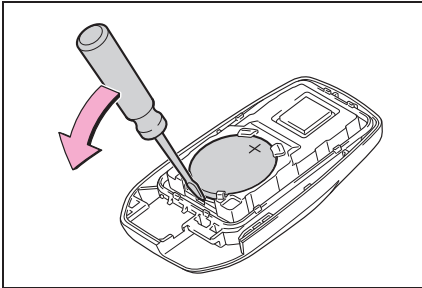


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



⚠ 警告

n 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Ⅰ 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- Ⅰ 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- Ⅰ 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- Ⅰ カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- Ⅰ 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

n 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- Ⅰ 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- Ⅰ 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- Ⅰ 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

n 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

n 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- Ⅰ めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- Ⅰ 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- Ⅰ 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

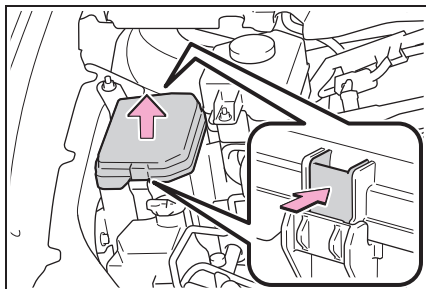
ヒューズの点検・交換をするには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）

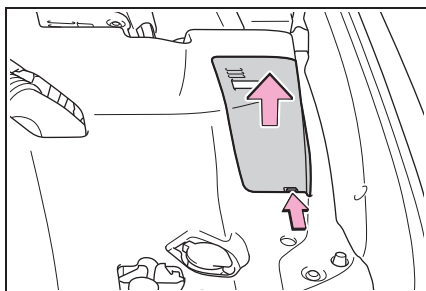
エンジンルームカバーを取りはずす
(→P.546)

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

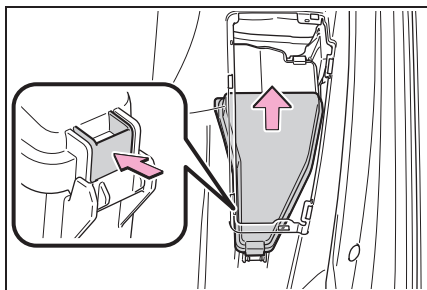


▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメを押してロックをはずし、サービスカバーを取りはずす

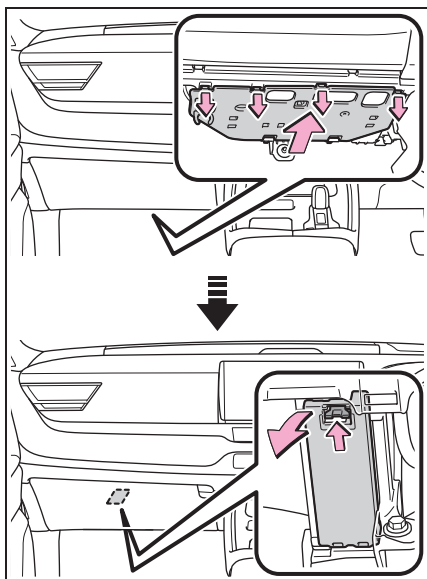


ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

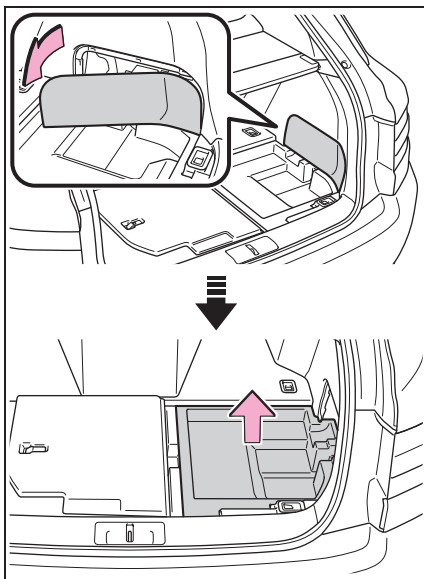
足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす



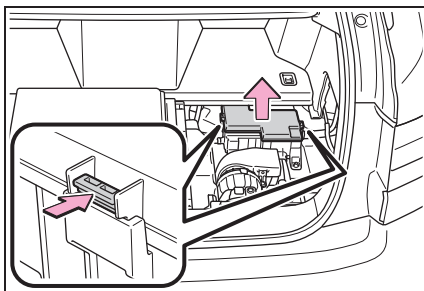
▶ ラゲージルーム

ストラップを持ち上げてデッキボードを開く (→P.503)

カバーを取りはずし、デッキアンダーレイを取りはずす

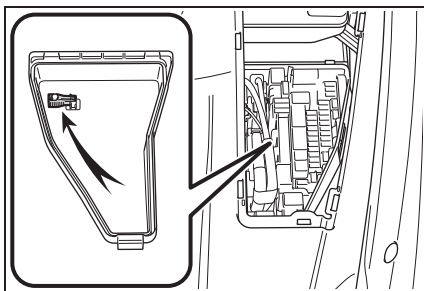


ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

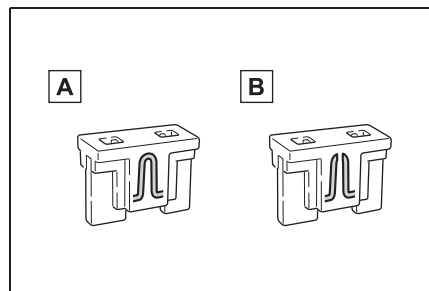


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしてヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



- A 正常
- B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

n ヒューズを交換したあとは

- l 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.570)
- l 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

n 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

n 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- l 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

⚠ 警告

- | 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- | ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意**n ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

📖 知識**n LED ランプについて**

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

n レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- | レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- | ランプ内に水がたまっている

8-1. まず初めに

故障したときは	572
非常点滅灯（ハザードランプ）	573
発炎筒.....	573
車両を緊急停止するには.....	574
水没・冠水したときは.....	575
車中泊が必要なときは.....	576

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	577
警告灯がついたときは.....	581
警告メッセージが表示されたときは	589
パンクしたときは	603
ハイブリッドシステムが始動できな いときは	612
キーをなくしたときは.....	614
電子キーが正常に働かないときは	614
補機バッテリーがあがったときは	617
オーバーヒートしたときは.....	622
スタックしたときは.....	625

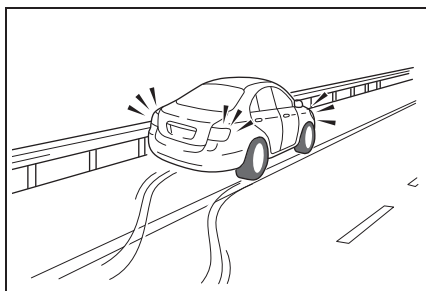
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

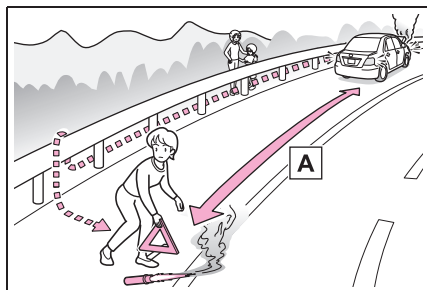
- 1 非常点滅灯（→P.573）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 1 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の 50m 以上後方 (A) に発炎筒（→P.573）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- 1 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 1 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

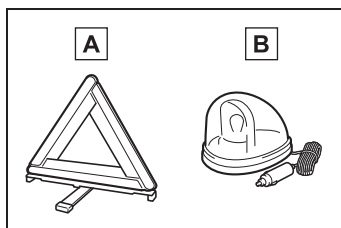
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

n 停止表示板・停止表示灯について

- 1 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 1 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

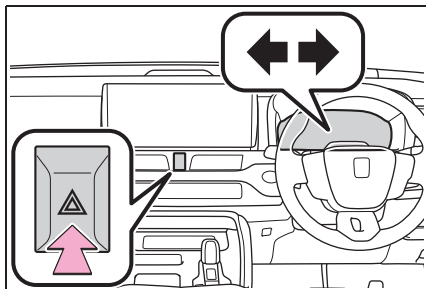
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



n 非常点滅灯について

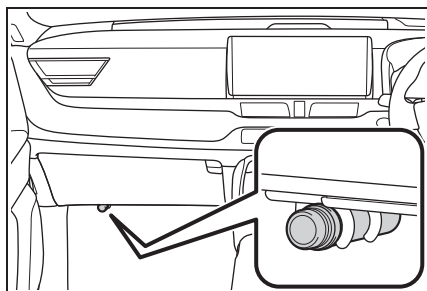
- 1 ハイブリッドシステム停止中（READYインジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- 1 SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

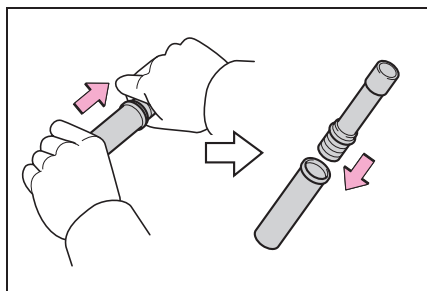
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



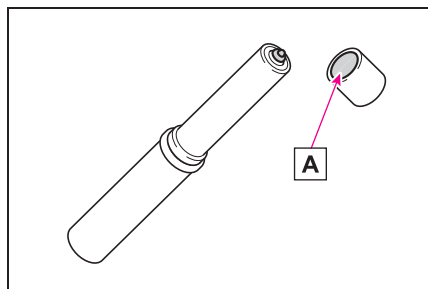
- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

n 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

n 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

┃ トンネル内

┃ ガソリンなど可燃物の近く

n 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

┃ 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

┃ 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

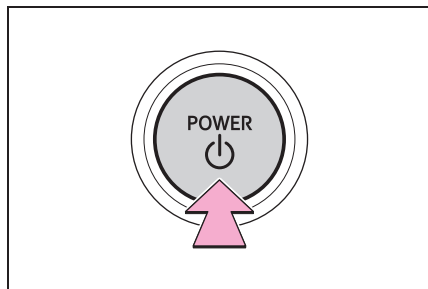
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

 警告**n 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- Ⅰ ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- Ⅰ ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- Ⅰ ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- Ⅰ 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識**n 水位がフロアを超えると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

n 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両の全てのガラスには合わせガラスが使用されております。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**n 走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

n 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- Ⅰ シフト制御システムに異常があるとき (→P.255, 590)
- Ⅰ イモビライザーシステムに異常があるとき (→P.54)
- Ⅰ スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき (→P.614)
- Ⅰ 補機バッテリーがあがったとき (→P.617)

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

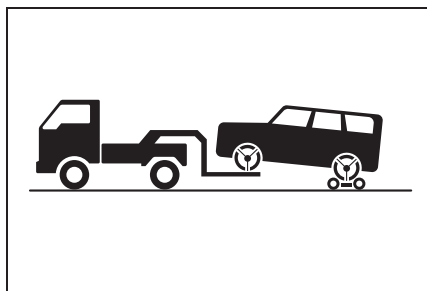
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または

専門業者へご連絡ください。

- Ⅰ ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- Ⅰ 異常な音がする

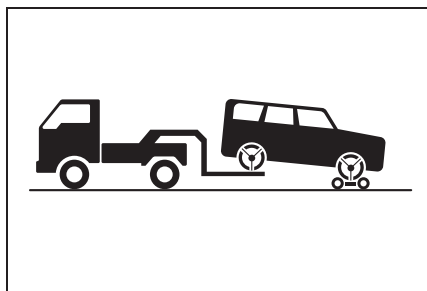
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

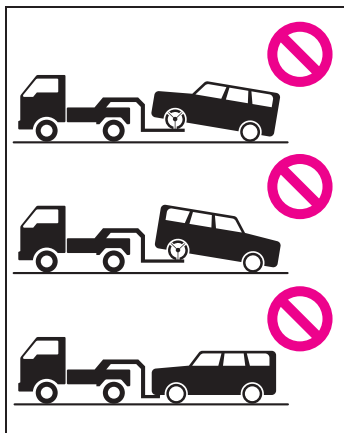


警告

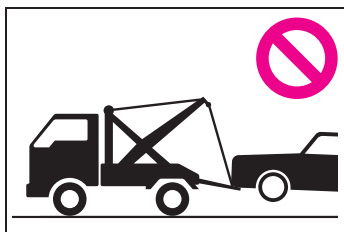
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**n レッカー車でけん引するとき**

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**注意****n レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**車両運搬車を使用するとき**

車両運搬車で輸送するときは、タ

イヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。

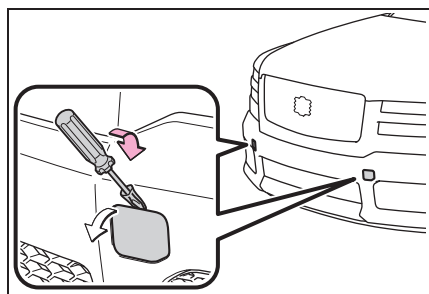
運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

他車にけん引してもらうとき

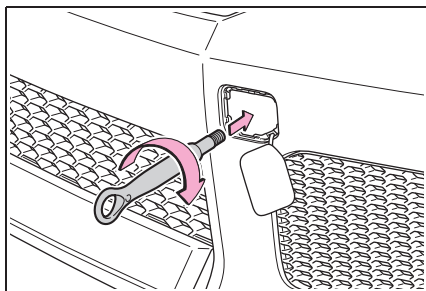
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のマイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.604)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

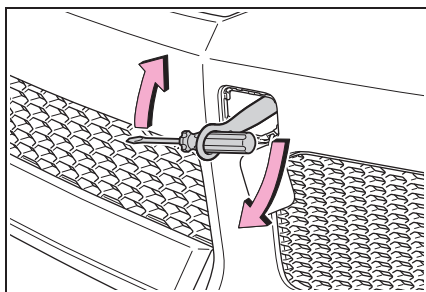
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3** けん引フックを穴に挿し込んで
まわし、軽く締める



- 4** マイナスドライバーや金属の固
い棒などを使い確実に取り付け
る



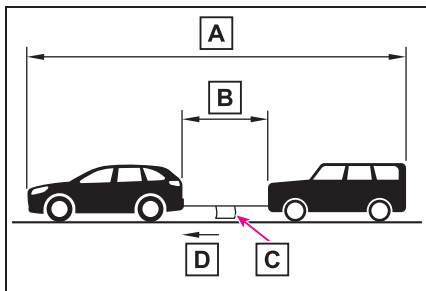
- 5** 車体に傷が付かないようにロー
プをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してく
ださい。また、前進方向でけん引してく
ださい。

- 6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7** 運転者はけん引される車両に乗
り、ハイブリッドシステムを始
動する

ハイブリッドシステムが始動しないとき
は、パワースイッチを ON にしてくださ
い。

- 8** けん引される車両のシフトポジ
ションを N にしてから、パーキ
ングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.265)

けん引中は、ロープがたるまないよう
、減速時なども前の車の速度に合わせてく
ださい。

知識

n けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに
使うものであり、他車をけん引するた
めのものではありません。

n 他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止していると
ブレーキの効きが悪くなったり、ハンド
ル操作が通常より重くなったりします。

n ホイールナットレンチについて

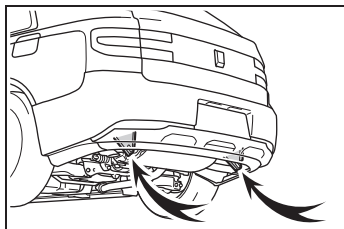
トヨタ販売店で購入することができます。

n リヤ側フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送する
ときに固定したり、雪の吹きだまりなど
でスタックして走行できなくなったとき
、やむを得ず他車に引っ張り出してもら
うために使用することができます。

また、自車より軽い車をやむを得ず一般
路上でロープによりけん引するときに使

用することができます。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

- ・ 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- ・ パワースイッチを OFF にする

n けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと取り付けしていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

n 車両の損傷を防ぐために

- Ⅰ 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- Ⅰ この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

n リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

n ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。 走行を続けると危険です。

n ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	回生ブレーキシステムの異常 電子制御ブレーキシステムの異常 パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n 高水温警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.622）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムが過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→P.623）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。 走行を続けると危険です。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの異常 エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 トランスミッション電子制御システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

n SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	SRS エアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ABS の異常 ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ｜ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ｜ ドライブスタートコントロールの異常 ｜ ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

n 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 8.3L 以下になった → 燃料を補給する

n 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

n リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
 	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

n タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： 自然要因 → タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。 タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。

n クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.597）

n PCS 警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS (プリクラッシュセーフティ) の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。

n LTA 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LTA (レーントレーシングアシスト) の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n LDA 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA (レーンディパーチャーアラート) の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n レーダークルーズコントロール表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n クルーズコントロール表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 PCS（プリクラッシュセーフティ） LDA（レーンディパーチャーアラート） 後方車両への接近警報 後方車両接近告知 セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 PKSB（パーキングサポートブレーキ） RCD（リヤカメラディテクション） BSM（ブラインドスポットモニター） RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 安心降車アシスト → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

n スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 TRC（トラクションコントロール）システムの異常 Trail Mode の異常 ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

n 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

n シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

l 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

l 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

n パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

n タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.603

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。(→P.553)

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

n タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.551



警告

n ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドルの操作が非常に重くなることがあります。

ハンドルの操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

n タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧を調整したあと警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤを修理してください。

急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドルの操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

n タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

 注意**n** タイヤ空気圧警報システムについて

- | 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- | 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- | タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.581）に従ってください。

 知識**n** 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

n 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

メッセージと警告作動

n “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

原因	対処方法
エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。 また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

n “ハイブリッドシステム 停止のため ハンドルが 重くなります” が表示されたときは

原因	対処方法
走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

n “バッテリー保護のため 自動で電源を OFFしました” が表示されたときは

原因	対処方法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。	次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

n “Nレンジです アクセルを緩めて 希望レンジに 切りかえてください” が表示されたときは

原因	対処方法
シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

n “ハイブリッドシステムが 高温になるため 停車時は ブレーキを 踏んでください” が表示されたときは

原因	対処方法
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。	そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- n “補機バッテリー充電 システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- n “駆動用電池保護が必要 Pレンジにして 再始動してください” が表示されたときは

原因	対処方法
一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。	車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

- n “駆動用電池保護が必要 Nレンジの使用を控えてください” が表示されたときは

原因	対処方法
シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。	シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

- n “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは

原因	対処方法
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。	→P.622

- n “切替未完了 登録しなおしてください 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
タイヤ空気圧警報システムの ID 切りかえができません。	装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。

n “駆動用電池の点検を 販売店で受けてください” が表示されたときは

原因	対処方法
駆動用電池の点検・交換時期になったときにメッセージが表示されます。	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。 点検を受けないままお車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

n “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムに異常があるおそれがあります。 LED ヘッドランプ ヘッドランプオートレベリングシステム AHB（オートマチックハイビーム） AHS（アダプティブハイビームシステム）	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “オイル交換が 必要です。販売店で 点検してください。” が表示されたときは

原因	対処方法
エンジンオイルを交換する必要があります。	エンジンオイルをトヨタ販売店で点検・交換してください。交換後、オイルメンテナンス情報をリセットしてください。（→P.592） “---- km” が併せて表示されたときは、交換距離に到達していない場合でもエンジンオイルの交換が必要です。トヨタ販売店でエンジンオイルを点検・交換してください。交換後、オイルメンテナンス情報をリセットしてください。（→P.592）

 知識

n エンジンオイルを交換したあとは

次の手順でオイルメンテナンス情報をリセットしてください。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイのを選択し、OK スイッチを押す

- 2 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して“車両設定”を選択し、OK スイッチを長押しする
- 3 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して“オイルメンテナンス”を選択し、OK スイッチを押す
- 4 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して“はい”を選択し、OK スイッチを押す

リセットが完了すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- n “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を 確認してください”が表示されたときは

対処方法
→P.622

- n “スマートエントリー& スタートシステム故障 取扱書を 確認”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を 確認”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- n “エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を 確認してください”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

n “電力消費が大きいため 一部の空調・ヒータ作動を 制限中です” が表示されたときは

原因	対処方法
ひんぱんに表示されるときは、充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。	トヨタ販売店で点検を受けてください。

n 販売店での点検を促すメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” が表示されたときは

対処方法	
数秒後に表示が消えたときは、ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。	
表示が消えないときは、「補機バッテリーがあがったときは」(→P.617) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。	

n “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。	画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- n “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “Pスイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “シフトシステム故障 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- n “バッテリー充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “機能故障 販売店で点検”が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。	
I  PCS（プリクラッシュセーフティ）	
I  LDA（レーンディパーチャーアラート）	
I  LTA（レーントレーシングアシスト）	
I  LCA（レーンチェンジアシスト）	
I  AHB（オートマチックハイビーム）	
I  AHS（アダプティブハイビームシステム）	
I  レーダークルーズコントロール	
I  RSA（ロードサインアシスト）	
I  発進遅れ告知	
I  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
I  BSM（ブラインドスポットモニター）	
I  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	
I  後方車両への接近警報	
I  安心降車アシスト	
I  後方車両接近告知	
I  周辺車両接近時サポート	
I  セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）	
I  クリアランスソナー	
I  PKSB（パーキングサポートブレーキ）	
I  RCD（リヤカメラディテクション）	

n “機能停止 取扱書を確認”が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。	
 PCS（プリクラッシュセーフティ）  LDA（レーンディパーチャーアラート）  LTA（レーントレーシングアシスト）  LCA（レーンチェンジアシスト）  AHB（オートマチックハイビーム）  AHS（アダプティブハイビームシステム）  レーダークルーズコントロール  RSA（ロードサインアシスト）  発進遅れ告知  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）  BSM（ブラインドスポットモニター）  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）  後方車両への接近警報  安心降車アシスト  後方車両接近告知  周辺車両接近時サポート  セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）  クリアランスソナー  PKSB（パーキングサポートブレーキ）  RCD（リヤカメラディテクション）	画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。 - 補機バッテリー電圧を確認する - Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.293） - バックドアが開いていないか確認してください。

原因	対処方法
センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。(→P.296, 368, 371, 374, 376, 378, 383, 386, 395, 398, 406, 408, 410)	Ⅰ センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。(→P.365) Ⅰ クリアランスソナー、PKSB、RCD で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.384) Ⅰ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

n “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 Ⅰ  PCS (プリクラッシュセーフティ) Ⅰ  LDA (レーンディパーチャーアラート) Ⅰ  LTA (レーントレーシングアシスト) Ⅰ  LCA (レーンチェンジアシスト) Ⅰ  AHB (オートマチックハイビーム) Ⅰ  AHS (アダプティブハイビームシステム) Ⅰ  レーダークルーズコントロール Ⅰ  RSA (ロードサインアシスト) Ⅰ  発進遅れ告知 Ⅰ  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	次の対処法に従ってください。 Ⅰ ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 Ⅰ エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。 Ⅰ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

n “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。	
┃  PCS (プリクラッシュセーフティ) ┃  LDA (レーンディパーチャーアラート) ┃  LTA (レーントレーシングアシスト) ┃  LCA (レーンチェンジアシスト) ┃  AHB (オートマチックハイビーム) ┃  AHS (アダプティブハイビームシステム) ┃  レーダークルーズコントロール ┃  RSA (ロードサインアシスト) ┃  発進遅れ告知 ┃  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	次の対処法に従ってください。 ┃ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる ┃ 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります ┃ 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

n “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。	次の対処法に従ってください。
┃  PCS (プリクラッシュセーフティ) ┃  LTA (レーントレーシングアシスト) ┃  LCA (レーンチェンジアシスト) ┃  レーダークルーズコントロール ┃  発進遅れ告知 ┃  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	┃ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.294) ┃ 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 ┃ 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

n “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 I  PCS（プリクラッシュセーフティ） I  LTA（レーントレーシングアシスト） I  LCA（レーンチェンジアシスト） I  レーダークルーズコントロール I  発進遅れ告知 I  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

n “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。 I  PCS（プリクラッシュセーフティ） I  LTA（レーントレーシングアシスト） I  LCA（レーンチェンジアシスト） I  レーダークルーズコントロール I  発進遅れ告知 I  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	次の対処法に従ってください。 I レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.294） I レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

n “条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
 LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.316）	すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

n “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”
が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。  レーダークルーズコントロール  クルーズコントロール 走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。	走行支援スイッチを短く確実に押してください。

n “ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムが停止しています。 ドライバーモニター アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）	ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

n “ドライバーモニター使用できません 取扱書確認ください” が表示されたときは

原因	対処方法
ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。	レンズを傷つけないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

n “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
次のいずれかのシステムが停止しています。  RCD（リヤカメラディテクション）  PKSB（パーキングサポートブレーキ）	後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

n “エンジン系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “ハイブリッドシステム 故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “アクセル系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “プラグイン 充電システム故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “バッテリー系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

n “ハイブリッドシステム停止” が表示されたときは

原因	対処方法
ガス欠になっている可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。

n “燃料残量不足 エンジン停止” が表示されたときは

原因	対処方法
ガス欠になっている可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。

 注意

n “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。(→P.603)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

n パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

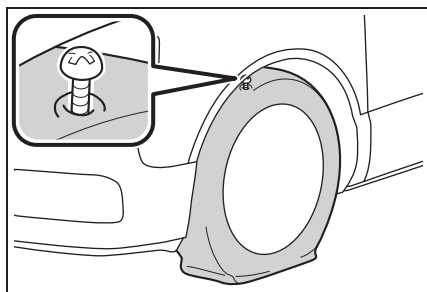
- Ⅰ 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- Ⅰ パーキングブレーキをかける
- Ⅰ シフトポジションを P にする
- Ⅰ ハイブリッドシステムを停止する
- Ⅰ 非常点滅灯を点滅させる

(→P.573)

Ⅰ タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



□ 知識

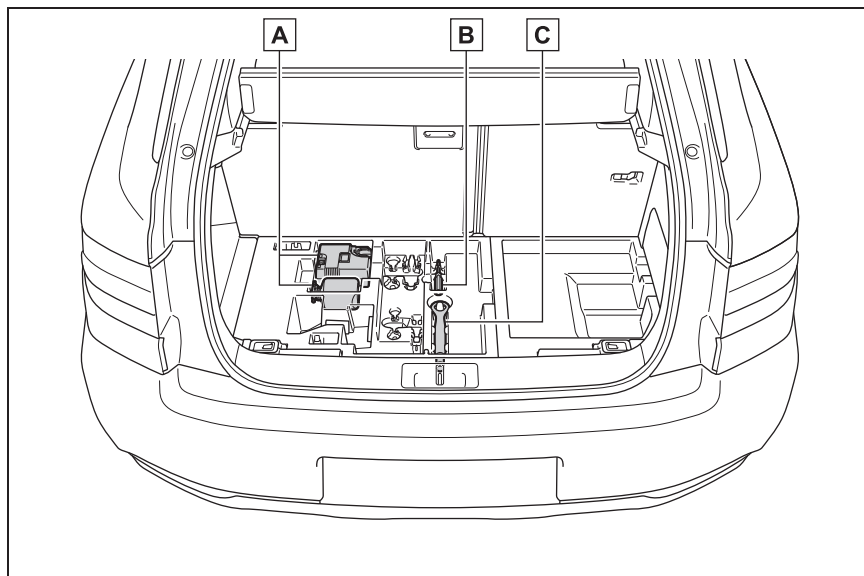
n 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- Ⅰ タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- Ⅰ タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- Ⅰ タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- Ⅰ タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- Ⅰ ホイールが破損しているとき

- Ⅰ 2本以上のタイヤがパンクしているとき し傷があるとき
- Ⅰ 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺 Ⅰ 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



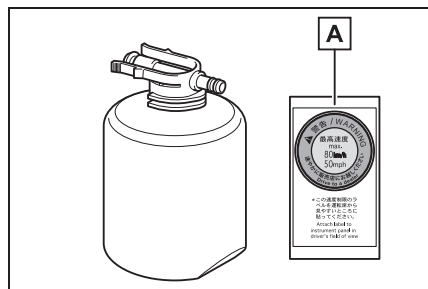
A タイヤパンク応急修理キット

B ドライバー

C けん引フック

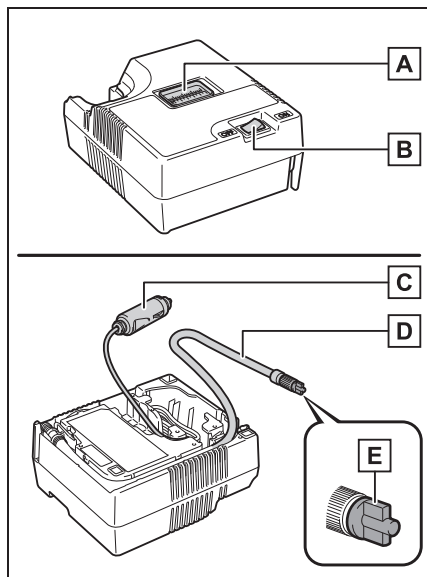
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

知識

n 応急修理キットについて

- l パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- l 外気温度が -40°C ～ 60°C のときに使用できます。
- l 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- l パンク補修液が衣服に付着すると、シ

ミになる場合があります。

- l パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
 - l 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
 - l タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- n 応急修理キットの点検について**
- l パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
 - l 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
 - l 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

n 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

n 応急修理キットについて

- l 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- l 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

パンク補修液について

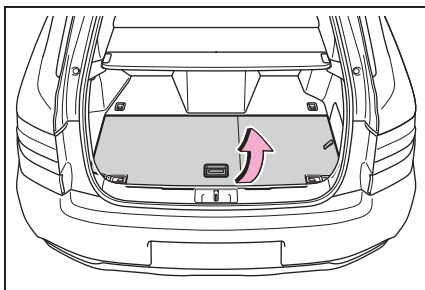
誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 レバーを引き上げてデッキボードを開く

トノボードに立てかけて、デッキボードを開いた状態のまま保持することができます。(→P.504)



2 応急修理キットを取り出す

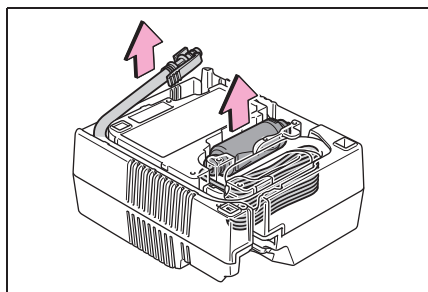
応急修理をするには

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の

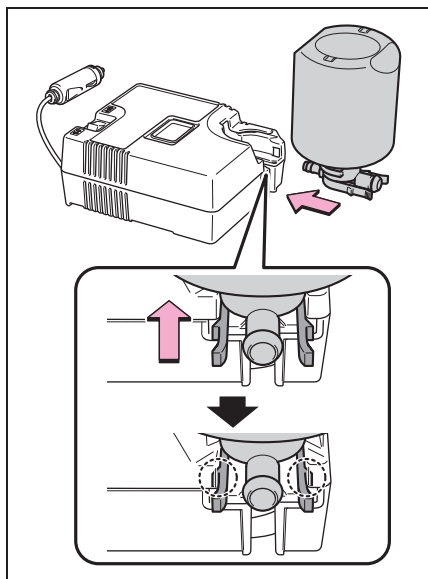
位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

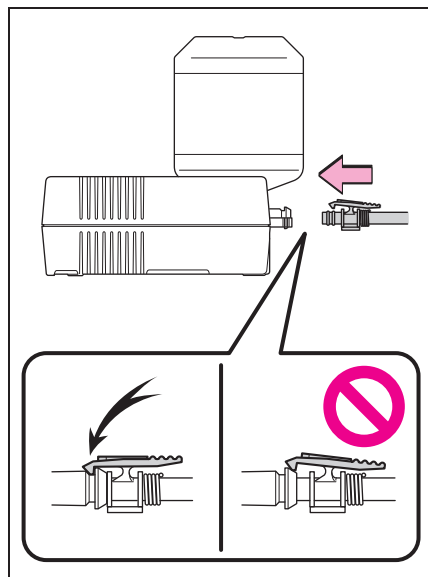
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。



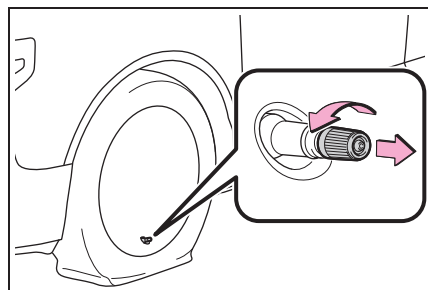
4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。

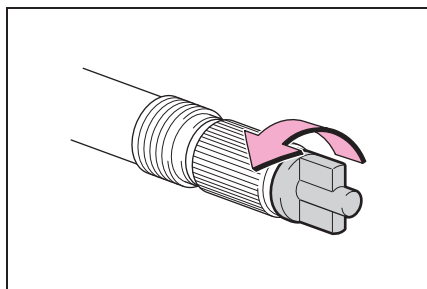


- 5** パンクしたタイヤのバルブから
バルブキャップを取りはずす



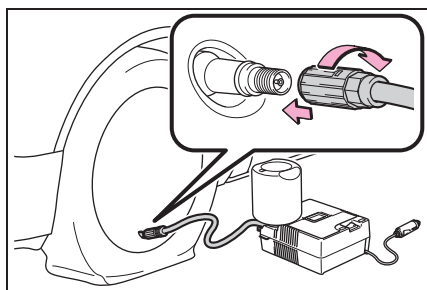
- 6** ホースをのばし、ホースから空
気逃がしキャップを取りはずす
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

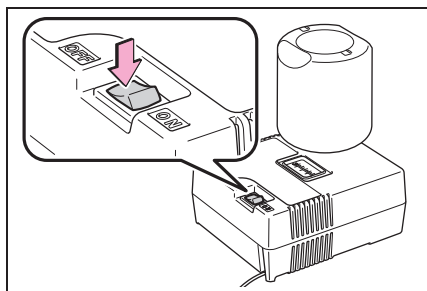


- 7** ホースをパンクしたタイヤのバル
ブに接続する

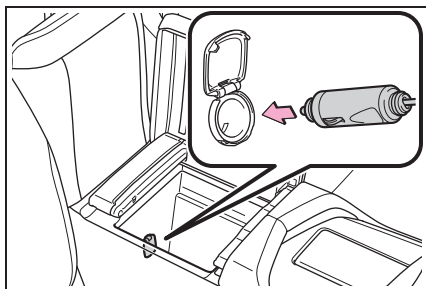
ホース先端を時計まわりにまわしてしっ
かりと最後までねじ込みます。



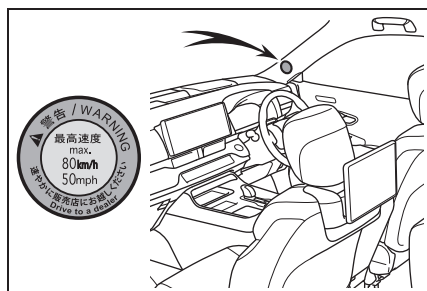
- 8** コンプレッサーのスイッチが
OFFであることを確認する



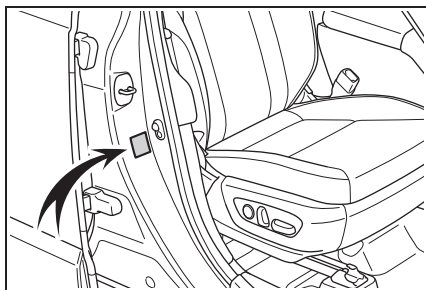
- 9** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→P.517)



- 10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

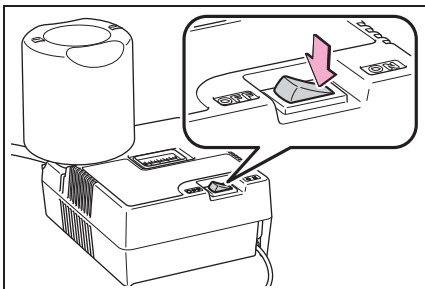


- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.548)

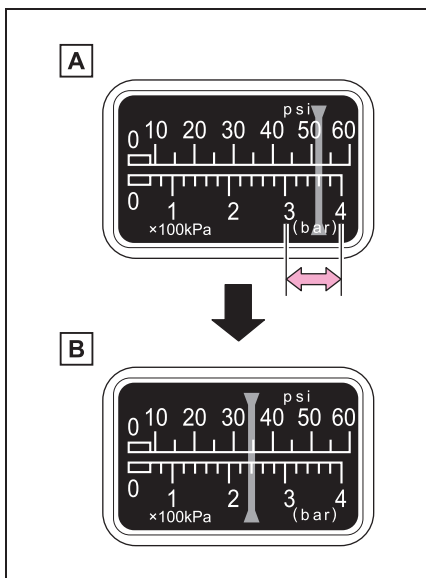


- 12** ハイブリッドシステムを始動する (→P.253)

- 13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで充填する



- A** 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B** スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.610, 631)

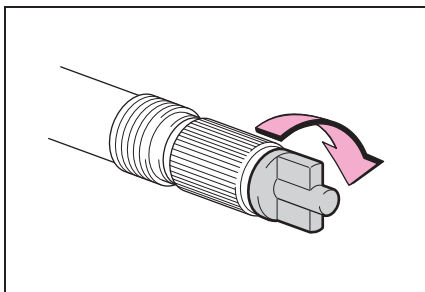
15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けしないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

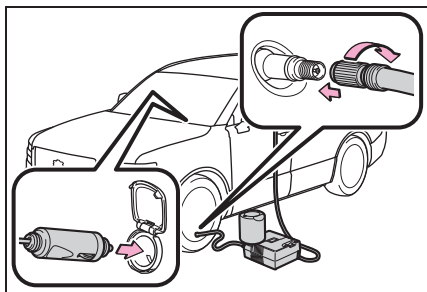


18いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

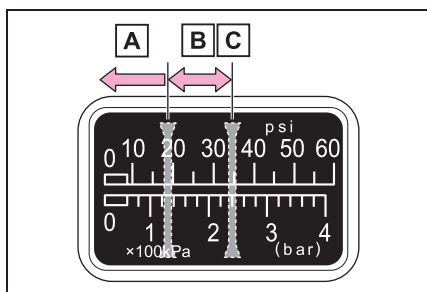
19タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。



21コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa

(1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧

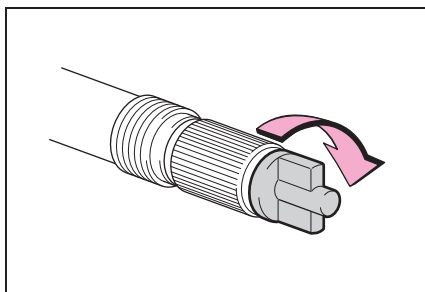
(→P.631) の場合：手順 **23**

へ

22コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



知識

n 応急修理キットを使用したとき

l 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販

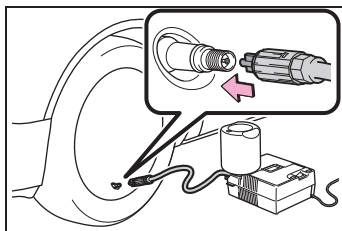
売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

l タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

n 空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。



警告

n パンクしたタイヤを応急修理するとき

l 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

l 走行直後、ホイールやブレーキ周りなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

- Ⅰ タイヤを車両に取り付けた状態で、パルプとホースをしっかりと接続してください。接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- Ⅰ 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- Ⅰ 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- Ⅰ 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- Ⅰ 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- Ⅰ 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- Ⅰ 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- Ⅰ 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

n 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- Ⅰ 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- Ⅰ 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

n 応急修理をするとき

- Ⅰ タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- Ⅰ 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- Ⅰ 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- Ⅰ 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

 注意**n 応急修理キットについて**

- | 応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- | 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- | 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- | 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- | 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.253）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- | 充電ケーブル、またはヴィークルパワーコネクタが車両に接続されていないか確認してください。（→P.106, 134）
- | 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.614）
- | 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- | イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.54）
- | シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.255, 590）
- | 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.613）
- | 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ -30℃以下）可能性が

あります。(→P.254)

※ シフトポジションをPから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 1 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.617)
- 1 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 1 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 1 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.617)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.264)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 パワースイッチを ACC^{*1} にする^{*2}
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。(→P.633)

※² ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

n 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.206）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。



知識

n 電子キーが正常に働かない場合

- l 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.632）
- l 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.206）
- l 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.182）



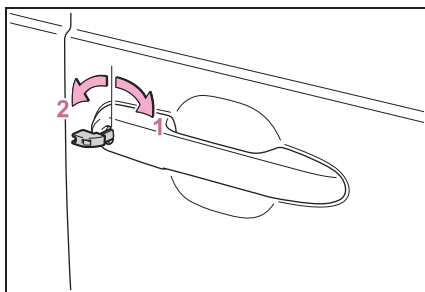
注意

n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

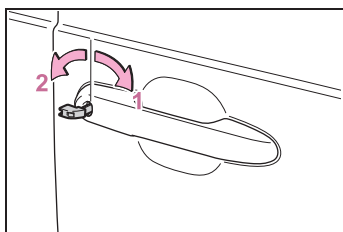
メカニカルキー（→P.184）を使って次の操作ができます。



- 1 全ドア施錠
2 全ドア解錠



n キー連動機能



- 1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店ででの設定が必要です。

⚠ 警告

n メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

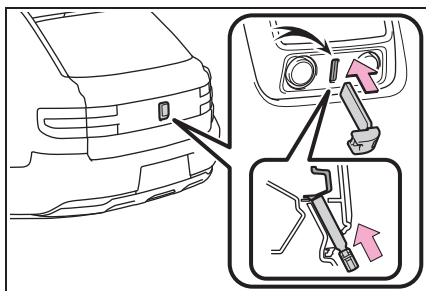
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

パワーバックドアの解錠

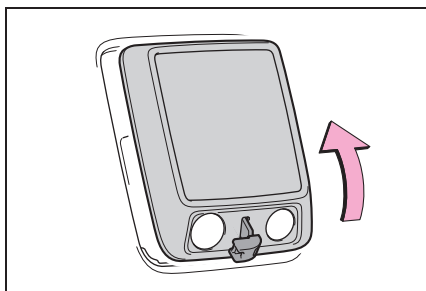
メカニカルキー（→P.184）を

使ってパワーバックドアを開けることができます。

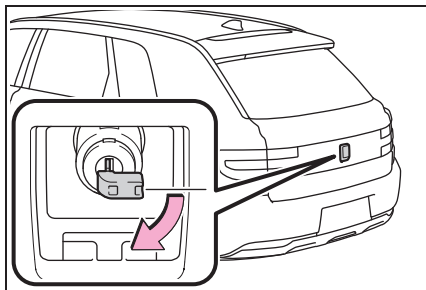
- 1 メカニカルキーをエンブレムの穴に挿し、爪部を強く押し込む



- 2 メカニカルキーを押し込んだまま上に引き上げて、エンブレムを取りはずす



- 3 メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



- 4 エンブレムを取り付ける

取り付けたあとは、エンブレムがしっかり固定されていることを確認してください。

□ 知識

n エンブレムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、エンブレムが破損する場合があります。ご自身での作業に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

▲ 警告

n エンブレムの取り付けについて

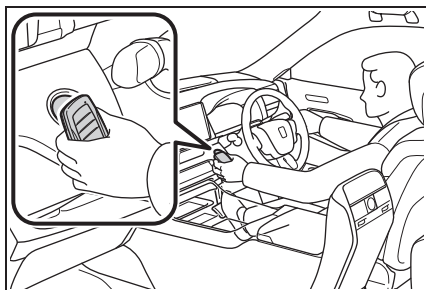
エンブレムを取り付けるときは、エンブレムで指などを挟まないよう十分注意してください。

ハイブリッドシステム始動の方法

- 1 シフトポジションがPの状態
ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、電子キーでパワ
ースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏
み込んで、マルチインフォメー

ションディスプレイにが表示されていることを確認する

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

□ 知識

n ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

n 電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.566)

n オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.55)

n パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.256)

補機バッテリーがあがったときは

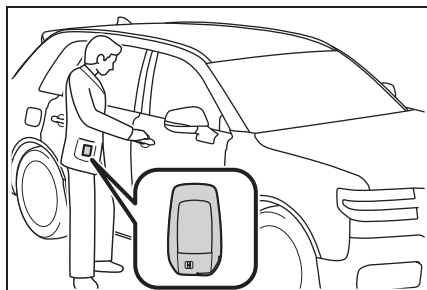
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

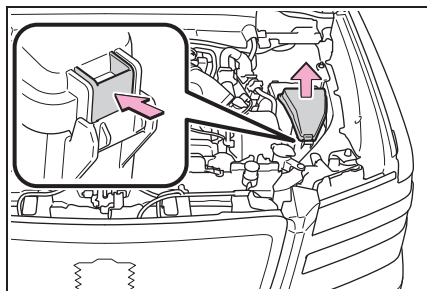
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

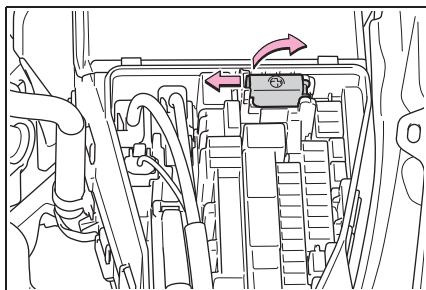
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.56)



- 2 ボンネットを開ける (→P.543)
- 3 エンジンルームカバーを取りはずし (→P.546)、ヒューズボックスカバーを取りはずす

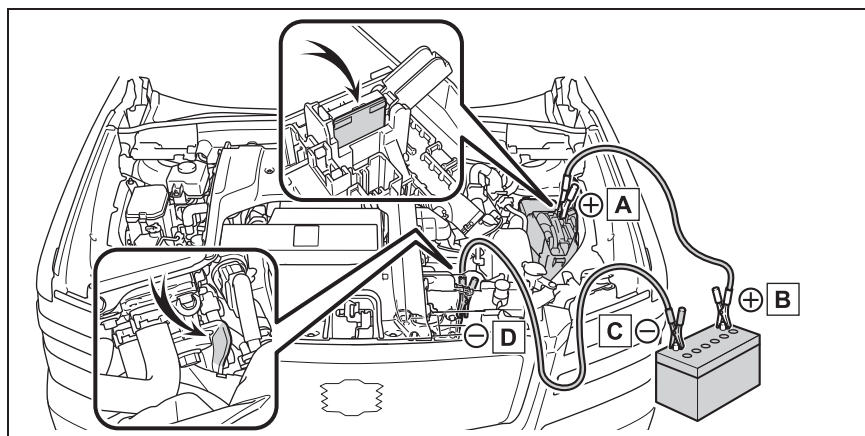


4 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



- 5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- A** 救援用端子（自車）
B バッテリーの+端子（救援車）
C バッテリーの-端子（救援車）
D 図に示す金属部
- 6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する
- 7 パワースイッチがOFFの状態ですぐのドアを開閉する

- 8 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONにしてからハイブリッドシステムを始動する

9 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

10 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスカバーとエンジンルームカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

n 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

n 補機バッテリーあがりを防ぐために

- l ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- l 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。
- l ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源を OFF にしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

n 補機バッテリーがあがってしまったときは

- l コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあ

がったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

- l 初期設定が必要な機能があります。
(→P.654)

n 補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

n 補機バッテリーについて

→P.543

n 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

n 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- l 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- l 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- l 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行っ

てください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

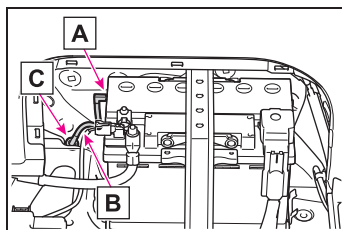
- l 補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- l 初期設定が必要な機能があります。(→P.654)

n 補機バッテリーを交換するときは

- l 一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。
- l 交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（70Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（600A）以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- l 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- l 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されている

ことを確認してください。

- ・排気ホースが補機バッテリーの排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
- ・排気穴が 2 つある補機バッテリーの場合、排気ホースを接続しない側の排気穴に、排気穴栓が確実に取り付けられていることを確認してください。
- ・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のものを使用してください。



A 排気穴

B 排気ホース

C 車両穴部

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

n 補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- l ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

⚠ 警告

- Ⅰ +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- Ⅰ ブースターケーブルは+側と一側の端子を絶対に接触させない
- Ⅰ 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

Ⅱ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- Ⅰ 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（硫酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- Ⅰ 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- Ⅰ 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- Ⅰ 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- Ⅰ 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- Ⅰ お子さまを補機バッテリーに近付けない

Ⅲ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

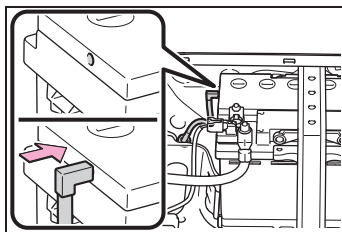
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

Ⅲ 補機バッテリーを交換するときは

- Ⅰ 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

- Ⅰ 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

- Ⅰ 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースを確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



Ⅲ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**n ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

n ブースターケーブルを接続するとき

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

n 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

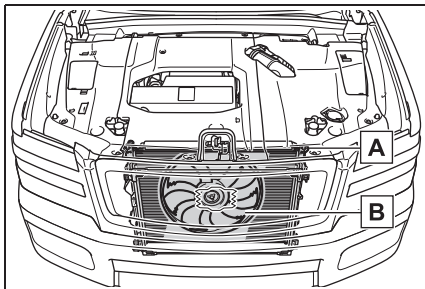
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください” または“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示される
- 1 エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください”が表示されたとき
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

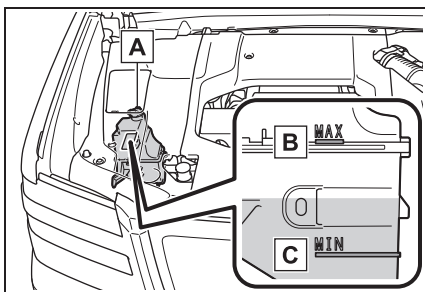


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

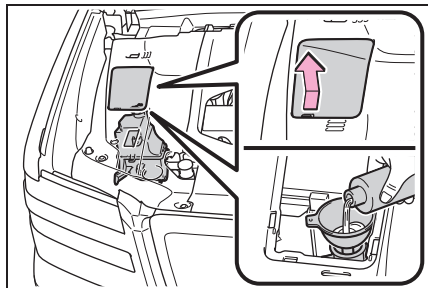
B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、カバーを取りはずし、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

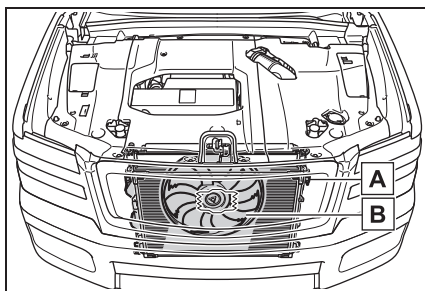
7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

- 3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

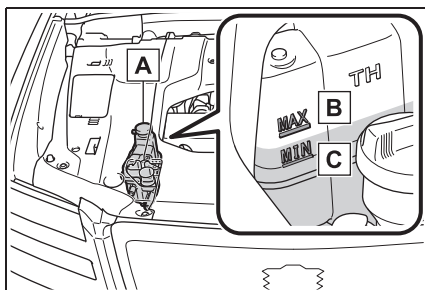


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4** 冷却水の量がリザーバタンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバタンク

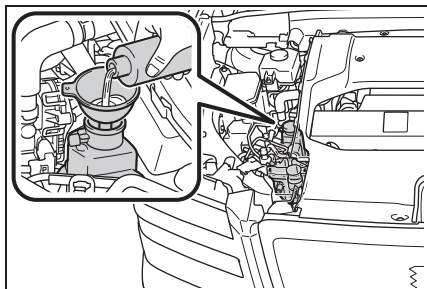
B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

- 5** 冷却水が不足している場合は、エンジンルームカバーを取りはずして（→P.546）冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



- 6** ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

n エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

！ エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

⚠ 警告

ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

n 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

n 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- ❶ 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- ❷ 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

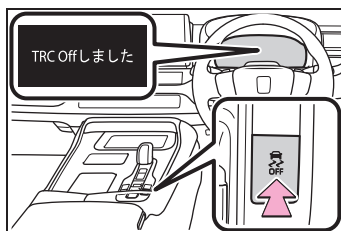
脱出するには

- ❶ パーキングブレーキをかけシフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- ❷ 前輪周辺の土や雪を取り除く
- ❸ 前輪の下に木や石などをあてがう
- ❹ ハイブリッドシステムを再始動する
- ❺ シフトポジションを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

📖 知識

n 脱出しにくいとき

🛑 OFF スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



 警告**n 脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

n シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**n トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

l タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

l 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **628**

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **632**

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **654**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）※ ¹	55
・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ²	

※¹ 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※² エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。



注意

n 燃料について

(→P.75)

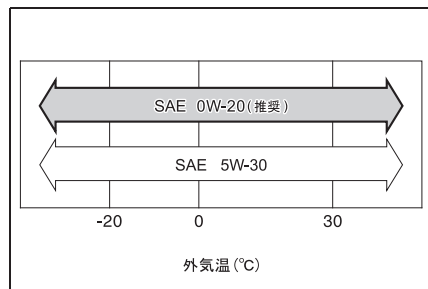
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	5.3	5.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

n エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものを请使用ください。

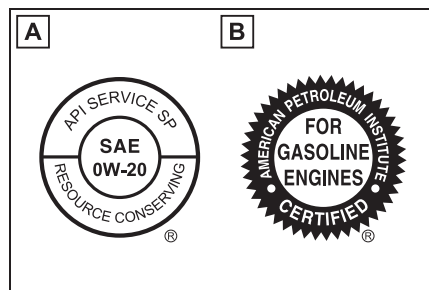


オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

n 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルを请使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	ガソリンエンジン	12.4
凍結保証温度 濃度 50% - 35° C	パワーコントロール ユニット	5.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正オートフルード WS※	4.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

n トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤトランスアクスル（リヤ電動モーター）

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
e- トランスアクスルフルード TE※	3.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

n リヤトランスアクスルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

n ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

n ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	131

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

n サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
255/55R20 107V	20 × 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
255/45R22 107V XL	22 × 9J	240 (2.4)	240 (2.4)

n ホイールナット締め付けトルク

トルク [N · m (kgf · cm)]
140 (1428)

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
GRG75	2GR-FXS (3.5L ガソリン)	フロント：5NM リヤ：1YM	4WD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。(→P.240)

設定を変更するには

n マルチメディアディスプレイで設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、



選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

n マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する

- 2  または  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる

- 3 OK スイッチを短押しまたは長押しする

OK スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。

画面に表示されている内容に従って操作してください。

知識

n カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

n カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

n オートアラーム (→P.55)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり なし	—	—	○
侵入・傾斜センサー ※1,2	あり なし	—	○	—

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチと連動して設定が変更されます。

n 先読みエコドライブ (→P.62)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先読みエコドライブ ※	あり なし	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 充電システム (→P.90, 94, 99)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
充電電流 ※	8A 16A MAX	○	○	—
電池冷却	あり なし	—	○	—
電池昇温	あり なし	—	○	—

※ 100V での充電時には、この設定は反映されません。

n メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.154, 159, 165)

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
言語 ※2	日本語 英語	—	○	—
単位	km/L, km/kWh L/100km, kWh/100km	—	○	—
メーター表示タイプ ※2	タイプ 1 ※3 タイプ 2 ※3 タイプ 3	—	○	—
メーターデザインタイプ ※2	スマート カジュアル タフ スポーティー	—	○	—
アナログメーター切りかえ ※2	HV システムインジケーター タコメーター スピードメーター ※4	—	○	—
EV インジケーター ※2	あり なし	—	○	—
EV ドライブインフォ ※2	EV エネルギー残量表示 EV 走行可能距離表示	—	○	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費 始動後平均燃費	—	○	—
エコアクセルガイド ※2	あり なし	—	○	—
電費グラフ	通算平均電費 始動後平均電費	—	○	—
ドライブインフォ項目選択 (上段) ※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライブインフォ項目選択（下段）※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—
TRIP A 項目選択（上段）※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—
TRIP A 項目選択（下段）※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—
TRIP B 項目選択（上段）※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—
TRIP B 項目選択（下段）※2	走行距離 平均車速 走行時間	—	○	—
割込表示 ※2	あり なし	—	○	—
提案サービス ※2	あり あり（停車中のみ） なし	○	—	○
制動灯表示灯	あり なし	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.165 を参照してください。

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※3ウィジェット表示の表示／非表示も選択できます。

※4メーター表示タイプによっては、設定項目が表示されないことがあります。

n ヘッドアップディスプレイ (→P.173)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	あり なし	—	○	—
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	ミニマム スタンダード フル	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの明るさ ※	任意の照度	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの表示位置	任意の位置	—	○	—
ヘッドアップディスプレイの傾き調整 ※	任意の傾き	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ワイヤレスドアロック (→P.182, 188, 196)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
解錠時の操作 ※	1 回で全ドア解錠 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
ドアが施錠されている状態で  を操作したときのドアロック解錠作動 (→P.198)	全ドア解錠 バックドアのみ解錠	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ドアロック (→P.188, 614)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック ※	あり なし	○	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
シフトポジションをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）※	あり なし	○	—	○
シフトポジションをPにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）※	あり なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）※	あり なし	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 （→P.188, 205）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）※	任意の音量	○	—	○
作動の合図（非常点滅灯）※	あり なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	30 秒 60 秒 120 秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	あり なし	—	—	○
ブザー音	ノーマルサウンド デコレーションサウンド	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n スマートエントリー&スタートシステム（→P.188, 205）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム ※	あり なし	○	—	○
解錠されるドアの選択 ※	運転席のみ解錠 全席解錠	○	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
連続ロック操作の有効回数	2 回 無制限	—	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	非作動 1.5 秒 2.0 秒 2.5 秒	—	—	○
降車オートロック機能	あり なし	—	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	あり なし	—	—	○
接近時オートアンロック機能	あり なし	—	—	○
パワースイッチ文字照明	あり なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n パワーバックドア (→P.196)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
パワーバックドア機能	あり なし	—	○	—
ブザー音量	小 中 大	—	○	—
パワーバックドア全開時の開度	1 ~ 5※	—	○	—
車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	短押し 長押し	—	—	○
ワイヤレスリモコンの  スイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	短押し 2 回押し 長押し	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
バックドアクローズアシスト機能	あり なし	—	—	○
クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能	あり なし	—	—	○

※ バックドア下部のスイッチ操作でお好みの開度に設定することもできます。
（→P.204）

n リヤシートリマインダー（→P.190）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤシートリマインダー ※	あり なし	—	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ドアミラー（→P.229）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	OFF ドアの施錠・解錠と連動 パワースイッチと連動	—	—	○

n パワーウィンドウ（→P.232）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキー連動開機能	あり なし	—	—	○
メカニカルキー連動閉機能	あり なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能	あり なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動閉機能	あり なし	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり なし	—	—	○
窓開警告制御	あり なし	—	—	○

n パワーイーザーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能（→P.235）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア 全ドア	—	—	○
降車時の運転席シート前後移動量※	OFF 少なめ 標準	○	—	○
降車時のステアリング移動	OFF 上下のみ 前後のみ 全て作動	○	—	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ドライブスタートコントロール（→P.250）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり なし ※	—	○	—

※ 「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

n パワースイッチ（→P.256）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ	ON OFF	○	—	○

n ランプ自動点灯・消灯システム (→P.271)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整 (コン ライト点灯照度)*	より暗い 暗い 標準 明るい より明るい	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチを OFF にして運 転席ドアを開ける パワースイッチを OFF にする	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機 能	あり なし	—	—	○

* マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ランプ (→P.271)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
LED デイタイムランニングランプ (LED デイライト)	あり なし	—	—	○
おもてなし照明の制御	あり なし	—	—	○

n アダプティブハイビームシステム (→P.275)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	ON OFF*	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明る さと照らす範囲の調整	15km/h 30km/h 40km/h	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行 方向側のハイビームを明るく照ら す	ON OFF	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロー ビームの照らす範囲の調整	ON OFF	—	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
発進時のコーナーリングランプ点灯	ON OFF	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	ON OFF	—	—	○
市街地用の配光制御	ON OFF	—	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。(→P.278)

n ワイパー&ウォッシャー (リヤ) (→P.284)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	あり なし	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	あり なし	—	—	○
リバース連動機能	OFF 1 回のみ作動 連続作動	—	—	○

n ドライバーモニター (→P.300)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
注意喚起 ※	ON OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n プリクラッシュセーフティ (→P.302)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	ON OFF	—	○	—
警報タイミング ※	遅い 標準 早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n フロントクロストラフィックアラート (→P.330)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
フロントクロストラフィックアラート	ON OFF	—	○	—
注意喚起タイミング ※	遅い 標準 早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n レーンチェンジアシスト (→P.316)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンチェンジアシスト ※	ON OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n レーンディパーチャーアラート (LDA) (→P.320)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート (LDA) ※	ON OFF	—	○	—
警報タイミング ※	標準 早い	—	○	—
警報手段 ※	ハンドル振動 ブザー	—	○	—
低車速支援 ※	ON OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 休憩提案 (→P.322)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	ON OFF	—	○	—

n レーダークルーズコントロール (DRCC) (→P.337)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
再発進可能時間延長 ※	ON OFF	—	○	—
加速度設定 ※	弱 中 強	—	○	—
速度設定 (短押し) ※	1km/h 5km/h 10km/h	—	○	—
速度設定 (長押し) ※	1km/h 5km/h 10km/h	—	○	—
ガイド文言表示 ※	ON OFF	—	○	—
カーブ速度抑制 ※	OFF 弱 中 強	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n プロアクティブドライビングアシスト (→P.325)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト (PDA) ※	ON OFF	—	○	—
支援感度 ※	低い 中間 高い	—	○	—
操舵アシスト (SA) ※	ON OFF	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
減速アシスト (DA) ※	☐ ON ☐ OFF	—	☐	—
障害物先読みアシスト (OAA) ※	☐ ON ☐ OFF	—	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 発進遅れ告知 (→P.332)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車 ※	☐ ON ☐ OFF	—	☐	—
信号 ※	☐ ON ☐ OFF	—	☐	—
告知タイミング ※	☐ 遅い ☐ 標準 ☐ 早い	—	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ロードサインアシスト (→P.334)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト ※	☐ ON ☐ OFF	—	☐	—
速度標識超過告知方法 ※	☐ 無 ☐ 表示 ☐ 表示とブザー	—	☐	—
その他告知方法 ※	☐ 無 ☐ 表示 ☐ 表示とブザー	—	☐	—
速度超過告知車速 ※	☐ 10km/h ☐ 5km/h ☐ 2km/h	—	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）（→P.353）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アドバンスト ドライブ ※	┆ ON ┆ OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ITS Connect（→P.358）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
信号情報	┆ ON ┆ OFF	—	○	—
道路環境情報	┆ ON ┆ OFF	—	○	—
緊急車両通知	┆ ON ┆ OFF	—	○	—
通知感度	┆ 低い ┆ 高い	—	○	—
クルーズ（ITS）	┆ ON ┆ OFF	—	○	—

n BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.364）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	┆ あり ┆ なし	—	○	—
ドアミラーインジケータの明るさ ※	┆ 暗い ┆ 明るい	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度） ※	┆ 遅い ┆ 標準 ┆ 早い	—	○	—
ブザー警報 ※	┆ あり ┆ なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 後方車両接近告知 (→P.369)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後方車両接近告知機能 ※	あり	—	○	—
	なし			
接近車両を知らせるタイミング (感度) ※	遅い			
	標準	—	○	—
	早い			

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 周辺車両接近時サポート (→P.372)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
周辺車両接近時サポート機能 ※	あり	—	○	—
	なし			

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n 安心降車アシスト (→P.380)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	ON	—	○	—
	OFF			
ドアミラーインジケータ表示 ※	あり	—	○	—
	なし			
接近車両検知の感度 ※	低い			
	中間	—	○	—
	高い			

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n クリアランスソナー (→P.384)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能 ※ ¹	あり	—	○	—
	なし			
クリアランスソナー作動時のブザー音量 ※ ¹ 、 ²	レベル 1 ～ 3	—	○	○

※¹ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※²クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）の音量調整は連動しています。

n RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.392）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	あり なし	—	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※ ^{1, 2}	小 中 大	—	○	—

※¹マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※²クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

n RCD（リヤカメラディテクション）（→P.397）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤカメラディテクション機能 ※	あり なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.400）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	あり なし	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n トヨタチームメイト アドバンストパーク ※（→P.411）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
Remote Park	あり なし	○	—	—
音声案内	あり なし	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
速度モード	遅め 標準 速め	○	—	—
障害物回避距離	標準 遠い	○	—	—
優先駐車方法	並列 縦列	○	—	—
優先駐車向き	バック 前向き	○	—	—
優先出庫方向（並列）	左 右	○	—	—
優先出庫方向（縦列）	左 右	○	—	—
駐車時の映像	ノーマル ワイド	○	—	—
出庫時の映像	ノーマル ワイド	○	—	—
駐車進路調整	-3（内側）～3（外側）	○	—	—
道幅調整	狭い やや狭い 標準	○	—	—
駐車位置調整（前向き）	-3（後）～3（前）	○	—	—
駐車位置調整（バック）	-3（後）～3（前）	○	—	—
後部取付部品設定	取付なし 10cm 20cm 30cm 40cm	○	—	—
登録した場所の消去	—	○	—	—

※ ガイド画面を表示することで設定を変更することができます。（→P.419）

n **ドライブモードセレクトスイッチ (→P.443)**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カスタマイズモード時のパワートレーン制御	┆ NORMAL ┆ ECO ┆ SPORT ┆ REAR COMFORT	○	—	—
カスタマイズモード時のステアリング制御	┆ NORMAL ┆ SPORT ┆ REAR COMFORT	○	—	—
カスタマイズモード時のサスペンション制御	┆ NORMAL ┆ SPORT	○	—	—
カスタマイズモード時のブレーキ制御	┆ NORMAL ┆ REAR COMFORT	○	—	—
カスタマイズモード時のエアコン作動	┆ NORMAL ┆ ECO	○	—	—

n **エアコン (→P.476)**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	┆ する ┆ しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、“A/C”（冷房・除湿）スイッチが連動して ON になる ※	┆ する ┆ しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節 ※	┆ -3 ～ 3 ┆ OFF	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n シートヒーター／シートベンチレーター (→P.488)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
運転席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO 作動時の温度調整 ※	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
助手席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO 作動時の温度調整 ※	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
左側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
右側リヤシートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
パワースイッチを ON にしたときの、左側リヤシートヒーターの自動起動	あり なし	○	—	○
パワースイッチを ON にしたときの、右側リヤシートヒーターの自動起動	あり なし	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

n ステアリングヒーター (→P.488)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO 作動時の温度調整 ※1, 2	-2 (低め) ~ 2 (高め)	○	—	○

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 マルチメディアディスプレイには “作動時間” と表示される場合がありますが、温度調整の設定項目になります。

n イルミネーション (→P.495)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯の消灯までの時間 ※	┆ OFF ┆ 7.5 秒 ┆ 15 秒 ┆ 30 秒	○	—	○
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
アンビエントイルミネーションの点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間 ※	┆ OFF ┆ 7.5 秒 ┆ 15 秒 ┆ 30 秒	○	—	○
接近時の室外足元照明の点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	┆ あり ┆ なし	—	—	○
照明色の選択 ※	┆ ホワイト ┆ カスタム	○	—	○
輝度の調整 ※	┆ OFF ┆ 9 ～ 1	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

 知識

n 車両カスタマイズについて

┆ “スマートエントリー&スタートシステム” が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動した場合、 “ 作動の合図（非常点滅灯） ” ・ “ 作動の合図（ブザー音量調整） ” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・ 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの空気圧を変更したとき	P.553
電動ステップ	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.195
パワーバックドア	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.201

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 656

車から音が鳴ったときは（音さくいん） 658

アルファベット順さくいん 661

五十音順さくいん 663

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- Ⅰ メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.614）
- Ⅰ 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.614）



キーが正常に働かないときは

- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.566）



施錠・解錠できない

- Ⅰ パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.255）

- Ⅰ 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯

していることを確認してください。

- Ⅰ 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.206）



リヤドアが開かない

- Ⅰ チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.193）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- Ⅰ ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.253）
- Ⅰ キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.205）
- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.613）

- Ⅰ 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.617）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- Ⅰ ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.234）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- Ⅰ 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.256）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- Ⅰ 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.658）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- Ⅰ 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.581, 589 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- Ⅰ 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンク

したタイヤを応急修理してください。（→P.603）



立ち往生した

- Ⅰ めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.625）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.55
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.589
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.233
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.55
	後方から自動車・自転車が接近している	P.380
パワースイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.190
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.182

状況	原因	詳細
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.190
	電子キーを車内に置き忘れている	P.206

※ スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.190
	パーキングブレーキが解除されていない	P.266
	シートベルトを着用していない※1	P.583, 584
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.261
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作をした※2	P.259

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.248
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.302
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.311
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.320
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.316
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックアラート）が作動したとき	P.330
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.332

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.334
進入禁止区域に進入したとき		
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.342
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.350
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.358
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.369

状況	原因	詳細
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.38 4
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.39 2
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.39 7

※¹ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※² シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン).....476, 485

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
.....447

AHB

(オートマチックハイビーム)..278

AHS

(アダプティブハイビームシステム)
.....275

AI-AVS

(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム).....448, 451

AVS

(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム).....448

BSM

(ブラインドスポットモニター)
.....364

DAC

(ダウンヒルコントロールシステム)
.....446

DRS

(ダイナミックリヤステアリング)
.....448

ECB

(エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム).....447

EDR

(イベントデータレコーダー).....8

E-Four Advanced

(電気式 4WD システム).....448

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ).....448

EV

(エレクトリックビークル).....62

FCTA

(フロントクロストラフィックア
ラート).....330

HUD

(ヘッドアップディスプレイ)..173

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン).....629

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィック
ス).....40

ITS Connect

通信利用型レーダークルーズコント
ロール.....343

LCA

(レーンチェンジアシスト).....316

LDA

(レーンディパーチャーアラート)
.....320

LED

(ライトエミットングダイオード)
.....271, 570

LED デイタイムランニングランプ

.....272

LTA

(レーントレーシングアシスト)
.....311

PCS

(プリクラッシュセーフティ)..302

PDA (プロアクティブドライビング

アシスト).....325

PHEV

(プラグインハイブリッドビークル)
.....62

PKSB (パーキングサポートブレー

キ).....400

RCD

(リヤカメラディテクション)..397

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 392

RSA

(ロードサインアシスト) 334

S-FLOW

フロント席集中送風モード 483

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークル
ルスタビリティコントロール) 447

SYNC スイッチ

(シンクロスイッチ) 476

Toyota Safety Sense

AHS (アダプティブハイビームシステム) 275

FCTA (フロントクロストラフィックアラート) 330

LCA (レーンチェンジアシスト)
..... 316

LDA (レーンディパーチャーアラート) 320

LTA (レーントレーシングアシスト) 311

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 302

PDA (プロアクティブドライビングアシスト) 325

RSA (ロードサインアシスト) 334

アドバンスドドライブ (渋滞時支援) 353

オートマチックハイビーム 278

クルーズコントロール 347

ドライバー異常時対応システム
..... 350

ドライバーモニター 300

発進遅れ告知機能 332

レーダークルーズコントロール

..... 337

TRC

(トラクションコントロール) 448,
625

VDIM

(ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント) 448

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 447

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	617
ITS Connect.....	358
アウターミラー（ドアミラー） RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	392
安心降車アシスト.....	380
格納のしかた.....	230
操作.....	229
ブラインドスポットモニター（BSM）	364
ポジションメモリー.....	235
ミラーヒーター.....	477
リバース連動機能.....	230
アクセサリーコンセント.....	523, 532
アクセサリーソケット.....	517
アクセサリーモード.....	256
アシストグリップ.....	516
足元照明.....	495
アダプティブハイビームシステム...275	
アダプティブバリアブルサスペンション システム（AVS）.....	448
アドバンスドドライブ（渋滞時支援）	353
アドバンスドパーク.....	411
操作.....	418
アラーム オートアラーム.....	55
音さくいん.....	658
警告ブザー.....	581
安心降車アシスト.....	380
アンチロックブレーキシステム（ABS）	447
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	205

い

イージークローザー ドア.....	192
EV 走行可能距離.....	78
EV モード.....	62
イグニッションスイッチ（パワースイッ チ） 自動電源 OFF 機能.....	256
車両を緊急停止するには.....	574
ハイブリッドシステム始動のしかた...253	
モードの切りかえ.....	256
位置交換（タイヤローテーション）.549	
イベントデータレコーダー（EDR）.....	8
イモビライザーシステム.....	54
インジケーター（表示灯） エラーインジケーター.....	86
充電インジケーター（充電ポート）.....	82
充電インジケーター（普通充電ケーブル）	86
電源インジケーター.....	86
インストルメントパネル照度調整スイッ チ.....	164
インテリアランプ.....	495
インナーミラー.....	221

う

ヴェイクフルパワーコネクタ.....	135
ウインカー（方向指示灯） 電球（バルブ）の交換.....	570
方向指示レバー.....	263
ウインドウ ウインドシールドデアイサー.....	478
ウォッシャー.....	281, 284
パワーウインドウ.....	232
リヤウインドウデフォグガー.....	477
ウインドウロックスイッチ.....	234
ウインドシールドデアイサー.....	478

ウォッシャー	281, 284
液の補給	547
スイッチ	281, 284
タンク容量	631
冬の前の準備・点検	461
動けなくなったときは（スタック）	625
雨滴感知式ワイパー	281, 284
運転	
雨の日の運転	246
EV 走行可能距離	78
運転を補助する装置	447
寒冷時の運転	461
正しい運転姿勢	27
手順	245
プラグインハイブリッド車運転のアドバイ ス	76
運転支援機能情報表示	167
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	583

え

エアコン

曇り取り（フロントガラス）	477
ナノイー X	479
フィルターの清掃	564
フロントオートエアコン	476
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	483
マイルームモード	122
リヤオートエアコン	485

エアコン・デフォグガー

エアバッグ

SRS エアバッグ警告灯	582
改造・廃棄	37
警告ブザー	582
作動条件	33
正しい姿勢	27
配置	32

HV モード	62
AC 外部給電システム	134
エコ空調モード	478
エネルギーモニター	178
エレクトリックパワーステアリング （EPS）	448
エンジン	

イモビライザーシステム	54
エンジンスイッチ	253
エンジンルームカバー	545
オーバーヒート	622
タコメーター	159
ハイブリッドシステムが始動できない	612
ハイブリッドシステムの始動方法	253
パワースイッチ（イグニッションスイッチ ／エンジンスイッチ）	253
ボンネット	543

エンジンオイル

警告灯	582
冬の前の準備・点検	461
メンテナンスデータ	628
容量	628

エンジン回転計（タコメーター）

エンジンスイッチ（パワースイッチ）

自動電源 OFF 機能	256
車両を緊急停止するには	574
ハイブリッドシステム始動のしかた	253
モードの切りかえ	256

エンジンフード（ボンネット）

開け方	543
警告メッセージ	192

エンジンルーム

エンジンルームカバー	545

エンジンルーム

エンジンルームから蒸気が出ている ...	622

お

オイル（エンジンオイル）.....	628
オーディオシステム連携表示.....	170
オートアラーム.....	55
オートドアロック・アンロック機能.....	193
オートマチックハイビーム.....	278
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）	
作動.....	273
オーバーヒート.....	622
オープナー	
給油扉.....	288
ボンネット.....	543
ALL AUTO 制御.....	475
おだけ充電（ワイヤレス充電器）.....	509
お子さまを乗せるとき	
ウインドウロックスイッチ.....	234
お子さまの安全のために.....	39
シートベルトの着用.....	29, 30
充電に関する警告.....	103
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....	488
チャイルドシート.....	40
チャイルドシートの取り付け.....	40
チャイルドプロテクター.....	193
発炎筒の取り扱いに関する警告.....	574
バッテリーに関する警告.....	621
パワーウインドウに関する警告.....	233, 519
“ODO TRIP” スイッチ.....	164
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....	164
“ODO TRIP” スイッチ.....	164
表示項目.....	164

か

カーテシランプ	
装着位置.....	495

カーテンシールドエアバッグ.....	32
カードキー.....	182
カーペット	
洗浄.....	540
フロアマットの取り付け方.....	26
外気温度表示.....	159
回生ブレーキ.....	67
外装の電球（バルブ）	
交換要領.....	570
外部給電システム	
AC 外部給電システム.....	134
買い物フック.....	503
傘・毛バタキ入れ.....	507
ガス欠になったとき.....	73
カスタマイズ機能.....	632
型式.....	631
カップホルダー.....	501
カメラ	
前方カメラ（PCS）.....	293
ドライバーモニター.....	300
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）.....	477
ガレージジャッキ.....	544
冠水路走行.....	250
寒冷時の運転.....	461

き

キー	
カードキー.....	182
キーナンバープレート.....	182
キーの構成.....	182
キーレスエントリー.....	183, 205
キーをなくした.....	614
正常に働かない.....	614
施錠・解錠ができない.....	614
電子キー.....	182
電池が切れた.....	566
ハイブリッドシステムが始動できない.....	612

メカニカルキー	184
ワイヤレスリモコン	183
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	205
ワイヤレスドアロック	183
救急箱等固定用ベルト	507
給油	
給油のしかた	287
メンテナンスデータ	628
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）	613
緊急時の対処	
オーバーヒートした	622
キーの電池が切れた	566, 614
キーをなくした	614
警告灯がついた	581
警告メッセージが表示された	589
けん引	577
故障したときは	572
車中泊が必要なときは	576
車両を緊急停止する	574
水没・冠水したときは	575
スタックした	625
電子キーが正常に働かない	614
ハイブリッドシステムが始動できない	612
発炎筒	573
パンクした	603
補機バッテリーがあがった	617
緊急停止システム	75
緊急ブレーキシグナル	448



空気圧（タイヤ）

タイヤ空気圧警報システム	549
メンテナンスデータ	631

区間距離計（トリップメーター）	164
靴べら差し	503
駆動用電池	
充電について	81
搭載位置	72
駆動用電池残量計	159
曇り取り	
フロントガラス	477
ミラーヒーター	477
リヤウインドウデフォグガー	477
クラクション（ホーン）	220
クリアランスソナー	384
操作	384
クリアランスランプ（車幅灯）	
スイッチ	271
電球（バルブ）の交換	570
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール	337
グローブボックス	500
グローブボックスランプ	500

け

警告器（ホーン）	220
計器類（メーター）	159
警告灯	581
運転支援情報表示灯	586
ABS& ブレーキアシスト	582
SRS エアバッグ	582
LTA 表示灯	585
LDA 表示灯	585
エンジン	582
クリアランスソナー OFF 表示灯	584
クルーズコントロール表示灯	585
高水温	581
シートベルト非着用	583, 584
充電	582

スリップ表示灯	586
タイヤ空気圧	584
燃料残量	583
パーキングブレーキ表示灯	587
ハイブリッドシステム過熱	581
パワーステアリング	583
PCS	585
PDA 表示灯	586
ブレーキ	581
ブレーキホールド作動表示灯	587
ペダル誤操作	583
油圧	582
レーダークルーズコントロール表示灯	585
警告ブザー	
ABS& ブレーキアシスト	582
SRS エアバッグ	582
LDA (レーンディパーチャーアラート)	585
LTA (レーントレーシングアシスト)	585
クリアランスソナー	584
クルーズコントロール	585
高水温	581
シートベルト非着用	583, 584
シフトダウン制限	261
充電	582
衝突警報	302
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	342
タイヤ空気圧	584
手放し運転警告 (LCA)	317
手放し運転警告 (LDA)	322
手放し運転警告 (LTA)	312
手放し運転警告 (PDA)	329
パーキングブレーキ	587
ハイブリッドシステム過熱	581
バックドア開	192
パワーステアリング	583
半ドア	190

半ドア走行時	192
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	586
ブリクラッシュセーフティシステム	585
ブレーキ	581
ブレーキホールド	587
ペダル誤操作	583
ボンネット開	192
窓開	233
油圧	582
リバース	260
レーダークルーズコントロール	585
警告メッセージ	589
警告ラベル (ハイブリッドシステム)	72
傾斜センサー (オートアラーム)	57
化粧ミラー (バニティミラー)	518

こ

交換

キーの電池	566
タイヤ	559
電球 (バルブ)	570
ヒューズ	568
航続可能距離	179
後退速度の抑制制御 (ドライブスタートコントロール)	250
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	570
高電圧部位	72
後方車両接近告知	369
後方車両への接近警報	375
コートフック	517
コーナリングランプ	274
子供専用シート	40
取り付け方	41
小物入れ	502
コンセント	
ヴェイクフルパワーコネクタ	135

コンソールボックス	500
コンソールボックスランプ	500
コンライト（自動点灯・消灯装置）.....	271

さ

サービスプラグ	72
サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	570
方向指示レバー	263
サイドミラー（ドアミラー）	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....	392
安心降車アシスト	380
格納のしかた	230
操作	229
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	364
ポジションメモリー	235
ミラーヒーター	477
リバース連動機能	230
三角表示板収納スペース	506
サンバイザー	518

し

シート	
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	40
調整	211, 215
手入れ	540
パワーイージーアクセスシステム	235
ヘッドレスト	217
ポジションメモリー	235, 239
メモリーコール機能	237
リヤシートリラクゼーションシステム.....	216
シートヒーター	488
シートベルト	29
お子さまの着用	29, 30

緊急時シートベルト固定機構	30
シートベルトコンフォートガイド	31
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	540
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	583, 584
シートベルト非着用警告灯	583, 584
シートベルトプリテンショナー	
機能	31
プリテンショナー警告灯	582
シートベンチレーター	488
シートポジションメモリー	235, 239
事故が発生したとき（ハイブリッドシス テムの注意）	74
室内灯（インテリアランプ）	495
始動のしかた	253
シフトポジション	257
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	258
シフトレンジの切りかえ	261
操作	257
リバース警告ブザー	260
車中泊が必要なときは	576
ジャッキ	
ガレージジャッキ	544
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	570
ランプスイッチ	271
車両型式	631
車両仕様（スペック）	628
車両接近通報装置	70
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	574
充電	
充電装備	81
充電に関するアドバイス	102
充電に関する警告	103

正常に充電できない.....	125	“ODO TRIP”	164
タイマー充電機能.....	112	クリアランスソナー.....	384
電源に関する警告.....	98	シート調整.....	211
電源について.....	94	シートポジションメモリー.....	235
普通充電ケーブル.....	84	車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）.....	339
普通充電のしかた.....	106	侵入・傾斜センサー OFF.....	57
マイルームモード.....	122	調光ガラス.....	522
メッセージ.....	102	電動サンシェード.....	518
充電ポート.....	81	ドアミラー.....	229
外部電源供給システム.....	134	ドアロック.....	191
充電リッドが開かないとき.....	91	ドライブモードセレクト.....	443
充電リッドの開閉.....	81	Trail Mode.....	444
充電リッドの施錠・解錠.....	90	パーキングブレーキ.....	264
充電用 USB 端子.....	508	パドルシフト.....	261
周辺車両接近時サポート.....	372	パワーウインドウ.....	232
瞬間電費.....	168	パワースイッチ.....	253
瞬間燃費.....	168, 179	ハンドル位置調整.....	220
仕様（車両仕様）.....	628	フォグランプ.....	280
衝撃感知ドアロック解除システム... ..	189	ブレーキホールド.....	268
衝突時の急加速抑制.....	448	方向指示レバー.....	263
初期化.....		ホーン（警音器）.....	220
パワーウインドウ.....	232	ポジションメモリー.....	235
初期設定.....	654	メーター操作.....	166
助手席シートベルト非着用警告灯... ..	583	ランプ.....	271
侵入センサー（オートアラーム）.....	57	リヤカメラディテクション.....	397
		リヤフォグランプ.....	280
		冷蔵庫.....	521
		レーダークルーズコントロール.....	337, 339
		ワイパー.....	281, 284

す

スイッチ		スタック.....	625
AUTO EV / HV.....	64	ステアリングアシステッドビークルスタ ビリティコントロール（S-VSC）.....	447
EV / HV モード切りかえ.....	64	ステアリングヒーター.....	488
LTA.....	313	ステアリングホイール（ハンドル） 位置調整.....	220
PKSB.....	401	ステアリングヒーター.....	488
TRC OFF.....	449	パワーイーჯーアクセスシステム.....	235
VSC OFF.....	449		
イグニッション.....	253		
インストルメントパネル照度調整.....	164		
ウインドウロック.....	234		
ウォッシャー.....	281, 284		

ポジションメモリー	235
メーター操作スイッチ	166
ストップランプ（制動灯）	
緊急ブレーキシグナル	448
電球（バルブ）の交換	570
スノータイヤ（冬用タイヤ）	461
スピードメーター	159
スペック（車両仕様）	628
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	205
カスタマイズ設定	632
緊急始動機能	613
作動範囲	205
充電リッドの施錠・解錠	90
正常に働かないとき	614
節電機能	206
電波がおよぼす影響について	210
ドアの解錠・施錠	188
ハイブリッドシステムの始動	253
普通充電コネクタの解錠	92
スマートフォンホルダー	503
スムーズストップ	449
スモールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換	570
ランプスイッチ	271
スリップ表示灯	449

せ

清掃

ヴィークルパワーコネクタ	136
外装	536
シートベルト	540
内装	540
ホイール・ホイールキャップ	537
レーダー	294

制動灯

緊急ブレーキシグナル	448
電球（バルブ）の交換	570

セカンダリーコリジョンブレーキ ..377,
448

積算距離計（オドメーター）..... 164

セキュリティインジケーター..... 54, 55

接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 342

センサー

雨滴感知センサー	282
LCA（レーンチェンジアシスト）.....	316
LDA（レーンディパーチャーアラート）	
.....	320
LTA（レーントレーシングアシスト）.....	311
侵入・傾斜センサー	57
デジタルインナーミラー	224
ライトセンサー	272
レーダー	293, 365, 381

洗車

前照灯（ヘッドランプ）

電球（バルブ）の交換	570
ライトセンサー	272
ランプ消し忘れ防止機能	273
ランプスイッチ	271

そ

走行距離

走行時間

走行モード（ドライブモード）.....261,
443

送信機（タイヤ空気圧警報システム）
..... 549

速度計（スピードメーター）..... 159

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）

電球（バルブ）の交換	570
方向指示レバー	263

ダイナミックリヤステアリング (DRS)
.....448

タイマー充電機能 112

タイヤ

空気圧 563, 631

空気圧警告灯 584

交換 559

チェーン 461

点検 548

パンク応急修理キット 603

パンクしたときは 603

冬用タイヤ 461

ホイールサイズ 631

ローテーション (位置交換) 549

タイヤが空まわりする (スタックした)
..... 625

タイヤ空気圧

警告灯 584

タイヤ空気圧警報システム

ID コードの切りかえ 557

ID コードの登録 555

機能について 549

空気圧バルブ/送信機について 551

空気圧表示画面 549

警告灯 584

タイヤ位置の登録 552

タイヤ空気圧の設定 553

タイヤチェーン 461

ダウンヒルアシストコントロールシステ
ム 446

タオルハンガー 507

タコメーター 159

ち

チェーン (タイヤチェーン) 461

チャイルドシート

ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 51

シートベルトでの固定 49

選択方法 40

駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
..... 264

警告灯 587

警告メッセージ 266

操作 264

冬季の注意 461

未解除走行時警告ブザー 266

調光ガラス 522

つ

通信利用型レーダークルーズコントロー
ル 343

て

提案サービス機能 172

ディスプレイ

ヘッドアップディスプレイ 173

マルチインフォメーションディスプレイ
..... 165

..... 165

レーダークルーズコントロール 339

デイトタイムランニングランプ 272

手入れ

ヴィークルパワーコネクタ 136

外装 536

シートベルト 540

デジタルインナーミラー 225

内装 540

普通充電ケーブル 89

ホイール・ホイールキャップ 537

レーダー 294

テーブル 520

テールランプ (尾灯)

電球 (バルブ) の交換 570

ランプスイッチ 271

デジタルインナーミラー 221

デジタルキ 185

デッキアンダートレイ	506
デッキフック	503
デフォッガー（リヤウインドウデフォッ ガー）	477
電気式 4WD システム（E-Four）	448
電気モーター	62
電球（バルブ） 交換要領（外装バルブ）	570
点検基準値（メンテナンスデータ）	628
電子キー	182
作動範囲	205
正常に動かないとき	614
節電機能	206
電池が切れた	614
電池交換	566
電子制御ブレーキシステム（ECB）	447
電池交換（キー）	566
電動サンシェード	518
電動ステップ	194
電費	
瞬間電費	168
平均電費	168

と

ドア	188
イージークローザー	192
オートドアロック・アンロック機能	193
衝撃感知ドアロック解除システム	189
スマートエントリー&スタートシステム	205
チャイルドプロテクター	193
ドアガラス	232
ドアロックスイッチ	191
ドアロックボタン	191
ワイヤレスリモコン	188
ドアカーテシランプ 位置	495
ドアポケット	502
ドアミラー RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	392
安心降車アシスト	380
格納のしかた	230
操作	229
ブラインドスポットモニター（BSM）	364
ポジションメモリー	235
ミラーヒーター	477
リバース連動機能	230
盗難防止装置 イモビライザーシステム	54
オートアラーム	55
時計	159, 517
トップテザーアンカレッジ	52
トノボード	504
ドライバー異常時対応システム	350
ドライビングポジションメモリー	235
ポジションメモリー	236
メモリーコール機能	237
ドライブスタートコントロール 急発進の抑制制御	250
後退速度の抑制制御	250
ドライブモードセレクトスイッチ	443
トラクションコントロール（TRC）	448
トランスアクスル リヤトランスアクスル	630
トランスミッション シフトダウン制限警告ブザー	261
操作	258
ハイブリッドトランスミッション	257
パドルシフトスイッチ	261
メンテナンスデータ	630
トリップメーター	164
Trail Mode	444

な

内装

収納装備	499
手入れ	540
ナノイーX	479
ナビゲーションシステム連携表示 ...	176

に

ニーエアバッグ	32

荷物

積むときの注意	251
荷室内装備	503
バックドア	196

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	625

ね

燃費

エネルギーモニター	178
給油後平均燃費	179
瞬間燃費	168, 179
平均燃費	168, 179

燃料

給油	287
種類	628
燃料計	159
燃料残量警告灯	583
容量	628

燃料計	159

は

パーキングサポートブレーキ (後方接近 車両)	407

パーキングサポートブレーキ (後方歩行 者)	409

パーキングサポートブレーキ (前後方静 止物 / 周囲静止物)	404

パーキングブレーキ	264

警告灯	587

警告メッセージ	266

操作	264

冬季の注意	461

未解除走行時警告ブザー	266

パーソナルランプ	496

排気ガス	38

ハイビーム (ヘッドランプ)

アダプティブハイビームシステム	275

オートマチックハイビーム	278

電球 (バルブ) の交換	570

ランプスイッチ	271

ハイブリッドシステム

AUTO EV / HV モード	63

EV モード	62

HV モード	62

運転のアドバイス	76

エネルギーモニター	178

オーバーヒート	622

回生ブレーキ	67

ガス欠になったとき	73

緊急始動機能	613

緊急時の停止方法	574

緊急停止システム	75

高電圧部位	72

サービスプラグ	72

事故が発生したとき	74

始動できないときは	612

始動方法	253

車両接近通報装置	70

充電	81

注意	72

特徴	62

バッテリーチャージモード	64
パワー（イグニッション）スイッチ	253
補機バッテリーがあがった	617
メンテナンス・修理・廃車するとき	69
ハイブリッドシステムインジケーター	162, 177
ハイブリッドトランスミッション パドルシフト	261
ハイマウントストップランプ 電球（バルブ）の交換	570
ハザードランプ（非常点滅灯） 電球（バルブ）の交換	570
挟み込み防止機能 電動サンシェード	519
パワーウィンドウ	232
パワーバックドア	200
発炎筒	573
バックアップランプ（後退灯） 電球（バルブ）の交換	570
バックドア 警告メッセージ	192
発進遅れ告知機能	332
バッテリー（駆動用電池） 充電について	81
搭載位置	72
バッテリー（補機バッテリー） 警告灯	582
搭載位置	543
補機バッテリーがあがった	617
パドルシフトスイッチ	261
バニティ（化粧用）ミラー	518
バニティミラーランプ 装備について	518
バルブ（電球） 交換要領（外装のバルブ）	570
パワー（イグニッション）スイッチ 自動電源 OFF 機能	256
ハイブリッドシステム始動のしかた	253

モードの切りかえ	256
パワーウィンドウ ウィンドウロックスイッチ	234
閉めることができないときは	232
初期化	232
操作	232
ドアロック連動ドアガラス開閉機能	233
挟み込み防止機能	232
巻き込み防止	232
パワーコントロールユニット	72
パワーステアリング	448
警告灯	583
パワーバックドア	196
挟み込み防止機能	200
パワーリヤシート	214
パンク応急修理キット	603
パンクした タイヤ空気圧警告灯	584
タイヤパンク応急修理キット	603
番号灯（ライセンスプレートランプ） 電球（バルブ）の交換	570
ランプスイッチ	271
ハンドル（ステアリングホイール） 位置調整	220
ステアリングヒーター	488
パワーイージーアクセスシステム	235
ポジションメモリー	235
メーター操作スイッチ	166

ひ

ビークルスタビリティコントロール （VSC）	447
ビークルダイナミクスインテグレイテッド マネージメント（VDIM）	448
ヒーター エアコン・デフォグガー	476
駆動用電池	100
シートヒーター	488

ステアリングヒーター	488
ミラーヒーター	477
非常時給電システム	523
非常点滅灯（ハザードランプ）	
電球（バルブ）の交換	570
尾灯（テールランプ）	
電球（バルブ）の交換	570
ランプスイッチ	271
ヒューズ	568
表示灯	156
日よけ（サンバイザー）	518
ヒルスタートアシストコントロール	448

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	617
フォグランプ	280
スイッチ	280
電球（バルブ）の交換	570
ブザー	
シフトダウン制限警告	261
接近警報（レーダークルーズコントロール）	342
手放し運転警告（LCA）	317
手放し運転警告（LDA）	322
手放し運転警告（LTA）	312
手放し運転警告（PDA）	329
ドライバーモニター	300
パーキングブレーキ未解除走行時警告	266
半ドア走行時警告	192
窓開警告	233
リバース警告	260
普通充電ケーブル	84
安全機能	86
インジケーター	86
お手入れ	89
コントロールユニット	85
電源プラグコードの交換	87
普通充電ケーブルに関する警告	84

普通充電コネクターの施錠・解錠	92
普通充電コネク터를アンロックできないとき	92
フック	
買い物フック	503
けん引フック	578
コートフック	517
デッキフック	503
フロアマット固定フック	26
フューエルメーター	159
フューエルリッド（給油口）	
給油のしかた	287
冬の前の準備（寒冷時の運転）	461
冬用タイヤ	461
ブラインドスポットモニター（BSM）	
	364
プラグインハイブリッドシステム	
AUTO EV / HV モード	62
EV モード	62
HV モード	62
運転のアドバイス	76
注意	72
特徴	62
特有の音と振動	68
バッテリーチャージモード	62
普通充電のしかた	106
プラスサポート	455
プリクラッシュシートバック（PCS）	
	304
プリクラッシュセーフティ（PCS）	
PCS 警告灯	585
プリクラッシュセーフティ（PCS）	
機能	302
プリクラッシュブレーキ	303
ブレーキ	
回生ブレーキ	67
緊急ブレーキシグナル	448
警告灯	581

パーキングブレーキ	264
ブレーキホールド	268
メンテナンスデータ	630
ブレーキアシスト	447
ブレーキ車両姿勢制御（ピッチ制御）	449
ブレーキフルード	630
ブレーキホールド	268
フロアマット	26
フロントオートエアコン	476
フロントクロストラフィックアラート （FCTA）	330
フロントシート	
シートヒーター	488
シートベンチレーター	488
正しい運転姿勢	27
調整	211
手入れ	540
パワーイージーアクセスシステム	235
ヘッドレスト	217
ポジションメモリー	235
メモリーコール機能	237
フロント方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	570
方向指示レバー	263

へ

平均車速	171, 179
平均電費	168
平均燃費	168, 179
ヘッドアップディスプレイ	173
運転支援システム表示	176
設定	175
ハイブリッドシステムインジケータ	177
割り込み表示	176
ヘッドランプ	
クリーナー	281, 284
電球（バルブ）の交換	570

ライトセンサー	272
ランプ消し忘れ防止機能	273
ランプスイッチ	271
ヘッドランプオートレベリングシステム	273
ヘッドレスト	217
ベンチレーター（シートベンチレーター）	488

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	559
メンテナンスデータ	631
方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	570
方向指示レバー	263
ホーン（警告器）	220
補機バッテリー	
搭載位置	543
補機バッテリーがあがった	617
ポジションメモリー	235, 239
保証	10
ボンネット	
開け方	543
警告メッセージ	192

ま

マイセッティング	240
マイルームモード	122
マルチインフォメーションディスプレイ	165
運転支援機能情報表示	167
オーディオシステム連携	170
警告メッセージ	589
設定	172
タイヤ空気圧	549
提案サービス機能	172

電費グラフ	168
ドライブインフォメーション	171
燃費グラフ	168
メーター操作スイッチ	166
レーダークルーズコントロール	339

み

ミラー

アウターミラー	229
デジタルインナーミラー	221
ドアミラー	229
バニティミラー	518
ミラーヒーター	477

め

メーター

計器類	159
警告灯	581
警告メッセージ	589
照度調整	164
設定	172
時計	159
ハイブリッドシステムインジケーター	162
表示灯	156
マルチインフォメーションディスプレイ	165
メーター操作スイッチ	166
メーター照度調整	164
メカニカルキー	184
メモリーコール機能	237
メンテナンスデータ	628

も

モーター（電気モーター）	62
モーターでの走行（EV モード）	62

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	632
雪道ですべて動けない（スタックした）	625
油脂類	628

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）

電球（バルブ）の交換	570
ランプスイッチ	271

ラゲージルーム

ラジエーター

オーバーヒート	622
メンテナンスデータ	629

ランプ

アダプティブハイビームシステム	275
コーナリングランプ	274
室内灯	495
電球（バルブ）の交換	570
非常点滅灯（ハザードランプ）	573
ヘッドランプ（前照灯）	271
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	263
ライトセンサー	272
ランプ消し忘れ防止機能	273
リヤフォグランプ	280
ランプ消し忘れ防止機能	273

り

リバース連動機能	230
リヤウィンドウデフォグガー	477
リヤオートエアコン	485
リヤカメラディテクション	397
操作	397
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	392

リヤシート

調整	215
ヘッドレスト	217
ポジションメモリー	239
リラクゼーションシステム	216
リヤシート小物入れランプ	502
リヤシートリマインダー機能	190
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ...	584
リヤフォグランプ	280
スイッチ	280
電球（バルブ）の交換	570
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	570
方向指示レバー	263

る

ルームミラー（インナーミラー）	221

れ

冷却水

冬の前の準備	461
メンテナンスデータ	629
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	622
メンテナンスデータ	629

冷蔵庫	521

レーダークルーズコントロール	337

警告メッセージ	342
接近警報	342

レーンチェンジアシスト（LCA）	316

レーンディパーチャーアラート（LDA）	320

レーントレーシングアシスト（LTA）	311

レバー

シフト	257
方向指示	263

ボンネット解除	543

ろ

ロードサインアシスト（RSA）	334

ロック

ウインドウロック	234
スマートエントリー&スタートシステム	205
チャイルドプロテクター	193
ドア	188
ワイヤレスリモコン	183

わ

ワイパー&ウォッシャー	281, 284

ウォッシャー液の補充	547

ワイパー停止位置の切りかえ	283

ワイパーブレード（寒冷地用）	462

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）	509

ワイヤレスリモコン

作動の合図	190
操作	183
電池の交換	566
半ドア警告ブザー	190

ワックス	536

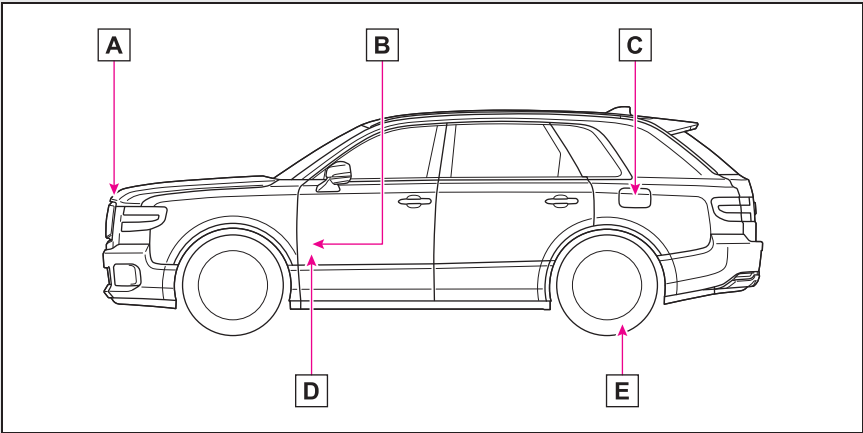
次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・リヤシートエンターテインメントシステム
- ・音声対話サービス
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

- ・ ETC2.0
- ・ ドライブレコーダー

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



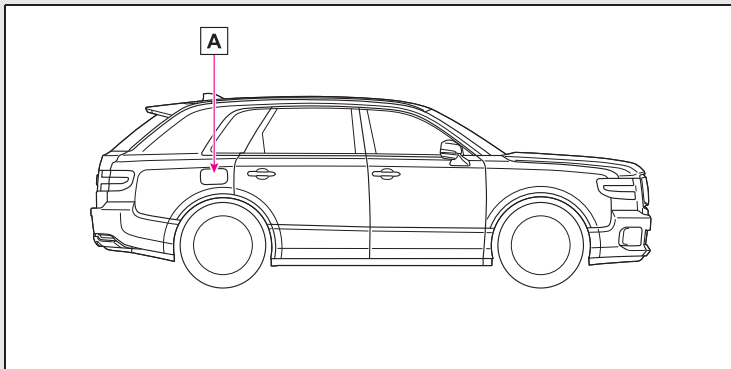
- A** ボンネットフック (→P.543)
- B** 給油扉オープナー (P.288)
パワーバックドアスイッチ (P.198)
- C** 給油口 (→P.288)
- D** ボンネット解除レバー (→P.543)
- E** タイヤ空気圧 (→P.631)

燃料の容量 (参考値)	55L
燃料の種類	・ 無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) ※ ¹ ・ バイオ混合ガソリン (プレミアム) ※ ² P.628
タイヤが冷えているときの空気圧	P.631
エンジンオイル容量 (参考値)	P.628
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル P.628

※¹ 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

※² エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7%以下) を使用することができます。

充電設備での情報



A 充電ポート

充電方法	普通充電
定格電圧／電流	AC 200V 16A AC 200V 30A
充電に要する時間*	AC 200V 16A: 約 5 時間 30 分 AC 200V 30A: 約 3 時間 30 分
電池種類	リチウムイオン電池

* メーター上に EV 走行可能距離が表示されていない状態から、満充電になるまでの目安です。

充電設備の仕様により、満充電の前に電源供給が停止されることがあります。

充電方法については、「普通充電のしかた」(→P.106)を参照してください。

普通充電(スタンド)に備え付けの普通充電コネクターにより、取り扱いが異なる場合があります。普通充電器(スタンド)に掲示されている取り扱い方法をご確認ください。

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ に掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証(車検証)をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

gJ-3

Publication No.M40480

Part No.01999-40480

Printed in Japan 01-2506

！
センチュリー